北埋調報327

北斗市

館野６遺跡（2）

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

第２分冊

Ⅲ－２・３　遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

北斗市

館野６遺跡（2）

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

第２分冊

Ⅲ－２・３　遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

第２分冊（本文Ⅲ－２・３）目次

目次・挿図目次・表目次
Ⅲ　遺構の調査と出土遺物（遺構は盛土遺構以外のものをさす　Ⅰ章参照）…… 1
2　遺構出土の土器・土製品…… 1
(1) 竪穴住居…… 1
(2) 土坑…… 89
(3) Ｔピット…… 89
(4) 焼土…… 89
(5) 集石…… 94
(6) 遺物集中…… 94
3　遺構出土の石器・石製品…… 98
(1) 竪穴住居…… 98
(2) 土坑…… 144
(3) Ｔピット…… 144
(4) 焼土…… 144
(5) 集石…… 148
(6) 遺物集中…… 148
4　表…… 150

第２分冊（本文Ⅲ－２・３）挿図目次

図Ⅲ－2－1　遺構出土土器　H18(1～7) …… 2
図Ⅲ－2－2　遺構出土土器　H19(1～6) …… 3
図Ⅲ－2－3　遺構出土土器　H20(1～4) …… 4
図Ⅲ－2－4　遺構出土土器　H20(5～14)…… 5
図Ⅲ－2－5　遺構出土土器　H20(15～21) …… 6
図Ⅲ－2－6　遺構出土土器　H21(1～5) …… 7
図Ⅲ－2－7　遺構出土土器　H21(6～9) …… 8
図Ⅲ－2－8　遺構出土土器　H21(10・11) …… 9
図Ⅲ－2－9　遺構出土土器　H21(12～20) …… 10
図Ⅲ－2－10　遺構出土土器　H21(21～28) …… 11
図Ⅲ－2－11　遺構出土土器　H21(29～35) …… 12
図Ⅲ－2－12　遺構出土土器　H21(36～40) …… 13
図Ⅲ－2－13　遺構出土土器　H22(1～6) …… 14
図Ⅲ－2－14　遺構出土土器　H23(1～6) …… 15
図Ⅲ－2－15　遺構出土土器　H23(7～21)…… 16
図Ⅲ－2－16　遺構出土土器　H24(1～11)…… 17
図Ⅲ－2－17　遺構出土土器　H25(1～10)…… 18
図Ⅲ－2－18　遺構出土土器　H26(1・2) …… 19
図Ⅲ－2－19　遺構出土土器　H26(3)…… 20
図Ⅲ－2－20　遺構出土土器　H26(4～6) …… 21
図Ⅲ－2－21　遺構出土土器　H27(1～8) …… 23
図Ⅲ－2－22　遺構出土土器　H28(1～11)…… 24
図Ⅲ－2－23　遺構出土土器　H29(1～4) …… 25
図Ⅲ－2－24　遺構出土土器　H29(5～8) …… 26
図Ⅲ－2－25　遺構出土土器　H29(9～12)…… 27
図Ⅲ－2－26　遺構出土土器　H29(13～16) …… 28
図Ⅲ－2－27　遺構出土土器　H29(17～24) …… 29
図Ⅲ－2－28　遺構出土土器　H29(25～29) …… 31
図Ⅲ－2－29　遺構出土土器　H29(30～33) …… 32
図Ⅲ－2－30　遺構出土土器　H29(34～37) …… 33
図Ⅲ－2－31　遺構出土土器　H29(38～50) …… 34
図Ⅲ－2－32　遺構出土土器　H30(1)・H31(1～7)・
H32(1～3)・H33(1～3) …… 35
図Ⅲ－2－33　遺構出土土器　H34(1～5) …… 37

図Ⅲ－2－34　遺構出土土器　H35(1～8) …… 38
図Ⅲ－2－35　遺構出土土器　H36(1～5) …… 39
図Ⅲ－2－36　遺構出土土器　H36(6～12) …… 40
図Ⅲ－2－37　遺構出土土器　H37(1～2) …… 41
図Ⅲ－2－38　遺構出土土器　H38(1～5) …… 43
図Ⅲ－2－39　遺構出土土器　H38(6～9) …… 44
図Ⅲ－2－40　遺構出土土器　H38(10～12) …… 45
図Ⅲ－2－41　遺構出土土器　H38(13～20) …… 46
図Ⅲ－2－42　遺構出土土器　H39(1～5) …… 50
図Ⅲ－2－43　遺構出土土器　H39(6～15) …… 51
図Ⅲ－2－44　遺構出土土器　H39(16～19) …… 52
図Ⅲ－2－45　遺構出土土器　H39(20～23) …… 53
図Ⅲ－2－46　遺構出土土器　H39(24～27) …… 54
図Ⅲ－2－47　遺構出土土器　H39(28～33) …… 55
図Ⅲ－2－48　遺構出土土器　H39(34～41) …… 56
図Ⅲ－2－49　遺構出土土器　H39(42～47) …… 57
図Ⅲ－2－50　遺構出土土器　H39(48～51) …… 58
図Ⅲ－2－51　遺構出土土器　H39(52～55) …… 59
図Ⅲ－2－52　遺構出土土器　H39(56～62) …… 60
図Ⅲ－2－53　遺構出土土器　H39(63～65)・H40(1・2) …… 62
図Ⅲ－2－54　遺構出土土器　H41(1～3) …… 63
図Ⅲ－2－55　遺構出土土器　H41(4～7) …… 64
図Ⅲ－2－56　遺構出土土器　H41(8～13) …… 65
図Ⅲ－2－57　遺構出土土器　H42(1・2)・H43(1～3)・H44(1・2)・H45(1・2) …… 66
図Ⅲ－2－58　遺構出土土器　H46(1～9) …… 68
図Ⅲ－2－59　遺構出土土器　H47(1・2)・H48(1・2)・H49(1)・H50(1)・H51(1～8) … 69
図Ⅲ－2－60　遺構出土土器　H52(1・2)・H53(1～3)・H54(1～3)・H55(1～3) …… 71
図Ⅲ－2－61　遺構出土土器　H56(1～5) …… 72
図Ⅲ－2－62　遺構出土土器　H56(6)・H57(1～3) …… 73
図Ⅲ－2－63　遺構出土土器　H57(4～7) …… 75
図Ⅲ－2－64　遺構出土土器　H58(1～4) …… 78
図Ⅲ－2－65　遺構出土土器　H58(5・6) …… 79
図Ⅲ－2－66　遺構出土土器　H58(7～10) …… 80
図Ⅲ－2－67　遺構出土土器　H58(11～14) …… 81
図Ⅲ－2－68　遺構出土土器　H58(15～19) …… 82
図Ⅲ－2－69　遺構出土土器　H58(20～23)・H59(1) …… 83
図Ⅲ－2－70　遺構出土土器　H60(1～7) …… 85
図Ⅲ－2－71　遺構出土土器　H62(1～7)・H63(1・2) …… 86
図Ⅲ－2－72　遺構出土土器　H64(1～3)・H65(1～3)・H66(1・2)・H67(1) …… 88
図Ⅲ－2－73　遺構出土土器　P45(1・2)・P47(1) …… 90
図Ⅲ－2－74　遺構出土土器　P54(1)・P55(1)・P56(1～4) …… 91
図Ⅲ－2－75　遺構出土土器　P60(1)・TP7(1～3)・S5(1) …… 92
図Ⅲ－2－76　遺構出土土器　F65(1・2) …… 93
図Ⅲ－2－77　遺構出土土器　F82(1～9) …… 95
図Ⅲ－2－78　遺構出土土器　F82(10～20) …… 96
図Ⅲ－2－79　遺構出土土器　F82(21～25) …… 97
図Ⅲ－2－80　遺構出土土器　F82(26～33) …… 98

図Ⅲ－3－1　遺構出土石器　H18(1～6) …… 99
図Ⅲ－3－2　遺構出土石器　H18(7～12) …… 100
図Ⅲ－3－3　遺構出土石器　H18 掘り上げ土(1～6) …… 101
図Ⅲ－3－4　遺構出土石器　H19(1～13) …… 102
図Ⅲ－3－5　遺構出土石器　H19(14～18)・H20(1～3) …… 103
図Ⅲ－3－6　遺構出土石器　H21(1～7)・H23(1) …… 105
図Ⅲ－3－7　遺構出土石器　H23(2～10) …… 106
図Ⅲ－3－8　遺構出土石器　H24(1～4)・H25(1～4) …… 108
図Ⅲ－3－9　遺構出土石器　H25(5～7)・H26(1～5) …… 109
図Ⅲ－3－10　遺構出土石器　H26(6～9)・H27(1～5) …… 110
図Ⅲ－3－11　遺構出土石器　H27(6～8)・H28(1・2) …… 111
図Ⅲ－3－12　遺構出土石器　H28(3～11) …… 112
図Ⅲ－3－13　遺構出土石器　H28(12～15) …… 113
図Ⅲ－3－14　遺構出土石器　H29(1～11) …… 115

図Ⅲ－3－15　遺構出土石器　H29(12～16) …… 116
図Ⅲ－3－16　遺構出土石器　H30(1～8) …… 117
図Ⅲ－3－17　遺構出土石器　H31(1～5) …… 118
図Ⅲ－3－18　遺構出土石器　H31(6～10)・H32(1) …… 119
図Ⅲ－3－19　遺構出土石器　H33(1～7) …… 120
図Ⅲ－3－20　遺構出土石器　H34(1～6)・H35(1・2) …… 122
図Ⅲ－3－21　遺構出土石器　H35(3)・H36(1～3)・H37(1～6) …… 123
図Ⅲ－3－22　遺構出土石器　H37(7～14)・H38(1) …… 124
図Ⅲ－3－23　遺構出土石器　H38(2～5)・H39(1～12) …… 125
図Ⅲ－3－24　遺構出土石器　H39(13～16) …… 126
図Ⅲ－3－25　遺構出土石器　H39(17～20)・H40(1) …… 127
図Ⅲ－3－26　遺構出土石器　H41(1～7) …… 129
図Ⅲ－3－27　遺構出土石器　H43(1～3)・H44(1～3) …… 130
図Ⅲ－3－28　遺構出土石器　H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1～4) …… 131
図Ⅲ－3－29　遺構出土石器　H51(5～8)・H52(1～3) …… 132
図Ⅲ－3－30　遺構出土石器　H52(4～8)・H53(1・2) …… 133
図Ⅲ－3－31　遺構出土石器　H54(1～5) …… 135
図Ⅲ－3－32　遺構出土石器　H55(1～5)・H56(1～3) …… 136
図Ⅲ－3－33　遺構出土石器　H57(1～3)・H58(1～7) …… 137
図Ⅲ－3－34　遺構出土石器　H60(1～7) …… 138
図Ⅲ－3－35　遺構出土石器　H62(1～5)・H63(1) …… 140
図Ⅲ－3－36　遺構出土石器　H64(1～4)・H65(1)・H66(1・2) …… 141
図Ⅲ－3－37　遺構出土石器　H66(3～5)・H67(1～5) …… 142
図Ⅲ－3－38　遺構出土石器　H67(6～11) …… 143
図Ⅲ－3－39　遺構出土石器　P43(1～17)・P51(1～3)・P55(1～4) …… 145
図Ⅲ－3－40　遺構出土石器　P56(1～7) …… 146
図Ⅲ－3－41　遺構出土石器　P56(8～16) …… 147
図Ⅲ－3－42　遺構出土石器　P56(17～19) …… 148
図Ⅲ－3－43　遺構出土石器　F79(1～3)・F82(1～3)・S5(1) …… 149

第２分冊（本文Ⅲ－２・３）表目次

表Ⅲ－4　遺構出土掲載復元土器一覧 …… 150
表Ⅲ－5　遺構出土掲載復元土器接合破片一覧 …… 159
表Ⅲ－6　遺構出土掲載土器破片拓影化一覧 …… 163
表Ⅲ－7　遺構出土石器一覧 …… 171

2　遺構出土の土器・土製品

この項に掲載した土器はいずれも縄文時代の土器である。詳細は「観察表（表Ⅲ－４　遺構掲載復元土器一覧）」に記した。出土位置がわかるものについては第１分冊第Ⅲ章１項の遺構図で「掲載番号１の土器・土製品」ならば「土1」のように示した。復元個体については「観察表（表Ⅲ－４　遺構掲載復元土器一覧）」と別に「接合状況・未接合だが同一個体と思われる破片一覧（表Ⅲ－５　遺構掲載復元土器接合破片一覧）」を示した。復元に至らなかったもので、破片資料を拓影図化したものについては、両者をまとめた体裁の別表（表Ⅲ－６　遺構掲載土器破片拓影化一覧）に示した。当調査範囲において地文の縄文の撚りが複雑な縄文土器が多いため拓本による拓影図を多用した。従って復元個体か否かは図上ではわかりにくい側面を持つ。表Ⅲ－４復元土器一覧にない個体は表Ⅲ－６に掲載されている。

本文中で№付きで示された数字はそれぞれの遺構について遺物出土位置を現場で記録した点取り番号である。特に記載が無いものは掲載番号である。№数字の後に（）付きで掲載番号を示している場合もある。遺物番号とあるのは遺物収集帳（遺物台帳）上の記録番号である。

(1)　竪穴住居

H18：床面直上とベンチ直上から同一個体の円筒下層ｄ２式が出土している。１～５は覆土１層出土である。1、２は中期前半の土器、３～５は前期後半の土器である。

１は隆帯区画内に半截竹管によりＣ字型の刺突列が充填される。２は口縁の残存部からいずれも中期前葉、円筒上層ａ式と考える。１は最初、円筒上層ｃ式の可能性を考えたが、段階H58－1・2と並行する円筒上層ａ式の最新ものとした。縦区画が横方向に連続する。これが口縁部に上下２段配される。

５は多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を丁寧に擦って円形に成形している。中央に穿孔を持つ。再生土製品と称したものである。３は結束第一種羽状縄文が縦方向に連続してはしる土器である。口縁部文様帯にも結束第一種羽状縄文が２段巡る。４は結束第二種羽状縄文が横回転したものを帯状に３段持つ。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。

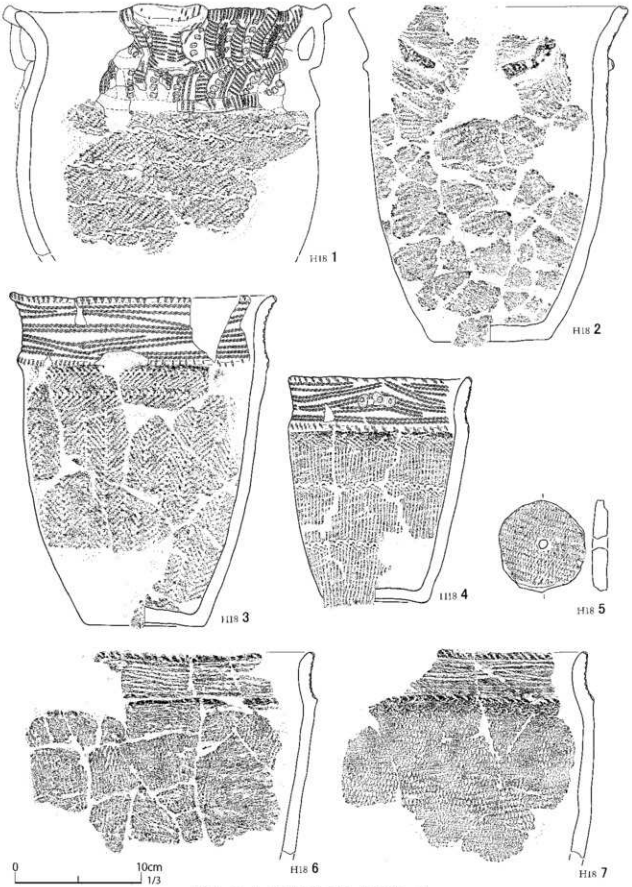
６は床面、７はベンチ上から出土した土器である。いずれも円筒下層ｄ式土器で、同一個体と考える。ベンチと床面で出土土器が共通する事となる。

H19：覆土１層と覆土２層いずれも同一個体のまとまりは無かった。縄文時代前期後半円筒下層ｂ式から円筒下層ｄ２式、さらに一部は中期円筒上層ａ式まで出土している。また円筒下層ｂ式については磨滅が著しい破片ばかりである。

覆土２層で円筒下層ｄ２式の同一個体のまとまり４が出土している。２は覆土１層、１・３・４は覆土２層からの出土、５は覆土１層と２層出土のものが接合した。２・３は再生土製品である。２は円筒下層ｄ式、３は円筒下層ｂ式の土器片である。１は中期初頭の口縁部破片である。４・５は円筒下層ｄ２式土器である。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。５は半截竹管による連続刺突を持ち、４は口縁部文様帯直下に結束第一種羽状縄文が回転する。

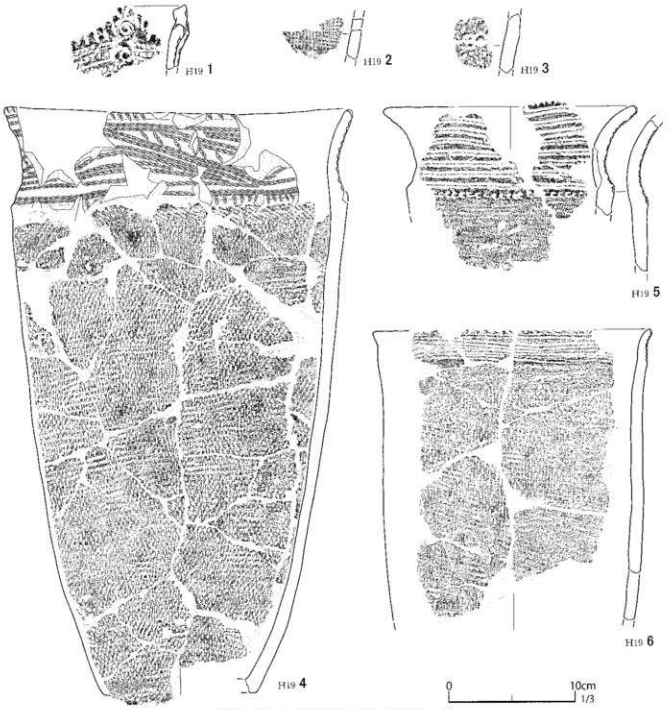
６は床面出土である。口縁部文様帯の幅が狭く、円筒下層ｄ２式最古段階あるいはｄ１式最新段階と考える。

H18

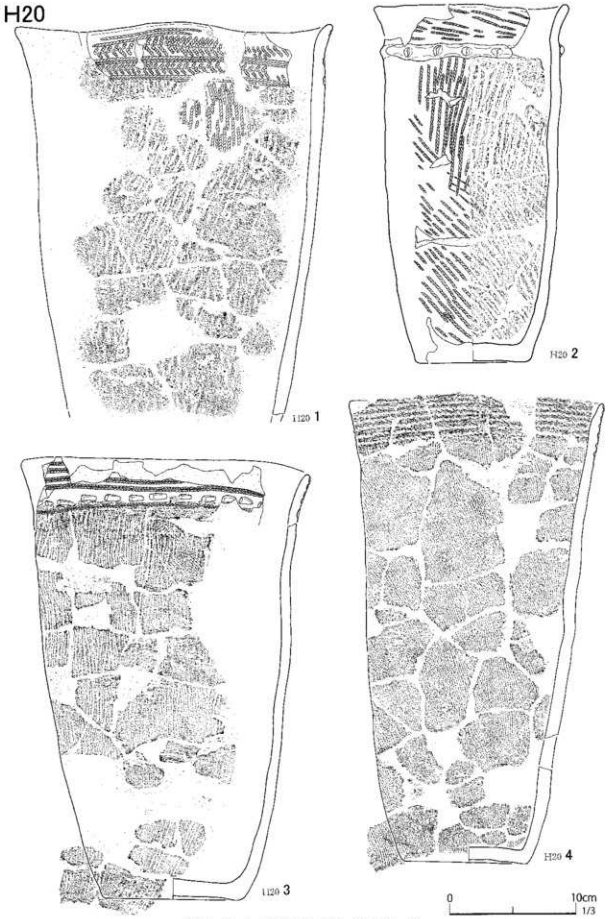


図Ⅲ－2－1　遺構出土土器　H18(1～7)

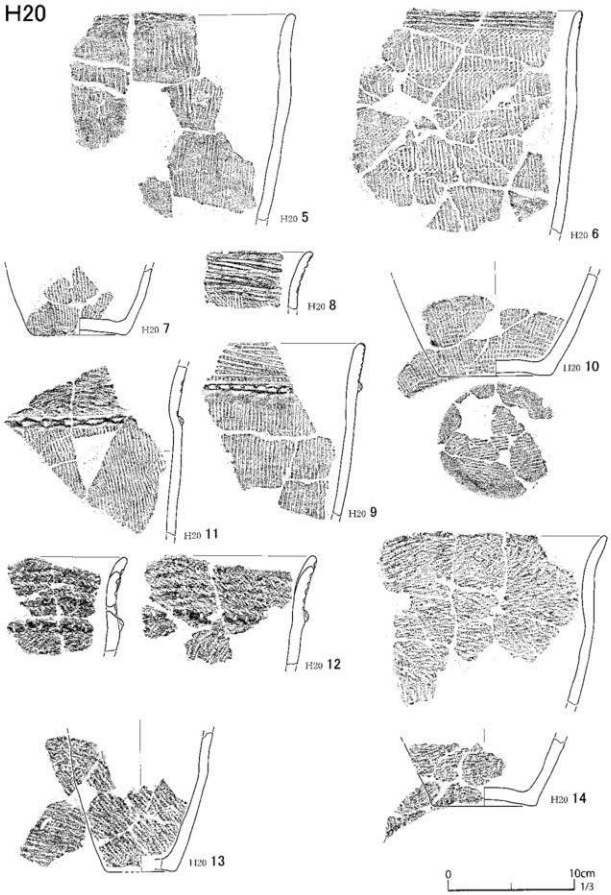
H19



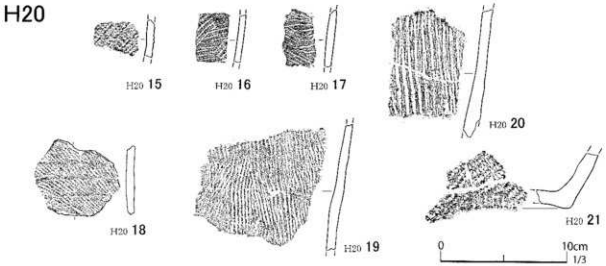
図Ⅲ－2－2　遺構出土土器　H19(1～6)



図Ⅲ－2－3　遺構出土土器　H20(1～4)



図Ⅲ－2－4　遺構出土土器　H20(5～14)



図Ⅲ－2－5　遺構出土土器　H20(15～21)

H20：床面の点取りどうしは接合しなかった。復元土器１～４は住居廃絶後の窪みの中央部から出土した。円筒下層ｂ2式から円筒下層ｄ1式にかけての時期であった。

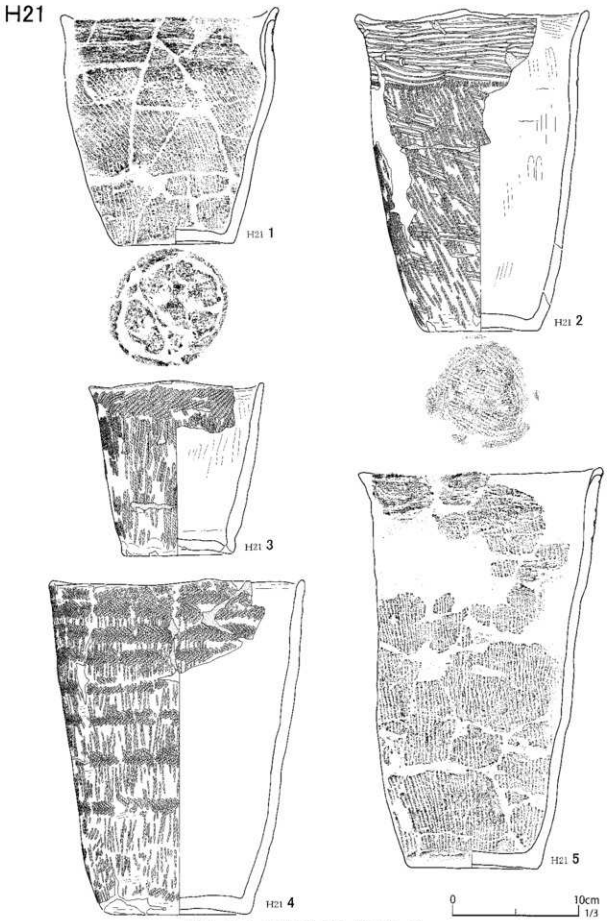
1・3は円筒下層ｄ1式古段階、2は円筒下層ｂ2式、4は円筒下層ｃ式である。いずれもベルトやトレンチといった住居廃絶後、窪みだった場所に廃棄されたものである。拓影図資料についても同様に円筒下層ｃ式から下層ｄ1式までのものが目立つ（5～14）。M４盛土を掘り込んでいる家であり、1・3・4は明らかにM４盛土より新しい。覆土は盛土を掘り返した土の流入土であって縄文時代早期（15～18）から、円筒下層ｃ式（8）、円筒下層ｄ1式（5～7・9・10）までの土器が入り込む。床面からは円筒下層ｂ2～ｃ式（20・21）の破片が出土している。

H21：円筒下層ｃ式に限りなく近い下層ｄ1式（1・2・5）が出土するが、残存率は良好ではない。H29に比べると円筒下層ｃ式に近い円筒下層ｄ1式が多い７（HP－11・14ほか出土）・3（覆土７層出土）７層を中心として円筒下層ｄ1式がまとまっている（4～7・10・11）。ここからはH39と接合したH39－53の破片も出土している。より下位の９層から円筒下層ｄ1式古段階である８も出土する。点取り番号№31は６である。胎土に砂粒が多い点で他の円筒下層ｄ1式と異なっている。ＲＬ縄自縄自巻縄文が縦走する。撚りが他のものと比較してゆるい。

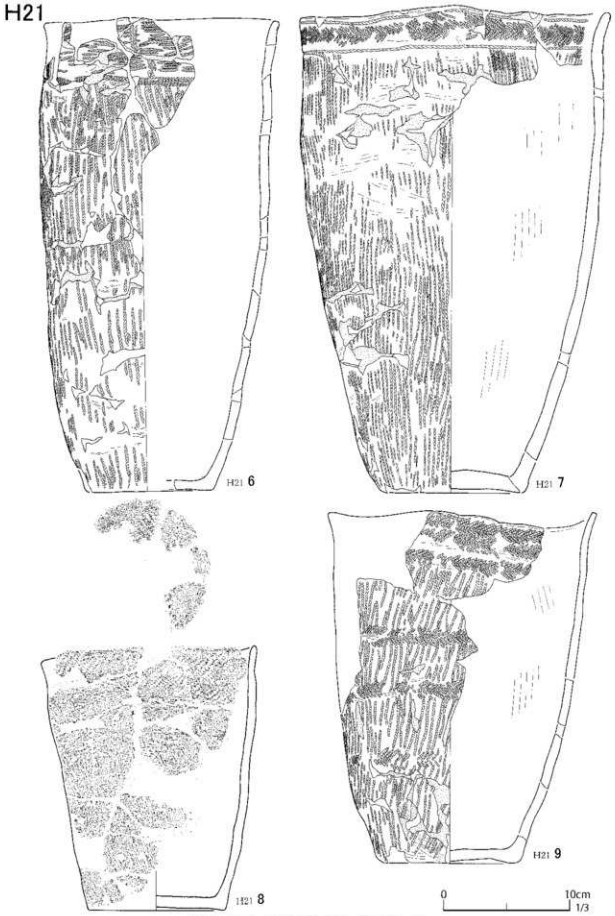
７層北側から出土の復元個体３は円筒下層ｄ1式古段階古。７層東側から出土の復元個体6・10は円筒下層ｄ1式古段階古。７層北側と７層東側が接合した、復元個体4・11は円筒下層ｄ1式古段階古。７層北側と７層東側、HP－11・14とも接合したものは、復元個体７で円筒下層ｄ1式古段階古。７層南側から出土の復元個体1・2・5は円筒下層ｄ1式最古段階。７層中央復元H39－53（H39－点取り番号№27・28・33・34と接合）H21覆土中には菱形を基調とする直線構成の文様がある円筒下層ｄ1式として、復元出来なかった26があるのみ。「円筒下層ｄ1式古段階古」とした、H29覆土下位とH21はほぼ同じ時期である。

覆土９層の8、覆土７層南側からは1・2・5など円筒下層ｄ1式最古段階のものが出土しているが、残存状態が悪い。このころの盛土を掘りこんで逆に流入してきた可能性がある。覆土７層北側を中心に出土した3・4・6・7・9～11は円筒下層ｄ1式古段階古である。

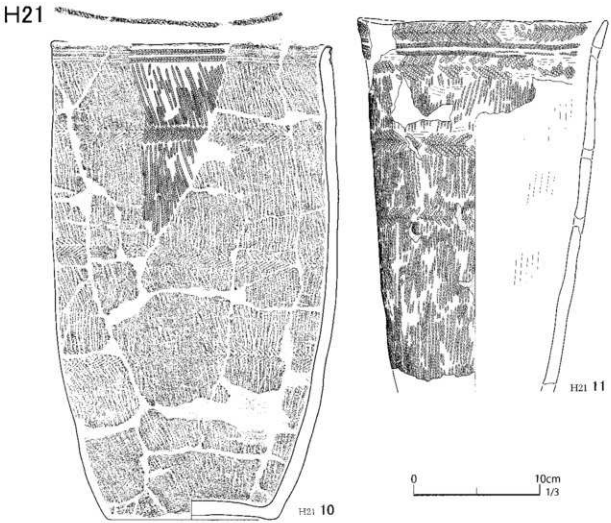
12～14・16・17・26は覆土東側上位から出土した。12は焼成粘土塊である。13・14・16・17・26は円筒下層ｄ1式である。26は中央から東側にかけて覆土上位からの出土である。13のように明瞭な隆帯による口縁部文様帯を区画する個体は調査範囲内では少ない。14の口縁部文様帯には結束第一種羽状縄文の対向がみられる。26は山形文が鋸歯状に連続する。菱形文風である。いずれも円筒



図Ⅲ－2－6　遺構出土土器　H21(1～5)



図Ⅲ－2－7　遺構出土土器　H21(6～9)



図Ⅲ－2－8　遺構出土土器　H21(10・11)

下層ｂ式起源で円筒下層ｃ式にかけて盛行した文様に由来する。

15・18・19は覆土東側壁際から出土した土器片である。15・18は円筒下層ｄ1式、19は円筒下層ｃ式である。地文が合撚りと、古い傾向が残る。肩部で口縁部文様帯を区画するタイプは調査区内では少ない。18は二対の補修孔を持ち、縁辺を四角く成形した、再生土製品の一種という可能性がある。

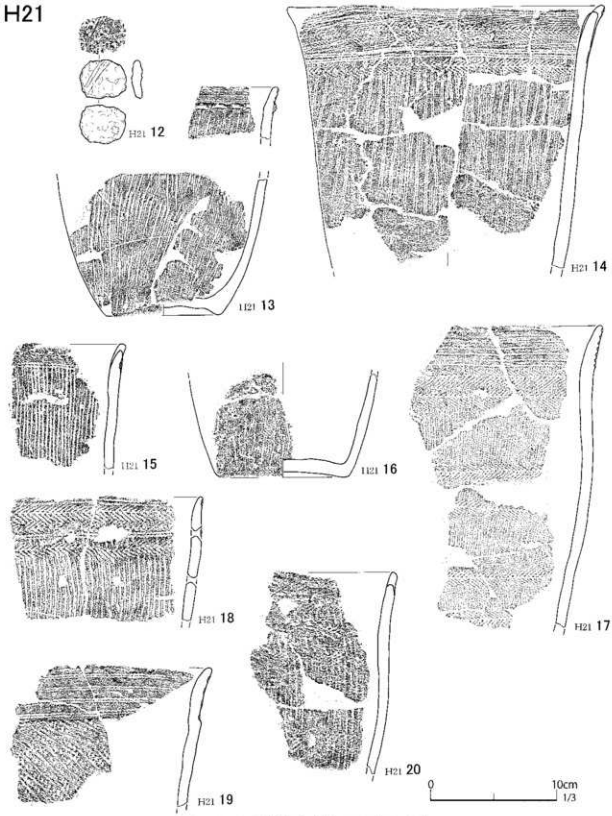
20・22～25・28は覆土東側下位から出土した。20は東側上位のものと接合した円筒下層ｄ1式、28は円筒下層ｃ式、22～25は焼成粘土塊である。

21・27・30・33は覆土7層から出土した。30・33は覆土7層上位からの出土である。30は円筒下層ｂ2～ｃ式期の胴部片を加工したものである。縁辺を打ち欠きと擦り切りによって円形に成形し、ほぼ中央に穿孔する。21・27・33は円筒下層ｄ1式である。21は、覆土9層をはじめとして広範囲に破片が散らばっていた。33は筒型の深鉢で、一段階前の器形を思わせたが、文様は円筒下層ｄ1式のそれである。破片数は多かったが、胴部と口縁部の接点はなかった。

29は覆土下位から出土した。円筒下層ｂ式の底部際破片を成形した再生土製品の可能性がある。

32・36は覆土9層から出土した。32は円筒下層ｄ1式である。36は円筒下層ｂ2式の古段階のものである。縄文地文。隆帯で口縁部を区画する。

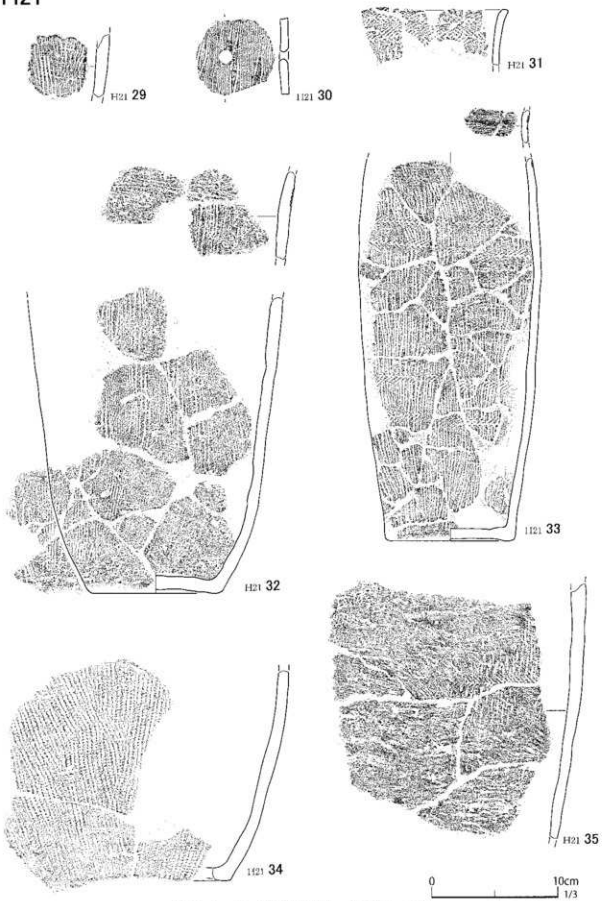
31・35は覆土上位南側から出土した。34は覆土上位から出土した。38は覆土西側から出土した。37・39は覆土からの出土である。Ａトレンチからの出土なので住居中央部分である。いずれも円筒



図Ⅲ－2－9　遺構出土土器　H21(12～20)

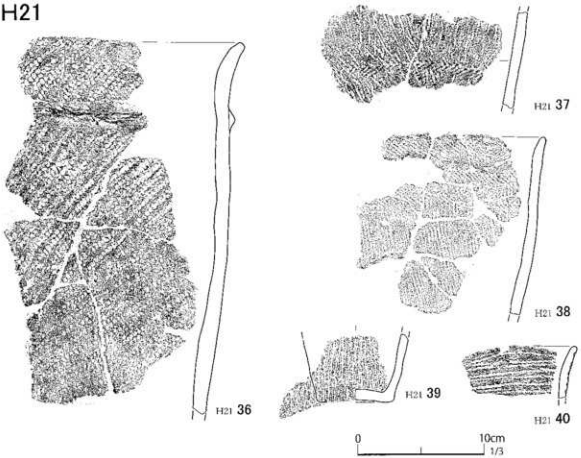
図Ⅲ－2－10　遺構出土土器　H21(21～28)

H21



図Ⅲ－2－11　遺構出土土器　H21(29～35)

H21



図Ⅲ－2－12　遺構出土土器　H21(36～40)

下層ｄ1式である。

40は床面から出土した円筒下層ｃ式の口縁部破片である。縄線で加飾する。

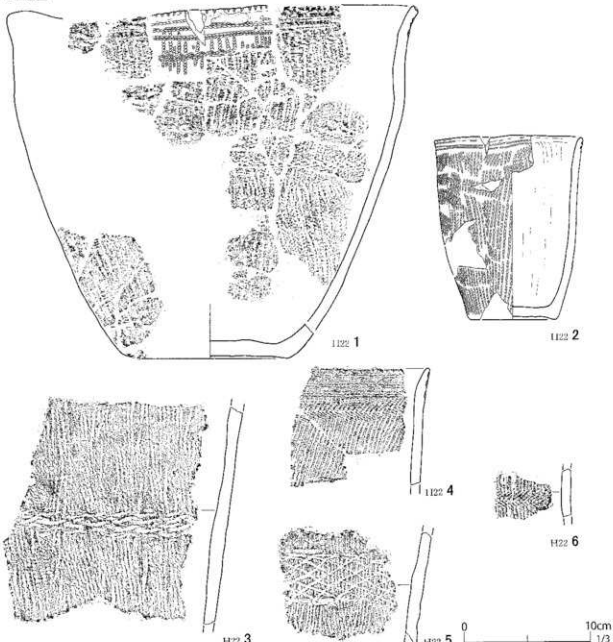
H22：覆土下位から、円筒下層ｄ1式古段階（1・2）およびHP－2から、円筒下層ｄ1式（6）が出土している。1は覆土5層からまとまって出土した。円筒下層ｄ1式で磨滅が著しい。他個体と比較して、器高に比べて径が大きい。2は覆土東側からまとまって出土した。円筒下層ｄ1式で小型の深鉢である。

3・5は覆土中から出土した円筒下層ｂ式の破片である。いずれも胴部中央に帯状の文様帯を持つ。3は結節回転、5は単軸絡条体第5類横回転。4・6は円筒下層ｄ1式である。4は覆土の西側から出土し、古段階の可能性がある。6は付属遺構HP－22覆土中から出土した胴部破片である。

H23：1・5・6は覆土中から出土した円筒下層ｄ式土器である。1は円筒下層ｄ1式の小型深鉢。点取り№1は円筒下層ｄ1式の複数個体の破片によって構成されているが、このうちに混じっていた。5は円筒下層ｄ2式で点取り№3である。器壁が厚く、肩部が明瞭に張り出す。6は覆土3層から出土した円筒下層ｄ式で、結節の帯が胴部中央を巡ることから古手のものだが、幅広い口縁部文様帯を持つ。調査区内でまとまって出土した円筒下層ｄ1式よりは新しいあるいは、異系統の土器である。点取り№3である。

2・3はⅣ群ａ類土器である。2は小型深鉢で、口縁部の形態から、涌元式～トリサキ式に並行す

H22



図Ⅲ－2－13　遺構出土土器　H22(1～6)

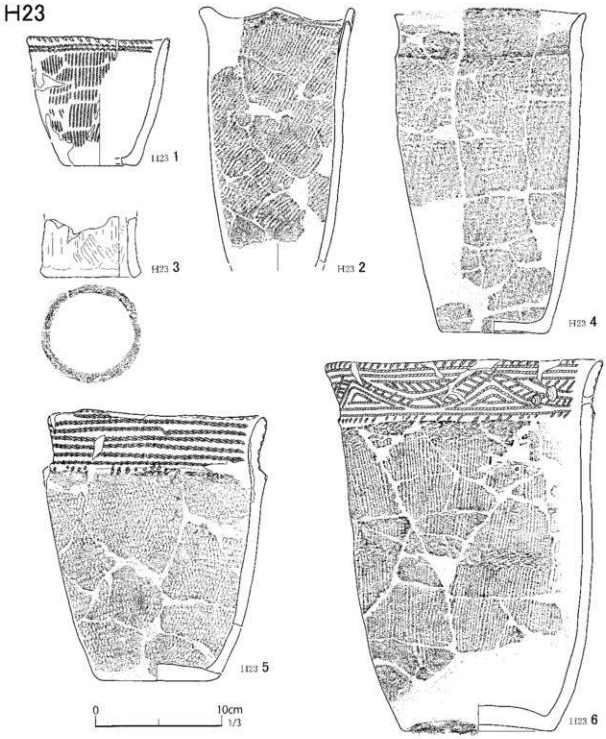
る。十腰内式由来の沈線文を持たない。3は高台状の脚である。

4は覆土2層から出土した円筒下層d1式、円筒下層c式に近い古手のもので磨滅が著しい。点取りNo.2である。多軸絡条体地文を持つ。

7・8・11は点取りNo.1あるいはNo.2に混在していた円筒下層d1式である。7はNo.1、8はNo.2、11はNo.1とNo.2両方の遺物が接合した。

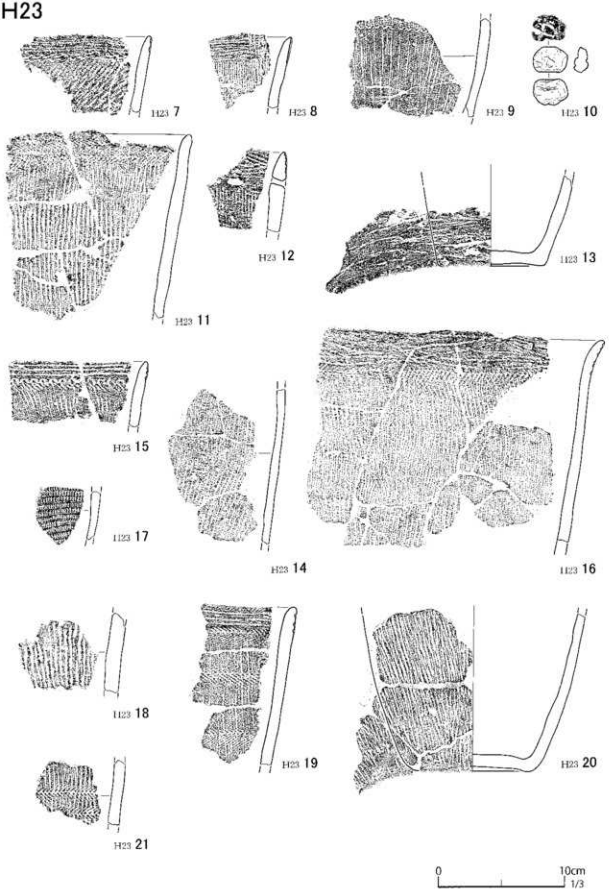
9・12・13は覆土出土点取りNo.3に混在していた。9は円筒下層d1式、12・13は下層d2式の可能性がある。9は胴下半部破片である。12は焼成以前の穿孔を持つ。13は底部から胴部にかけての破片である。

10は覆土出土の焼成粘土塊であり、繊維を含む事から円筒下層式の胎土と共通する。

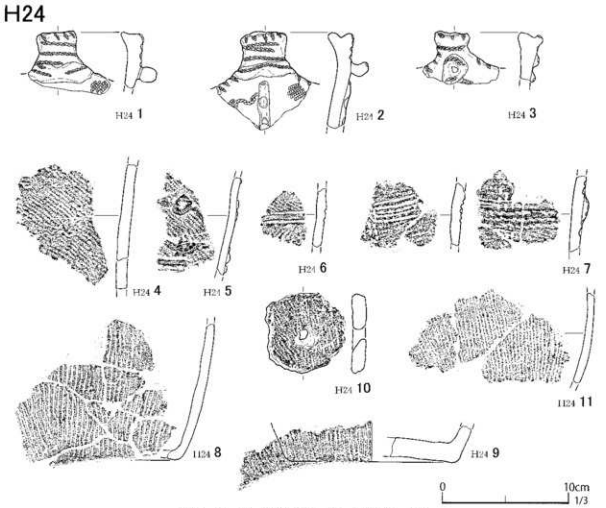


図Ⅲ－2－14　遺構出土土器　H23(1～6)

H23



図Ⅲ－2－15　遺構出土土器　H23(7～21)

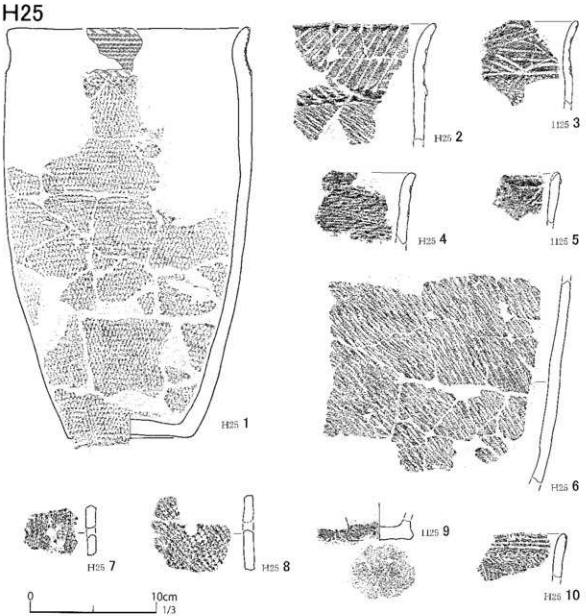


図Ⅲ－2－16　遺構出土土器　H24(1～11)

14・16は点取りNo.4から抽出した円筒下層ｄ1式である。

17～20は覆土からの出土である19・20は円筒下層ｄ1式である。17は縄文時代早期コッタロ式ないしは中茶路式である。18は円筒下層ｂ式である。21は付属遺構HP－2の覆土から出土した円筒下層ｄ1式土器である。

H24：1は床面出土のものでサイベ沢Ⅶ式である。2～4・6は覆土2層出土遺物で、サイベ沢Ⅶ式である。5は覆土1層と覆土2層出土遺物が接合したもので、円筒上層ｄ式である。7は覆土1層と覆土2層で同一個体片が出土した。Ⅲ群ｂ類大安在B式である。8・9は覆土2層出土遺物で、円筒下層ｄ1式である。10は覆土2層出土で、円筒下層ｂ式から円筒下層ｃ式にかけての土器胴部片である。縁辺を打ち欠き、中央に穿孔がある。11は床面遺物と覆土2層出土遺物が接合した。円筒下層ｂ式後半である。



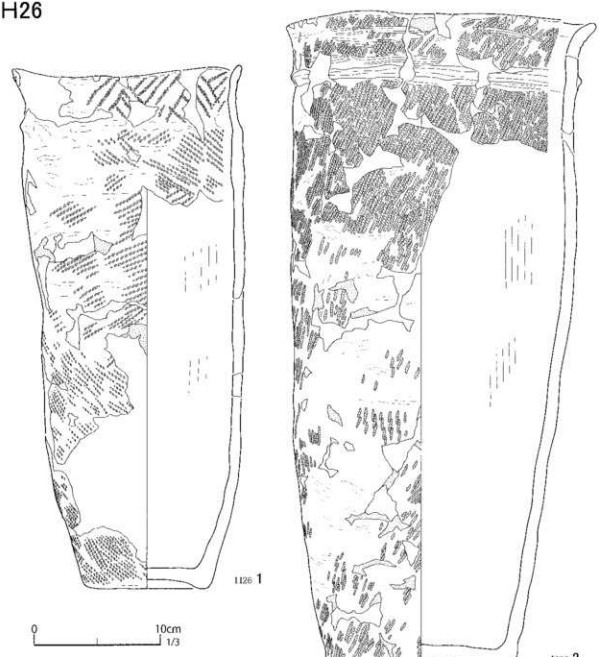
図Ⅲ－2－17　遺構出土土器　H25(1～10)

H25：1は覆土1層から出土した。円筒下層d2式である。2は覆土1層と覆土2層出土のものが接合した。円筒下層c式である。3・4は覆土1層出土である。円筒下層c式である。5は覆土1層からの出土で、サイベ沢Ⅶ式の口縁部破片である。6は覆土2層出土である。円筒下層c式である。

7は覆土2層出土である。円筒下層b式から円筒下層c式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。8は付属遺構HP－2覆土出土である。円筒下層b式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。

10は床面出土である。円筒下層d1式の口縁部破片である。9は付属遺構HF－1覆土3層出土である。平底で小型の底部である。円筒下層d1式かⅢ群a類土器の可能性がある。

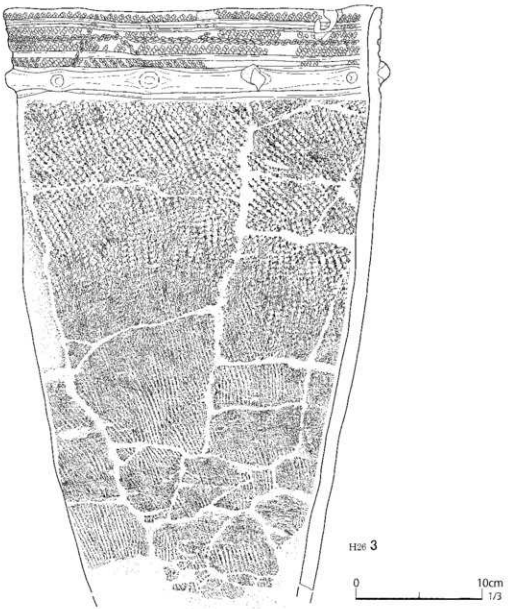
H26



図Ⅲ－2－18　遺構出土土器　H26(1・2)

H26：床面から円筒下層ｂ式から下層ｃ式にかけての土器が出土している。第Ⅲ章１項　遺構の調査でも述べたが、調査後に写真と図面で検討したところ床面よりやや高い位置でまとまって出土しており、「覆土２層廃棄層出土遺物」である。同じH26廃絶後の窪みから出土したM６－２点取り土器群もこのH26覆土２層のもので、同じまとまりであった。これらのうち復元できた、その場で潰れていた土器群［H26床面出土３～６と、M６－２点取り遺物１（点取り№１）と２（点取り№２）］は円筒下層ｃ式古段階とでもいうべきまとまりである。沈線と隆帯によって口縁部区画を加飾する。

H26廃絶後、44Y区で取り上げられたM６－２出土遺物はM６に掘り込まれたH26竪穴住居の廃絶後に、その窪みに廃棄された遺物群である。上位は焼土を伴う「H26内廃棄層出土遺物」下位は「H26覆土２層廃棄遺物」後者で、M６から振替可能だったものは先述の点取りされた二個体の土器である。同時に現地で点取り№３とした石器はM６盛土関連遺物として石器掲載番号635（第３分冊）

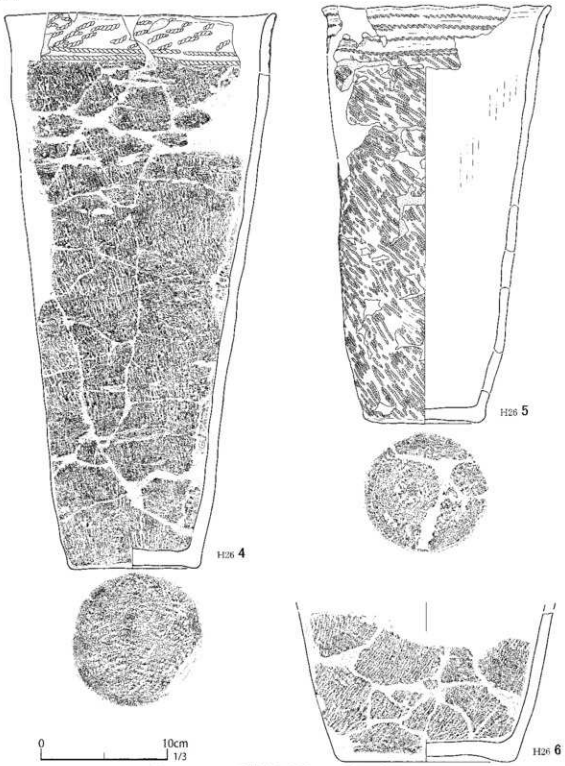


図Ⅲ－2－19　遺構出土土器　H26(3)

として図化した。これは上の「H26内廃棄層遺物」と考察した時点で図版を作成したためである。調査時にH26廃絶後に堆積した44Y区の土層出土遺物はM6－2出土として記録した。そのため机上の操作でこれらをH26廃棄層出土遺物とH26覆土2層出土遺物に振り分けることは不可能であった。

隆帯で口縁部文様帯を区画する2・3がある。隆帯が明瞭な3は上に連続刺突を持つ。2は隆帯の直上直下に沈線文を施す。口縁部文様帯に、4は結節回転文を持ち、1は複数の縄線を鋸歯状に配する。3は縄線で鋸歯状文の一部を施す。さらに3・4が地文に単軸絡条体回転地文を持つ。3は胴部上半が縦走縄文下半が絡条体地文。4は単軸絡条体4類か6A類か判然としなかったが6A類の可能性が高い。器形的には、1・2に対し3・4・5はゆるく胴部中央から外反する筒形である。5が共伴するなど、器形や胎土を考慮すると時間軸的には時期的には一段階古い円筒下層b2～c式に並行すると考える。しかし1～6は円筒下層c式土器の様相が強い土器のまとまりとした。そこで特に「円筒下層c式古段階」とした。

H26



図Ⅲ－2－20　遺構出土土器　H26(4～6)

H27：1は床面出土のものである。円筒下層ｃ式である。波頂部から垂下する擦痕が明瞭である。2は円筒下層ｂ2～ｃ式、口縁部に水平方向に走る縄線が複数段施される。6は円筒下層ｂ2式新段階である。覆土2層出土である。5・8は覆土1層出土である。5は焼成粘土塊である。8は円筒下層ｄ1式である。口縁部に結束第一種羽状縄文が二段施される。

4・7は覆土2層出土である。円筒下層ｃ式である。4は口縁部文様帯の幅が狭く、隆帯上に刺突が連続する。7は器壁が薄く、単軸絡条体地文が密である。円筒下層ｄ1式に近い新しい時期のものである。3は覆土2層出土である。円筒上層ａ式である。

H28：1・2は覆土出土の円筒下層ｄ1式である。1は覆土3層、2は覆土1層の出土である。

3・5・6・10は覆土1層出土である。3は焼成粘土塊である。5・6は円筒下層 2式新段階の土器底部と考える。10は円筒下層ｂから下層ｃ式の底板部の破片である。縁辺を打ち欠き、中央付近に穿孔する。

4は床面出土である。円筒下層ｃ式である。8は覆土2層出土である。縄文時代早期の土器である。7・9・11は覆土3層出土である。7は円筒下層ｄ1式並行の土器底部と考える。9は円筒下層ｄ1式である。縄線による平行線文を口縁に持ち、刺突列で区画する。H21－26という可能性が高い。11は9と類似した文様構成だが、文様帯が幅広く、胎土の砂粒が少ない。円筒下層ｃ式と考える

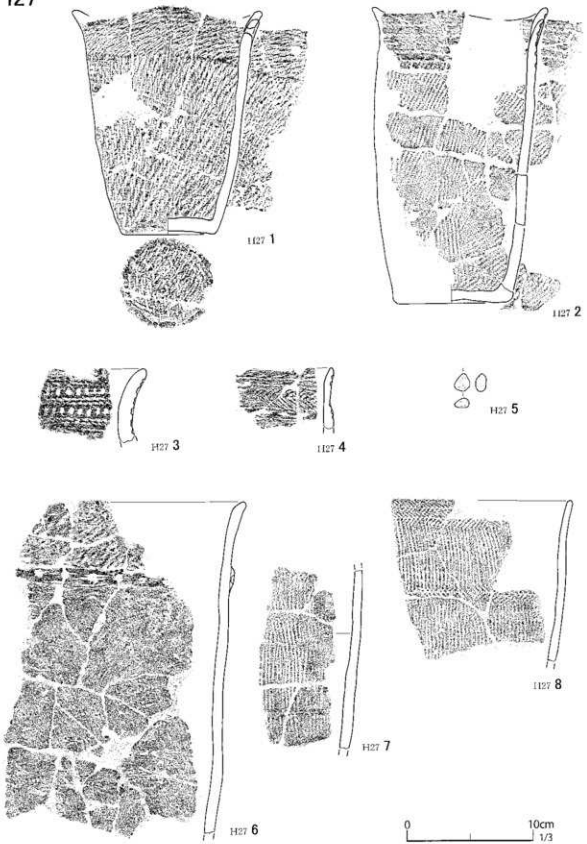
H29：竪穴住居廃絶直後の廃棄としては25が覆土下位№18と60Q区M2－2出土遺物との接合である。廃絶直後の家の遺物と5ｍ離れた斜面際の遺物が接合した。

1～11・13・14・17は円筒下層ｄ1式古段階新。25～37・38・40は円筒下層ｄ1式古段階古。12・15・16・18～23・41・42・44～46・49は円筒下層ｄ1式。24は円筒下層ｄ2式、43は円筒下層ｃ式、47・48は円筒下層ｂ式、50は焼成粘土塊である。

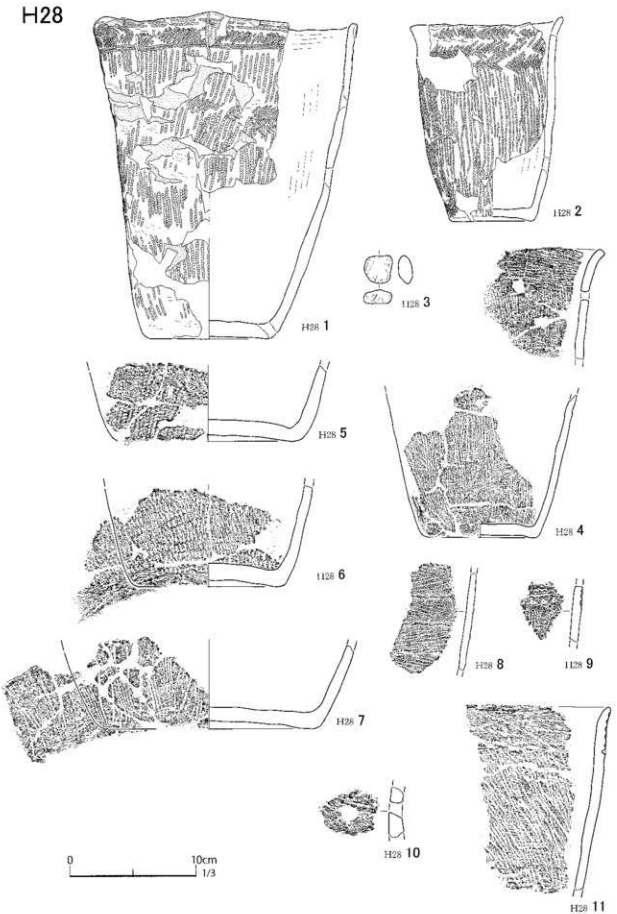
1～18・22・23は覆土上位出土である。

1は点取り№30である。単軸絡条体とふたつの結節回転による多段の帯。縄線による口縁部文様。2は点取り№4である。自縄自巻とふたつの結節回転による多段の帯。頸部には押し引きが巡る。矢羽縄線による口縁部文様。連続刺突があり、押し引き風である。3は点取り№1である。単軸絡条体と結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文回転による口縁部文様。4は点取り№14である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。口縁部文様帯には縄線による波状文と鋸歯状文の組み合わせ。頸部には連続した円形刺突を持つ隆帯。5は点取り№12である。覆土上位№9や11と接合している。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。6は点取り№5である。覆土上位№4と接合している。小型深鉢、単軸絡条体地文。縄線による口縁部文様。7は点取り№5である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様でところどころ縄線により縦区画。8は点取り№13である。覆土上位№9と接合している。四単位と思われるゆるやかな波頂部を持ち、自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。9は点取り№30である。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。10は点取り№3である。自縄自巻地文。口唇に爪による刺突、口縁には押し引きが連続する。矢羽縄線による口縁部文様。11は点取り№2である。口縁部文様帯には、矢羽縄線によって直線的な山形の連続を施す。自縄自巻地文。矢羽縄線による菱形基調と思われる縄線文。水の影響か、脱色して変形著しい。12は点取り№10である。自縄自巻に、結束第一羽状縄文により多段の帯。胴下半から底部にかけて残存。13は点取り№6である。縄文を縦走させる地文。結束第一種羽状縄文を二段口縁部に施す。14は点取り№8である。同一個体の可能性がある遺物が覆土下位点取り№21に混在していた。口縁部文様帯は複数本のＬ縄線による曲線構成の文様。自縄自巻を縦走する地文。15は点取り№32である。自

H27

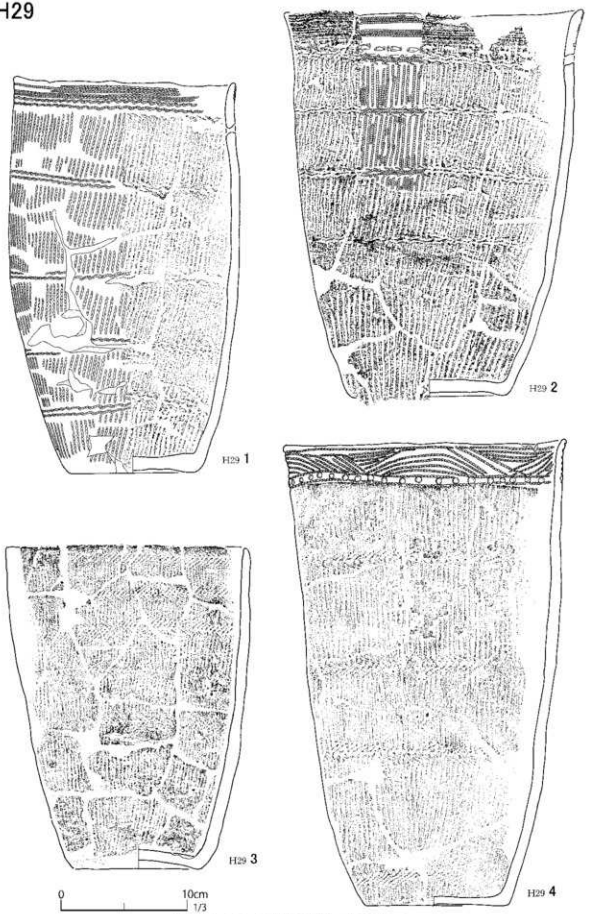


図Ⅲ－2－21　遺構出土土器　H27(1～8)



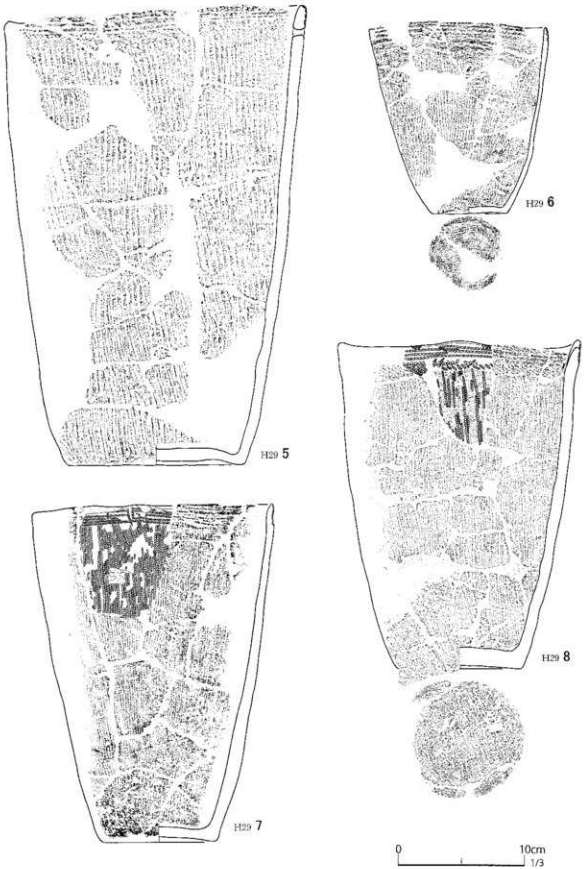
図Ⅲ－2－22　遺構出土土器　H28(1～11)

H29



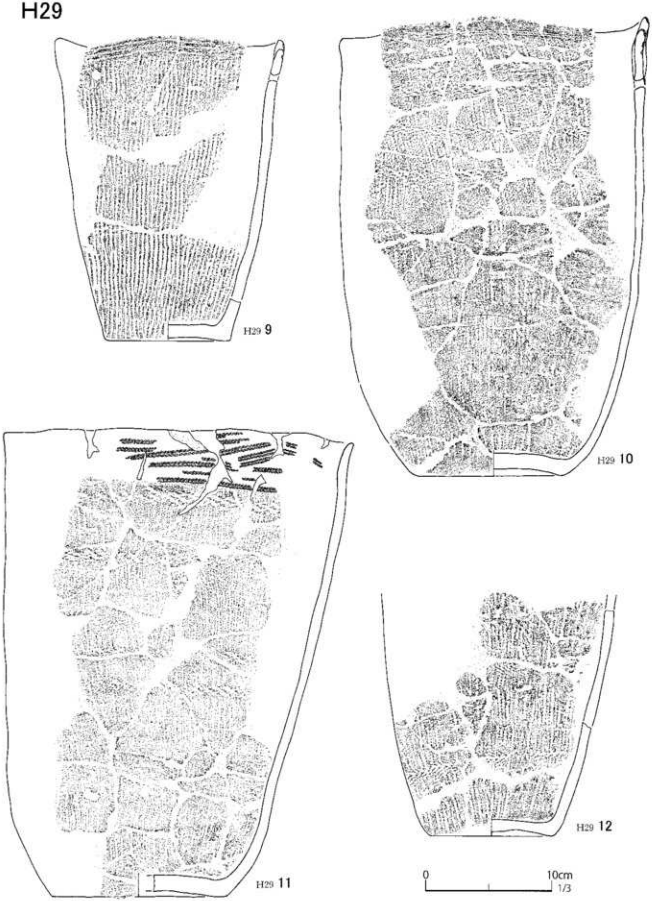
図Ⅲ－2－23　遺構出土土器　H29(1～4)

H29



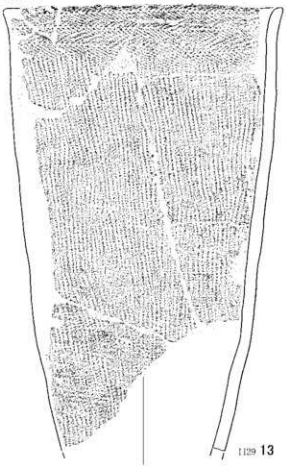
図Ⅲ－2－24　遺構出土土器　H29(5～8)

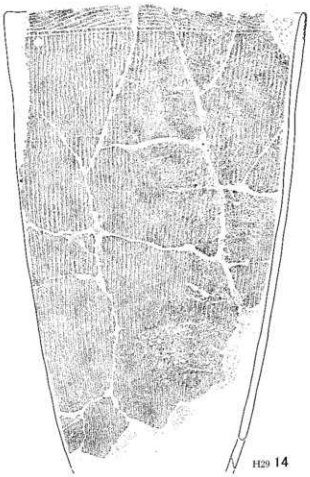
H29

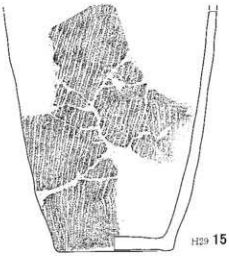


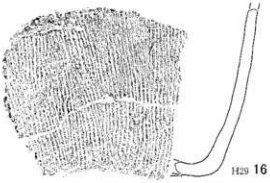
図Ⅲ－2－25　遺構出土土器　H29(9～12)

H29





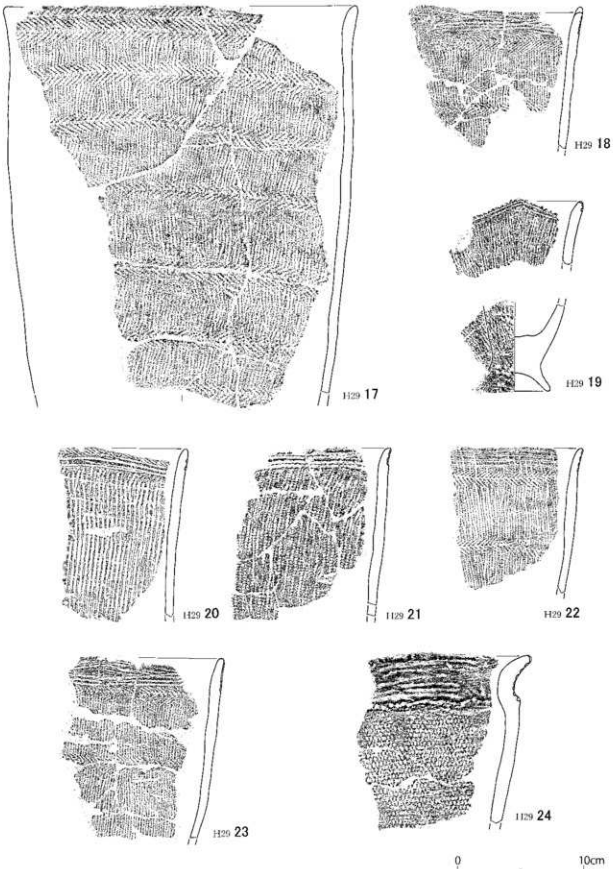




図Ⅲ－2－26　遺構出土土器　H29(13～16)

縄自巻地文の胴下半から底部にかけて残存。16は点取り№7である。単軸絡条体地文を底面にも有する。胴下半から底部にかけて残存。17は点取り№9である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文による口縁部文様。その直下には逆回転でもう1段施す。18は点

H29



図Ⅲ－2－27　遺構出土土器　H29(17～24)

取り№32である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によって菱形文様施文。縄線で口縁部文様。19は覆土からの出土である。円筒下層ｄ1式の脚付き小型杯である。単軸絡条体地文。縄線で口縁部施文。トレンチ出土の口縁部と覆土出土底部に接点は無く、地文と径からの推定である。22・23は覆土上位からの出土である。いずれも自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。24は覆土上位出土、円筒下層ｄ2式である。肩部には円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部には縄線文様。

20・21は覆土からの出土である。円筒下層ｄ1式である。いずれも自縄自巻地文である。

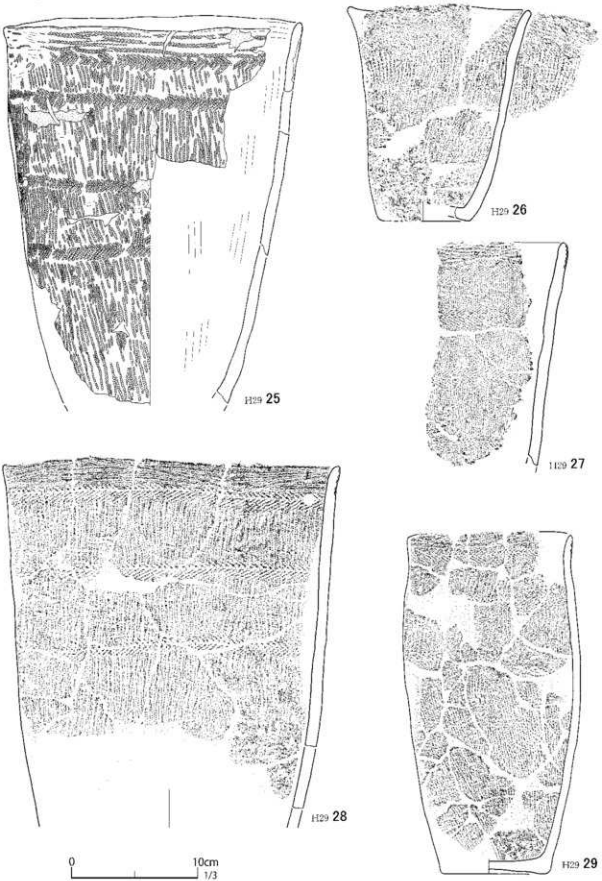
25～40は覆土下位出土である。

25は点取り№18である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯である。矢羽状縄線による口縁部文様。26は点取り№17である。小型深鉢で、自縄自巻を口縁部と胴部に施文。自縄自巻を口縁部に横回転。27は点取り№16と17が接合した。26と共伴して出土した。単軸絡条体と結束第一種羽状縄文による多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様構成。28は点取り№15である。覆土下位№16と接合している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状の縄線により山形文様の連続による口縁部文様。29は点取り№20である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。30は点取り№19である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文の回転により口縁部文様を構成。矢羽状風縄線によって口縁部文様を構成する。31は点取り№17である。覆土下位№19と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様。ゆるやかな波頂部の形状も反映する。32は点取り№24である。単軸絡条体地文。結束第一種羽状縄文回転後、矢羽状縄線押圧。33は点取り№26である。縄文を縦走と結束第一種羽状縄文で多段の帯。34は点取り№27である。覆土下位№20, 29と接合している。付属遺構 HP－12出土遺物と接合している。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によってゆるやかな波頂部に対応した、曲線的な縄線文様。35は点取り№22である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文により多段の帯。撚りの違う縄線を交互に密にして施す。36は点取り№15である。付属遺構 HP－19覆土出土遺物と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状風の縄線によって直線構成の文様が施される。37は点取り№38である。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文施文後、矢羽状縄線が施文される。38は覆土下位点取り№20である。円筒下層ｄ1式である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯。菱形を基調とした、直線構成の文様を口縁部に持つ。菱形に対応する凝区画を持つ。39は覆土上位点取り№31である。覆土下位点取り№19と覆土最下位点取り№38に同一と思われる破片が混じる。円筒下層ｄ1式である。自縄自巻に、帯状に2段の結節回転。40は覆土下位点取り№23と№25が接合した。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文を施文後、矢羽状縄線を施文する。41は覆土最下位出土点取り№39である。絡条体地文による底部。42は付属遺構 HP－12覆土からの出土である。自縄自巻地文。胎土には砂粒が目立つ。43は床面出土、点取り№48である。円筒下層ｃ式である。直前段反撚り地文の底部。

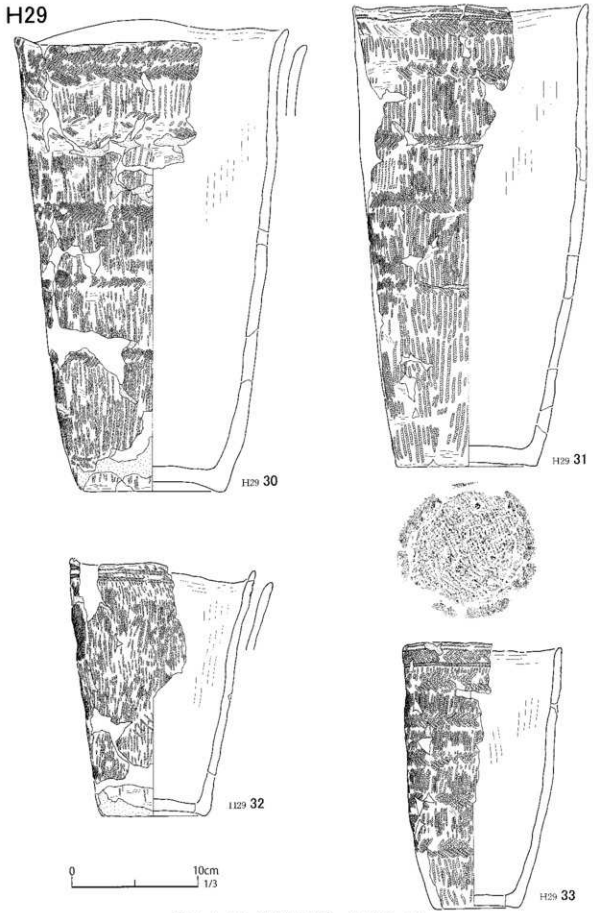
44～49は再生土製品の可能性が高いものである。44～46は覆土上位から出土した。円筒下層ｄ1式の土器片を擦り切りによって短冊状に成形したものである。47～49は土器片の縁辺を打ち欠きによって粗く成形したものである。丸くしようとした可能性がある。3点とも覆土出土で遺物番号179であり同日同時同地点にて取り上げられたものである。同時期の所為とも考えられる。48・47は円筒下層ｂ式、49は円筒下層ｄ1式である。48は中央に穿孔がある。

50は覆土上位から出土した再生土製品である。繊維と海綿骨針を含み、円筒下層式土器の胎土に似ている。竹管背面による押し引きが残る。

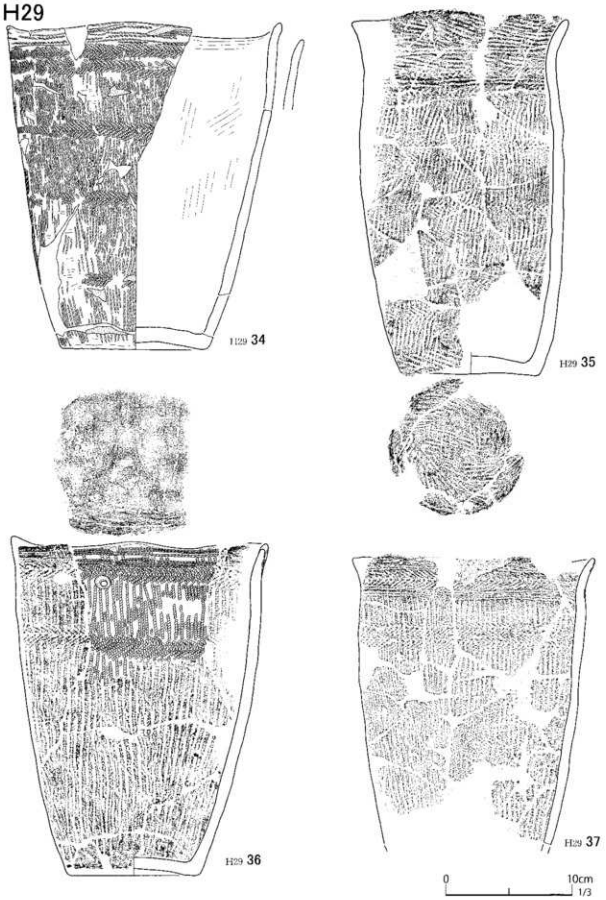
H29



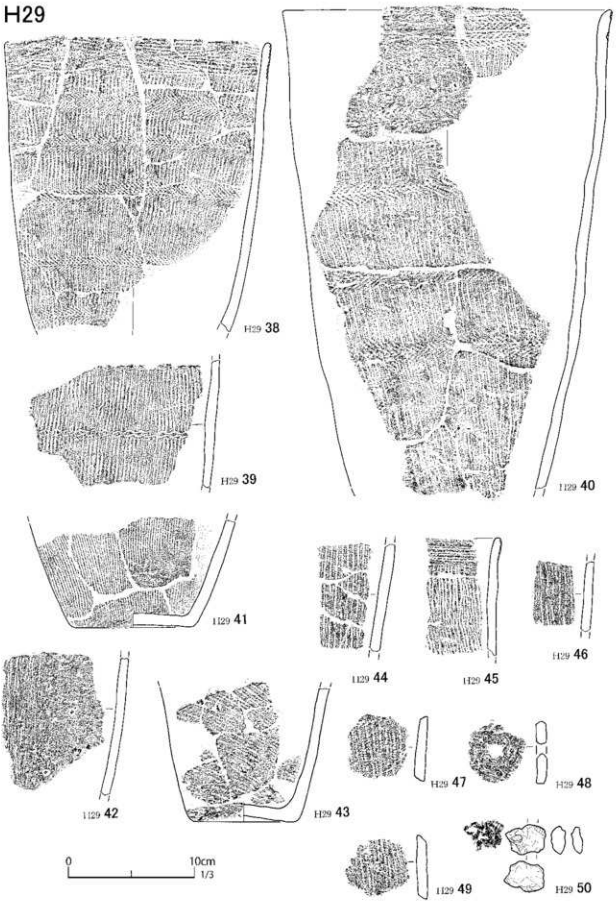
図Ⅲ－2－28　遺構出土土器　H29(25～29)



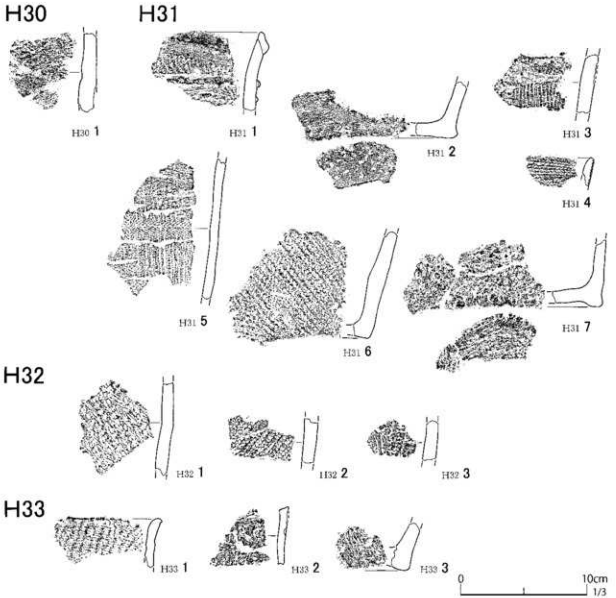
図Ⅲ－2－29　遺構出土土器　H29(30～33)



図Ⅲ－2－30　遺構出土土器　H29(34～37)



図Ⅲ－2－31　遺構出土土器　H29(38～50)



図Ⅲ－2－32　遺構出土土器　H30(1)・H31(1～7)・H32(1～3)・H33(1～3)

覆土下位に無く、上位にある特徴として刺突列、口縁部文様に曲線的な要素が入ってくる点を挙げる事ができる。

H30：1は床面からの出土である。円筒下層ｂ式である。磨滅が著しく断定できないが縁辺を加工した再生土製品の可能性がある。

H31：1～6は覆土1層出土である。7は床面出土で、点取りNo.17である。1・2は円筒上層ｄ式である。1は細い粘土紐による加飾がある。2は底面には網代様の痕跡があるがミガキにより不明瞭。3は円筒下層ｄ2式、自縄自巻地文である。

4・5は円筒下層ｄ1式、4は矢羽状縄線、5は自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。6・7は円筒下層ｂ式である。6は複節地文、7は直前段合撚地文。

H32：1～3は円筒下層ｂ式で、1は古段階の可能性がある。直前段合撚地文。1・2は床面から出土

した。3は付属遺構 HF－1 覆土1層からの出土である。単軸絡条体地文。

H33：1～3は円筒下層b式である。1は覆土1層から、2はHF－1覆土3層からの出土である。3は床面から出土した。1の地文は縄文が縦走する。2は器壁の薄さと内面調整のミガキの丁寧さから円筒下層c式の可能性もある。3は単軸絡条体地文。

H34：H34は覆土から円筒下層b式から円筒下層c式が出土。覆土上部の2層に円筒下層d1式新段階を廃棄する。1～3は覆土2層出土である。円筒下層d1式であるが新段階で円筒下層d2式に近い。1は点取り№7、2は点取り№1、3は点取り№8である。1の口縁部文様帯は矢羽状縄線で山形文を施す。区画内には縄を曲げた部分を連続押圧する。単軸絡条体地文。2・3は自縄自巻地文。口縁部文様帯について、2は縄線を交差し、3は山形文を鋸歯状に連続する。

4、5は覆土2層出土破片が接合している。いずれも円筒下層d式で4・5ともにサルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。1～3に近い時期のものと考える。4は胴部下半分のため、新旧明言し難い。覆土2層点取り№6である。覆土西側のまとまりと接合した。5は磨滅が著しい。覆土2層点取り№1と覆土1層№2が同一個体であると考える。点取り№2を図化した。円筒下層d1式胴部のまとまりである。点取り№1と同一と思われるものを図化した。口縁部には縄線により直線構成の文様。点取り№4は円筒下層d1式胴部のまとまりだが、磨滅破片が主体で接合・図化が出来なかった。出土する円筒下層d1式新段階については、口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層d2式により近い時期。

H35：1と2は床面出土、点取り№6から立ち上がった復元土器である。二個体の円筒下層c式土器が、№6として床面で潰れていたこととなる。

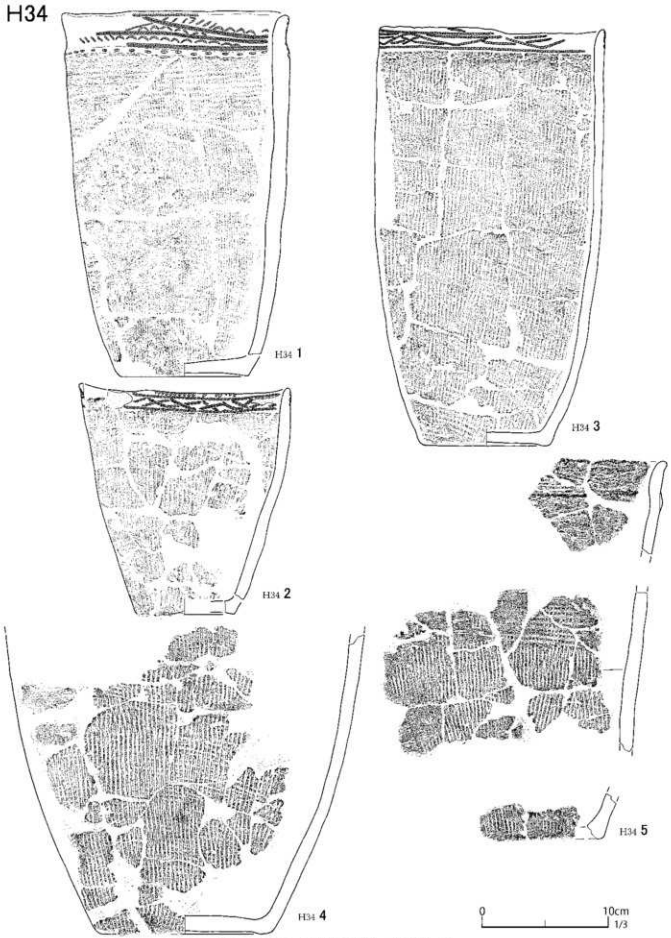
1は半截竹簡の表裏を使った沈線文が描かれる。口縁地文は縄文。胴部地文は絡条体である。ゆるやかな波頂部を持つ。2も同様の器形だが全面縄文地文である。

3・4・5は再生土製品の可能性が高いものである。3は床面からの出土で縁辺を成形し、中央に穿孔する。比較的形状が整う。4と5は覆土からの出土で中央に穿孔がみられるが貫通してない。5は底部際の破片であり、器の形状に即して図化した。

6は覆土1層下位点取り№22である。7は覆土1層下位点取り№18である。8は覆土1層下位点取り№19と20である。上げ底と筒型の胴部から、円筒下層b2～c式前後の胴部下半から底部にかけてである。

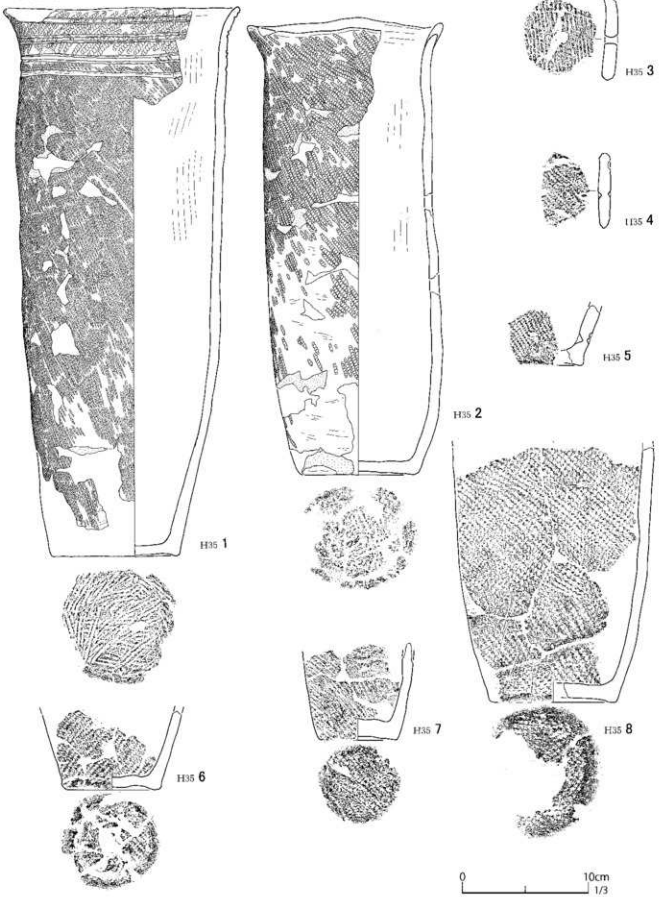
H36：1・2は覆土2層から二個体まとまって出土した。いずれも六単位の波頂部を持つ又は持ったと推定できる、円筒下層b2～c式土器である。よく外反する口縁部形態を持ち薄い器壁を持つ。口縁部文様帯の原体は違うが、よく類似した器形である。1は覆土2層出土№5を主体として、覆土2層出土№4が接合した。№4の主体は円筒下層d2式の胴部破片であるため、紛れ込んだものと考える。2は覆土2層出土№5が接合した。

5は覆土2層から出土した。点取り№6とM4－3, 58R区から出土した遺物が明らかに同一個体であった。底は見つからず、口縁部から胴部にかけてのまとまりが、縦半分ずつ8mほど離れた場所から見つかった。円筒下層b2～c式のころの深鉢と考えられるが、口縁部文様帯直下に文様帯があるといった古い要素も持つ。隆帯上はヘラによる刺突が連続する。三個体とも胎土は円筒下層c式に近

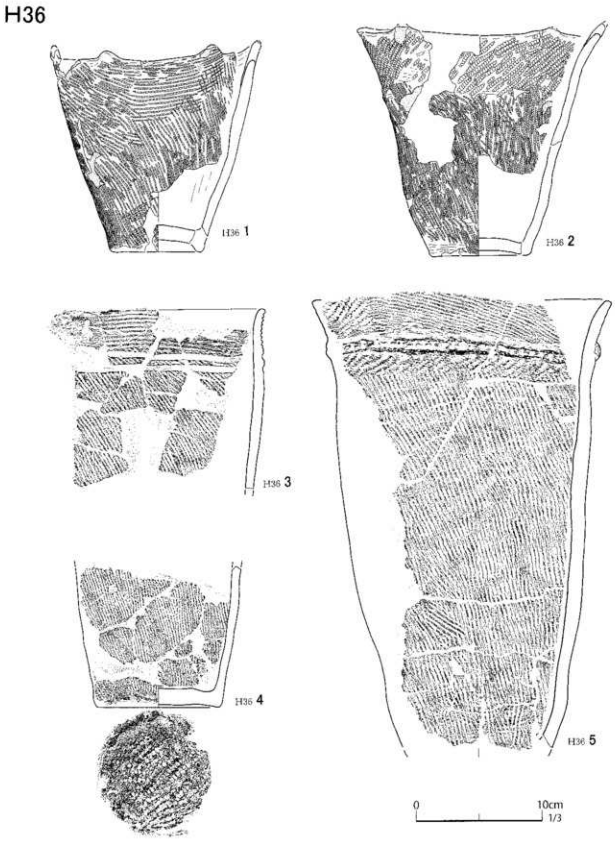


図Ⅲ－2－33　遺構出土土器　H34(1～5)

H35

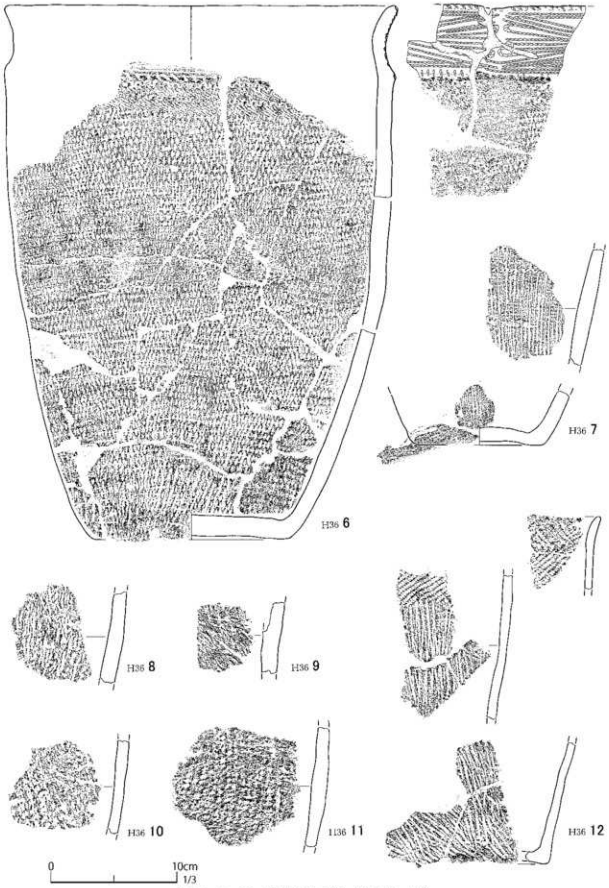


図Ⅲ－2－34　遺構出土土器　H35(1～8)

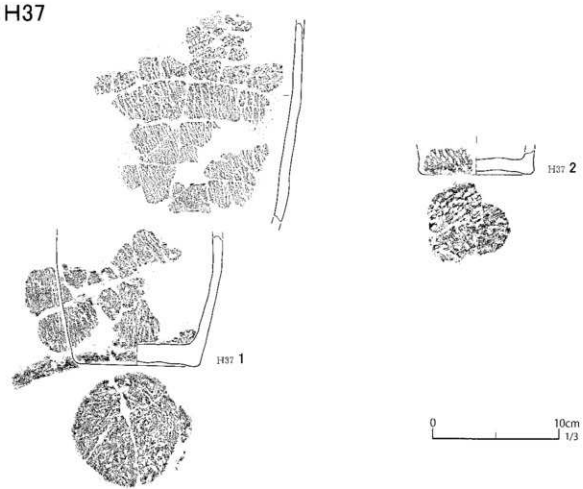


図Ⅲ－2－35　遺構出土土器　H36(1～5)

H36



図Ⅲ－2－36　遺構出土土器　H36(6～12)



図Ⅲ－2－37　遺構出土土器　H37(1～2)

い。H36－5と同様な例としてH29－25がある。住居出土遺物と住居から5ｍ離れたところのまとまった破片が接合した。このH36－5とH29－25のいずれについて顕著な磨滅も無く、意図的に打ち欠いて別々のところに捨てた可能性がある。「斜面の際」と「住居廃絶後の窪み」に捨て分ける点が共通する。

№4のほとんどが6の円筒下層ｄ2式となった。口縁部破片は№4の出土した58U区M 2－3から住居検出前に見つかった破片である。接点はなかった。肩部の文様と径、地文から同一個体と判断した。口縁部文様には縄の屈曲部を対向させる。覆土の西側からは円筒下層ｂ2～ｃ式土器が出土している。

3・4・8～12は覆土西側から出土した。3・4・12は円筒下層ｂ2～ｃ式のもの他は円筒下層ｂ2式相当と考える。

3・4いずれも単軸絡条体地文である。3は口縁部文様帯にサルボウ条痕を施し、沈線で胴部と区画する。4は意図的に穿孔された破片が接合した（左上の破片の孔）。底面には胴部地文と異なり縄文を施す。8～11は縁辺が意図的に成形されている可能性がある。再生土製品として扱った。11は全面が磨滅している。

7と12は比較的破片数が多く残存していたが、復元には至らなかった。7は覆土東側からの出土である。円筒下層ｄ1式の胴下半部である。自縄自巻に結節回転を組み合わせた多段の帯である。円筒下層ｄ1式の可能性がある。12は円筒下層ｂ2～ｃ式である。口縁部文様帯は残存部が少ない。同一原体の縄文を縦回転と横回転を組み合わせて羽状にしているように見える。単軸絡条体地文である。

H37：1は床面出土である。№24である。2は床面出土のものと接合した。№81そして83と同一個体である。1と2のいずれも円筒下層b2式と考える。1は単軸絡条体第5類による網目状の地文である。底面には合撚の縄文。2は多軸絡条体地文である。底面も同様である。いずれも上げ底である。

H38：覆土中から円筒下層下d1式がところどころまとまって出土する。比較的上部からの出土が目立つ。点取り№1（4・5）・№3（8）（7と9に若干接合）・№4（12）・№5（10）・№6（11）・№7（6）を記録した。覆土上半部から大型の円筒下層d1式の破片が出土する。口縁部文様帯内に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す円筒下層d2式に近い段階である。床面近くからは口縁部文様帯の幅が狭く、区画帯を持たない円筒下層d1式が出土している。円筒下層d1式と円筒下層下d2式では器壁の厚みに大きな差がある。それを判断基準とした。8・10～12・14は意図的に半割に近い形で割られた可能性がある。

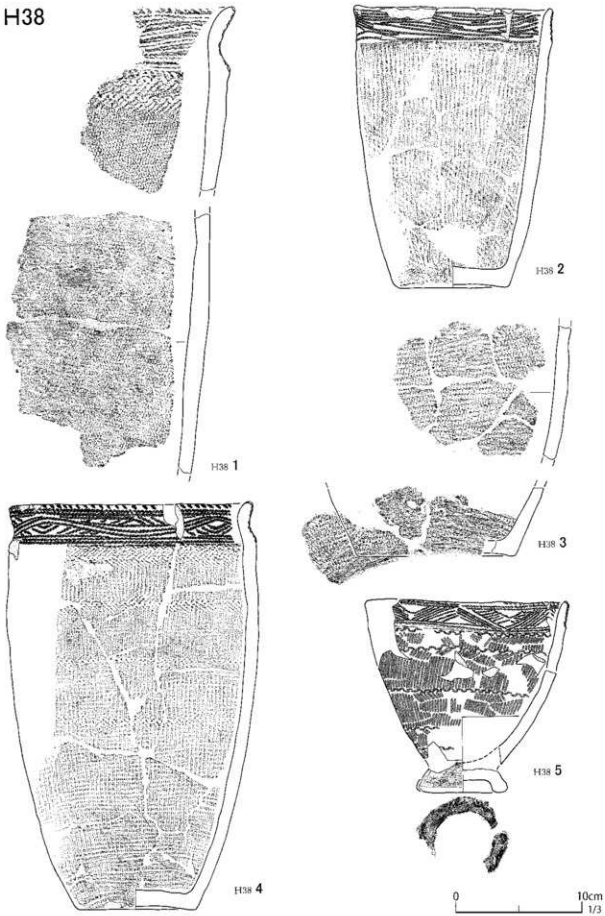
1・3は円筒下層d2式。1は覆土上位から最上位にかけての遺物が接合した。多軸絡条体地文。3は覆土上位の遺物が接合した。多軸絡条体地文である。

2・4～9は円筒下層d1式新段階。2は覆土最上位で検出された。縄文縦走地文で、口縁部には縄線で直線構成の崩れた菱形文の連続を施す。4は覆土上位出土、点取り№1である。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体と結束第二種羽状縄文により多段の帯。口縁部には波状に近いゆるやかな山形の連続を縄線で施す。5は覆土上位および覆土南側、およびM1-2起源とみられるM1盛土遺物が接合した。台付の鉢である。自縄自巻に結束第二種羽状縄文で多段の帯にする。口縁部には複数の縄線で鋸歯状文を施す。6は覆土上位出土、点取り№7である。単軸絡条体地文と結束第二種羽状縄文により多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。7は覆土上位出土、点取り№1を主体とし、覆土下位のものと接合した。H56覆土最上位遺物とも接合した。M2-2～M2-2下位で62～63R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体回転と結束第一種羽状縄文の組み合わせで多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。8は覆土上位出土で、点取り№3である。自縄自巻地文、口縁部には縄線で直線構成の文様。区画には押し引きが連続する隆帯を持ち直下には結束第一種羽状縄文。大型の深鉢破片。9は覆土上位出土、点取り№3である。M2-2で63-Q～R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走、結束第一種羽状縄文により多段の帯。口縁部には縄線により山形文の連続。7と9は地文に違いはあるが、節のたった細かい原体を密に使うため、雰囲気が似ている。

10・13～17・20は円筒下層d1式古段階。10は覆土上位出土、点取り№5を主体とする。自縄自巻地文。口縁部に縄線と羽状縄文を施す。

13は覆土上位で出土した。13の地文は自縄自巻を縦走。口縁部は縄線を水平方向に平行に施す。14は床面出土、点取り№9を主体とする。大型の深鉢破片である。自縄自巻地文。口縁部には水平方向の縄線を押圧し、縦区画を持つ。15～18は円筒下層d1式を擦り切って短冊状の再生土製品を成形しようとしたものである。15は大型破片を擦り切る途中の過程のものである。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。口縁部には縄線による直線構成の文様。16・17は15と同一個体の可能性が高い。18も類似する個体である。20も円筒下層d1式胴部破片の縁辺を擦り切って円形の再生土製品を作ろうとした可能性がある。18・20は口縁部のない胴部破片であるため、円筒下層d1式に分類している。

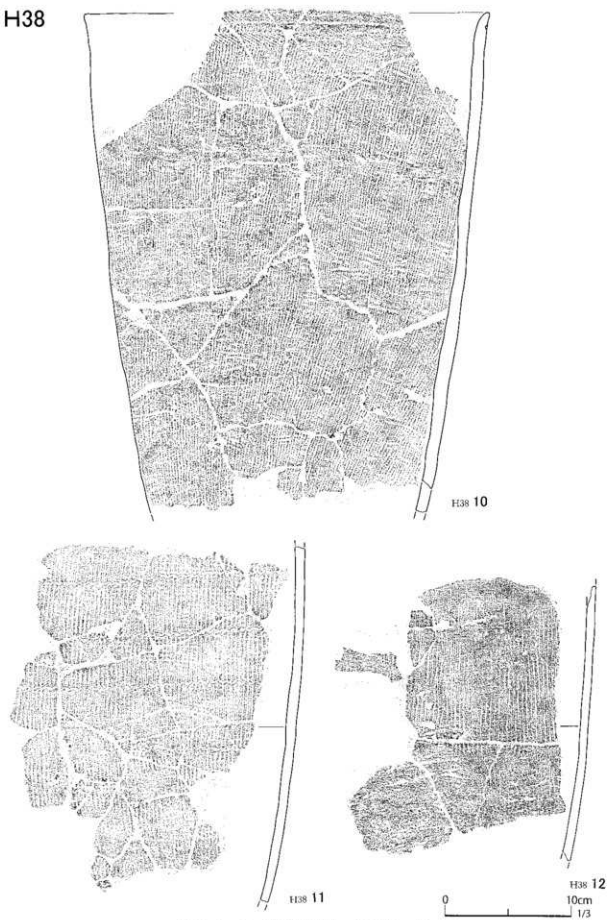
11・12は円筒下層d1式。11は覆土上位出土で、点取り№6である。12は覆土上位出土で、点取り№4である。いずれも自縄自巻地文で、11は結節回転を組み合わせて多段の帯にする。19は円筒下層b式の破片中央に穿孔して再生土製品にしたものである。



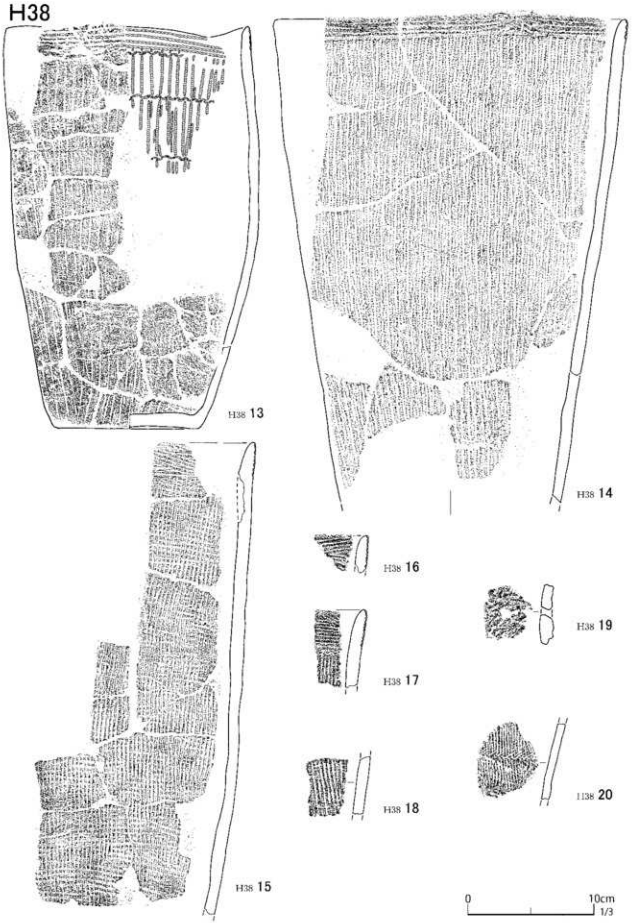
図Ⅲ－2－38　遺構出土土器　H38(1～5)

H38

図Ⅲ－2－39　遺構出土土器　H38(6～9)



図Ⅲ－2－40　遺構出土土器　H38(10～12)



図Ⅲ－2－41　遺構出土土器　H38(13～20)

H39：H39は円筒下層ｃ式の頃の住居と思われ、円筒下層ｃ式が複数個体復元されている。覆土最下位でのまとまり№40（64）、№41（63）が床面出土に近い状況である。42・47が覆土上位から下位にかけて出土した破片が接合あるいは同一個体と思われた。この二個体はむしろ上位のものが多いことから、この家は円筒下層ｃ式の時期に掘り込まれて廃絶した可能性を考えた。42や覆土上位から出土した43（覆土上位№19）の方が古いことになる。流入と考える。覆土下位主体に出土した円筒下層ｄ1式新段階はこの住居の廃絶直後のまとまりと考える。

出土する円筒下層ｄ1式新段階についてはで口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層ｄ2式により近い時期である。これらと円筒下層ｄ2式が出土する。

円筒下層ｄ2式が復元個体では2・3・7・11・15～18・20～26・28・29・55・56他に1・4・5・9・12～14・30。円筒下層ｄ1式新段階ｄ2式への過渡期段が復元個体では19・27・31・32・34・35他に6。円筒下層ｄ1式新段階が復元個体では33・41・49～53、他に40。円筒下層ｄ1式最古段階の範疇のものとして46・60。円筒下層ｄ1式の範疇のものとして36～39・54。円筒下層ｄ式の範疇のものとして8。円筒下層ｃ式が復元個体では42・43・63～65他に44・45・47・57～59・61・62。円筒下層式期のものは10の焼成粘土塊である。

円筒下層ｄ1式土器53について、H21覆土7層中央出土遺物がH39出土遺物と接合した。H39は覆土上位から下位にかけての接合である。

1は覆土最上部点取り№22である。同一個体だが、磨滅が著しく復元に至らなかった。多軸絡条体地文。口縁部には縄線で直線構成の文様。

2は覆土2層直下出土遺物を中心に覆土7最上位、上位の遺物が接合した。また覆土下位東側に遺物とも接合した。覆土2層直下の遺物は主に覆土上位の遺物と接合するが、下位については東側のものと接合、あるいは共通するものがある。今回も覆土東側下位の遺物と接合した。肩部に押し引きを連続。縄線により直線構成の文様か。口唇部欠損。単軸絡条体地文。

3は覆土最上部出土、点取り№22を主体として、主に覆土最上位の遺物が接合した。円筒下層ｄ2式である。肩部に円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部に短い縄線の連続による円筒下層ｄ1式新段階風の施文。

4は覆土最上位の遺物が接合した。類似するものは覆土南側および住居と同調査区のＭ2－2から出土している。単軸絡条体第4類による地文。

5はH39覆土上位遺物を中心に接合したものである。同一個体の可能性のあるものは周辺のＭ2盛土やH62からも出土している。Ｍ2起源のＭ1出土遺物とも接合した。円筒下層ｄ2式である。波頂部に対応する四つの刺突が特徴的である。

6は覆土上位から、点取り№18である。同一個体と思われる破片は覆土最上位からも出土している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部には縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

7は覆土上位、点取り№7が主体となって接合した。円筒下層ｄ2式である。サルボウ条痕横走施文後、単軸絡条体地文。口縁部には複節の縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

8は再生土製品である。8は覆土上位から出土した円筒下層ｄ2式である。多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を円形に成形したものである。

9は覆土上位出土点取り№8である。口径の割に口縁部文様帯の幅が狭く、口縁部文様帯直下に結節の回転が見られる事から古段階のものと考える。縄線を二つ折りにして曲面を対向させる。

10は焼成粘土塊である。点取り№13に混在していた。№13は覆土上位は掲載番号32の土器復元の主となった点取り遺物である。繊維・砂粒を含むため円筒下層式土器の胎土が焼けたものと考える。

11・12は覆土上位、点取り№2である。11は矢羽縄線によって平行線文様を施文。多軸絡条体地文。12は覆土上位から出土した円筒下層d2式の底部である。

13は住居北側のトレンチでまとまっていたものがM2, 62T区からの出土遺物と接合した。同一個体の可能性があるものは覆土上位、覆土1層から出土している。

14は覆土上位、点取り№6である。15は覆土上位、点取り№5である。円筒下層d2式の底部である。多軸絡条体地文で上げ底である。

16は覆土上位出土遺物が接合した。点取り№16を主体とする。口縁部文様には縄線により山形文、連続する縄線で充填する。所々結束第一種羽状縄文施文で多段の帯。

17は覆土最上部出土、点取り№23である。口縁部文様は縄線により菱形基調の文様を連続して施す。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

18は覆土上位、点取り№3である。ほかにM1の遺物が接合した。多軸絡条体地文。肩部に半截竹管によるC字形刺突を連続。口縁部文様には2本一組の縄線で直線構成の文様。

19は覆土上位の遺物および東側覆土下位の遺物が接合した。覆土上位の点取り№17・№18・№21が接合している。口縁には縄線によって鋸歯状文、間隙を波状文や縄線押圧の連続で充填する。自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

20は覆土2層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕施文後、自縄自巻を縦走。口縁部には菱形基調の文様。

21は覆土上位出土、点取り№16を主体として接合した。口縁部には縄線によって山形文を鋸歯状に連続。多軸絡条体地文。

22は覆土上位、点取り№1である。縄線によって山形ないしは菱形文を連続。単軸絡条体地文。

23は覆土上位、点取り№11である。口縁部には縄線を平行に走らせる。多軸絡条体地文。

24は覆土上位、点取り№9と№10が接合、復元の主となる。口縁部には縄線を平行させる。区画となる肩部にはC字状の圧痕を連続する。木目状撚糸地文である。

25は覆土上位出土点取り№12を主体として接合した。口縁部には絡条体側面圧痕で山形文を推定四単位で施す。多軸絡条体地文。

26は覆土2層直下から出土、点取り№25である。縄線で山形文を推定四単位で施す。単軸絡条体地文。

27は覆土上位、点取り№14を主体とする。他に覆土下位、点取り№26、および覆土2層直下のものが接合した。口縁部には縄線で波状文を施し、間隙には複数の縄線押圧で充填する。サルボウ条痕施文後、自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

28は覆土上位から最上位にかけての遺物を主体に接合した。点取り№24を含む。口縁部から底部にかけて、磨滅して不明瞭だが、条痕施文後、木目状撚糸文地文を施す。胎土と器壁の厚さから円筒下層d2式とした。

29は覆土上位でまとまっていた。多軸絡条体地文施文後、サルボウ条痕横走。地文および胎土から、円筒下層d2式の小型深鉢とした。

31は覆土北側上位出土遺物である。点取り№12が接合した。円筒下層d2式胴部下半である。自縄自巻と結束第二種羽状縄文によって多段の帯。30としたのは同時に出土した口縁部破片である。地文の撚りの向き等から判断して別個体であるが、同時期の可能性が高い。32は覆土上位、点取り№13を主体として接合した。覆土2層直下、覆土下位の遺物も接合している。円筒下層d2式である。口縁部には縄線によって山形文の連続。多軸絡条体地文。33は覆土上位、点取り№20である。自縄

自巻地文の胴部下半分である。円筒下層ｄ1式新段階に相当するものと考える。34は覆土２層直下の遺物を主体として、60Ｒ区のＭ２−２と接合した。口縁部は縄線押圧の連続で２ないし３段の押圧列を形成する。地文は単軸絡条体と２段の結節回転の組み合わせで多段の帯にする。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層ｄ2式を思わせる。文様と口径に対して長い胴部により古い要素を持つ。35は覆土２層直下、Ｍ３的な土層であるが、この遺物を主体として、覆土上位遺物が接合したものである。口縁部は縄線により山形文を連続する。胴部はサルボウ条痕施文後、自縄自巻地文。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層ｄ2式を思わせる。文様により古い要素を持つ。

36〜39は円筒下層ｄ1式の胴部破片を短冊状に擦り切ったもの、あるいはその残片である。36〜38は短冊形である。36・37は覆土南側から出土している。39は覆土１層から出土している。38は覆土上位から出土している。

40は覆土上位、点取り№13である。磨滅した円筒下層ｄ1式である。口縁部には縄線によって鋸歯状文が施される。所々に縦区画として円形刺突があしらわれる。絡条体地文と結束第二種羽状縄文で多段の帯。41は覆土２層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕横走後、自縄自巻施文。円筒下層ｄ1式新段階の胴下半部である。42は覆土上位の遺物を主体として接合した。点取り№24を含む。ただし接合状況をみると、覆土上位〜下位また平面的にも広い範囲の遺物が接合した。口縁部にはサルボウ条痕を横走、縄文地文。43は覆土上位、点取り№19である。口縁部には矢羽縄線を水平方向に密に施文する。円形刺突を押し引く隆帯により区画。合撚を縦走する地文。円筒下層ｃ式新段階である。

44は覆土南側から出土した。口縁部には反撚り縄線と縄文を施す。45は覆土南側から出土している。円筒下層ｃ式でも古手のものである。口縁部は縄文施文、区画は縄線、地文は単軸絡条体。

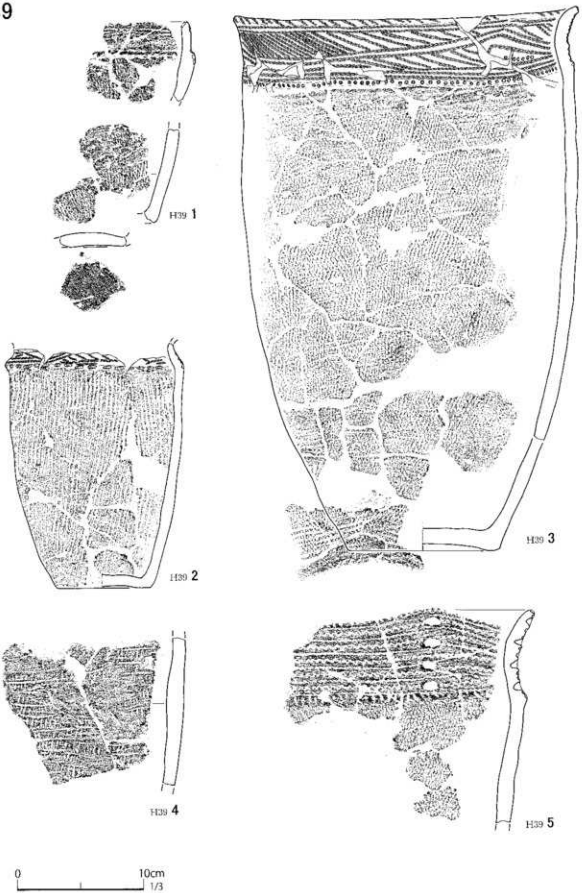
46は覆土上位の点取り№17・18・21が接合した。口縁部文様は磨滅によって不明瞭。自縄自巻と結節回転の組み合わせで多段の帯。円筒下層ｄ1式だが、器形と口縁部文様帯の幅から円筒下層ｃ式に近い土器と考える。47は覆土上位出土点取り№24である。類する破片は覆土の東側を中心に上位、下位の差なく出土した。このような時期に竪穴住居が掘り込まれた可能性がある。口縁部には直前段反撚り縄文、地文は単軸絡条体地文。48は覆土上位出土遺物が接合した。中には点取り№15が混じる。縄線で鋸歯状文を描く。サルボウ条痕施文後、単軸絡条体地文。

49は覆土下位出土、点取り№35である。口縁部には縄線で菱形文様の連続。地文には自縄自巻地文。区画には押し引き気味の刺突列を持つ隆帯。台付きの鉢である。50は覆土下位出土点取り№31である。縄線により山形文の連続。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

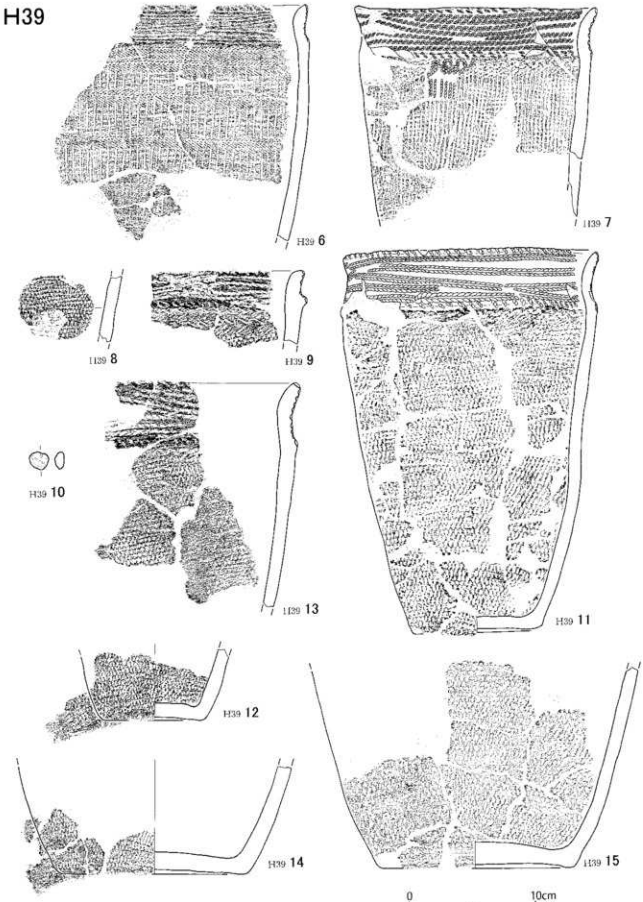
51は覆土中位出土、点取り№32である。口縁部には縄線で波状文。サルボウ条痕を横走後、自縄自巻を縦走。

52は覆土下位出土、点取り№26である。口縁部には結束第一種羽状縄文と縄線で施文。サルボウ条痕施文後、自縄自巻。53は覆土下位出土遺物、特に点取り№33を主体とし、覆土上位〜下位にかけての遺物が出土した。H21の覆土７層上面の遺物１点とも接合している。縄線押圧を矢羽状に並べ、対向させる。区画は押し引きによる二列の刺突列。自縄自巻地文。54は覆土下位出土であり、覆土下位出土の点取り№42が同一個体と考えられる。単軸絡条体地文の底部。55は覆土下位出土、点取り№28を主体とし、№37の２点と接合した。自縄自巻地文の底部。56は覆土下位出土、点取り№39を主体とする。口縁部に結節回転と縄線を施す。二種類の直前段反撚り縄文による地文。57は覆土下位出土で点取り№30である。単軸絡条体回転および結束第一種羽状縄文回転をくみあわせたものを口縁部および胴部地文に施す。隆帯上には押し引きを連続する。胎土と器壁から、円筒下層ｃ式

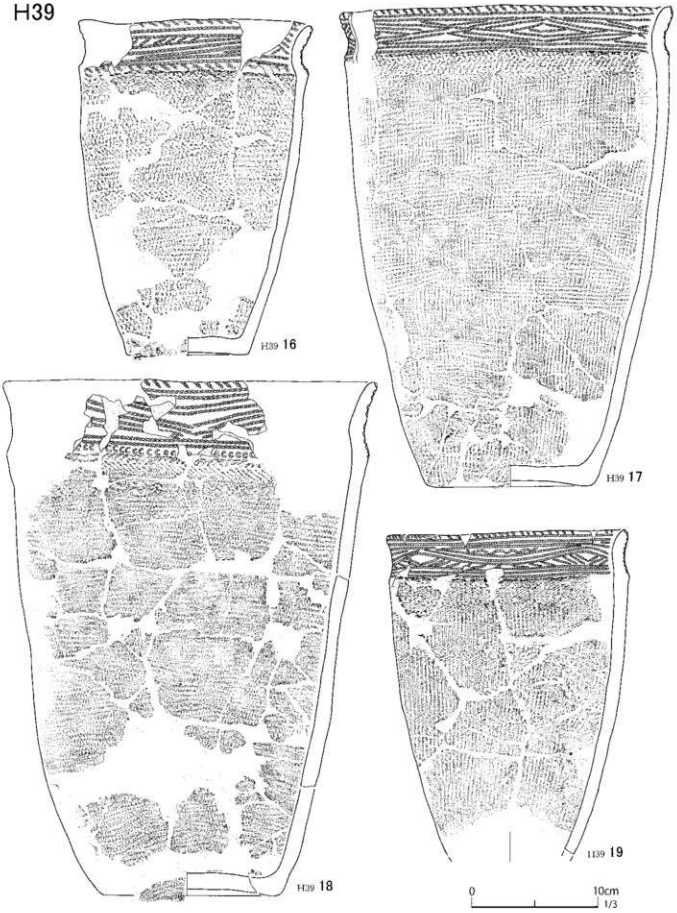
H39



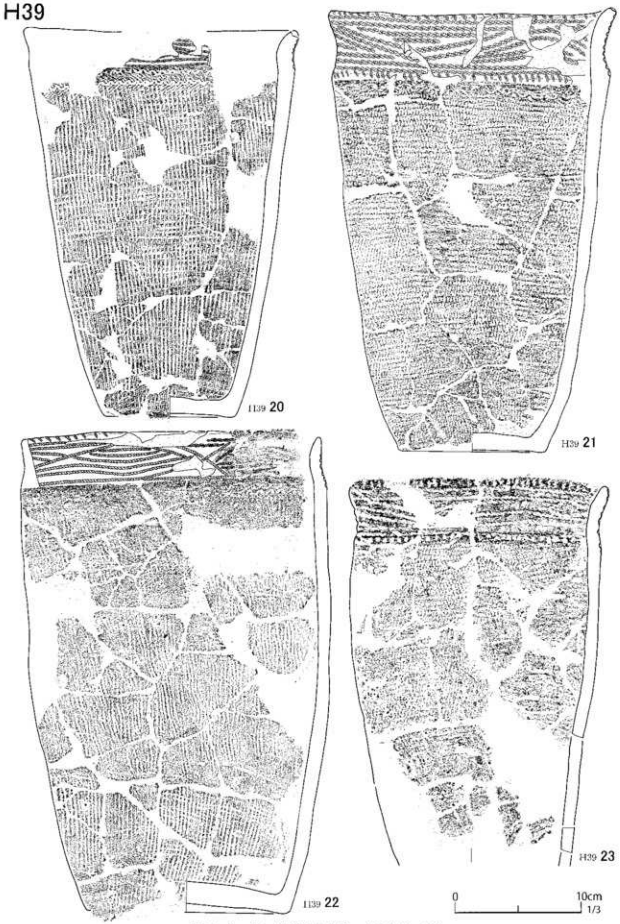
図Ⅲ－2－42　遺構出土土器　H39(1～5)



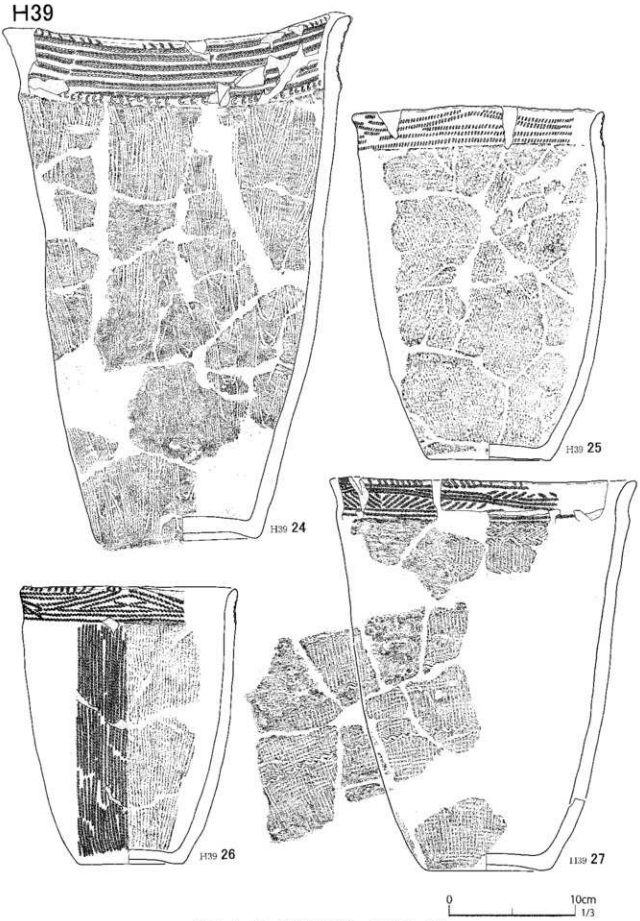
図Ⅲ－2－43　遺構出土土器　H39(6～15)



図Ⅲ－2－44　遺構出土土器　H39(16～19)

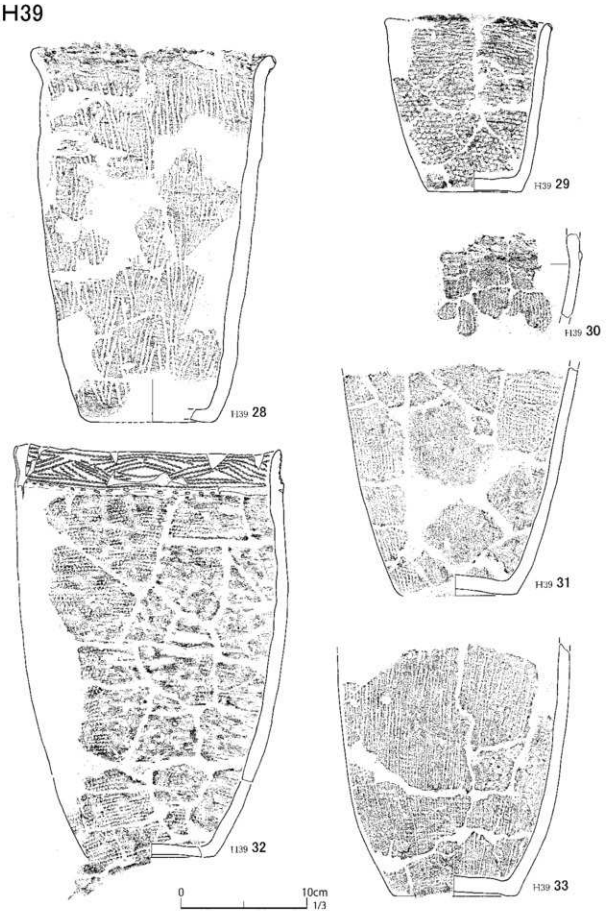


図Ⅲ－2－45　遺構出土土器　H39(20～23)

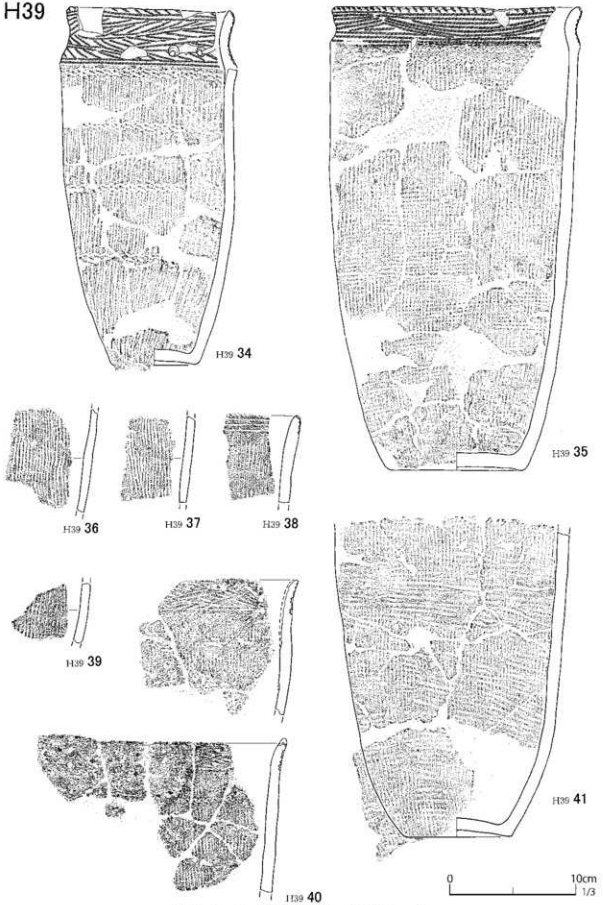


図Ⅲ－2－46　遺構出土土器　H39(24～27)

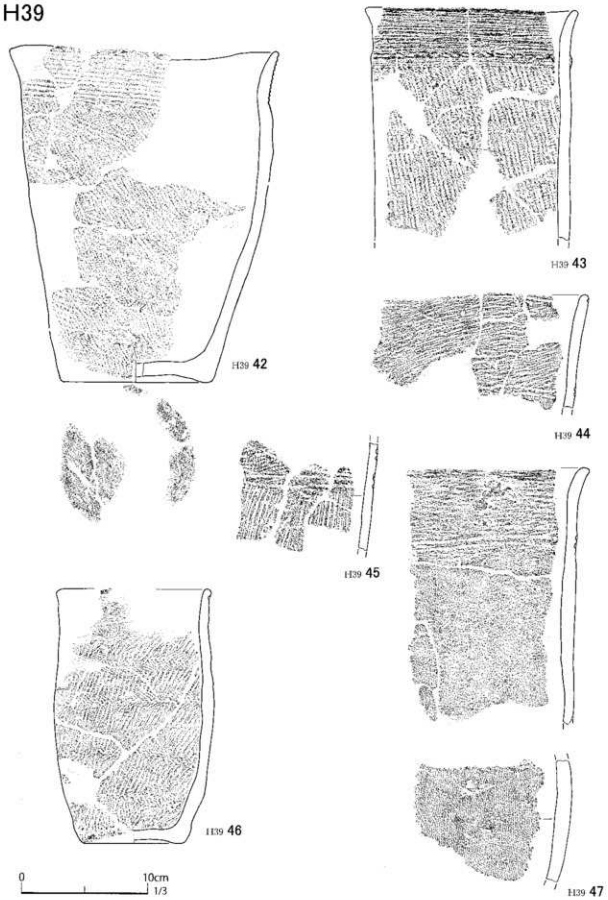
H39



図Ⅲ－2－47　遺構出土土器　H39(28～33)

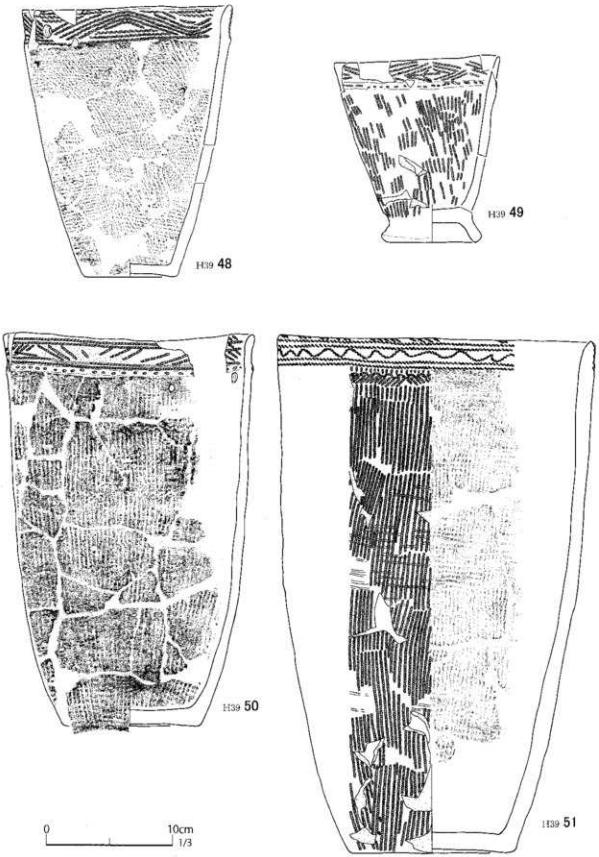


図Ⅲ－2－48　遺構出土土器　H39(34～41)



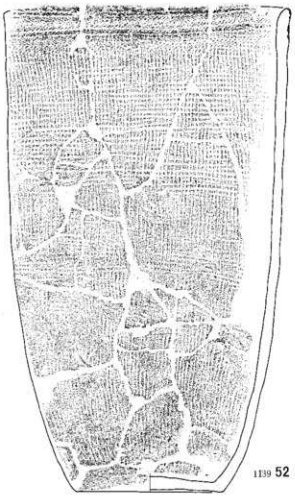
図Ⅲ－2－49　遺構出土土器　H39(42～47)

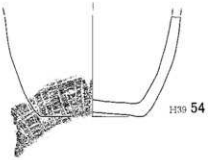
H39



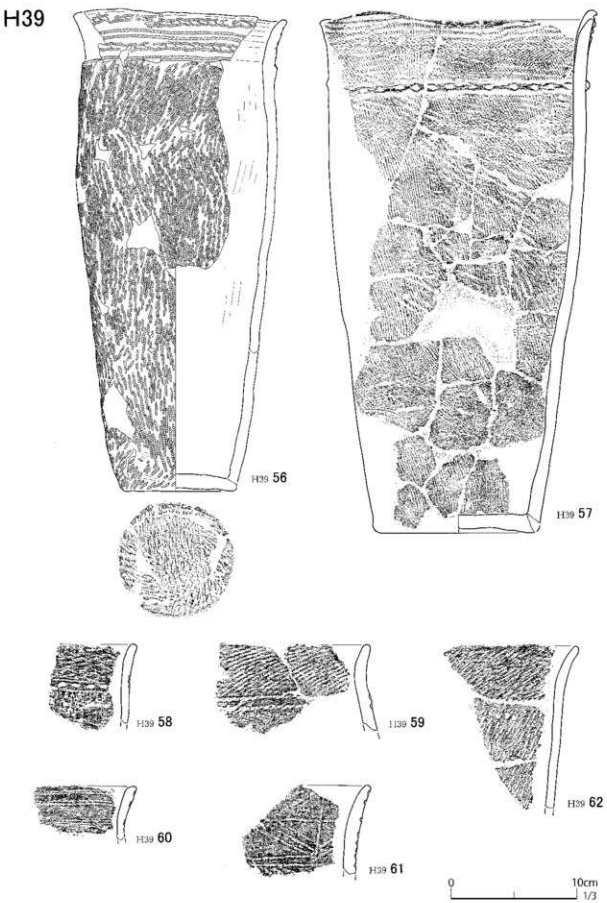
図Ⅲ－2－50　遺構出土土器　H39(48～51)

H39





図Ⅲ－2－51　遺構出土土器　H39(52～55)



図Ⅲ－2－52　遺構出土土器　H39(56～62)

と考える。文様要素として連続刺突を持つ隆帯が円筒下層ｂ２式的、そして地文の組み合わせが円筒下層ｄ１式的である。

58～62は円筒下層ｃ式である。58・60・61は覆土東側から、59は覆土下位から、62は覆土上位から出土した。61は絡条体側面圧痕により文様の正中線が波頂部に対応していると思われる菱形文様を口縁部に施す。58は結節回転文を口縁部文様帯に持つ。60は２本一組の縄線で無文時地の口縁部に文様を描く。円筒下層ｄ１式に近い文様である。62は直前段反撚り地文の土器である。接合破片に点取り№18を含むまた類似した破片が覆土下位東側からも出土している。59は内弯する口縁部形態と縄文地文の口縁部文様帯、二本の縄線による区画。58もその古い文様要素から円筒下層ｂ２式段階まで下る可能性もある。

63は覆土下位出土、点取り№40を主体とする。脇の№41のうち２点とも接合した。口縁部は反撚り縄文横走、胴部は反撚り縄文縦走。肩部には縄線が２本施される。64は覆土下位出土、点取り№41である。口縁部には反撚り縄文を横走、胴部には反撚り縄文を縦走。口縁部には結束第一種羽状縄文の原体と思われる縄線を押圧する。

65は大きくは覆土下位の点取り№42と№38が接合した。そこに覆土下位出土遺物が散点的に接合した。結束第一種羽状縄文により口縁部を施文する。単軸絡条体地文である。

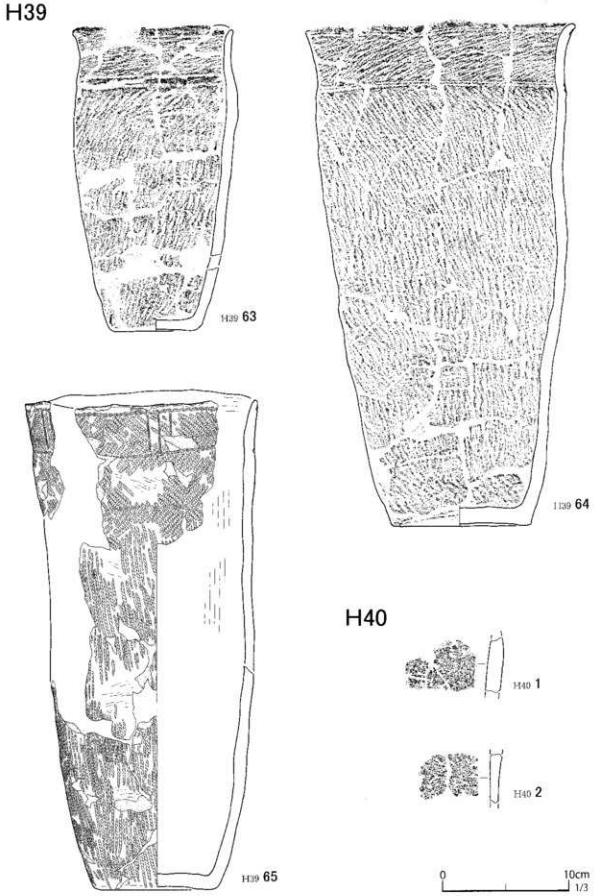
H40：磨滅した土器のみ出土。胎土、器壁の厚さから、いずれも円筒下層ｂ１式あるいはその直後の円筒下層ｂ式の古手のものと考える。１は覆土１層と覆土２層の遺物が接合した。２は床面出土である。点取り№３である。いずれも調整等は不明である。胎土に繊維・砂・海面骨針を含む。

H41：１～７は復元個体である。１・３～６はベルト覆土上位からの出土である。２はトレンチから、７はベルト覆土下位からの出土である。１～３・５・７は円筒下層ｂ２式の範疇と考える。４・６は円筒下層ｂ２～ｃ式と考える。

１・２は単軸絡条体地文。１の口縁は斜行、胴部は縦回転。２の口縁は横走、胴部は縦走。１は外反する口縁部とすぼまる底部を持つ。２は筒状の深鉢。３の口縁は単軸絡条体第４類横回転、多軸絡条体地文。肩部から若干窄まる口縁部形態を持つ。器形と地文から、円筒下層ｂ２式でも新段階に近い要素を持つ。４の口縁部には二種類の縄線を施し、隆帯上にはヘラによる連続刺突を施す。単軸絡条体地文である。底部から口縁部にかけてよく外反する器形である。５は１に類似した器形である。口縁部に結束第一種羽状縄文を施し、胴部には単軸絡条体地文を持つ。６は複節の縄線を４段施し、単軸絡条体地文を持つ。隆帯上には円形刺突が連続する。竹管によるものか、所々Ｃ字状の押圧になっている。７は口縁部に単軸絡条体第５類横回転、胴部には単軸絡条体地文を施す。底部から外反して口縁部に至るが、４よりは筒状に近い。

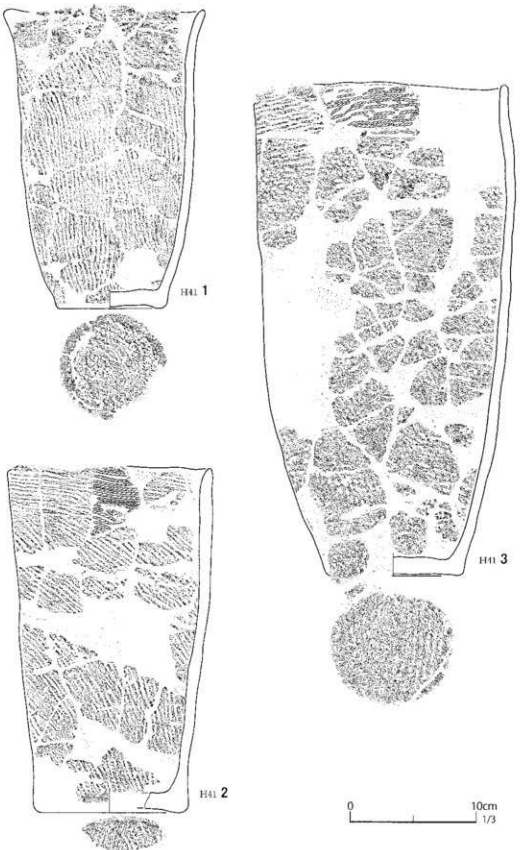
８・10～12はトレンチからまとまって出土した。９は覆土南側とベルト覆土下位から出土したものが接合した。８は単軸絡条体地文で口縁は横方向、胴部は縦方向である。９の口縁部は縄文施文、区画の隆帯には円形刺突が連続。単軸絡条体地文。10の口縁部は結節回転と絡条体側面圧痕による。地文は単軸絡条体第５類回転。11・12は絡条体地文の底部。11は縦回転に近い斜行。12は縦回転および底面際に横回転の帯。いずれも円筒下層ｂ２式である。９は新段階。トレンチやベルトなど住居覆土の堆積中央に近いところにまとまっていた。廃絶後の竪穴住居の凹みに廃棄したものと考える。

13はニシンの椎骨が原体と思われる、魚骨回転文のついた縄文時代早期の土器である。東釧路Ⅳ式とした。トレンチからの出土で盛土以前のものが掘りあがったものと考える。



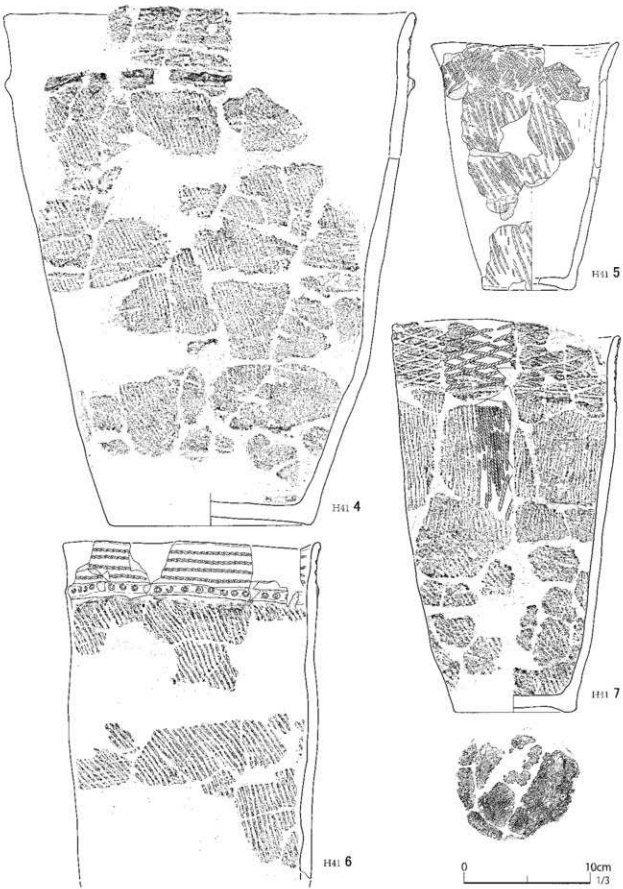
図Ⅲ－2－53　遺構出土土器　H39(63～65)・H40(1・2)

H41

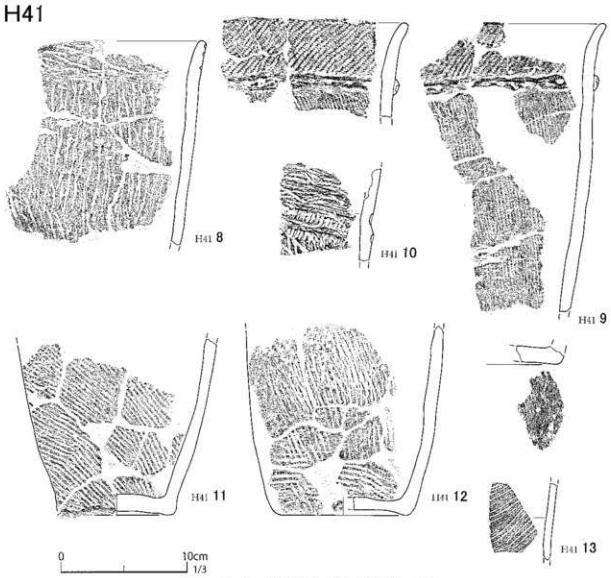


図Ⅲ－2－54　遺構出土土器　H41 (1～3)

H41



図Ⅲ－2－55　遺構出土土器　H41 (4～7)



図Ⅲ－2－56　遺構出土土器　H41(8～13)

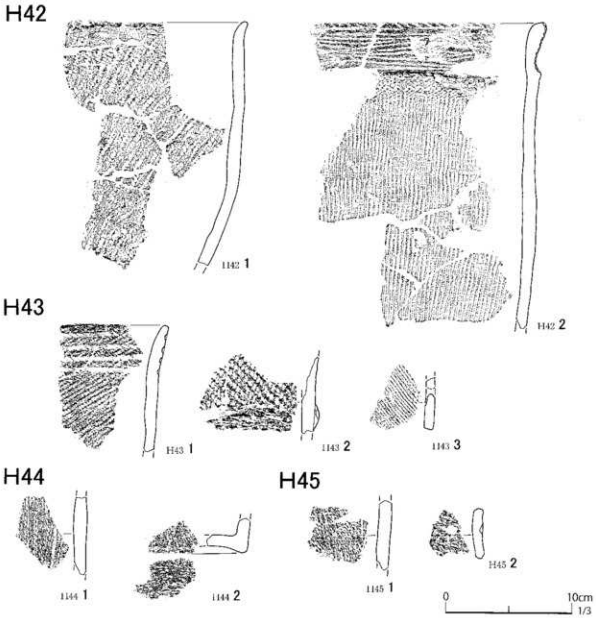
H42：覆土から円筒下層ｂ式と円筒下層ｄ2式の破片が出土している。大型の土器破片を点取りした。№1～3は円筒下層ｄ2式で、覆土下半の覆土2層から出土している。№7は円筒下層ｂ2式で、床面より上の黒色土、覆土4層から出土する。

1は覆土4層出土で点取り№7と覆土出土のものが接合した。円筒下層ｂ2式である。

2は覆土2層出土点取り№1～3と覆土出土点取り№8が接合したものである。円筒下層ｄ2式である。住居廃絶の後の廃棄である。

H43：1は覆土2層から出土した。口縁部には複数の縄線、そして縄文地文。円筒下層ｂ2～ｃ式である。2は覆土1層から出土した。口縁部には縄文。区画には隆帯。円筒下層ｂ式である。

3は床面から出土した円筒下層ｂ2式である。点取り№6である。単軸絡条体地文の胴部破片の縁辺をほぼ円形に打ち欠き、中央に穿孔する。



図Ⅲ－2－57　遺構出土土器　H42(1・2)・H43(1～3)・H44(1・2)・H45(1・2)

H44：覆土および床面から円筒下層ｂ式が出土する。床面遺物からのみ抽出した。

1と2は床面出土、1は点取り№25、絡条体回転地文。2は点取り№16、縄文地文で底部破片。いずれも磨滅著しいが、胎土、地文などから円筒下層ｂ式の範疇と考える。

H45：覆土、周溝、炉から磨滅した円筒下層ｂ式が出土する。同一個体のまとまりは無い。

1は周溝覆土1層出土、点取り№11である。絡条体地文。2はHF－1覆土2層出土、点取り№18である。磨滅が著しく、穿孔途中らしき痕跡があるが判然としない。再生土製品の可能性もある。いずれも円筒下層ｂ式の範疇である。

H46：覆土でまとまっていた点取り番号№14とM4並行の覆土上部からまとまって出土した土器片群（遺物番号31）が1である。円筒下層ｂ2～ｃ式である。同じく№14に混在していた土器片と覆土出土の土器片が接合して2となった。1・2共にかなり近い時期と考える。いずれも円筒下層ｂ2～ｃ式段階とするのが妥当と判断した。

3は覆土壁際出土遺物と覆土下位出土遺物が接合した。単軸絡条体回転地文。指頭圧痕により口縁部を区画。円筒下層ｂ2～ｃ式と考える。

4・5は覆土出土遺物と住居が立地する調査区の盛土出土遺物と接合した。4はM4－3, 61T区、5はM4－3, 61S区出土遺物である。4は縄文地文で隆帯が口縁部を区画する。5は単軸絡条体第5類地文である。6はHP－7出土遺物と覆土壁際、覆土下位出土遺物が接合した。複節縄文が縦走する。7は床面出土、点取り№3と№7が接合した。単軸絡条体地文である。8は覆土上位遺物である。絡条体回転地文。縁辺に成形の可能性がある。再生土製品と考える。9はHP－5覆土出土遺物である。縄文地文の底部破片である。7が床面、9が付属遺構HP－5出土。4～9は円筒下層ｂ2式の範疇である。

H47：覆土から円筒下層ｂ式が出土している。円筒下層ｂ1式から円筒下層ｂ2式古段階の流入と考える。1・2は覆土から出土した。1は口縁部に結節回転を施文。2は縄文地文。

H48：覆土から円筒下層ｂ式が出土している。特に円筒下層ｂ2式の破片が目立つ。同一個体のまとまりは無い。床面のものと付属遺構HP－2出土のものを抽出した。1は床面から出土した。点取り№1である。合撚りか。2はHP－2の覆土から出土した。結束回転か。いずれも不明瞭である。円筒下層ｂ1式か円筒下層ｂ2式古段階である。

H49：覆土から磨滅した円筒下層ｂ式から下層ｃ式と思われる土器破片が出土する。1は覆土1層出土、複節縄文を地文とする。円筒下層ｂ式とした。

H50：覆土から円筒下層ｂ式土器が出土する。いずれも磨滅しており同一個体のまとまりは無い。1は覆土出土、縄文地文である。円筒下層ｂ式である。

H51：円筒下層ｂ式から円筒下層ｃ式までが出土する。床面からは円筒下層ｂ式のみが出土する。覆土から円筒下層ｃ式の同一個体がまとまっていたが、復元には至らなかった。円筒下層ｂ式の同一個体のまとまりは無かった。

1・3～5は円筒下層ｃ式とした。1・3は覆土西側、4・5はベルト部分の覆土である。

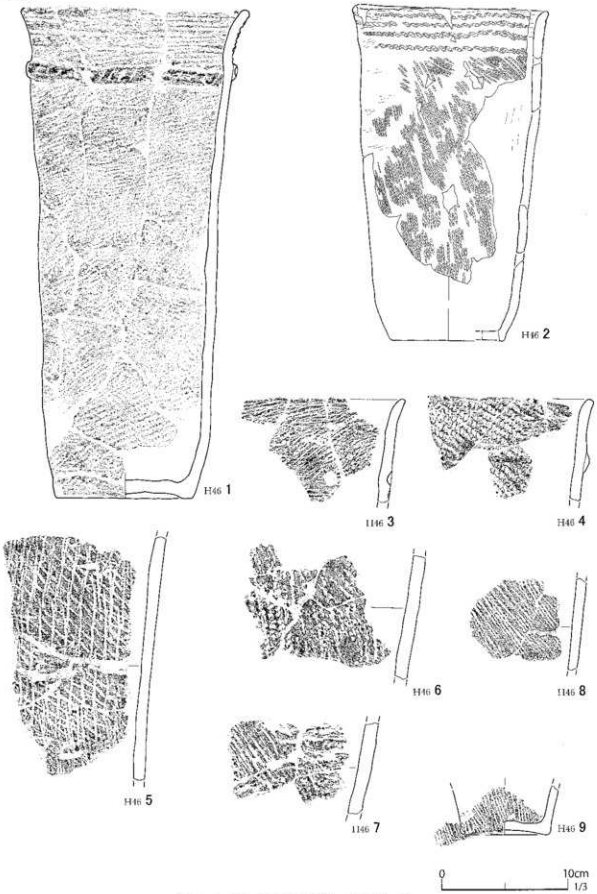
は絡条体側面圧痕による口縁部文様、直前段反撚り地文。3の口縁部は直前段反撚り地文を横走、胴部は縦走、間に結束第一種羽状縄文を帯状に施す。口縁部には縦区画として結束第一種羽状縄文、および縄線縦に押圧する。円筒下層ｄ1式に近いが口縁部文様帯の幅広さからｃ式とした。4は口縁部に縄線を押圧し、縄文地文。5は直前段反撚り地文。口縁に屈曲を持つ。

2は覆土東側出土。口縁部は単軸絡条体第4類横回転である。隆帯上には円形刺突が連続する。直前段反撚りＲＲＬ縄文地文。口縁部と隆帯に古い要素があるものとし、円筒下層ｂ2～ｃ式とした。

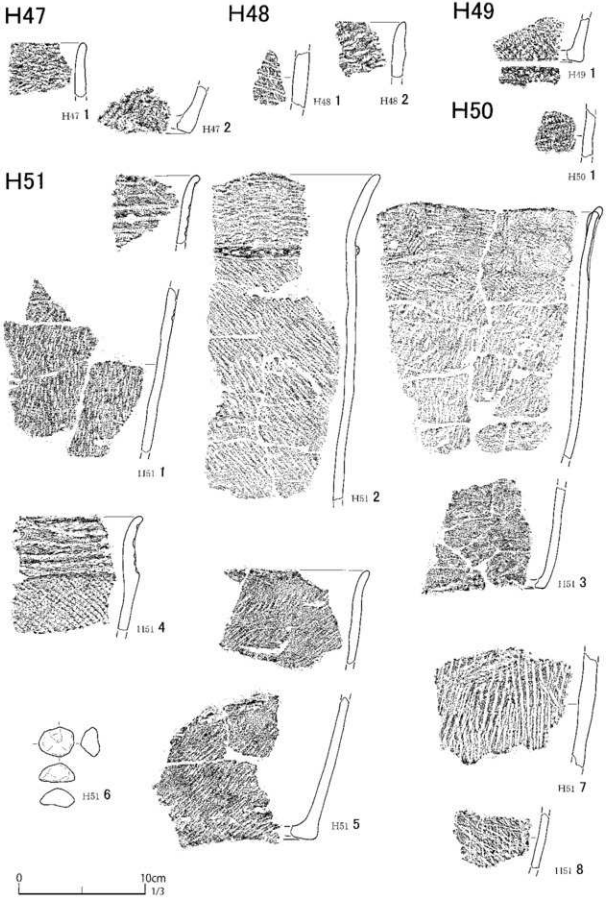
6は覆土西側出土、焼成粘土塊である。繊維を含む。

7・8は円筒下層ｂ2式の胴部破片と考える。7は床面出土、点取り№13である。単軸絡条体地文である。8はHP－5覆土から出土した。単軸絡条体による網目状地文である。

H46



図Ⅲ－2－58　遺構出土土器　H46(1～9)



図Ⅲ－2－59　遺構出土土器　H47(1・2)・H48(1・2)・H49(1)・H50(1)・H51(1～8)

H52：円筒下ｄ1式古段階である1が一個体分として復元できた。覆土1層と2層から出土した土器が接合した。覆土および床面から円筒下層ｂ式から円筒下層ｃ式のころと思われる破片が出土している。1は円筒下層ｄ1式古段階である。ゆるやかな五単位の波頂部を持つ。全体に直前段反撚り地文を施した後、口縁部に、結束第一種羽状縄文を帯状に2段施す。地文から円筒下層ｃ式に近い段階のものと考える。2は覆土1層から出土した。円筒下層ｄ1式のまとまりに混在していた。口縁部には水平方向に複数段縄線が施される。単軸絡条体地文。文様構成から円筒下層ｃ式と考える。口縁部文様帯の幅、および器壁の薄さ等は円筒下層ｄ1式古段階に近い。

H53：HF－1覆土2層出土の点取り土器については円筒下層ｂ式から下層ｃ式と思われる土器砕片である。覆土からも下層ｂ式から下層ｃ式にかけての土器片が流入している。円筒下層ｂ式が主体であり、円筒下層ｃ式の可能性があるものについても円筒下層ｂ2式に近い古手のものである。

1～3は覆土1層から出土した。1・2は円筒下層ｂ式、3は縄文時代早期の土器である。1は円筒下層ｂ2式の底部である。単軸絡条体地文である。2は口縁部に隆帯を持つ。その上下に結節回転文を施す。単軸絡条体地文である。円筒下層ｂ2式で古い要素を持つものと考える。3は縄文時代早期後半、コッタロ式相当の土器と考える。紐圧痕の連続、あるいは撚りの向きが異なる二種類の縄文を器面に施し、微隆起線を持つ。

H54：床面、覆土いずれからも円筒下層ｂ式の砕片が出土している。

1・2は覆土2層出土である。いずれも縄文地文が縦走する。隆帯上には連続刺突がある。胎土の粗さから円筒下層ｂ1式の可能性がある。3は床面出土である。絡条体地文である。円筒下層ｂ2式で、胎土の粗さから古段階の可能性がある。

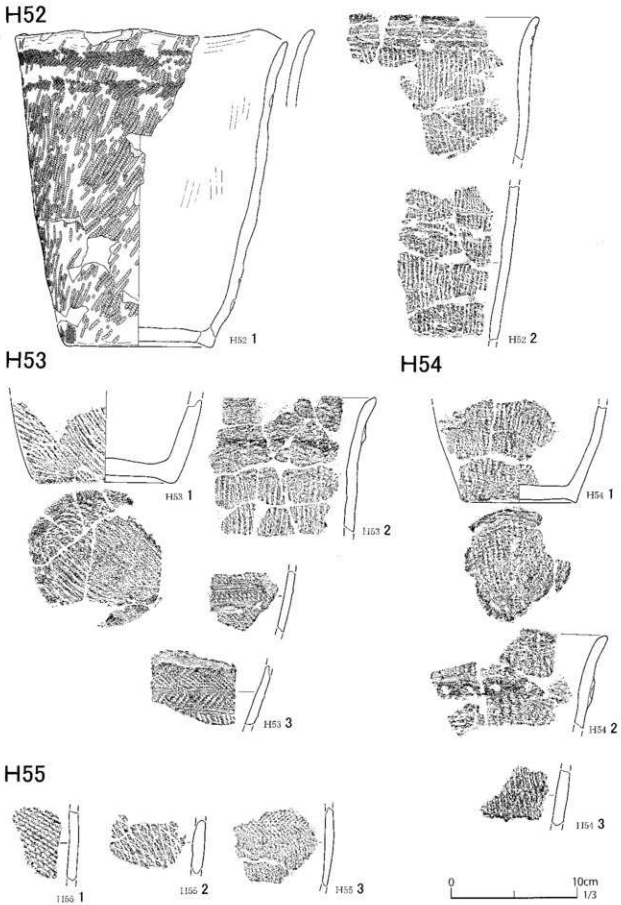
H55：覆土から円筒下層ｂ式から円筒下層ｄ1式にかけての砕片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

1～3は覆土1層から出土、点取り№16である。1は円筒下層ｂ2式新段階である。多軸絡条体地文である。2は円筒下層ｂ式である。単軸絡条体第5類、網目状地文である。3は円筒下層ｄ1式である。単軸絡条体地文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。

H56：覆土最上部に円筒下層ｃ式がまとまって廃棄されていた。1～3・6の四個体が復元可能であった。床面近くで、底部が欠損した円筒下層ｂ式の新段階のものが出土している。

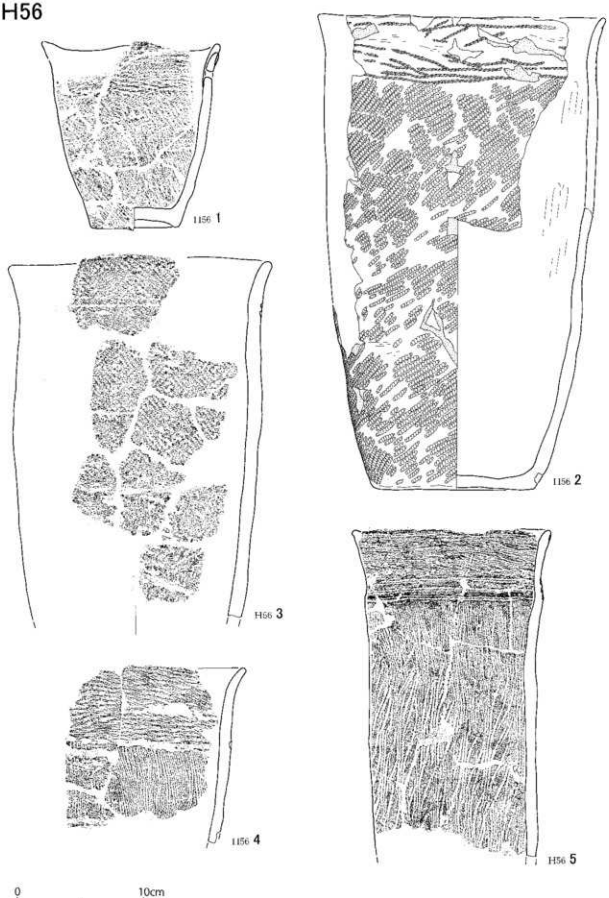
最上部は円筒下層ｄ1式が出土している。復元個体としてH38－7がある。これにH56覆土最上部遺物が1点出土している。

1は覆土最上位出土、点取り№1である。口縁部には直前段反撚り縄文横走。区画には結束第一種羽状縄文、地文は直前段反撚り縄文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部文様帯の幅が広い事と器形から円筒下層ｃ式としたが、文様的には、円筒下層ｄ1式古段階に近い。2は覆土最上位出土、点取り№4である。口縁部には縄線によって菱形基調の文様を施す。地文は斜行縄文。3は覆土最上位出土、点取り№3である。結束第一種羽状縄文横回転を口縁部に施す。粗い胎土の厚手の器壁であるが、口縁部文様帯の下から胴上半部にかけて、羽状縄文を連続して縦回転させる。4は覆土最上位出土である、点取り№3に混在していた口縁部破片である。口縁部には直前段反撚りを横走。胴部には矢羽状の単軸絡条体回転を施す。区画には右に引くような連続刺突。5は覆土下位出土、点取り№



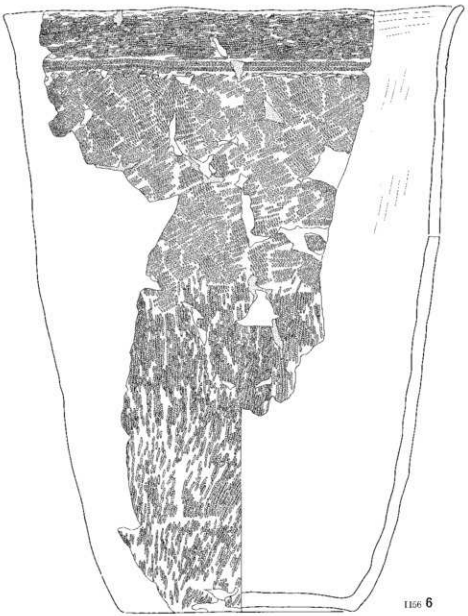
図Ⅲ－2－60　遺構出土土器　H52(1・2)・H53(1～3)・H54(1～3)・H55(1～3)

H56

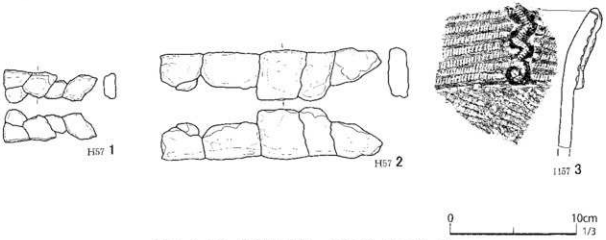


図Ⅲ－2－61　遺構出土土器　H56(1～5)

H56



H57



図Ⅲ－2－62　遺構出土土器　H56(6)・H57(1～3)

5である。住居の切りあい部分から出土したためか底部を見つけることが出来なかった。薄い器壁を持ち、造形が丁寧である。単軸絡条体第１類の原体について巻く間隔を途中から広げることで網目状に類する地文を呈する。口縁部横回転。胴部縦回転。隆帯には２本一組の縄線を三組押圧する。円筒下層ｂ２式で、新段階ないしはｂ２～ｃ式期と考えるが調査範囲内で類例が無い。6は覆土最上位出土、点取りNo.２である。大型の円筒下層ｃ式である。底部の半分ほどはH29覆土北側（H56と切り合う側）から出土遺物と接合。口縁部に直前段反撚り縄文を横走、胴部上半は多軸絡条体、下半は直前段反撚り縄文を縦走。区画には縄線と押し引き気味の刺突列。

H57：付属遺構HP－３から円筒下層ｄ２式の最新ないしは円筒上層ａ式最古段階の深鉢が出土し、覆土下位から中位および周辺包含層の破片が接合、円筒上層ａ式最古段階の浅鉢となった。

1・2は覆土から出土したものである。もとは一塊で、同じ板状の焼成粘土塊であったものである。破損が著しく、それ以上の情報は無かった。接合して図化に耐えうるもののみ図示した。胎土には海綿骨針と繊維を含む。

3は覆土１層と覆土２層そして住居がある85Ｐ区のⅢ層から出土した。円筒上層ａ式である。口縁部文様帯は肥厚し、鋸歯状に垂下する隆帯を持つ。絡条体側面圧痕で加飾する。地文はＬＲ縄文を縦回転。

4は付属遺構HP－３から出土したものである。円筒上層ａ式最古段階のものである。四単位の波頂部を持つ。波頂部は及頭気味で、中央に突起を持つ。頸部より上には縄線が施される。胴部上半はＲＬ縄文、下半はＬＲ縄文地文である。

5と6は覆土から出土したもので、口縁部を持つ土器片の縁辺を擦り切って短冊状に成形したものである。5は円筒下層ｂ式、6は円筒上層ａ式の口縁部から胴部にかけての破片である。6は石斧の正面観を思わせる形状である。

7は覆土下位から出土したものである。把手が三単位の波頂部に対応する。肥厚する口縁部文様帯には縄線で加飾される。ＬＲ縄文地文。円筒上層ａ式最古段階の浅鉢である。

H58：覆土中で視覚的にまとまっていた土器を一括土器①～⑯として取り上げた。まず一括土器それぞれの出土遺物状況・接合状況を述べる。

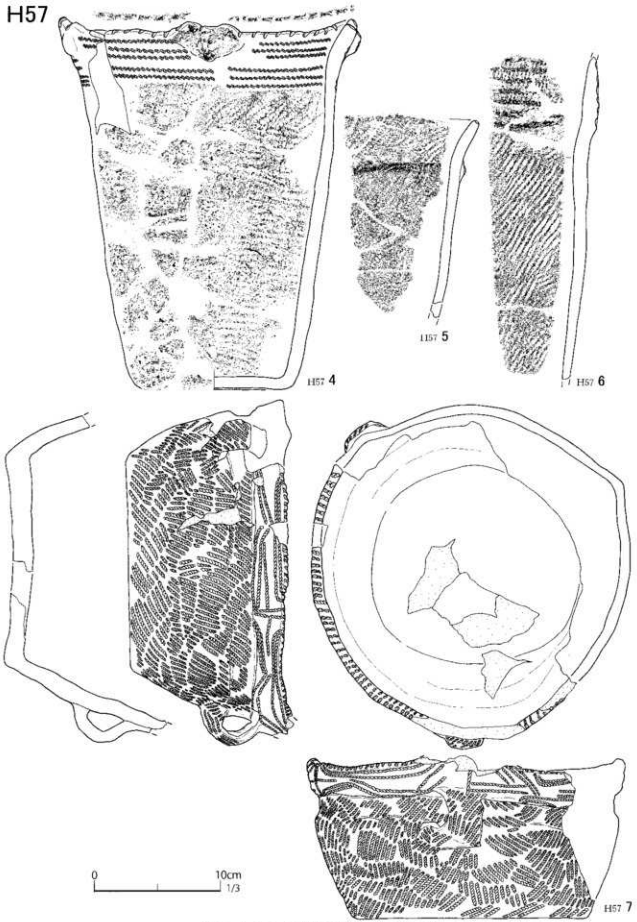
一括土器①は遺物番号125である。円筒上層ａ式の上半分のさらに半身で摩滅が著しく図化出来なかった。

一括土器②は遺物番号124である。サイベ沢Ⅶ式を思わせる、縄文地文に隆帯装飾の少ない円筒上層ａ式の小型深鉢である。23となった。丸く膨らむ胴部と波頂部の中央に円形の貼り付けを持つ。

一括土器③は遺物番号162である。円筒上層ａ式が縦割りでおおよそ半分まとまっていた。底部は無かった。11である。左右非対称の突起を持つ。縄文地文。

一括土器④は遺物番号163である。円筒上層ａ式の上半分のさらに半身が主である。覆土出土遺物（主に遺物番号２）と接合して19となった。波頂部から２本の隆帯を垂下し、口縁部区画の隆帯部分にボタン状の突起を持つ。縄文地文である。もう一つは円筒上層ａ式新段階で、縦半分のみ残存していたが、著しく破砕している。復元不可能であった。またもうひとつは円筒上層ａ式一個体分である。13である。小型の深鉢で、波頂部から８の字形の貼り付けを垂下するように貼り付ける。

一括土器⑤は遺物番号167である。円筒上層ａ式の一個体分である。8である。波頂部から鋸歯状に垂下させた隆帯を持つ。口縁部区画と接する位置でこれを挟み込むようにボタン状貼り付けを二つ



図Ⅲ－2－63　遺構出土土器　H57(4～7)

配する。混在している破片には4と接合したものもある。4は一括土器⑯が主体で、⑬も一部接合した

一括土器⑥は遺物番号238である。円筒上層a式の破片について、大型の深鉢破片は6となった。被熱により、破砕著しい。一括土器⑧が主体である。同一個体であった。もう一つ、円筒上層a式の小型深鉢が復元できた。一部包含層Ⅲ層の遺物が接合した。7である。底部は見つからなかった。

一括土器⑦は遺物番号120である。5になった。一部、覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。隆帯等、粘土紐貼付による飾りの無い地文のみの大型深鉢である。縄文地文。円筒上層a式である。

一括土器⑧は遺物番号165である。6である。被熱による破砕が著しかった。大型の個体。一括土器⑥が一部接合した。線対称ではない装飾を持つ波頂部を持つ。中央にはボタン状貼り付けを持つ。円筒上層a式である。

一括土器⑨は遺物番号237である。円筒上層a式の深鉢を一個体復元できた。9である。線対称の文様構成である。波頂部から垂下した隆帯を口縁部区画部でふたつのボタン状突起で挟み込むようにする。縄文地文。

一括土器⑩は遺物番号235である。主に円筒上層a式新段階一個体分である。1である。出土破片中から一部が12に接合した。1は覆土上部から出土した。一括土器⑩がほとんどで、⑫とⅢ層のものが若干接合した。円筒上層a式最新段階である。1と2は胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かい。円筒上層a式の範疇で周囲より新しい段階とした。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体とする。⑩が2点のみ接合した、円筒上層a式である。当初は口縁部文様が単純なため円筒下層d2式の可能性を考えていたが、下層d2式に平口縁に突起様の波頂部がつくものがない事と全体の縄押圧による文様構成からより新しいと判断した。

一括土器⑪は遺物番号239～240である。円筒上層a式の大型のものが縦半分あった。16として復元した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。一点だけ一括土器⑫が接合した。大型の深鉢で、波頂部は線対称ではない。弯曲した突起を波頂部からの垂線上、口縁部文様帯区画と交差する部分に施す。結束を持つ縄文地文で、波頂部の垂線上に結束部を縦回転、文様を垂下する。掲載番号3に一部が接合した。円筒上層a式である。これは主に⑫が主体である。波頂部から2本の隆帯を平行して垂下させる。口縁部区画の隆帯部分でボタン状に隆起させる。

一括土器⑫は遺物番号232～234である。主体となったものは円筒上層a式のもので平口縁に突起が付く。12である。一括土器⑩と接合した。他に、円筒上層a式古段階の口縁部があったが磨滅著しく図化出来なかった。さらに円筒上層a式最新段階、やや小型の深鉢が一個体混在していた。2とした。1と同様、胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かいため円筒上層b式を考えた。しかし、隆帯文様が横位のレンズ状貼り付け、例えば図Ⅲ－2－78・F82－12の様な円筒上層b～d式特有の施文となっていない。縦区画を基調とする口縁部文様のため、円筒上層a式の範疇で周囲より新しい段階とした。一括土器⑫遺物番号234のうち7点は5と接合した。これは一括土器⑦を主体とする。加えて円上層a式の破片が混在している。これらのうち掲載土器に少量だが接合したものがある。1・3・5・10・16である。1は円筒上層a式最新段階である。覆土上部出土一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。3・5・10・16は円筒上層a式である。3は⑪を主体として⑫が少量接合した。5は⑦を主体として⑫が少量接合した。10は包含層で散点的に出土したものが接合した。そこに⑫が少量接合した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑫が接合した。円筒上層a式である。

一括土器⑬から、四分の一ほど残存する円筒上層ａ式が混在していた。4である。4は⑯が主体であり、ほぼ一個体分がまとまっていた。一括土器⑤と⑬も一部接合した。波頂部正面観の形状は線対称ではない。器壁は厚い。20は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。円筒上層ａ式小型深鉢である。三角形の突起様波頂部を持ち、対応する把手が対応して施されている。22は⑬の遺物点数115点のうち7点である。混在していた小型深鉢である。底部は見つからなかった。残存する突起について、形状が異なっている。円筒上層ａ式小型深鉢である。

一括土器⑭は遺物番号169である。接合後、一個体復元できた。14、円筒上層ａ式である。他に円筒上層ａ式二個体分の破片があったが、復元、図化に至らなかった。

一括土器⑮は遺物番号7である。復元出来たのは小型深鉢で、18となった。円筒上層ａ式である。底部は見つけられなかった。同時期で別個体の破片が3点入っていた。

一括土器⑯は遺物番号168である。まとまっていたのは白色味の強い器壁をした円筒上層ａ式である。これは4であり、一括土器⑤と⑬も一部接合した。円筒上層ａ式一個体分20が混在していた。20は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。加えて、円筒上層ａ式の土器破片が混在していた。

以上十六か所のまとまりは、覆土1層から2層にかけて出土した。1と2を円筒上層ａ式としたことで、復元個体については円筒上層ａ式古段階、同新段階、円筒上層ａ式最新時期にかけての土器が混ざった状態で出土した。H57−4や7のような円筒上層ａ式最古段階について出土が無かった事から、より後の廃棄場所と考えられる。

調査区壁面に覆土1−4層〜覆土2層〜覆土4層にかけて土器片が壁面にささって出土していた。これらを№1〜4まで番号をつけて取り上げた。いずれも円筒上層ａ式で層位的な差異はなかった。このうち№2が復元個体と接合した。エレベーション図でいうと一括土器⑭と同じ位置、調査範囲北側壁面、覆土4層から取り上げた。№2そのものは、円筒上層ａ式の同一個体のまとまりはない破片群である。そうのち比較的まとまっていたもので、一括土器④と接合したものが19となった。

次に掲載遺物それぞれについて述べる。1・2は円筒上層ａ式最新段階である。1は覆土上部から出土した。一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。円筒上層ａ式最新時期である。2は覆土上位出土一括土器⑫、円筒上層ａ式最新時期である。

3・8・9・14・19は波頂部から垂下する隆帯と口縁部文様帯との接点においてボタン状貼り付けを二組持つ、円筒上層ａ式である。

3は一括土器⑪と⑫をはじめとする覆土上位の遺物が接合した。8は覆土出土一括土器⑤が主体である。9は覆土中位出土一括土器⑨である。胎土・器壁は4に類する。14は覆土中位出土、一括土器⑭である。19は覆土の遺物が接合、復元されたものである。その中には一括土器③が含まれる。

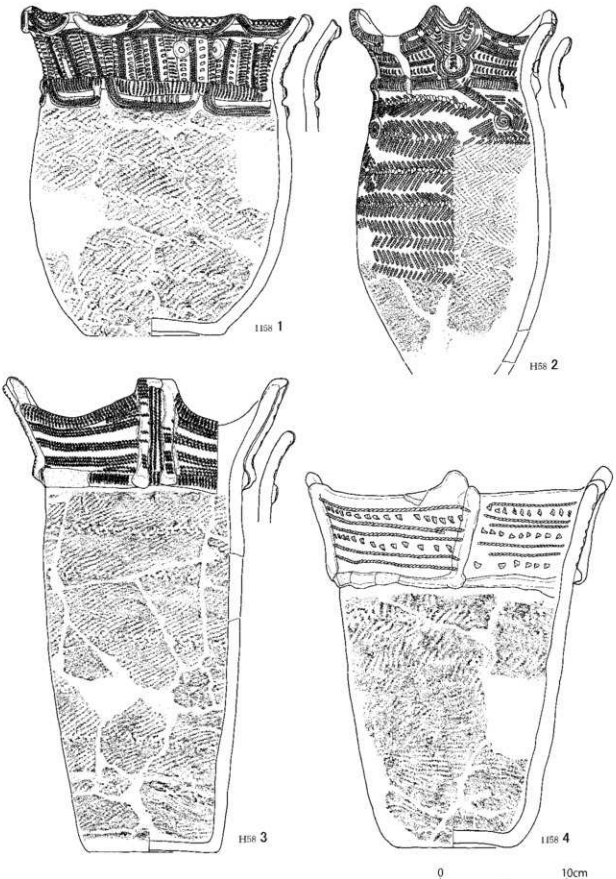
4・6・11・16・17・22は正面観について線対称ではない形状を持つ円筒上層ａ式である。

4は一括土器⑯に一括土器⑤と⑬および覆土上位から下位にかけてのものが接合した。器面は白く発色する。6は覆土から出土した。一括土器⑧である。円形・ボタン状の貼り付けを波頂部中央に持つ。11は覆土から出土した。一括土器③である。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑫が接合した。17は覆土からまとまって出土した。円筒上層ａ式である。22は覆土中位から出土した。一括土器⑬である。

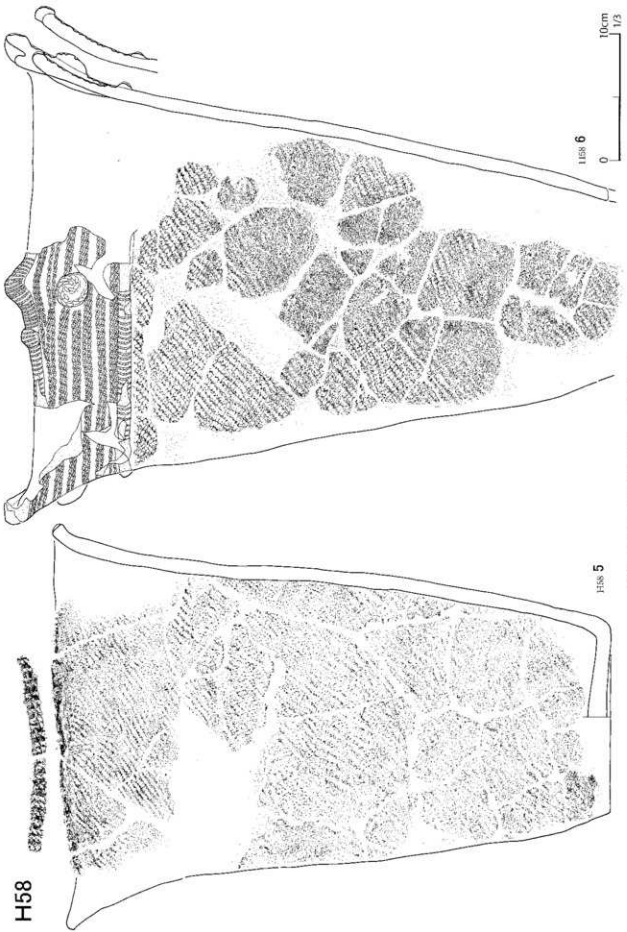
5・15は円筒上層ａ式であるが隆帯・粘土紐貼り付けによる加飾が乏しいものである。

5は覆土出土、一括土器⑦を主体とする。加えて覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。15は覆土にまとまっていた小型深鉢である。23は覆土出土一括土器②である。円環状の貼り付けを

H58

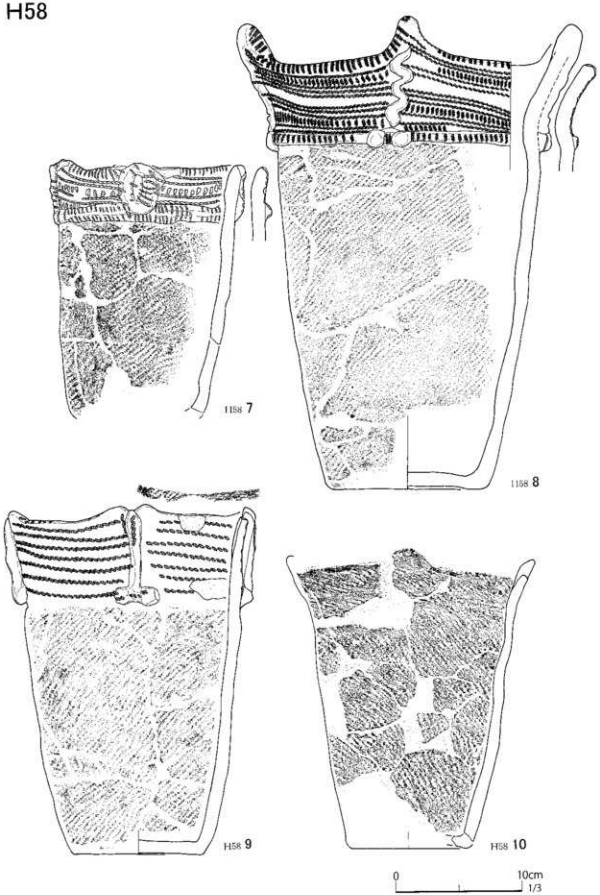


図Ⅲ－2－64　遺構出土土器　H58(1～4)

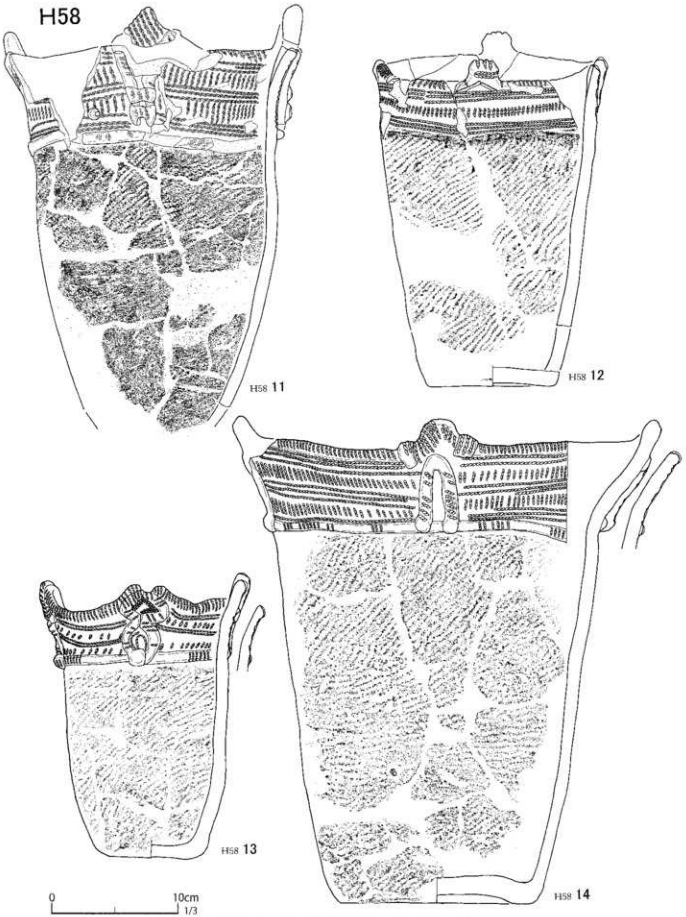


図Ⅲ－2－65　遺構出土土器　H58(5・6)

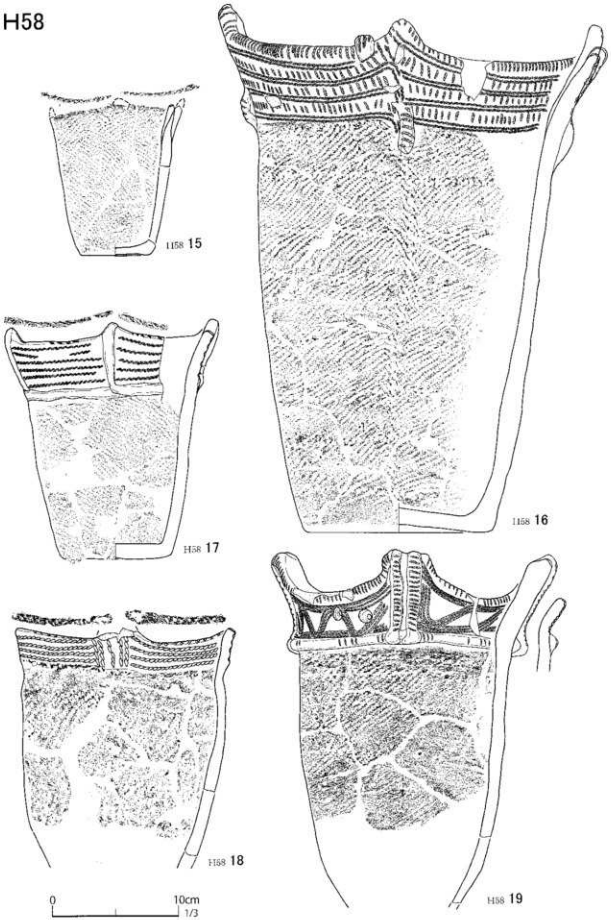
H58



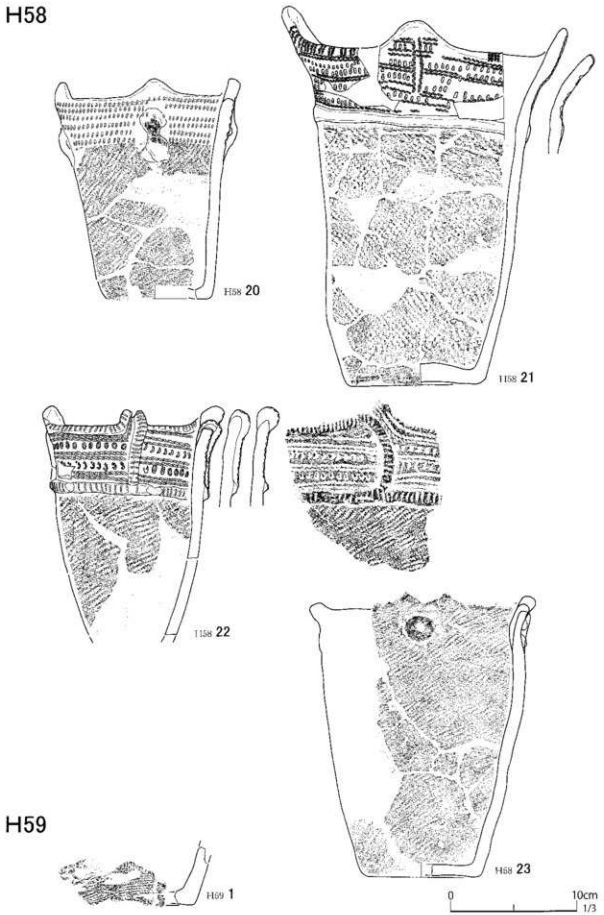
図Ⅲ－2－66　遺構出土土器　H58(7～10)



図Ⅲ－2－67　遺構出土土器　H58(11～14)



図Ⅲ－2－68　遺構出土土器　H58(15～19)



図Ⅲ－2－69　遺構出土土器　H58(20～23)・H59(1)

持つ。7・13は、隆帯および縄の押圧で口縁部文様帯を作り出し、そこに、波頂部と対応した環状あるいはそれに類した貼り付けを持つ円筒上層ａ式である。

7は覆土出土、一括土器⑥を主体とする。加えてⅢ層の遺物が接合した。13は一括土器④である。8の字状の貼り付けである。

10・21は器壁が白色味が強く、胎土のきめが細かい円筒上層ａ式である。10はⅢ層出土遺物が接合した。加えて、覆土上位出土、一括土器⑫である。21は覆土上位出土。12・20は平口縁に突起状の波頂部を持つ円筒上層ａ式である。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体として、⑩が接合した。20は覆土中位から出土した。一括土器⑬や⑯も接合した。中央に把手を持つ。

18は覆土中位からまとまって出土した、円筒上層ａ式で口縁部の文様要素から円筒下層ｄ2式に近いものである。

H59：覆土から、磨滅した円筒下層ｂ式が出土した。1は覆土出土、円筒下層ｂ式である。単軸絡条体地文で、底部際でも同一原体で帯状に横回転する。

H60：円筒下層ｃ式から下層ｄ1式の出土が無い。1・2・4・5・6は覆土から出土した。

1は口縁部が単軸絡条体横回転、胴部は縦回転。2は隆帯により口縁部を区画し、口縁部は単軸絡条体斜め回転、胴部は縦回転。4は胴部破片で単軸絡条体第1類縦回転を主とするが、底部際は単軸絡条体第5類回転により網目状。5は底部で、単軸絡条体第1類地文。底面も同じ原体で施文。6は隆帯による口縁部文様を区画。直下には結節回転が数段巡る。M2, M2−2, M4−3, M4−6から出土した遺物と接合あるいは同一個体である。

3は61Q区のM4−6が主体だが、H60覆土出土のものと接合した。口縁部には結節回転を施す。地文は合撚地文で胴部上半と下半で異なる。単軸絡条体による回転が胴部中央に帯状に施される。

7は床面から出土した。点取り№26である。円筒下層ｂ2式古段階である。7は単軸絡条体地文。

全体に胴部の帯状文や口縁部区画直下の文様帯など古い要素を持ち、胎土も粗い。円筒下層ｂ2式古段階の遺物が主に流れ込んでいると考える。

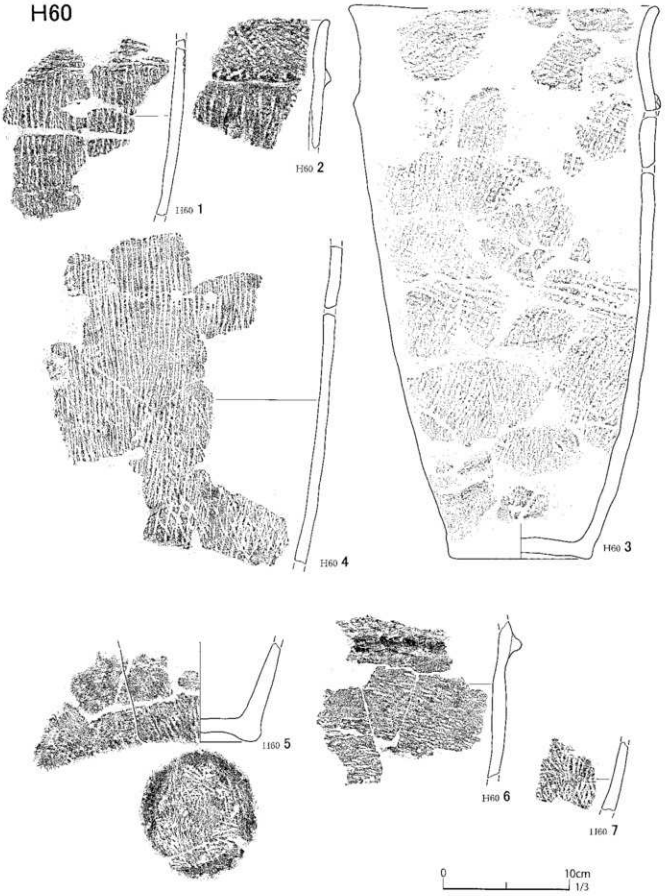
H61：覆土から円筒下層ｃ式から下層ｄ2式が混在して出土している。いずれも磨滅著しい。あるいは砕片のため、図化できなかった。

H62：覆土から円筒下層ｄ2式新段階と円筒下層ｂ式が出土する。円筒下層ｄ2式は覆土上位からの出土で周囲の盛土出土遺物と接合する。床面からは円筒下層ｂ式が出土する。

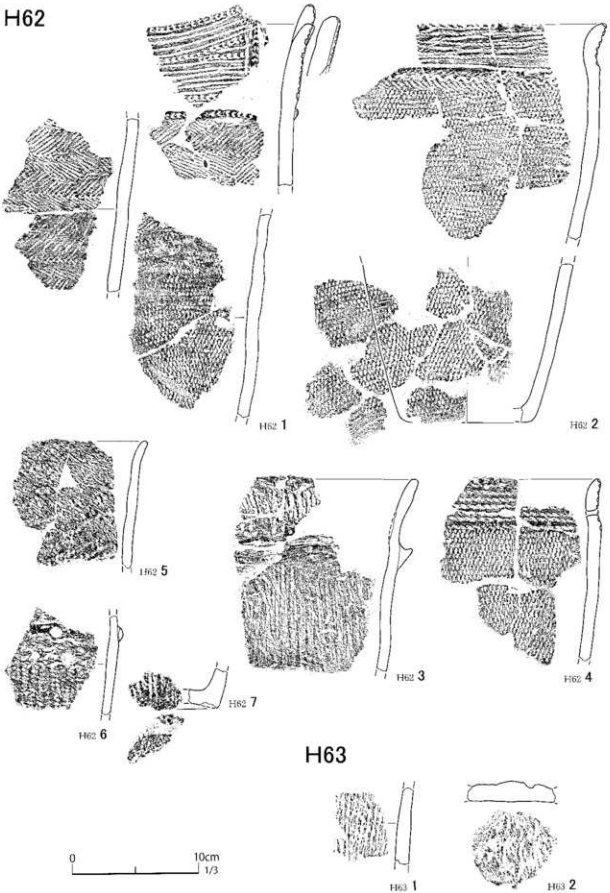
1は覆土出土のものと住居が位置する調査区の包含層の遺物が接合した。円筒下層ｄ2式である。水平方向に並ぶC字状圧痕の連続によって口縁部文様帯が二段口縁風となる。胴部上半は結束第一種羽状縄文が多段に施され、下半は多軸絡条体地文である。2は覆土出土のものと住居が位置する調査区の盛土と包含層の遺物が接合した。口縁部は縄線による直線構成の文様、多軸絡条体地文。いずれも円筒下層ｄ2式である。

3・4は覆土出土である。3は隆帯によって口縁部を区画される。口縁部胴部ともに単軸絡条体縦回転地文。円筒下層ｂ2式古段階とした。

4は口縁部に縄線文を施し、焼成前の穿孔を持つ。多軸絡条体地文。円筒下層ｄ2式とした。M4−3から類する遺物が出土した。



図Ⅲ－2－70　遺構出土土器　H60(1～7)



図Ⅲ－2－71　遺構出土土器　H62(1～7)・H63(1・2)

5～7は床面出土遺物である。5は点取り№19である。反撚りと合撚りを撚ったものか、複雑な地文を持つ。6は点取り№16である。隆帯上に指頭圧痕を連続、隆帯直下には結節回転が施される。7は点取り№23である。単軸絡条体地文を持つ底部破片である。いずれも円筒下層ｂ2式古段階、6などは円筒下層ｂ1式の可能性がある。

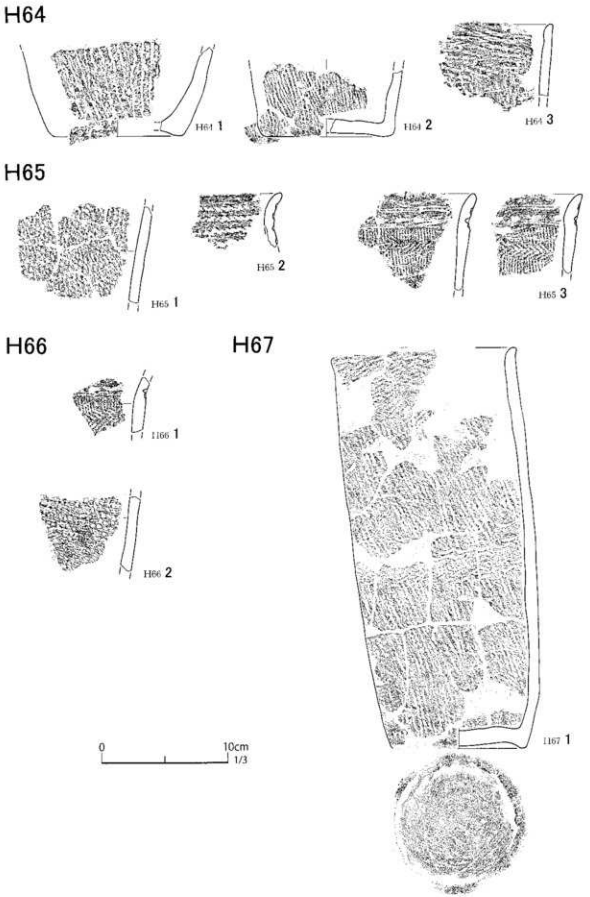
H63：1・2は床面出土である。1は点取り№27、単軸絡条体地文。2は№13。上げ底の底面に単軸絡条体で施文する。いずれも円筒下層ｂ2式とした。

H64：覆土や床面から円筒下層ｂ式が出土する。円筒下層ｂ式の時期。H64はH63よりも古い。
1・3は床面出土で、点取り№50と№63である。2は覆土1層出土である。1・2は上げ底で、単軸絡条体地文。3は口縁部に結節回転文を施す。いずれも円筒下層ｂ2式である。

H65：床および覆土から円筒下層ｂ式から下層ｄ1式にかけてが出土している。
1は床面出土、点取り№9である。多軸絡条体地文で、円筒下層ｂ2式新段階である。2は覆土1層出土である。口縁部に縄線を多段に施す。円筒下層ｃ式である。3の左側図は覆土出土である。口縁部には矢羽状縄線で加飾する。区画間には押し引きの連続を施す。胴部には結束第一種羽状縄文と単軸絡条体回転を施す。円筒下層ｄ1式である。3の右側図は住居のある調査区42W区の出土である。M6－2およびH66床面出土の土器片と同一個体の可能性がある。42Y区出土遺物にも類例がある。

H66：覆土から円筒下層ｂ式のみ出土し、床面からは円筒下層ｂ式から円筒下層ｄ1式が出土している。そのうち円筒下層ｄ1式についてはH65覆土中とM6－1, 42W区の土器片と同一個体の可能性が高い。円筒下層ｄ1式が出土しているが、M6盛土より古いので混在の可能性がある。柱穴覆土から円筒下層ｂ式が出土している。1は床面出土、点取り№7である。H65－3と同一個体と考える。円筒下層ｄ1式である。2は付属遺構HP－1覆土2層から出土した。複節縄文地文の胴部破片である。円筒下層ｂ2式である。

H67：床面および付属遺構HP－1から出土した破片が接合し、円筒下層ｂ式が一個体復元できた。
1は床面と付属遺構から出土した土器が接合した。床面出土点取り№65と№66、付属遺構HP－1覆土1層出土№67が接合した。口縁部および胴部中央に帯状に結節回転、地文は単軸絡条体地文である。胎土、器形から円筒下層ｂ2式段階だが胴部中央に帯を持つなど古い要素を併せ持つ。



図Ⅲ－2－72　遺構出土土器　H64(1～3)・H65(1～3)・H66(1・2)・H67(1)

(2) 土坑

P45：1は覆土中の一破片に加えて、63R区M2−2が中心となって接合した。器壁は薄く焼成が良い。口縁には、二対で二種類の波頂部を持つと思われる。調査範囲内に類例が無い、異質な土器である。層位、文様要素等、出土状況から円筒下層d2式とした。

2は覆土出土遺物63T区と63Q区のM2盛土出土遺物が接合した。口縁部には矢羽縄線で直線構成の文様を施す。単軸絡条体第4類を地文に持つ。円筒下層d2式土器である。

P47：1は覆土2層から出土した、Ⅲ群a類、円筒上層d式である。波頂部中央に把手を持つ。器面を細い粘土紐で加飾する。

P54：1は底面から出土した。潰れたようにひとまとまりになっていた。口縁部には反撚り縄文、胴部地文は単軸絡条体回転、底面には縄文施文。円筒下層b2式である。

P55：1は底面出土、点取り№6で示した点を中心として直径20cm範囲内に分散していた。この遺物を主体として、覆土出土遺物が他に7点接合した。口縁部には、単軸絡条体横回転、胴部は縦回転、底面にも同原体を回転させた痕跡。

P56：1は底面から出土した。点取り№9と№10である。底部で同一個体と考えるが、接点は無かった。意図的に土器を打ち欠いて、底部を外した可能性がある。口縁部には縄線と円形刺突列。胴部には単軸絡条体地文。口縁部の区画には円形刺突を連続した隆帯。底面には縄文を施す。

2～4は土坑底面から出土した。点取り№9に混在していた土器である。2は№10も接合した。口縁にはサルボウ条痕を横走させる。隆帯で口縁部文様を区画する。胴部は単軸絡条体地文である。3は№6も接合した。3と4は磨滅が著しいが、多軸絡条体を地文に持ち、同一個体の可能性がある。円筒下層b2～c式である。

P60：1は覆土のものと、遺構がある調査区の隣、81P区、81Q区出土遺物が接合した。隆帯・粘土紐による加飾は無い。縄文地文。円筒上層a式と考える。

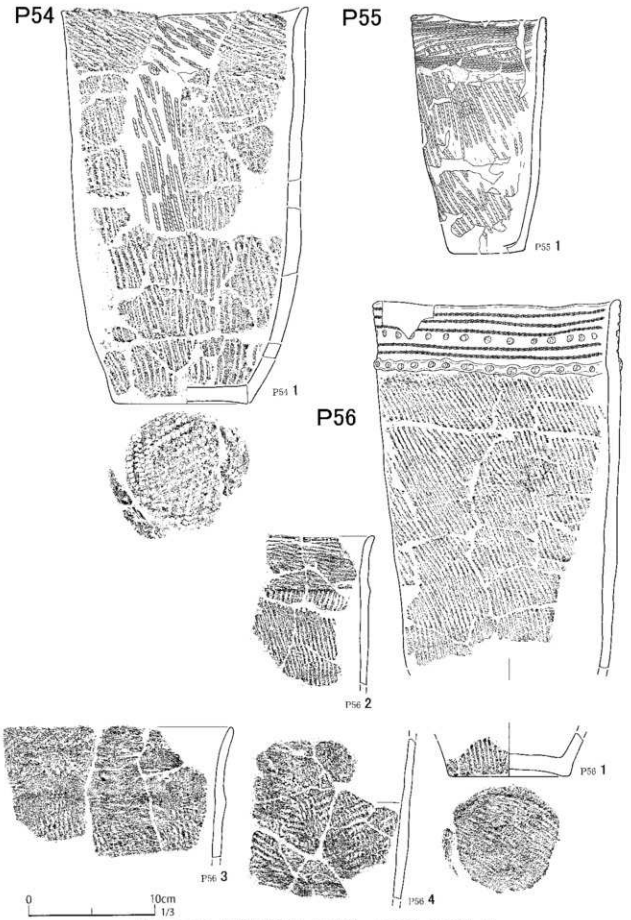
(3) Tピット

TP7：1～3のいずれも覆土出土遺物と遺構がある82P区の遺物が接合した。1は82P区包含層、2・3はH58覆土出土遺物が接合した。1は波頂部にボタン状の貼り付けを持つ。2には突起様の波頂部から連続するボタン状の貼り付けがある。底部には意図的にあけられた穴がある。3はRLR縄文地文でLR結節縦回転。いずれも円筒上層a式である。

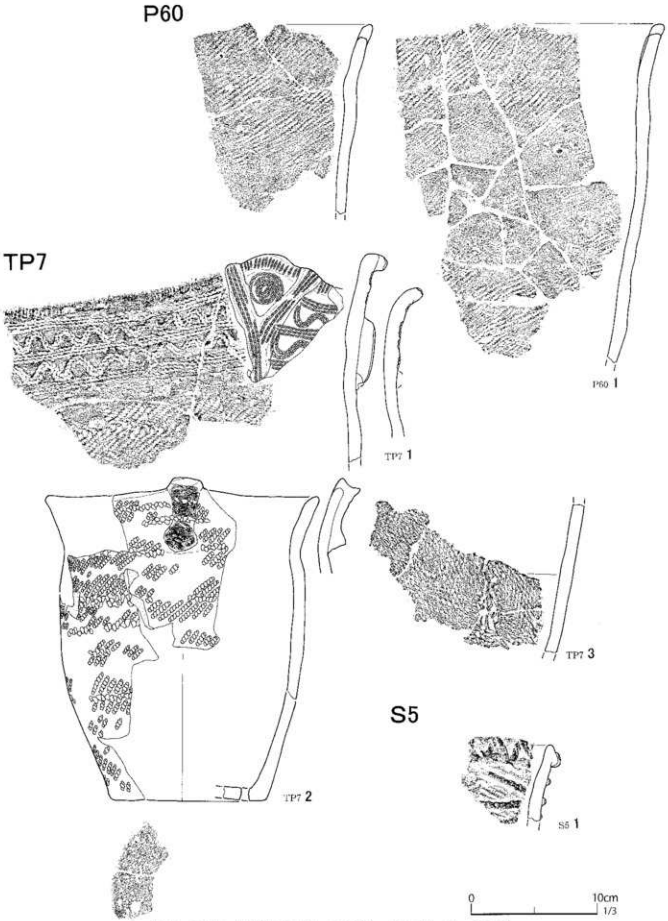
(4) 焼土

盛土のトレンチ調査で確認した焼土F66～78については、検出面と遺物出土状況について、本文は第1分冊第Ⅲ章1項・図は第Ⅱ章に、遺物そのものの説明は第3分冊第Ⅳ章1項と表に記載した。

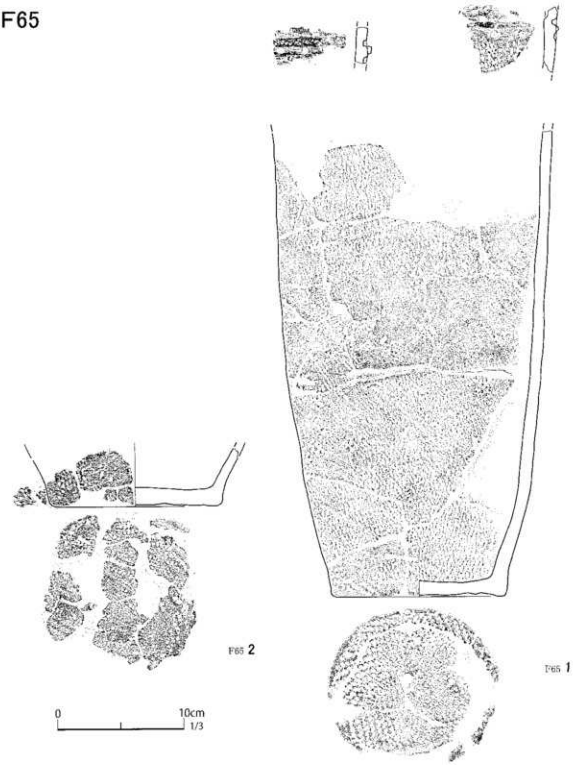
図Ⅲ－2－73　遺構出土土器　P45(1・2)・P47(1)



図Ⅲ－2－74　遺構出土土器　P54(1)・P55(1)・P56(1～4)



図Ⅲ－2－75　遺構出土土器　P60(1)・ＴＰ7(1～3)・S5(1)



図Ⅲ－2－76　遺構出土土器　F65(1・2)

F69はH21竪穴住居廃絶後の窪み、F78はH29竪穴住居廃絶後の窪みに位置する焼土である。F69は円筒下層d1式新段階、F78は円筒下層d2式のまとまった廃棄を伴う。いずれも焼土の下位に円筒下層d1式古段階、焼土の上に円筒下層d2式のまとまった廃棄が確認された。F69とH21、F78とH29の層位別出土遺物の変遷については第Ⅵ章2項にまとめた。F69とH21については図Ⅵ－2－5～6、F78とH29については図Ⅵ－2－1と図Ⅵ－2－4に示した。F77は基底部の焼土M4－6相当である。この項ではそれ以外の焼土関連遺物について記載する。

F65：周辺から出土した遺物を図化した。1は76R区の風倒木と思われる攪乱から出土した土器である。風倒木に入り込んでいた土器である。据え置いた後に、木の根が入り込んだ可能性があった。口縁部が大きく欠損しており接合しなかった。残存する破片から、口縁部区画の隆帯があり、その上下に円形刺突を持つ。多軸絡条体地文の筒型をした深鉢である。底面にも同様の原体で施文する。円筒下層ｂ2～ｃ式と考える。取り上げ時に土器の下から礫が出土したが、使用痕などなくⅤ層より下位の礫層起源のものと考える。

2は木の根に据えられて、あるいは入り込んでいた土器底部である。縄文地文で、底面にも同様の原体で施文する。76Q区のabcd（図Ⅲ－1－129）で囲んだ範囲から出土した。円筒下層ｂ2～ｃ式と考える。

F82：1・3・6・7・9・11～14・16・26は覆土1層出土である。5・8・15・17～19は覆土2層出土である。2・9・20～22・24・25・27・33は沢1層出土である。4・10は沢1層と覆土1層の遺物が接合した。

1～11・13～32はサイベ沢Ⅶ式と考える。規格がわかるものとして、口径9～22cm、器高12～20cm、底径4～9cmと小型の深鉢で構成される。また6のような中空の台付鉢や、29のように丸底に成形した浅鉢に台をこしらえた痕跡がある。台部分は見つけられなかった。

12はほぼ同時期の遺物と考えるが、円筒上層ｃ式由来のレンズ状文様を細い隆帯で施すため、円筒上層ｄ式とした。口唇部あるいは波頂部中央の貼付以外に粘土紐による加飾を持つ個体はない。また、3や6のように沈線によって、レンズ文起源と思われる文様が直線化したものもあるが12とは異質のものである。また残存部分から口径は30cm前後、器高は40cmを大きく上回る大型深鉢と考えられる、意図的に割り、廃棄した可能性がある。

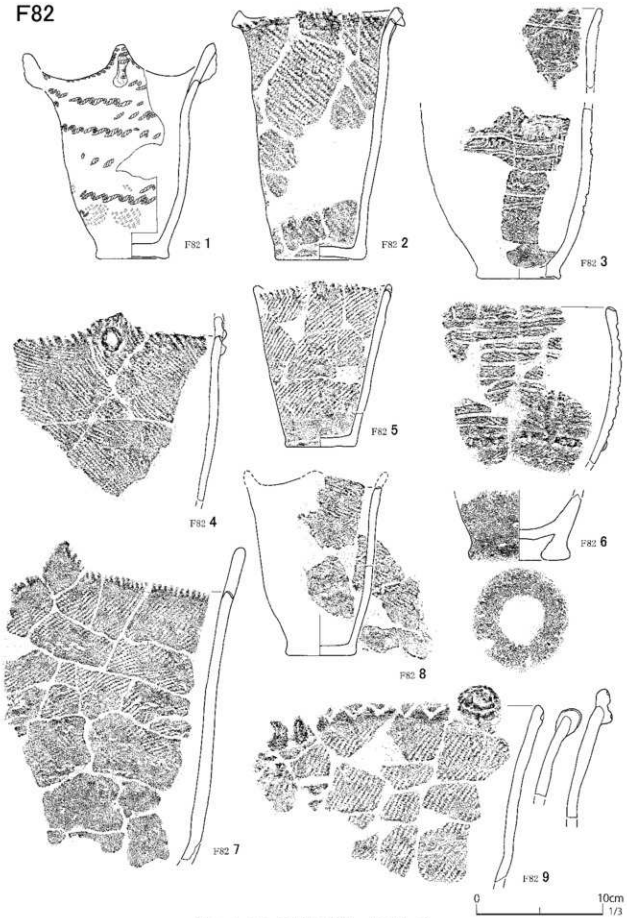
32はサイベ沢Ⅶ式の胴部片の縁辺を丸く加工し、中央に穿孔したものである。33は焼成粘土塊である。

(5) 集石

S5：1はS5と同一検出面から出土した。肥厚する口縁部を持つ。細い隆帯で器面を加飾後、縄文施文。

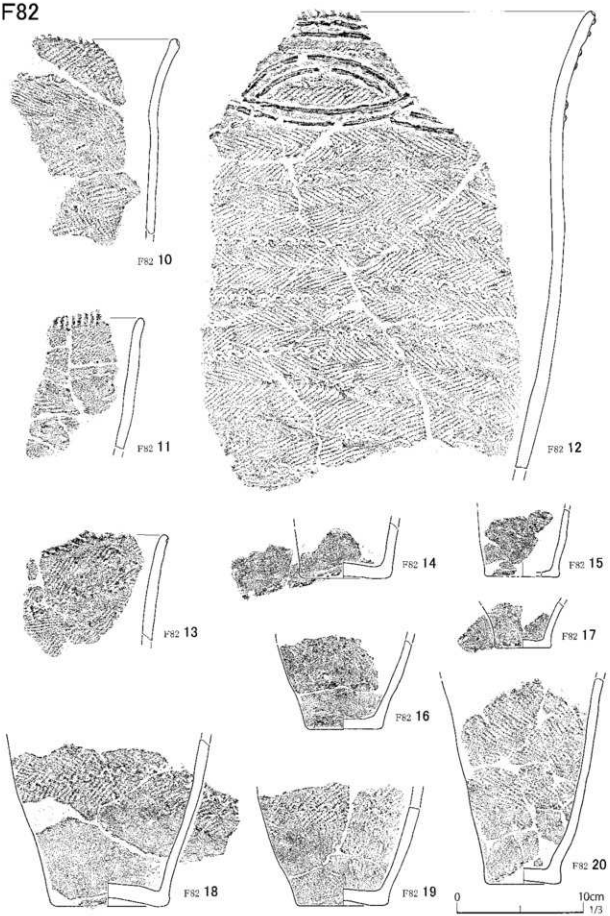
(6) 遺物集中

遺物集中について、抽出、図化した土器は無い。　（大泰司）

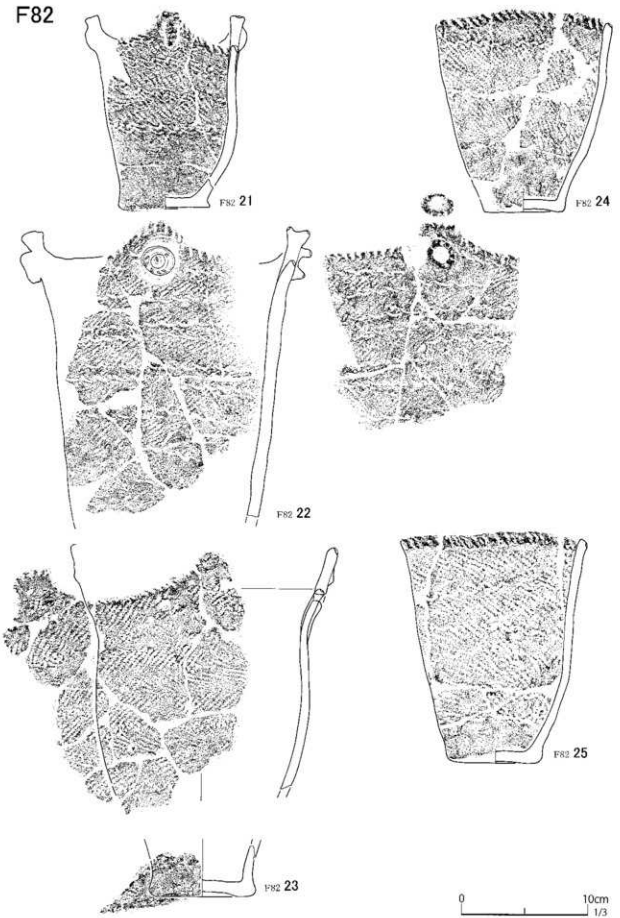


図Ⅲ－2－77　遺構出土土器　F82(1～9)

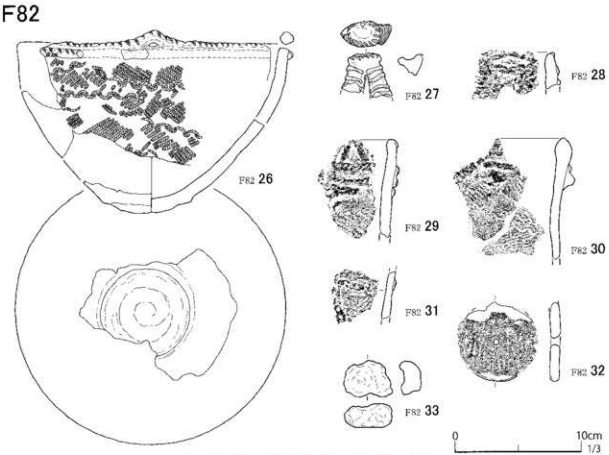
F82



図Ⅲ－2－78　遺構出土土器　F82(10～20)



図Ⅲ－2－79　遺構出土土器　F82(21～25)



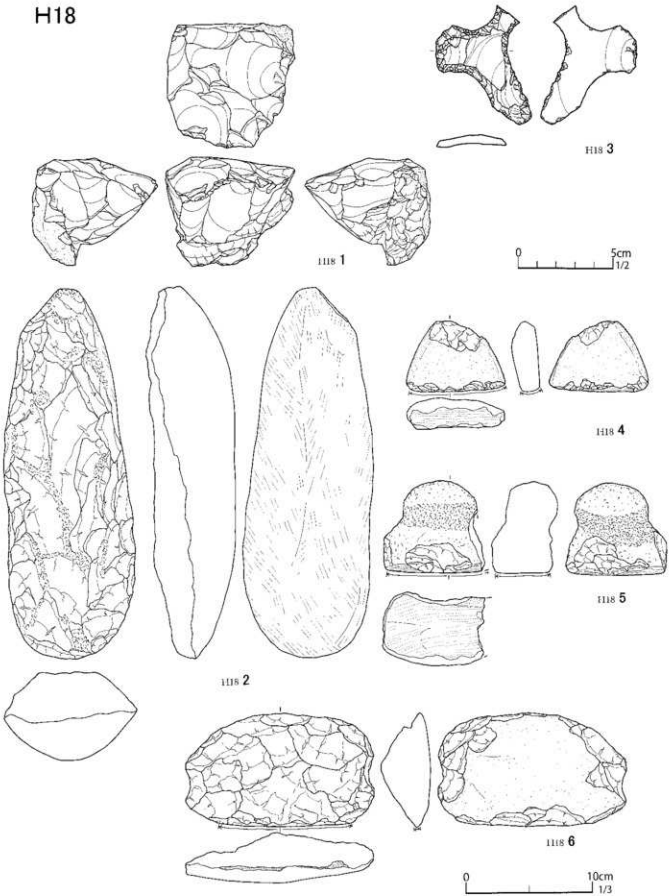
図Ⅲ－2－80　遺構出土土器　F82(26～33)

3　遺構出土の石器・石製品

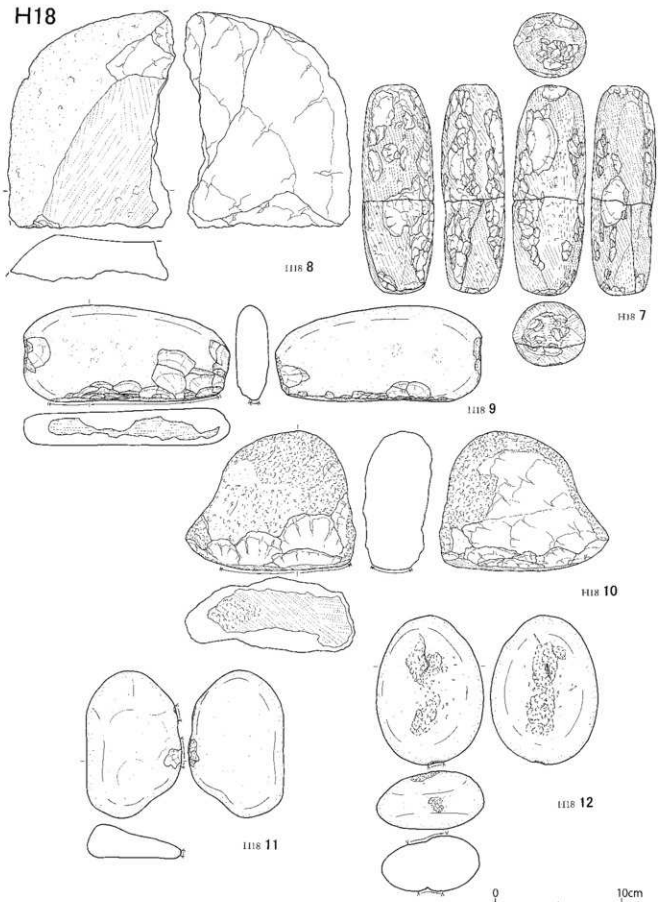
この項に掲載した石器はいずれも縄文時代のものという可能性がある。大きさ、材質、出土位置は(表Ⅲ－7　遺構出土石器一覧）に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊Ⅲ章1項の遺構図で「掲載番号1の石器・石製品」ならば「石1」のように示した。

(1) 竪穴住居

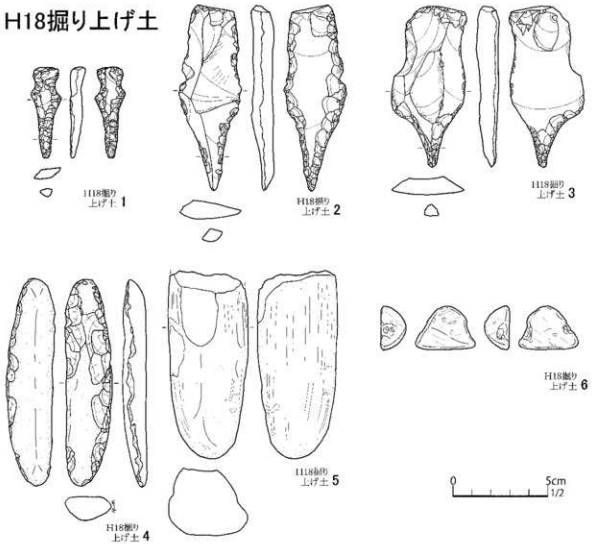
H18：1～7は覆土出土である。4・5・7は覆土1層、2は覆土2層、1・6は覆土3層、3はトレンチからの出土である。8・10は床面出土、9はHP－5、11はHP－11、12はHP－18のそれぞれ覆土中からの出土である。1は頁岩の石核である。2の正面は打ち欠きによる調整が全体におよび、裏面は礫面が残る砂岩である。石斧未成品と考える。3は頁岩の異形石器である。三か所の張り出し部分から構成される。4は流紋岩製の小型扁平打製石器である。頂部には両面からの打ち欠きによる成形がある。5は安山岩製の小型北海道式石冠である。全面に叩打成形がおよび持ち手は明瞭に作り出す。6は砂岩製の扁平打製石器である。縁辺には両面からの打ち欠きによる成形がおよび、両側縁はノッチ状になっている。7は凝灰岩製の石棒である。全面を叩打後ミガキにより、成形を施す。円柱状だが中央の径が太くなる。8は安山岩製の石皿片である。正面には皿状の凹み部があり滑らかになるまで使いこまれている。9は閃緑岩製の扁平打製石器である。両側縁に叩打による成形が加えられる。



図Ⅲ－3－1　遺構出土石器　H18(1～6)



図Ⅲ－3－2　遺構出土石器　H18(7～12)



図Ⅲ－3－3　遺構出土石器　H18掘り上げ土(1～6)

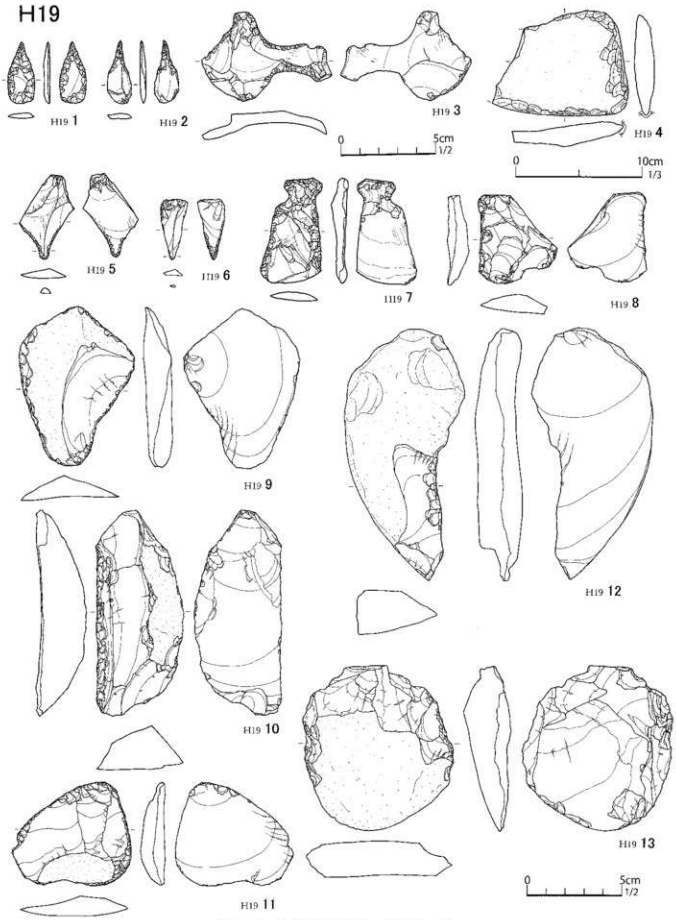
10は砂岩製の北海道式石冠である。全面に叩打を施して持ち手部分を作り出す。機能部は平滑になるまで使い込まれる。11は流紋岩のたたき石である。側縁の一部に叩打痕がある。12は砂岩の凹み石である。表裏対応する凹みが長軸上に二か所ある。

H18掘り上げ土：土器は円筒下層ｂ式から下層ｄ1式の磨滅した破片の出土があった。石器は特徴的なドリルと石製品の出土があった。そこで石器を抽出、図化した。

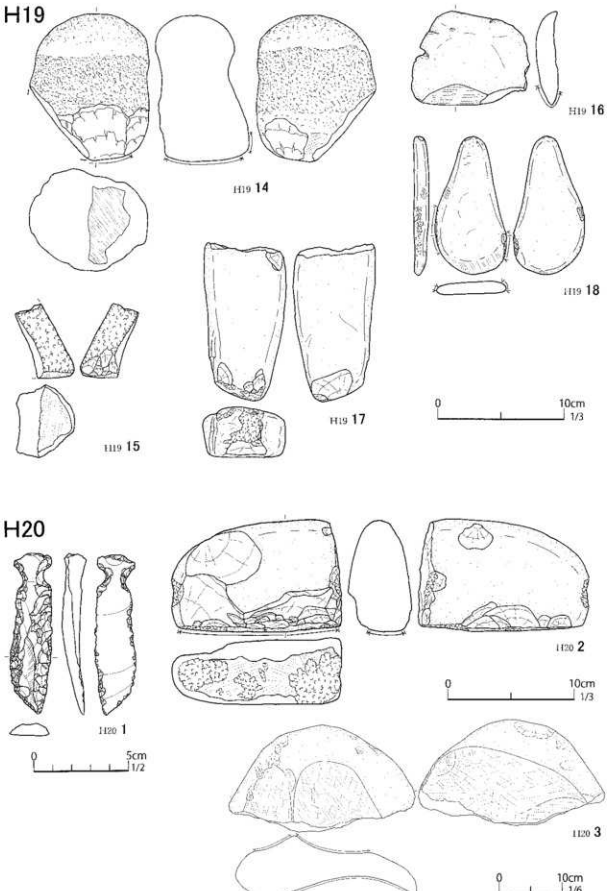
1～3は頁岩製のドリルである。いずれも長い錐部を両面調整によって作出し、基部は幅広く、線対称である。1はつまみ部分も作出する。4～6は石製品である。4は棒状の頁岩の片面を打ち欠き半対面の礫面を残す。側縁部は擦りによるものか磨滅している。5は折損した棒状の凝灰岩である。残存部分表面には研磨の痕跡がある。6は軽石の全面を研磨したものである。一面を平坦に作り出している。

H19：1～4は覆土2層からの出土、5・6・8～11・13～15・17・18は床面出土、7は周溝の覆土、12はHP－15の覆土、16はHP－18覆土1層からの出土である。

1・2は頁岩製石鏃である。円～平基で先端を細長く作出する。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。3は頁岩の異形石器であ



図Ⅲ－3－4　遺構出土石器　H19(1～13)



図Ⅲ－3－5　遺構出土石器　H19(14～18)・H20(1～3)

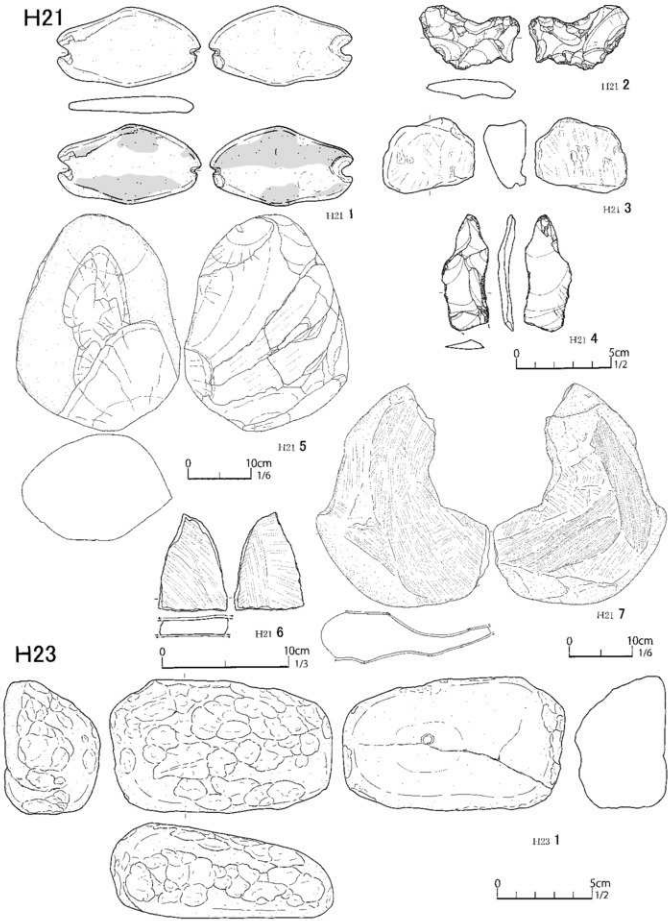
る。ふたつの張り出しを持ち、ひとつはつまみ様である。4は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺を微細な打ち欠きで成形し、石鋸として用いたものである。5・6は頁岩製のドリルである。もともと細長い張り出し部分を持つ剥片を選択し、微細な剥離で錐部に仕上げる。7は頁岩製のつまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つ。8～12は頁岩製のスクレイパーである。8は一側縁に片面調整による刃部が作出される。9は縁辺に浅い剥離が巡る。10は肉厚の素材の一側縁に急角度の刃部を持つ。11は縁辺に浅い剥離が巡るが、正面右下が素材の厚みを生かして掻器様になっている。12は右側縁に深い剥離による刃部が作出される。13はほぼ円形をした頁岩の剥片素材に両面からの深い剥離を施したものである。両面調整石器に分類した。14・15は北海道式石冠である。14は安山岩で全面を叩打し、持ち手部分を作出する。機能部は平滑になるまで使い込まれ、割れによる欠損が著しい。15は閃緑岩で機能部側の破片と考えられる。全面に叩打調整があるものと考えられ、被熱した痕跡がある。16は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺の薄い部分をそのまま石鋸として用いたものである。17は棒状の砂岩の下端に叩打痕があるものである。18は撥型で、縁辺に叩打痕がある薄い緑色泥岩である。小型石斧の未成品という可能性もある。

H20：1～3は床面からの出土である。1は頁岩のつまみ付きナイフである。先端は切り出し形で両側縁に刃部を持つ。2は砂岩で、打ち欠いて幅広の機能面を底面に作出し、そこには叩打痕が顕著である。また残存する側縁には叩打による溝状の持ち手が作り出された痕跡がある。その溝は反対側割面にも対応する叩打痕がある。不整な形状のため扁平打製石器に分類したが、北海道式石冠未成品の可能性もある。3は安山岩製の石皿片で皿状の凹みが表裏にある。表裏の凹み面の深い部分が対応する場所で割れている。

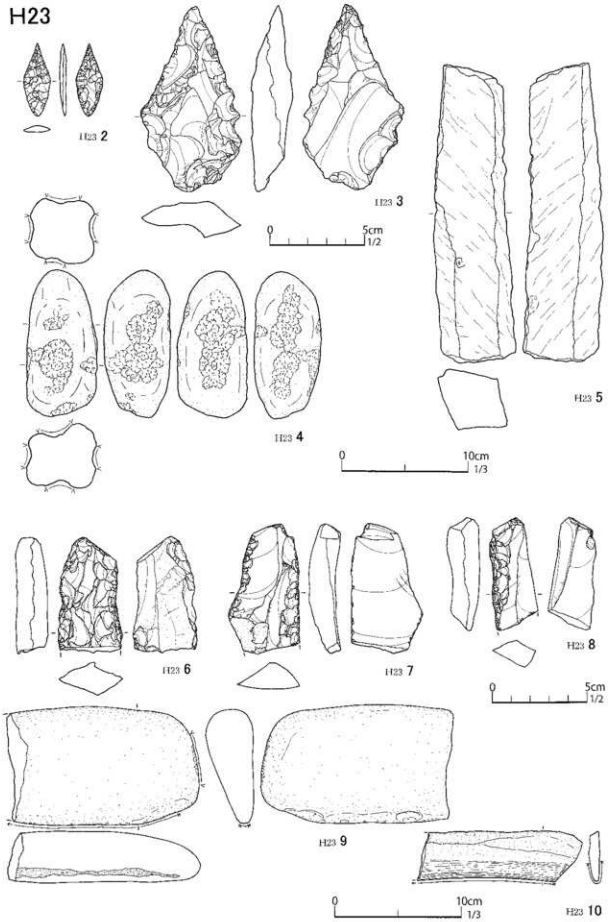
H21：1～3は覆土、4・6・7は床面、5はHP－11覆土からの出土である。

1は凝灰岩製の錘である。打ち欠きと擦り切りで対応する装着部分の凹部を作出する。これは素材の長軸上に対応する。ほぼ全面に赤彩された痕跡があるが、この装着部と対応する長軸部分のみ無い。これは赤彩時に長軸上になにかが巻いてあったその上から赤彩が施されていた可能性がある。赤彩部は下図に網掛けで示した。2・3は石製品である。2は頁岩製異形石器である。3は軽石の全面を研磨したもので裏面には平坦面がとられている。4は頁岩製スクレイパーとした。剥片の縁辺に細かい剥離が巡る。5は砂質凝灰岩製の砥石片である。表裏に顕著な研磨痕跡がある。5は砂岩の台石である。両裏面に叩打痕がある。7は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが顕著なもので表面に大小1条ずつ。裏面に3条ある。表面の顕著な大型の溝の一番深い部分、石の一番浅い部分で割れている。

H23：1～5は覆土、6～10は床面からの出土である。1は安山岩製の石製品である。正面図とした側はほぼ全面に叩打が及ぶ。左側面図側には凹みが叩打で作られる。これに対応して、裏面図でわかるように、右側面にも小さな凹みが叩打で作出されている。底面とした側には溝状が叩打によって作出される。石冠様石器的な石製品の可能性がある。2は頁岩製石鏃である。尖基で先端が細長く作り出されている。3は頁岩の両面調整石器である。線対称の形状で縁辺は粗く打ち欠かれる。4は安山岩製の凹み石である。断面は正方形に近い表裏二面ずつに対応する二か所の凹みが長軸上に並ぶ。5は安山岩の棒状礫である。柱状節理を採取してきたものと考える。石棒的な意味合いを想定し、掲載した。6～8は頁岩製のスクレイパーである。6は正面について深い剥離が全面におよぶ裏面は右側縁のみ両面調整である。7は両側縁、8は片側縁に片面調整の刃部を作出する。9は砂岩製の扁平打



図Ⅲ－3－6　遺構出土石器　H21(1～7)・H23(1)



図Ⅲ－3－7　遺構出土石器　H23(2～10)

製石器である。素材本来の形状を生かして利用しているが、残存する側縁には叩打痕が残る。成形痕跡か使用痕かは判然としない。10は安山岩の石鋸である。板状節理の幅が狭い部分を生かして石鋸機能部を作出している。

H24：1～3は床面、4は覆土2層からの出土である。1は頁岩製のドリルである。先端は丸まり使い込まれている。2・3は頁岩製スクレイパーである。2は、先端が平刀型で、その端部と平行な両側縁には整然と刃部が作出されている。折損しているため不明だがつまみ付きナイフだった可能性がある。3は縁辺に刃部が巡る。4は凝灰岩で、両端が折損している両側縁は急角度に打ち欠かれている。割面である裏面中央には凹みがある。石棒や石冠に類する石製品の可能性を考える。

H25：1～4は覆土からの出土である。3が覆土1層でほかは覆土2層。5～7は床面からの出土である。

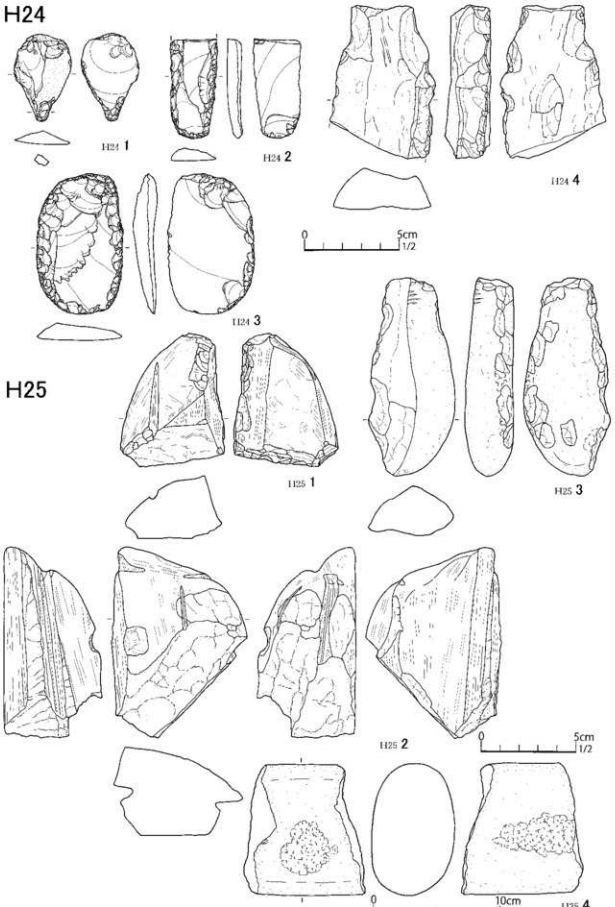
1・2は緑色泥岩の擦り切り残片である。いずれも四方向からの擦り切りが見受けられる。側縁の一部には連続する打ち欠きも認められる。3は凝灰岩の棒状礫について両側縁を急角度に打ち欠いたものである。石棒的な石製品の可能性を考えた。4は厚みのある楕円礫の長軸両端を打ち割って、表裏両面長軸上に叩打痕を持つ安山岩である。その大きさと形状から北海道式石冠未成品の可能性を考えた。5は頁岩製石槍又はナイフの先端部片である。尖基木葉形の可能性がある。6は頁岩製スクレイパーである。平行な両側縁には片面調整の刃部。端部には掻器様の刃部を持つ。7は砂岩製石皿である。両面に研磨面を持つ、正面側の凹みが顕著である。残存部から大型だった可能性があり石皿としたが砥石という可能性もある。

H26：1・2・4～7・9は床面からの出土、3はHP－16の覆土、8はHP－4の覆土からの出土である。

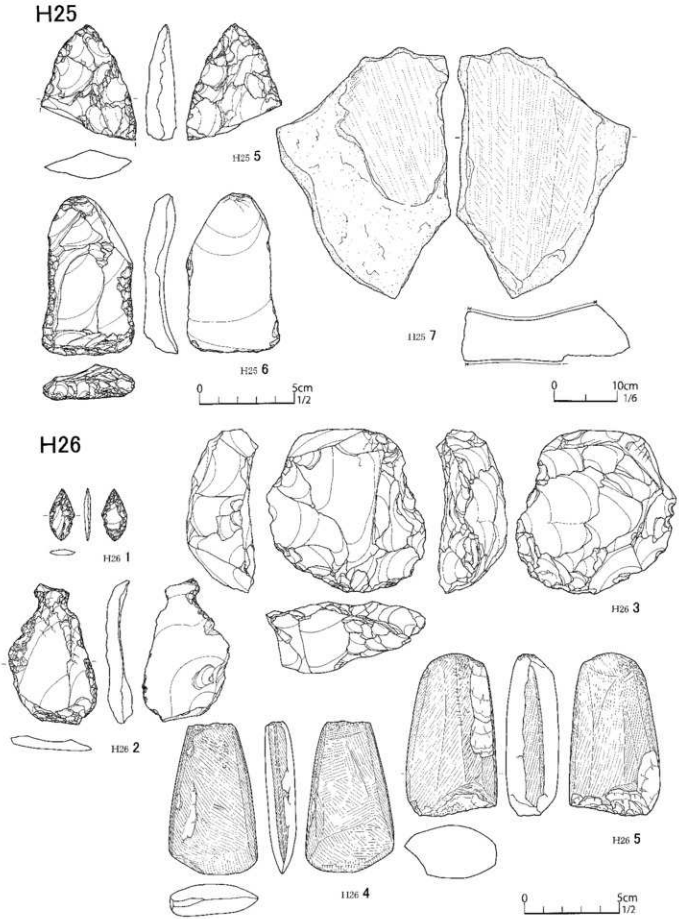
1は頁岩製石鏃である。尖基で先端を鋭角的に作り出す。2は頁岩製つまみ付きナイフである。正面右側縁に片面調整の刃部を作り出す。反対側面は礫面を残す。3は頁岩の石核である。4・5は緑色泥岩製の石斧である。4は片面のしのぎが顕著である。5は刃部が折損している。6は割れた安山岩礫片の頂部を打ち欠いて、下端両端を打ち欠いている。機能部が想定できる部分は未使用であるが、小型の扁平打製石器未成品の可能性がある。7は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁がノッチ状に打ち欠かれる。機能部は平滑になるまで使い込まれている。8は砂岩のたたき石である。下端部に叩打痕がある。9は安山岩の石皿である。楕円形の凹み石が表裏面にある。両面とも滑らかになるまで使い込まれている。

H27：1は覆土2層からの出土である。2・4・6～8は床面からの遺物出土である。3は周溝覆土からの出土である。5はHP－1覆土1層からの出土である。

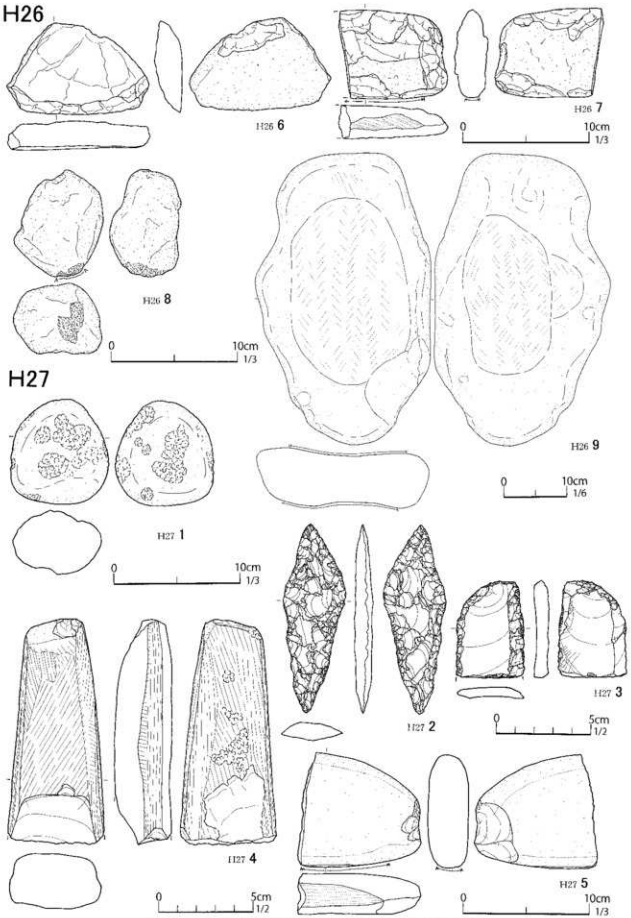
1は安山岩の凹み石である。亜円礫に表裏対応する二対の凹みを主としてまばらな凹み部を持つ。2は頁岩製の石槍又はナイフである。鋭い先端部を持つが、凸基有茎だが、正面観は線対称ではない。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整の刃部を持つ。4は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損する。擦り切りと研磨によって成形された痕跡がある。5～7は扁平打製石器である。5・6は砂岩製。5は残存する側縁に両面からの調整が加わる。機能面は平滑になるまで使い込まれている。6は側縁に両面からの調整が加わる。上面は石鋸、仮面は密な叩打痕がある。7は安山岩の楕円礫の両端に両側からの調整が加わる。機能部は平滑になるまで使いこまれる。8は砂岩の台石である。両



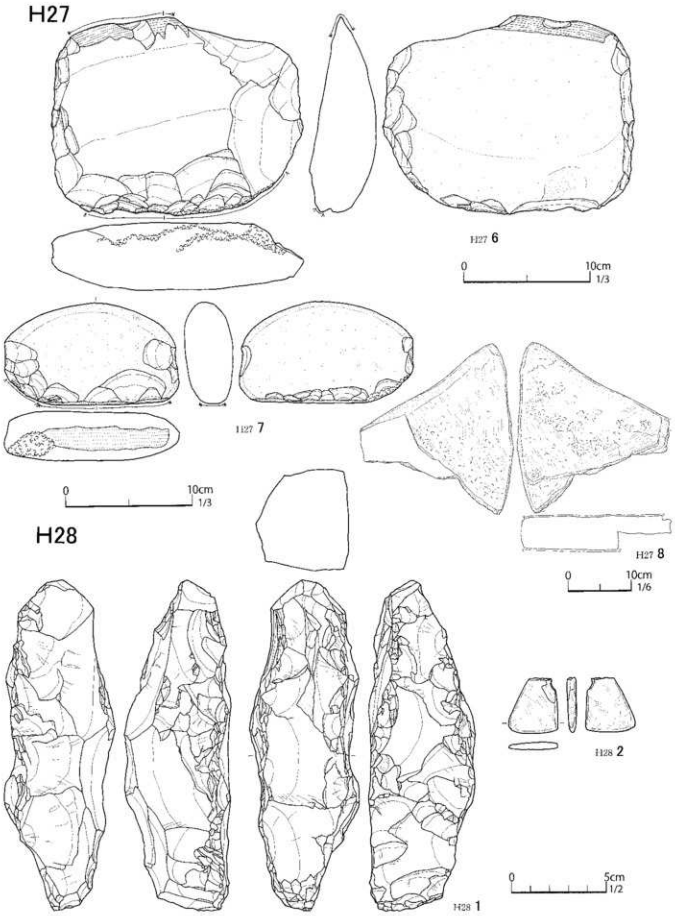
図Ⅲ－3－8　遺構出土石器　H24(1～4)・H25(1～4)



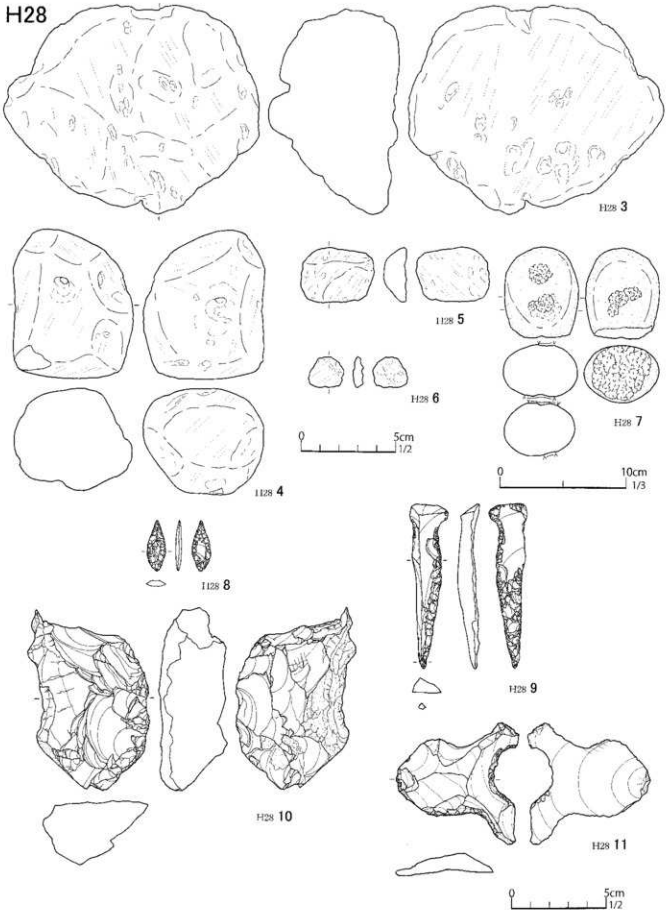
図Ⅲ－3－9　遺構出土石器　H25(5～7)・H26(1～5)



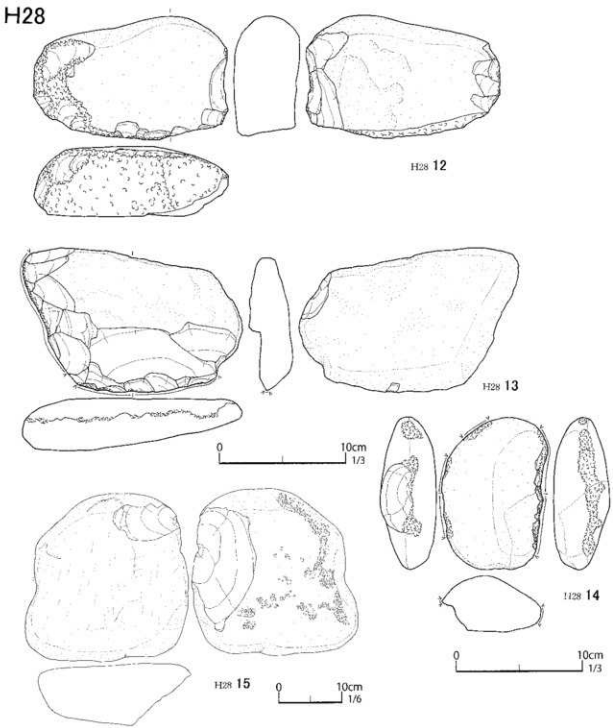
図Ⅲ－3－10　遺構出土石器　H26(6～9)・H27(1～5)



図Ⅲ－3－11　遺構出土石器　H27(6～8)・H28(1・2)



図Ⅲ－3－12　遺構出土石器　H28(3～11)



図Ⅲ－3－13　遺構出土石器　H28(12～15)

面に叩打痕が残る。

H28：1～7は覆土から、2は覆土1層、1・4～6は覆土2層、3・7は覆土3層からの出土である。8～11・14は床面、12・13は周溝覆土、15はHP－16からの出土である。

1は頁岩の石核である。船底型を思わせる。全面に調整がおよぶ。2は滑石製玦状耳飾りである。三角形で溝部分から割れた片側である。3～6は軽石の一部ないしは全面に研磨を加えたものである。石製品とした。7は安山岩の凹み石で表裏対応する一対の凹みとそれに付随する数個の凹みからなる。

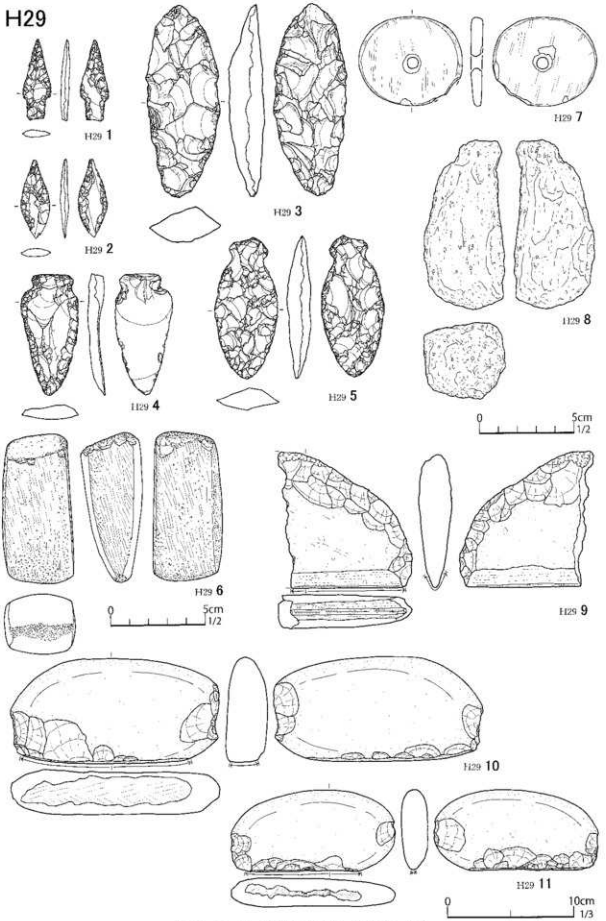
8は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細長く作り出す。9は頁岩製のドリルである。つまみ付きナイフの下端に刺突部を作出したものである。10は両面調整石器である。頁岩の素材面を片側に残す。11は頁岩製の異形石器である。翼状の突起を二か所作出する。12～15はいずれも砂岩である。12は両側縁と底面の潰れ痕、叩き痕、そして全体の形状から、北海道式石冠の未成品と考える。13の正面観は機能部側がすぼまってみえるが機能部の形状等から扁平打製石器と考える。機能部は底面から側縁にかけて連続する。14はたたき石で長軸に平行する両側縁に叩打痕を持つ。15は台石としたが、使用痕が不明瞭である。

H29：1～8は覆土、9～11・14～16は床面出土である。12はHP－29、13はHP－21のそれぞれ覆土から出土した。

1・2は頁岩製の石鏃である。1は平基有茎、2は尖基で先端を細長く作出するもの。3は頁岩製の石槍又はナイフで、尖基木葉形で両面調整。先端は尖らない。4・5は頁岩製つまみ付きナイフ。4は幅広の装着部を持ち、5は線対称だが先端が丸みをおびるので石槍とはしなかった。6は緑色泥岩製の石斧である。基部は折れている。折損部と刃部先端はたたき痕跡によって潰れている。7は凝灰岩製の石製品である。楕円形の環状で中央に円形の穿孔を持つ。表裏面はよく磨かれている。8は軽石製の石製品である。上端の作出部分は浮子を思わせる。9は安山岩製で扁平打石器を石鋸に転用している。10・11は扁平打製石器で、両側縁端部に両面調整がある。10は砂岩、11は閃緑岩。12は頁岩製つまみ付きナイフ、片面調整が両側縁および端部に及ぶ。13・14は砂岩のたたき石で、いずれも一側縁が潰れている。14はその側縁から端部にかけて潰れている。15は凝灰岩の石皿である。表裏面に溝状の凹みが2条ずつある。凝灰岩は長期間埋没したことが影響したためか、もろく崩れやすくなっている。16は安山岩の石皿である。表裏面に皿状の凹みを持つ。裏面とした側の凹み中央部には叩打痕がある。

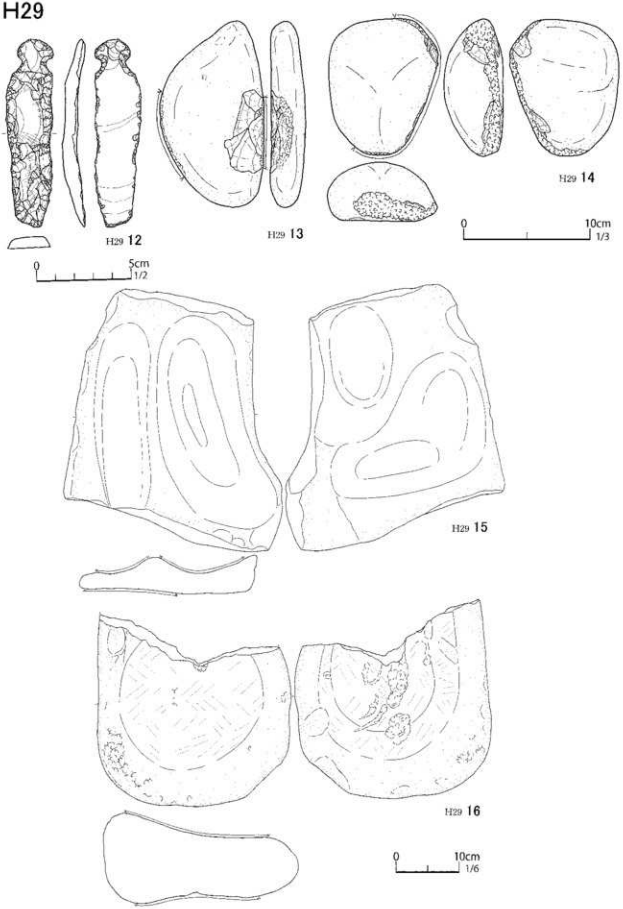
H30：1～8は床面出土である。1は頁岩製スクレイパーの刃部。一部調整が両面に及ぶ。つまみ付きナイフの端部の可能性がある。1・2は扁平打製石器である。安山岩製で両面調整が縁辺に及ぶ。3は砂岩製で両面調整が片側縁のみで、使用頻度がわずかなためか擦り面を形成するに及ばない。4・5・6はたたき石である。砂岩製で端部が潰れている。4・5は下端。6は上下端である。7は砂岩の台石である。表裏面に擦痕と叩打痕がある。8は安山岩の台石である。表面とした側の擦痕が顕著である。

H31：1・2は覆土1層、3・4・8～10は床面から、5～7は周溝覆土から出土した。1は頁岩の両面調整石器である。線対称な形状で先端は丸みをおびる。船底型を思わせる形状である。2は頁岩製の凹み石である。四面を持つ棒状で、二面ずつ表裏対応する凹みとその他の凹みによって構成される。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整のノッチ状の刃部を持つ。4は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎で線対称の形状である。両面に打ち欠きによる調整を持つ。5は頁岩の石核である。打面調整と思われる痕跡を縁辺に複数個所持つ。6は閃緑岩製の扁平打製石器である。楕円礫の長軸両端を打ち欠く。機能部は叩打によるものか大きく打ち欠かれている。7は安山岩の北海道式石冠である。楕円礫を短軸で割って、叩打によって持ち手の溝を成形する。機能部には叩打痕のみ見受けられ、未成品か、未使用の可能性がある。8は砂岩の砥石である。皿状に凹んだ砥石面が両面にある。9・10は砂岩のたたき石である。端部や側縁に叩打痕がある。9は正面観にも叩打痕があり、台石的な使用法も想定できる。

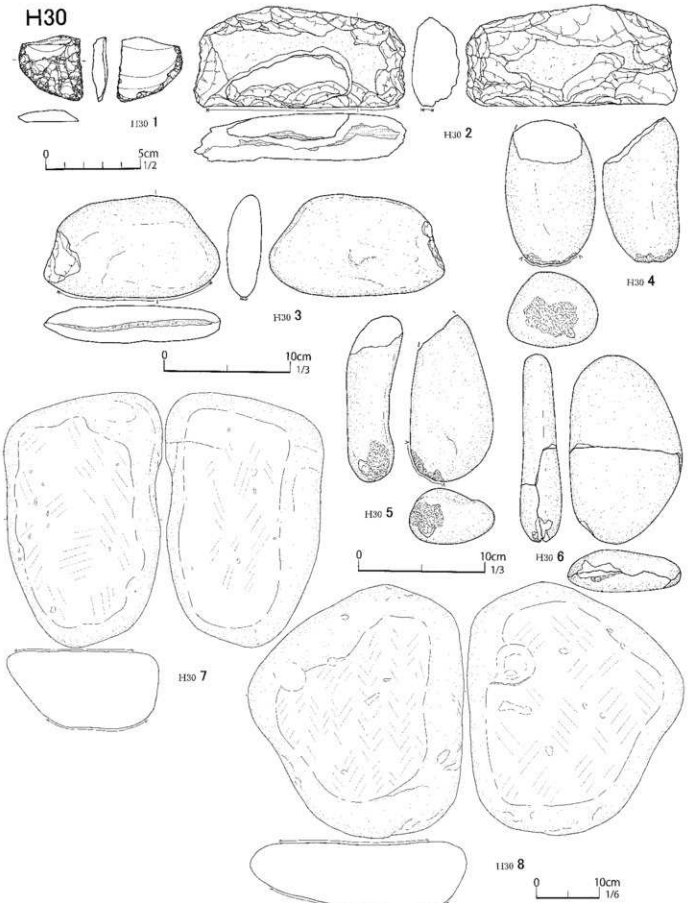


図Ⅲ－3－14　遺構出土石器　H29(1～11)

H29

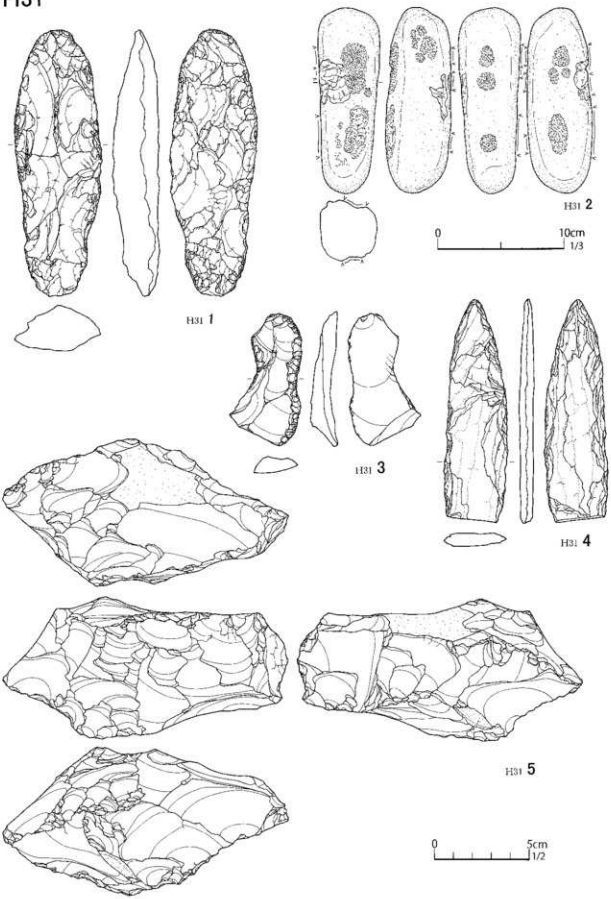


図Ⅲ－3－15　遺構出土石器　H29(12～16)

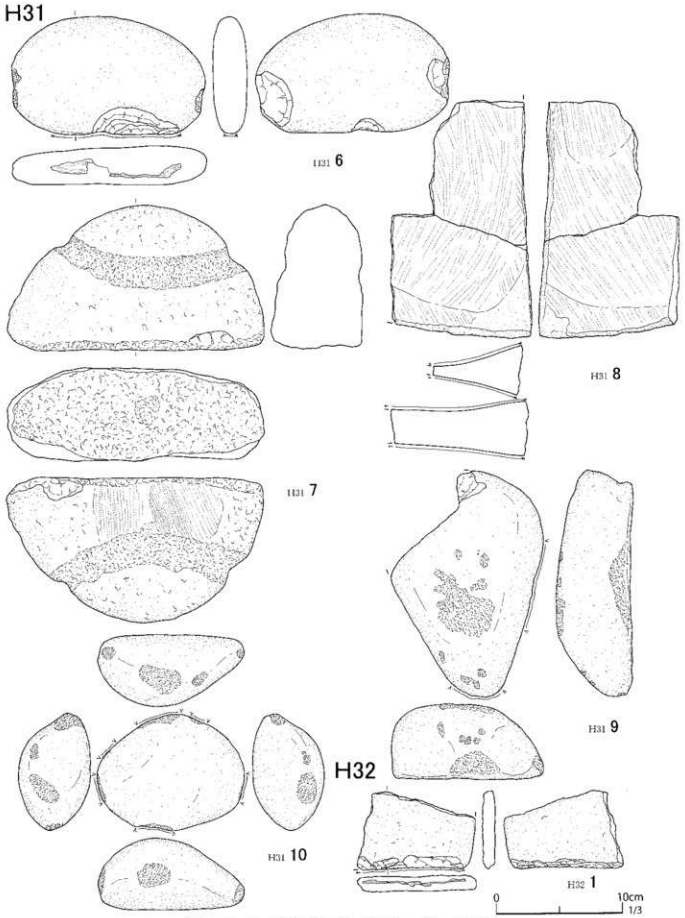


図Ⅲ－3－16　遺構出土石器　H30(1～8)

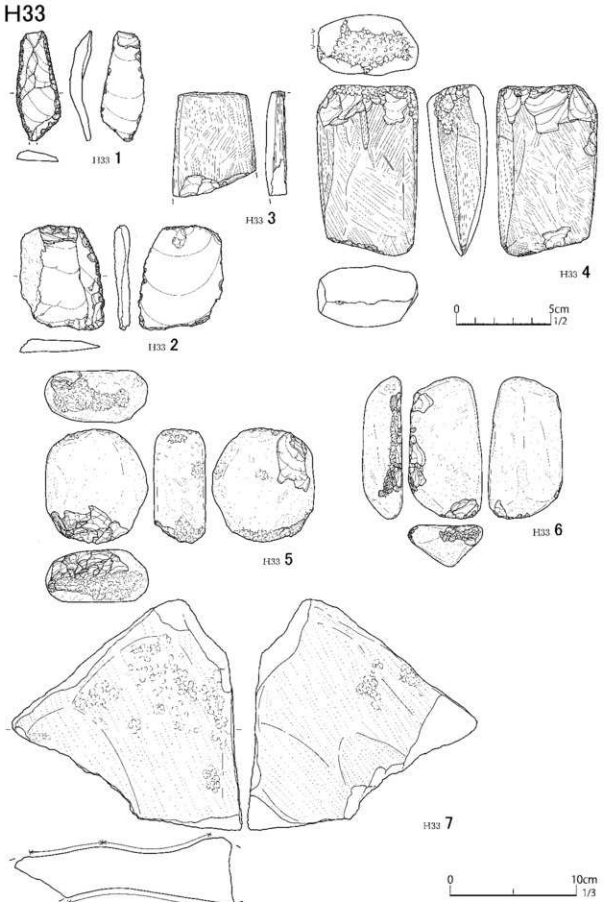
H31



図Ⅲ－3－17　遺構出土石器　H31 (1～5)



図Ⅲ－3－18　遺構出土石器　H31(6～10)・H32(1)



図Ⅲ－3－19　遺構出土石器　H33(1～7)

H32：1は床面からの出土である。1は安山岩の扁平打製石器である。相対的、比較的厚さが薄い。

H33：4は覆土1層、他は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパー。1は周縁に浅い片面調整が巡る。2は片側縁に片面調整がある。3・4は緑色泥岩の石斧である。3は基部が割れた片面側。4は刃部破片。割面は叩き潰されている。5・6はたたき石。5はメノウで、両端が潰れている。6は砂岩で下端と片側側縁が潰れている。7は砂岩の砥石で、凹み面が両面にある。石皿片の可能性もある。

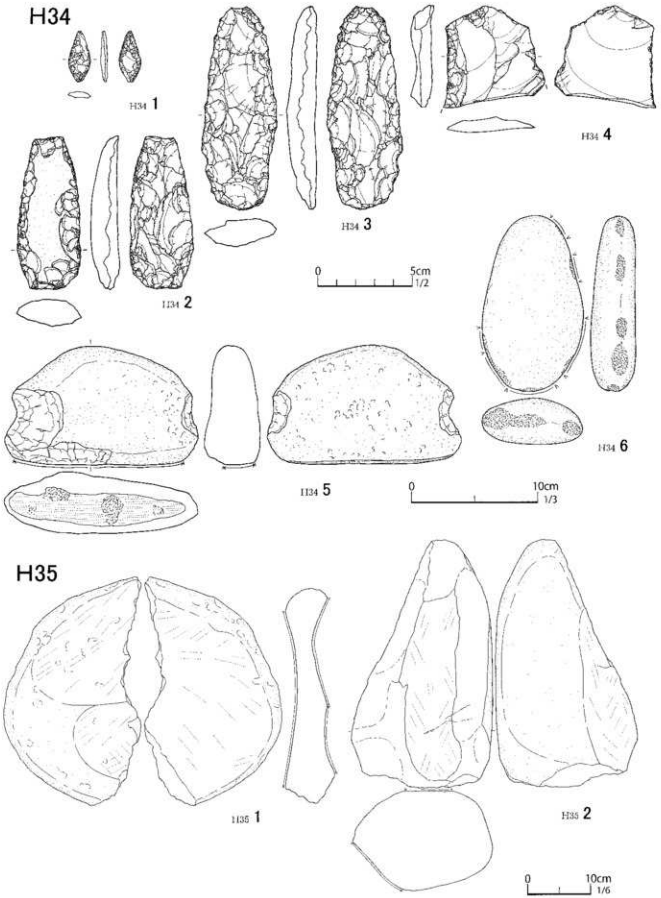
H34：1～6は覆土出土のものである。特に1・4・6は覆土4層からの出土である。1は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細く作り出したものである。小型である。2・3は頁岩製の両面調整石器である。先端は丸く、全体の形状は靴ベラのように湾曲する。4は頁岩製のスクレイパーである。片側の側縁に片面調整の刃部がおよぶ。5は安山岩製の北海道式石冠ないしは扁平打製石器である。両側縁にのみ成形がある。底面には微妙な叩打痕があるが明瞭な使用痕はない。正面裏面にも微妙な叩打痕がある。調整が側縁のみのため厚みのある扁平打製石器とした。

H35：1～3は覆土1層下位からの出土である。1は安山岩の石皿である。残存部の表面には皿状の凹みがあり、滑らかになるまで使い込まれている。裏面には楕円形の溝状をした凹みが2条ある。2は砂岩の石皿である。割れており、もとの形状は留めていない。擦痕があり、皿状の機能部を想定できたので石皿としたが、台石の可能性もある。3は安山岩の台石である。叩打痕と擦痕がある。

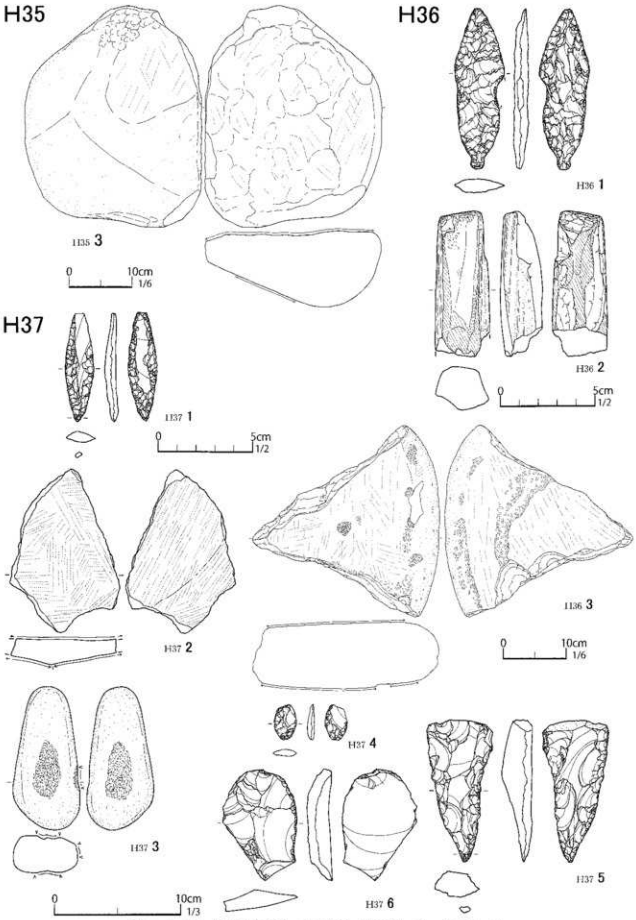
H36：1～3は覆土からの出土である。3は覆土4層のものである。
　1は頁岩製石槍又はナイフである。基部先端に小型のつまみが付く。2は緑色泥岩製の石斧である。基部片と考える。研磨部分には焼けて黒色化した油分が付着している。3は安山岩の石皿片である。擦痕と叩打痕が顕著である。

H37：1～3・10は覆土出土である。1・2は覆土1層3・10は覆土2層である。4・7・12～14は周溝覆土1層、5・6・8・9・11は床面出土である。1は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用なのか線対称である。平基無茎だが石鏃にしては全体に湾曲している。2は砂岩の砥石である。凹み面が表裏にある。石皿片の可能性もある。3は頁岩の凹み石である。表裏に凹みが対応する。4は頁岩製石鏃である。先端、基部ともに折損する。残存部から尖基で先を細く作り出しているものの可能性がある。5は頁岩製のドリルである。縁辺を深い剥離で調整する。6・7は頁岩製のスクレイパーである。6は片方の側縁に浅い剥離が巡る。7は端部に急角度の刃部が巡る。8は頁岩の両面調整石器である。9は頁岩の両面調整石器片である。10は安山岩の扁平打製石器である。比較的厚みがあるが、小型である。11は凝灰岩製の扁平打製石器である。側縁は素材の礫の形状を生かす。上端に一部調整がある。12・13・14は砂岩のたたき石である。亜円礫の端部に叩打痕を持つ。

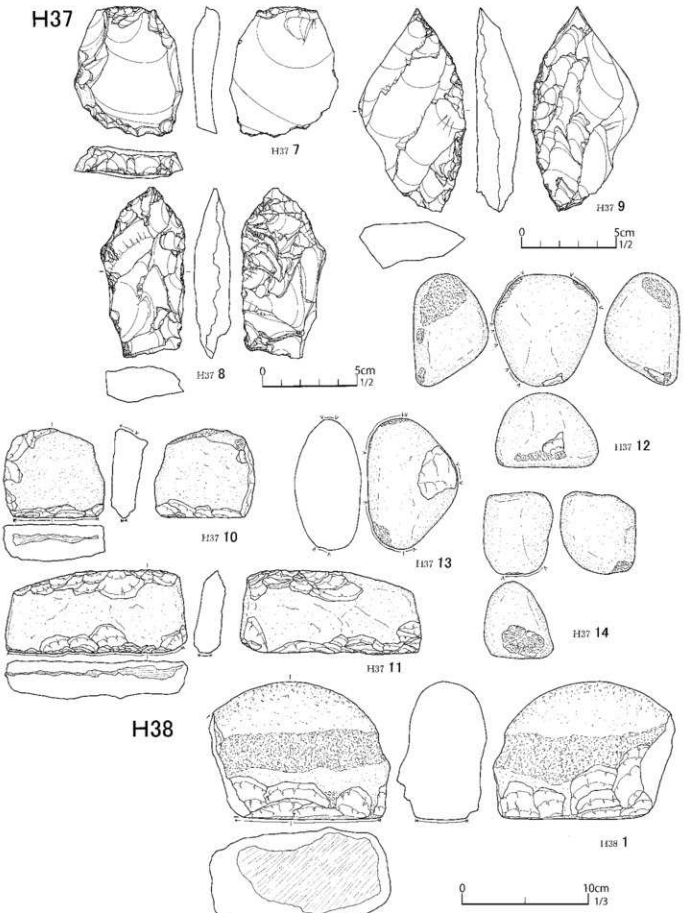
H38：1・2は床面、3～5は覆土出土である。1は北海道式石冠である。閃緑岩の楕円礫を割って機能面および持ち手部分の溝を成形する。機能部は平滑になるまで使いこまれている。2は頁岩製の石鏃である。基部のみ残存する。その形状から尖基で先を細く尖らせたタイプの石鏃という可能性がある。3は頁岩製のドリルである。つまみが付き、線対称の形状である。4は砂岩の石鋸である。大型の円礫を打ち欠いた破片を利用している。5は安山岩の石皿片である。凹み面が表裏にあり、対応する。



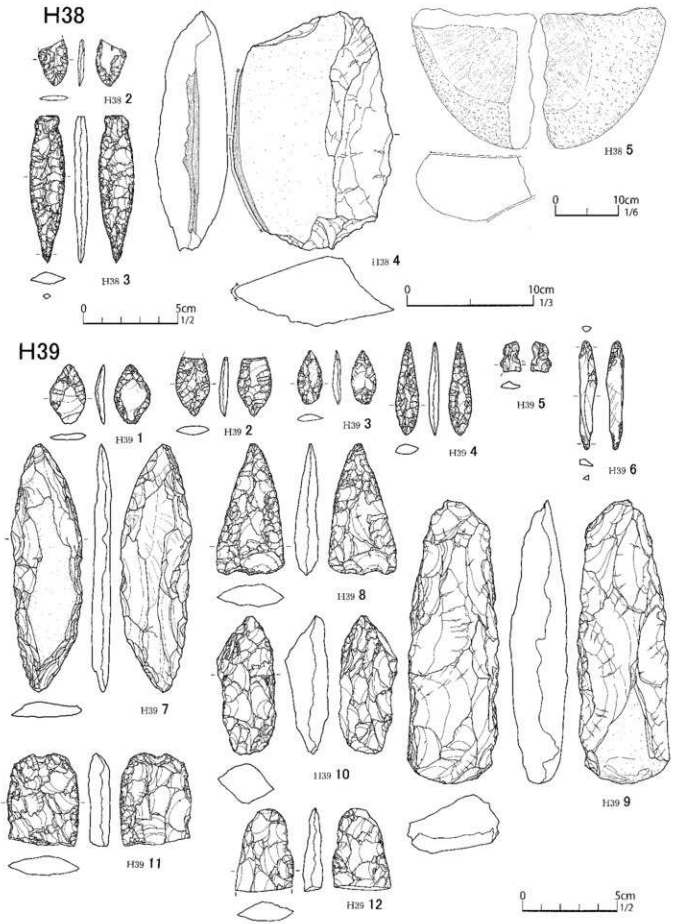
図Ⅲ－3－20　遺構出土石器　H34(1～6)・H35(1・2)



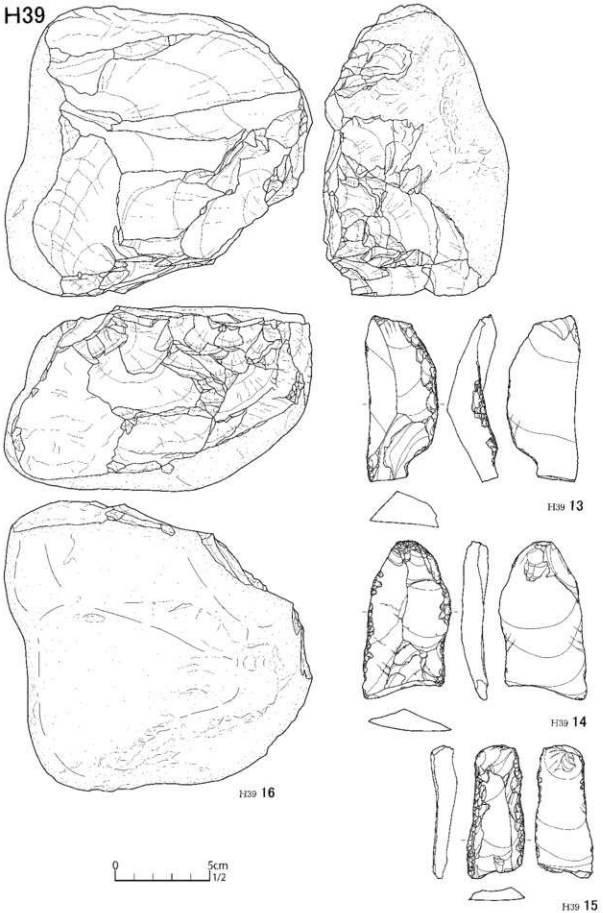
図Ⅲ－3－21　遺構出土石器　H35(3)・H36(1～3)・H37(1～6)



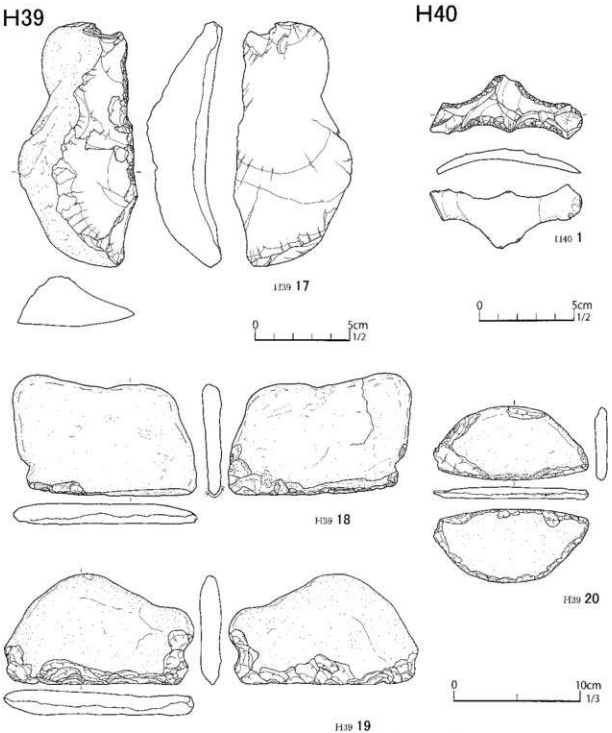
図Ⅲ－3－22　遺構出土石器　H37(7～14)・H38(1)



図Ⅲ－3－23　遺構出土石器　H38(2～5)・H39(1～12)



図Ⅲ－3－24　遺構出土石器　H39(13～16)



図Ⅲ－3－25　遺構出土石器　H39(17～20)・H40(1)

点取りNo.2である。

H39：1は床面、3～20は覆土からの出土である。1～4は頁岩製の石鏃である。1は成形が全面におよんでいないことから未成品の可能性がある。2の先端が折損しているものの、いずれも尖基で先端を細く作り出す形状のものに近い。5は黒曜石製のつまみ付きナイフ等のつまみ部分である。小型であることから石鏃の可能性がある。6は頁岩製のドリルである。棒状の素材の両端に錐を作出する。7・8は石槍又はナイフである。7は片岩製で両面打ち欠きによって成形される。尖基で木葉形で

ある。8は平基無茎で三角形をしている。頁岩で調整が両面全面におよぶ。9は頁岩の両面調整石器である。裏面下端に礫面を残すがほぼ両面全面に調整がおよぶ。打製石斧を思わせる形状だが下端両面にそれらしい使用痕はない。10～15は頁岩製のスクレイパーである。覆土南側から出土した。10～12は両面全面調整のものである。10は比較的厚みがある。11・12は折損している。13～15は片面調整である。13は一側縁に、14・15は両側縁に刃部を成形する。15は両側縁がおよそ平行な素材に、急角度の刃部を成形する。16は頁岩の石核である。大きく礫部分を残す。17は頁岩のスクレイパーである。礫面を残す厚めの素材の一側縁に刃部を成形する。18は安山岩製の扁平打製石器を石鋸に転用したものと考える。19は安山岩の扁平打製石器である。両側縁はノッチ状に打ち欠いて成形する。20は粘板岩製の扁平打製石器である。素材のもとの形状を生かして、半円形の形状に全体を成形し、機能部は直線的である。

H40：1は覆土からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ様の張り出し部が二か所線対称に展開する。

H41：1～5は覆土出土、6・7は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパーである。1は両側縁に急角度の刃部を持つ。2は一側縁に片面調整の刃部を持つ。3は黒曜石のつまみ付きナイフのつまみ部分である。明瞭な刃部はないが、刃部に相当する部分に潰れ痕がある。4・5は同じ場所から出土した石核である。6は頁岩製の両面調整石器である。肉厚の大型尖頭器が折損したかのような形状である。7は安山岩製の石皿片である。表裏に皿面があり、被熱する。

H43：1～3は床面出土である。1は頁岩製のドリルである。つまみを持ち、線対称な形状である。2は珪岩製のスクレイパーである。一側縁に剥離が並び、鈍い刃部を持つ。3は頁岩の石核である。

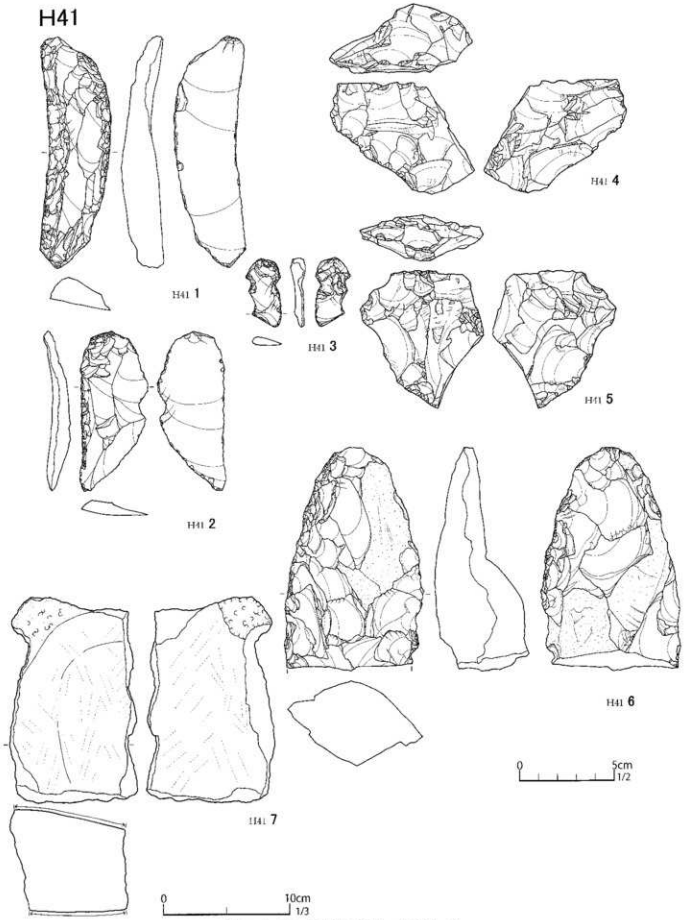
H44：1～3は床面出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。両方の先端が折損している。全面に調整が及ぶ。2は頁岩の石核である。3は砂岩製の扁平打製石器である。楕円礫の両端に打ち欠きがある。素材が肉厚なため幅広い機能面を持つ。

H45：1・2はHF－1覆土2層からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損して無い。2は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁と頂部について両面から調整がおよぶ。

H46：1は床面からの出土である。1は頁岩の石核である。円礫の端を割りそこから剥片を打ち剥がす。打面の転移が見られる。

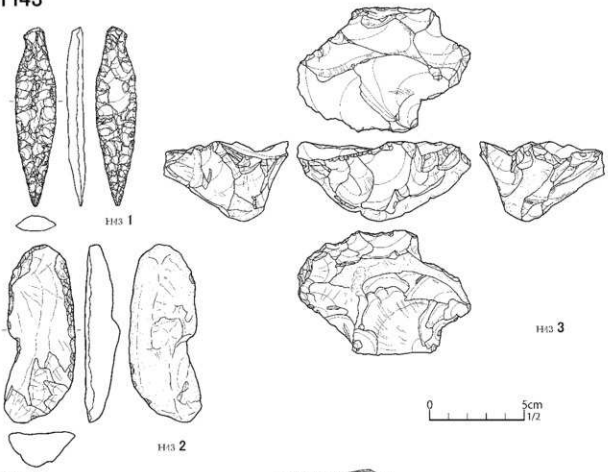
H49：1は覆土1層からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ状の張り出しがある。

H51：1・2は覆土からの出土である。3～8は床面からの出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で木の葉型である。調整は両面全面におよぶ。2は線刻礫片である。正面図に示したのは割れる前、礫の形状に対しての正中線を施した可能性を考える。裏面の擦痕は洗浄時のブラシ痕の可能性がある。もろい凝灰岩である。3・4は砂岩のたたき石である。礫の端部に叩き痕を持つ。3が上下端、4が下端である。5・6は扁平打製石器である。5は砂岩製で両側縁に叩打による成形がある。

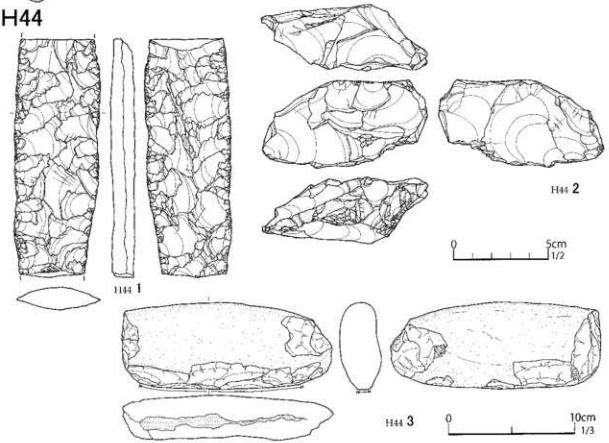


図Ⅲ－3－26　遺構出土石器　H41 (1～7)

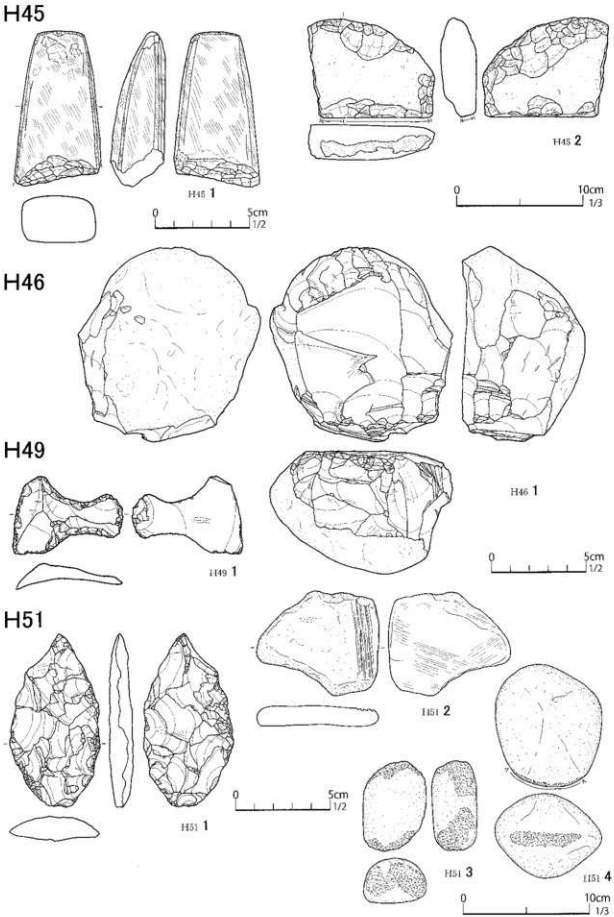
H43



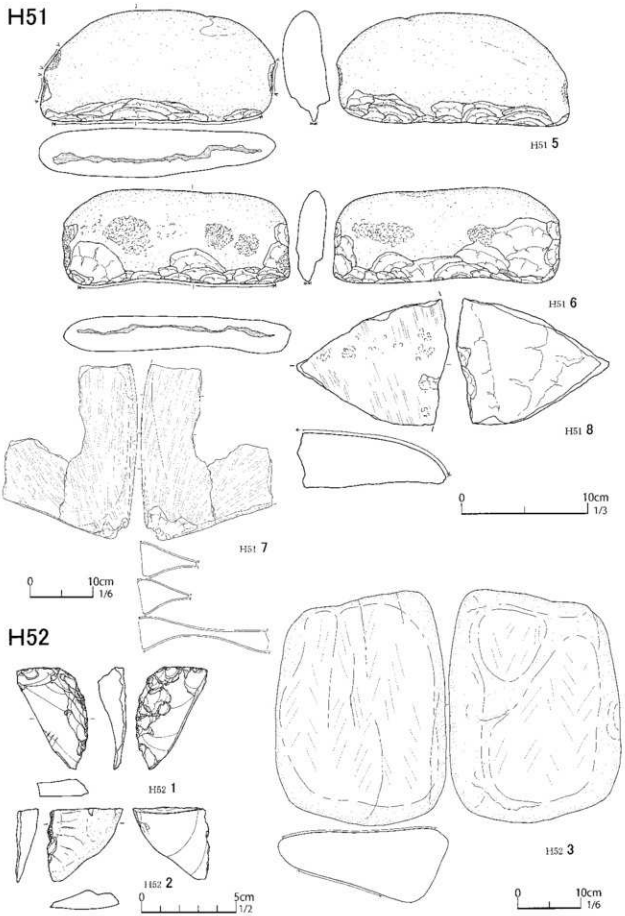
H44



図Ⅲ－3－27　遺構出土石器　H43(1～3)・H44(1～3)

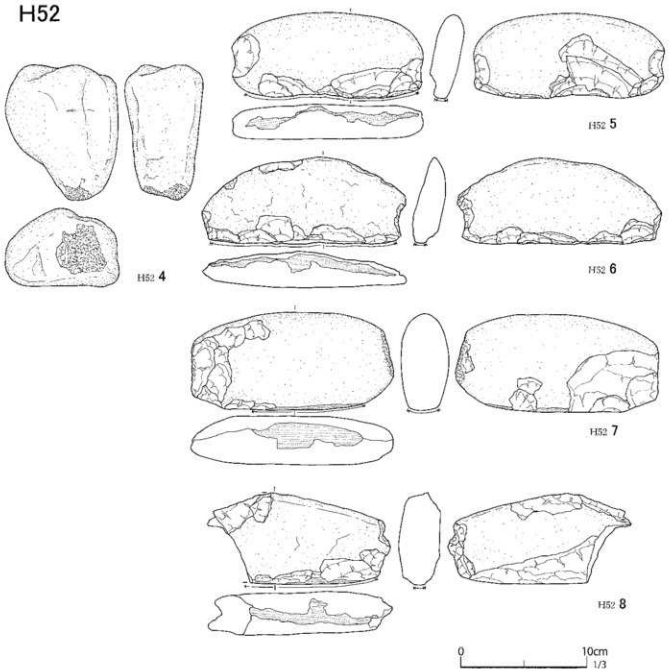


図Ⅲ－3－28　遺構出土石器　H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1～4)

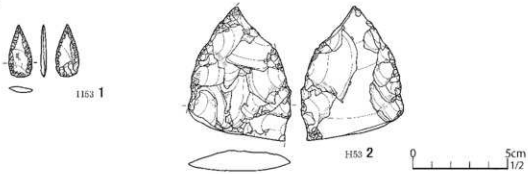


図Ⅲ－3－29　遺構出土石器　H51(5～8)・H52(1～3)

H52



H53



図Ⅲ－3－30　遺構出土石器　H52(4～8)・H53(1・2)

6は凝灰岩製で両側縁に両面からの打ち欠き調整がある。表裏面に、ほぼ対応した敲打による凹みがある。7は安山岩製の石皿である。凹みのある皿面を両面に持つ。砥石的な使用も考えられる。8は砂岩の台石片である。縁辺の一か所に叩打痕がある。叩き石として破片を用いた可能性がある。

H52：1～8は床面からの出土である。1・2は頁岩製のスクレイパーである。1は両面調整、2は片面調整である。3は砂岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は砂岩のたたき石である。下端に叩打痕を持つ。5～8は扁平打製石器である。5～7は閃緑岩製で、両側縁に両面からの打ち欠きによる成形がある。8は砂岩製で、残存する側縁と頂部に両面からの打ち欠きによる成形がある。

H53：1は覆土1層、2は覆土2層からの出土である。1は頁岩製の石鏃である円～平基で先端を細く尖らせて作り出す。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。2は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で残存部から木葉形のものと考える。

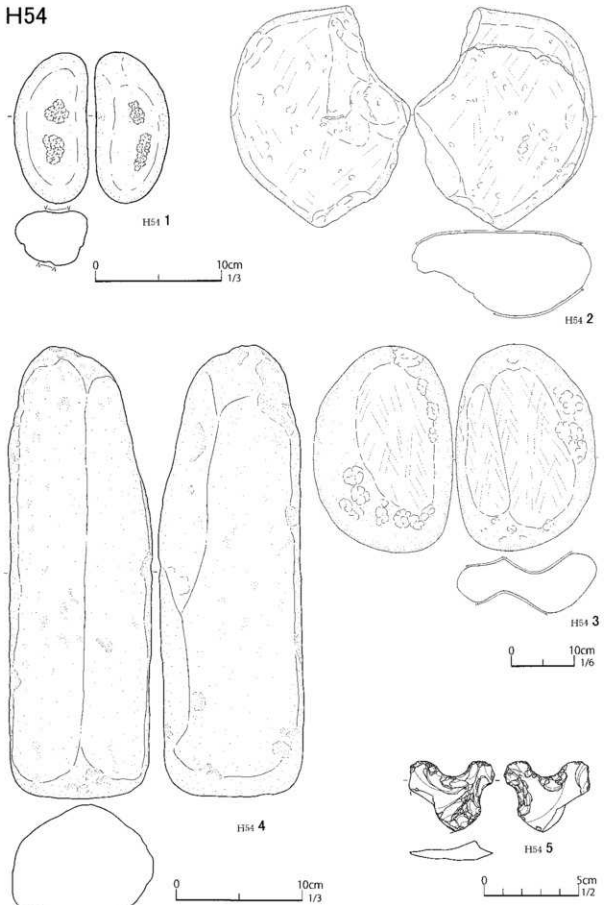
H54：1～3は覆土2層からの出土。4は床面からの出土、5はHF1覆土2層からの出土である。1は安山岩製の凹み石。表裏対応する凹みが礫の長軸上に並んで二対ある。2は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが表面に1条、裏面2条ある。表面には叩打による顕著な凹みが複数個所観察できる。3は安山岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は断面五角形の棒状礫である。安山岩で、その形状から、礫選択時に石棒的意味合いを求めて持ってきた可能性がある。5は頁岩製の異形石器である。折損しているが、つまみが二対ついた形状を思わせる。

H55：1～5は覆土1層からの出土で扁平打製石器である。1・2は閃緑岩。3は安山岩、4・5は流紋岩である。1・2・4は両側縁に、3は両側縁の可能性があり、5は片側縁に両面調整の成形がある。3は幅の厚みが顕著である。

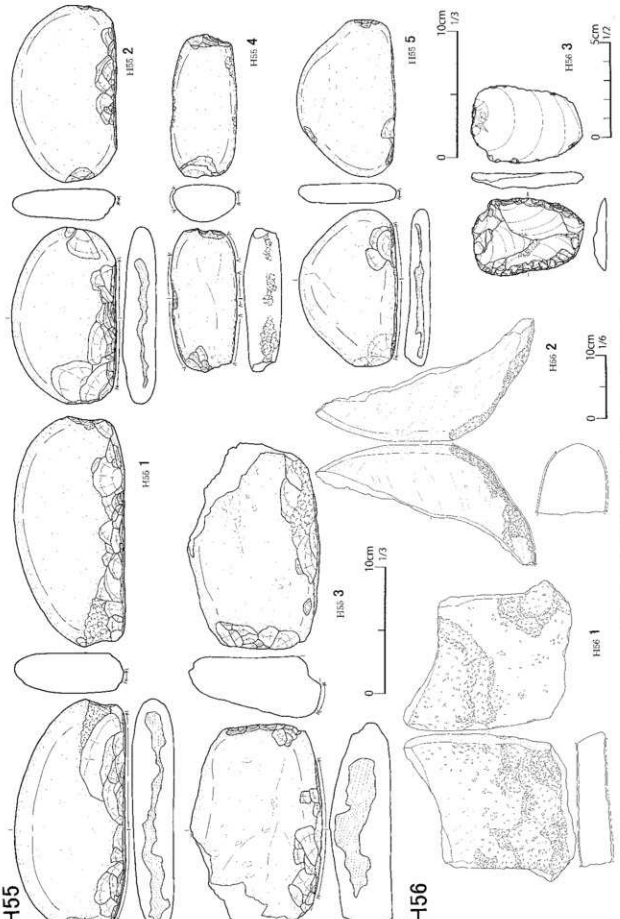
H56：1・2は覆土からの出土、3は床面からの出土である。1・2は安山岩製の台石である。1は両面に叩打痕がある。2は被熱によるものか割れている。3は頁岩製スクレイパーである。正面両側縁に片面調整の刃部がある。

H57：1・2は床面、3は覆土からの出土である。1は安山岩の台石である。表面は平滑部分が顕著であり、裏面は被熱の為か赤色化している。2は安山岩製の石皿で両面の凹部が顕著である。3は滑石製の玦状耳飾りである。三角形のもので抉り部分から割れた片側である。

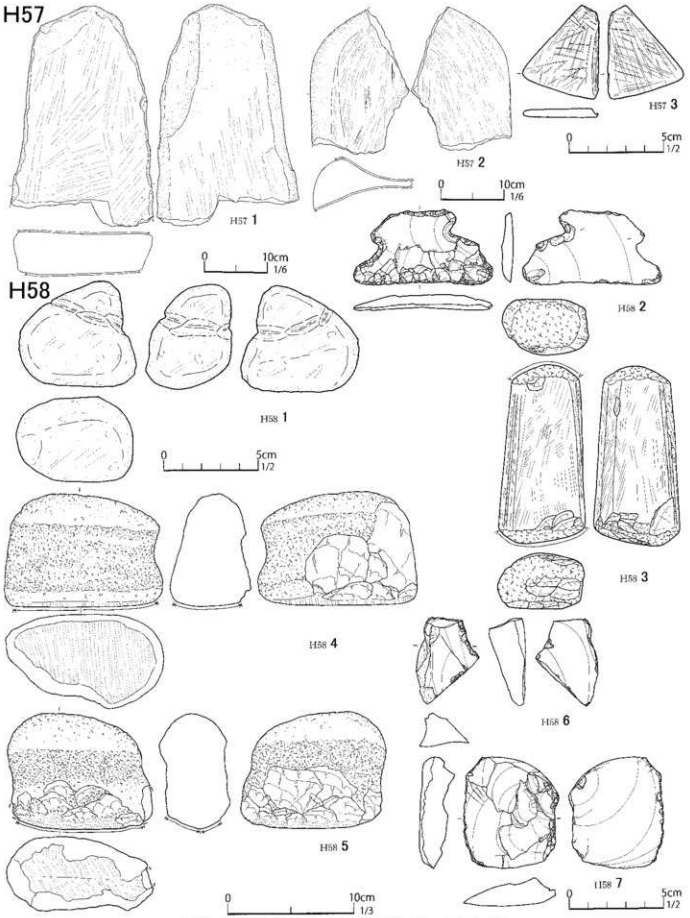
H58：1～3は覆土からの出土である。4・6・7は床面からの出土である。5はHP－1覆土4層からの出土である。1は軽石製石製品。北海道式石冠の模造品の可能性もあるが、浮子を思わせる形状でもある。2は頁岩製つまみ付きナイフ。横長で装着部の幅が広い。3は緑色泥岩製の石斧を転用したたたき石である。両端にたたき痕がある。刃部は折損後潰れている。4・5は北海道式石冠である。叩打調整が全面におよび、持ち手を形成する。4は安山岩製で機能部は平滑になるまで使いこまれている。5は閃緑岩製で、被熱により割れている。6・7は頁岩製スクレイパーである。刃部は浅い調整で、潰れている



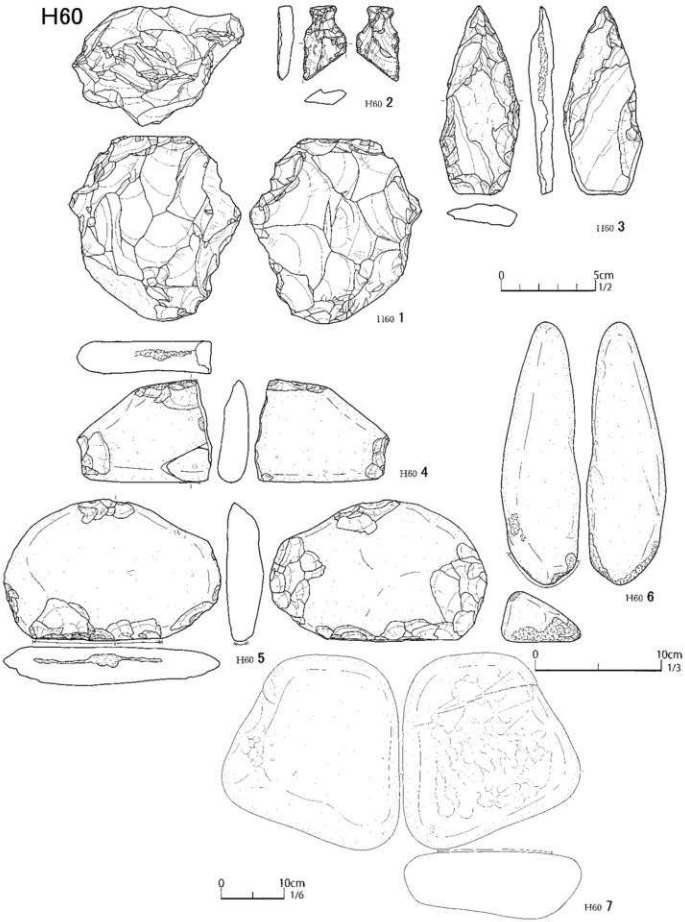
図Ⅲ－3－31　遺構出土石器　H54(1～5)



図Ⅲ－3－32　遺構出土石器　H55(1～5)・H56(1～3)



図Ⅲ－3－33　遺構出土石器　H57(1～3)・H58(1～7)



図Ⅲ－3－34　遺構出土石器　H60(1～7)

H60：1・5・6は周溝からの出土、2・3は覆土からの出土、4は中央砂部分、7は床面からの出土である。1は頁岩の石核。二回ほど打面の転移が見受けられる。2は黒曜石製のつまみ付きナイフ。刃部の調整は浅く細かい。3は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎。両面に打ち欠きによる調整がある。4・5は扁平打製石器。4は流紋岩製で残存する側縁と上端に潰れ痕ができるほどの両面調整。下面に機能部を想定したが割面と連続する剥離がある。未使用と考える。5は流紋岩製。両側縁と上端に両面からの調整。6は砂岩のたたき石。長い礫の下端に潰れ痕がある。7は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H62：1・2・4は覆土からの出土である。3は床面からの出土である。5はHP－4覆土からの出土である。
　1は頁岩製の異形石器。翼形の張り出しが作出される。2は片岩製の石槍又はナイフ。凹基無茎で打ち欠き調整が両面に及ぶ。3は頁岩の石核である。打面を一か所持つ。4は黒曜石製のつまみ付きナイフである。刃部は微妙な潰れ痕があるのみで不明瞭である。

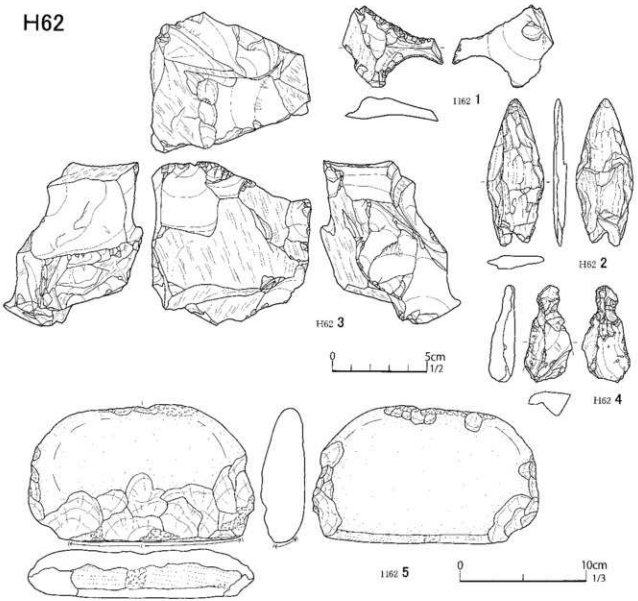
H63：1は床面からの出土で、安山岩製の石皿である。北海道式石冠によるものか、溝状の擦り面が両面全面に及ぶ。一か所両面からの溝底面が重なっている部分が、貫通して孔となっている。

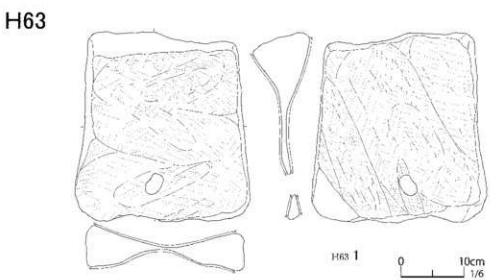
H64：1～3は床面からの出土である。4はHP－5覆土1層からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパーである。1は一側縁に明瞭な片面調整の刃部を持つ。2は端部が掻器となっている。3は頁岩の石核である。4は安山岩で、両側縁と底面の調整痕と全体的な形状から北海道式石冠の未成品と考える。

H65：1は床面からの出土で、砂岩製扁平打製石器である。両側縁と頂部に両面調整の成形がある。

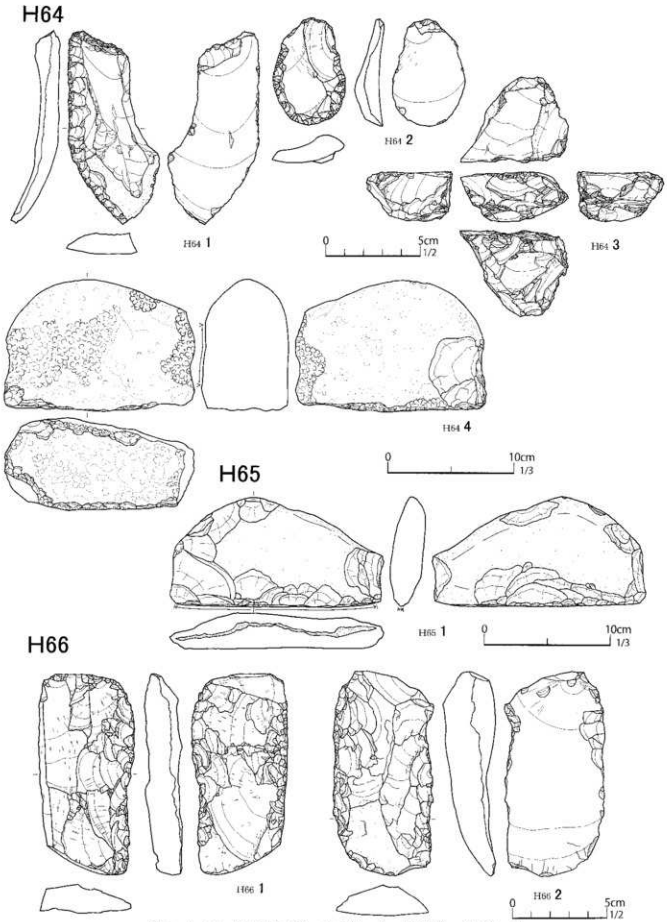
H66：1～5は床面からの出土である。1～3は頁岩製のスレイパーである。1は片側縁に両面調整の刃部を持つ。2・3は両側縁に片面調整の刃部を持つ。1・2は刃部を持つ面について調整が全面に及ぶ。4は安山岩の台石である。片面に顕著な擦痕がある。5は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H67：1～8・10・11は床面からの出土である。9はHF－1覆土1層からの出土である。1は頁岩製の石鋸である。石槍又はナイフの片側側縁に石鋸特有の擦り面を持つ。2・3は頁岩製スクレイパーである。いずれも短いながら両面調整の刃部を持つ。4は頁岩製つまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つが片側の剥離が長い。5は緑色泥岩製の石斧基部である。打ち欠きと研磨によって成形した痕跡がある。6は顕著な使用痕が表裏面にある安山岩である。どちらの面にも不規則に3条ほど幅広く楕円形の凹みが溝状にある。研磨の際砥石として用いたか、北海道式石冠ないしは扁平打製石器に対応する石皿として用いたものと考える。7・8は砂岩の台石である。叩打痕がある。9は凝灰岩製の線刻礫である。片面にかすかだが正中線を意識した線の集中がある。10・11は扁平打製石器である。10は安山岩製である。残存する側縁に両面からの打ち欠き成形がある。11は砂岩である。上端に両面からの成形があるが、機能部は片面のみの成形で叩打痕は礫の下面全面にはおよばず縁辺のみである。

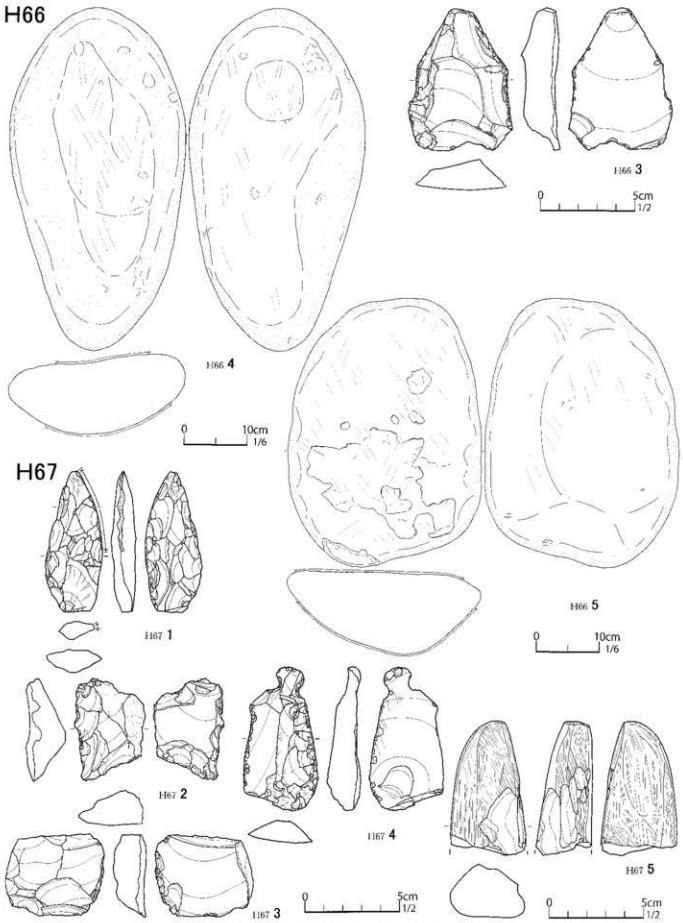




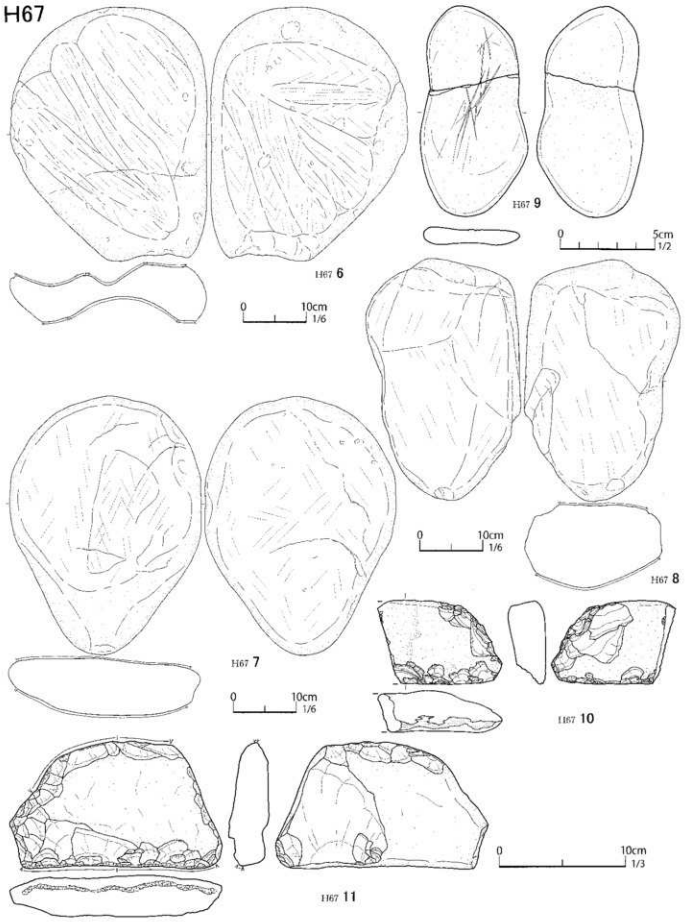
図Ⅲ－3－35　遺構出土石器　H62(1～5)・H63(1)



図Ⅲ－3－36　遺構出土石器　H64(1～4)・H65(1)・H66(1・2)



図Ⅲ－3－37　遺構出土石器　H66(3～5)・H67(1～5)



図Ⅲ－3－38　遺構出土石器　H67(6～11)

(2) 土坑

P43：1～17はいずれも覆土2層下位出土の、頁岩製石鏃である。1・2が凸基有茎。1はあぐが特に張り出す。ほかは尖基で先端を細長く作り出すものである。8・10・14は菱形に近い。

P51：1～3は覆土から出土した。1は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用か、凸基有茎を思わせる。上下端に錐部を持つ。2は緑色泥岩製の石斧である。全面に研磨がおよび片側のしのぎが顕著である。3は頁岩の異形石器である。不整な張り出し部を三か所持つ。

P55：1～4は土坑底面からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は片面にしのぎが顕著で偏刃である。2は頁岩製の石槍又はナイフである。凸基有茎で先端はするどく線対称である。3・4は頁岩製つまみ付きナイフである。いずれも両側縁に刃部を持つ。4の剥離は長い。

P56：1～14は覆土出土、15～19は土坑底面からの出土である。1・2は石槍又はナイフである。1は頁岩製、2は片岩製である。1は凹基無茎であり、あぐが非対称である。2は両面に打ち欠きがおよび線対称ではない。3は緑色泥岩製の石斧の刃部である。残存部全面研磨で成形され、刃部は叩打痕で潰れている。4は緑色泥岩の擦り切り残片である。数面に顕著な擦り切り痕跡が残る。5は頁岩の石製品である。全面に研磨がおよび面取りがなされている。6～11・16は扁平打製石器である。11・16が流紋岩で、側縁に打ち欠きによる成形を持つ。他は砂岩で縁辺に打ち欠きによる成形がある。11は機能部が想定できる部分に使用痕が無く未成品である。12・15はたたき石。12は砂岩で、側縁に複数の使用痕がある。15は珪岩で、端部に一か所使用痕がある。13は凝灰岩製の砥石片である。砕片なので石皿の可能性もある。凹んだ皿部の破片である。14は砂岩の砥石である。三面の砥石面を持つ。17は頁岩製のスクレイパーである。円形にめぐる刃部正面観を持つ。18と19は厚みのある長楕円礫、ないしは短い棒状礫である。いずれも石棒的意味合いを持つ可能性がある。18は安山岩、19は砂岩である。18は正面とした側の中央に叩打痕がある。

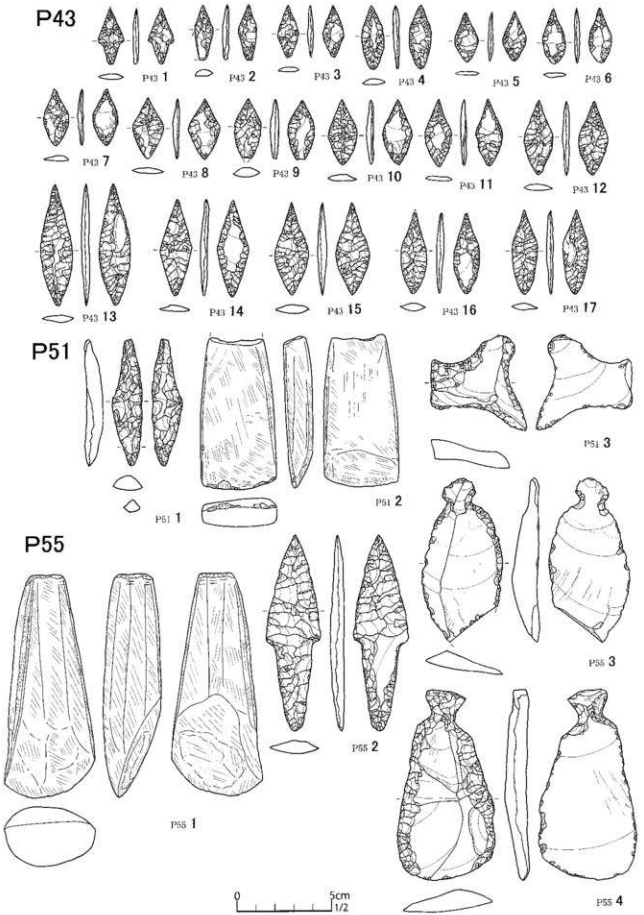
(3) Tピット

Tピットについて、抽出、図化した石器類は無い。

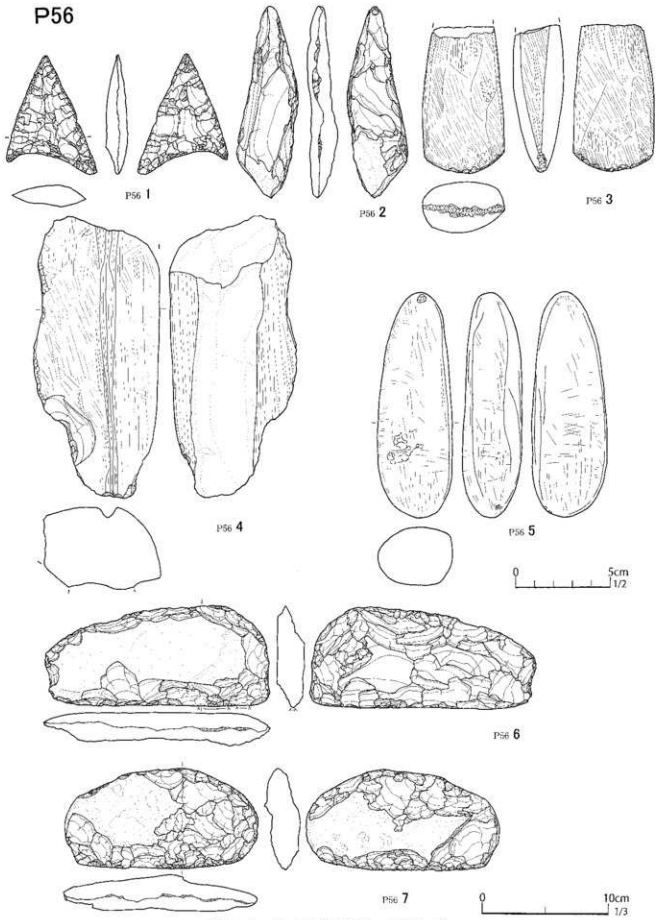
(4) 焼土

F79：1～3はF79と同一検出面であるH19覆土からの出土である。1は覆土1層、2・3は覆土3層からの出土である。1は安山岩で、底面そして頂部にかけて残る叩打調整と大きさから北海道式石冠の未成品と考える。2は閃緑岩製の北海道式石冠である。全面に叩打調整がおよび、平担な頂部と溝状の持ち手を有する。3は砂岩のたたき石である。一端が叩打によって潰れる。

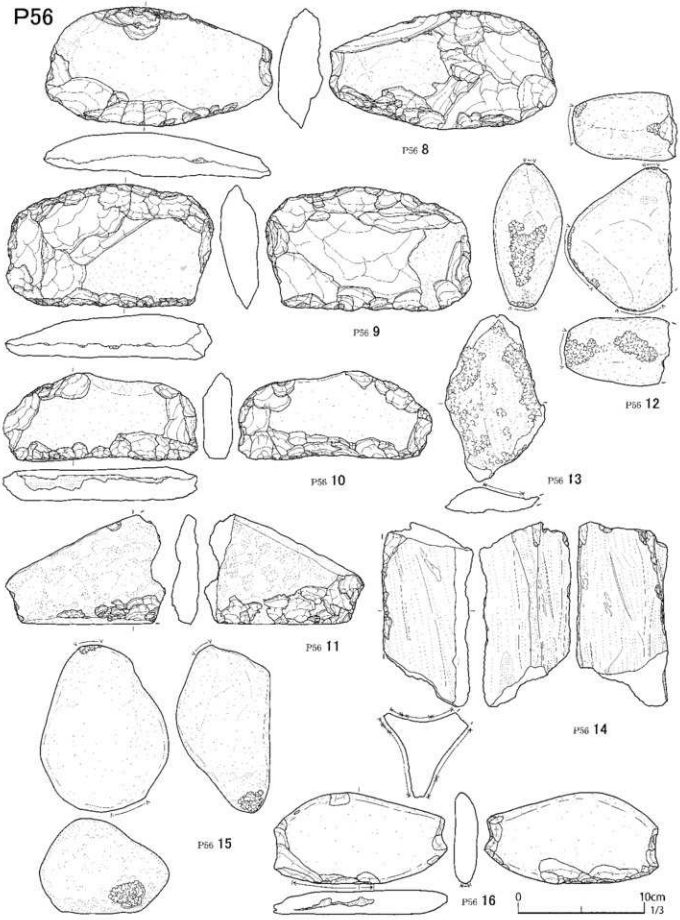
F82：1・2は沢1層、3は覆土1層からの出土である。1は流紋岩製の扁平打製石器である。縁辺を両面から成形し、比較的小型である。H57、H58付近から出土しているものを思わせる。2は安山岩製の北海道式石冠である。叩打による溝を頂部と持ち手に施す。3は凹み石である表裏対応する一対の凹みを持つ。



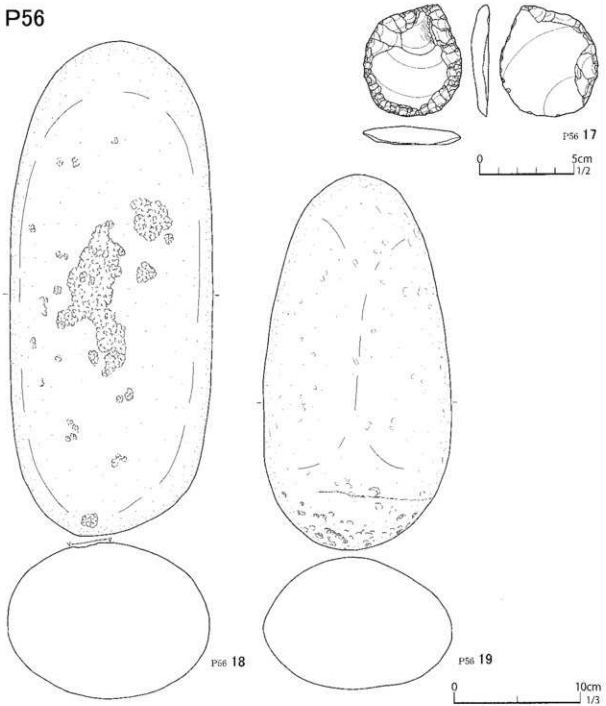
図Ⅲ－3－39　遺構出土石器　P43(1～17)・P51(1～3)・P55(1～4)



図Ⅲ－3－40　遺構出土石器　P56(1～7)



図Ⅲ－3－41　遺構出土石器　P56(8～16)



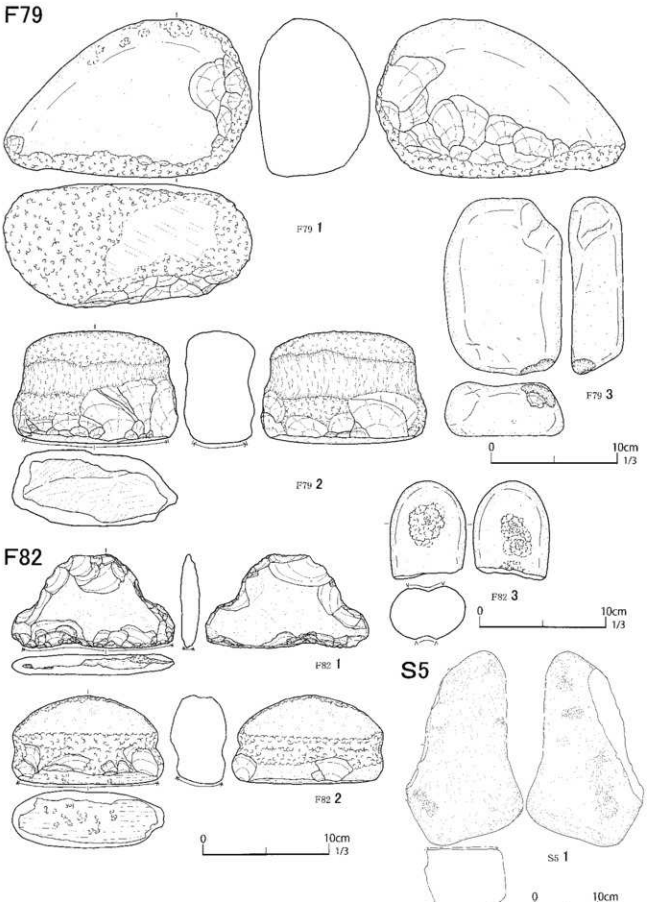
図Ⅲ－3－42　遺構出土石器　P 56（17～19）

(5) 集石

S5：1は覆土1層からの出土で、砂岩の台石である。叩打痕がある。

(6) 遺物集中

遺物集中について、抽出、図化した石器類は無い。　（大泰司）



図Ⅲ－3－43　遺構出土石器　F79(1～3)・F82(1～3)・S5(1)

表Ⅲ－４　遺構出土掲載復元土器一覧

掲図番号	遺構名－掲載番号	土器分類	復元番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	出土地点	器形	備考・編年的位置付け	胎土に繊維の有無	胎土に…の有無	その他に胎土に含まれる特徴的なもの	内面調整口縁上半部	内面調整口縁下半部	内面調整胴部上半部	内面調整胴部下半部	内面調整その他	口縁部文様帯〜底部の各項目
図Ⅲ-2-1	H19-1	円筒上層a式最新段階	397	28.8	(21.0)	—	H19覆土1層1587-H19覆土1層3679	深鉢	3679と接合・1587と接合			白色粒	横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-1	H19-2	円筒下層d2式	238	20.0	26.0	9.0	H19覆土1層1068	深鉢		有	有	小石	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	磨滅により不明瞭	[illegible]
図Ⅲ-2-1	H19-4	円筒下層d2式	546	14.0	18.0	8.5	H19覆土1層4106	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-2	H19-4	円筒下層d2式	499	23.0	46.0	12.5	H19覆土2 350	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	斜めミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-3	H20-1	円筒下層d1式古段階	400	24.0	(34.0)	—	H20北トレンチ	深鉢		有	少量	砂	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-3	H20-2	円筒下層d2式	241	15.0	26.0	9.0	H20西ベルト覆土242	小型深鉢		有	有	砂	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨滅により不明瞭。	[illegible]
図Ⅲ-2-3	H20-3	円筒下層d1式古段階	281	23.0	33.0	11.2	H20東ベルト覆土341	深鉢		有	有		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-3	H20-4	円筒下層d2～e式	180	21.0	36.5	10.0	H20西ベルト覆土242	深鉢		有		砂粒	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-4	H21-1	円筒下層d式最古(c式に近い)	130	18.5	15.0	10.0	H21覆土1層上面床面153	深鉢		有	少量		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	[illegible]
図Ⅲ-2-4	H21-2	円筒下層d式最古(c式に近い)	116	18.5	25.5	9.5	H21覆土1層上面床面153	深鉢		有		白色小石粒	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-4	H21-3	円筒下層d1式古段階	115	13.5	13.5	9.5	H21覆土1層上面北側207	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-4	H21-4	円筒下層d1式古段階	111	21と15.5	29.0	11.0	H21覆土1層上面北側207	深鉢		有		小石	横ミガキ	横ミガキ	ミガキ	ミガキ	[illegible]	[illegible]
図Ⅲ-2-6	H21-5	円筒下層d式最古(c式に近い)	112	19.0	31.0	11.0	H21覆土1層上面床面153	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-7	H21-6	円筒下層d1式古段階	113	19.0	36.0	11.0	H21覆土1層31	深鉢		有		小砂粒	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	磨滅著しく不明瞭。	[illegible]
図Ⅲ-2-7	H21-7	円筒下層d1式古段階	114	22.3	36.5	11.0	H21覆土1層上面北側206	深鉢		有	少量		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-7	H21-8	円筒下層d式最古(c式に近い)	271	17.0	20.5	10.5	H21覆土3層34	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-7	H21-9	円筒下層d1式古段階	294	21.0	28.0	11.0	H21覆土1層31	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-8	H21-10	円筒下層d1式古段階	118	21と24	37.5	13.5	H21覆土1層31	深鉢		有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-8	H21-11	円筒下層d1式古段階	297	19.0	(27.0)	(12.5)	H21覆土2層ベルト中住258	深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-12	H22-1	円筒下層d2式	196	30.0	27.0	13.0	H22覆土3層2	深鉢		有	少量		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-13	H23-2	円筒下層d2式	252	11.5	14.0	7.0	H23覆土1層41	小型深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-14	H23-1	円筒下層d2式	234	11.5	10.0	5.5	H23覆土239	小型深鉢		有	有		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]
図Ⅲ-2-14	H23-2	[illegible]	272	12.0	(21.0)	—	H23覆土135	小型深鉢	湯元式～トリサキ式			細かい砂	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]

埋蔵遺構	遺構名・周溝遺構	土器分類（石器・石製品・ガラス）	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	出土地点	層名	備考・編年的位置付け	内面に黒色処理されたものを○印	内面に黒色処理 上半部	内面に黒色処理 下半部	内面に黒色処理 上半部	内面に黒色処理 下半部	内面に黒色処理 その他	口縁部文様帯 深鉢	口縁部文様帯 浅鉢・鉢・注口土器	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 (cm)	口縁部文様帯 深鉢・鉢・注口土器	頸部単帯 深鉢	頸部多帯 鉢・浅鉢	頸部縦文	頸部無文の有無	頸部多段の有無	頸部その他	底部刻目	底部文様	底部その他
竪穴	H23-2	浮島Ⅱ	27	—	15.0	4.0	H23竪上2区	中期末～コソリキ式	有					上げ	大波	大波		大波		大波					上げ	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-4	円筒下層a式直前（a式に近い）	210	14.5	23.5	9.0	H23竪上2	小型深鉢	無	無	無	無	無		隆帯	無		4.0	2.0	結束第一種沿線文。	円L結束沿線。	結束L沿線。				無	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-5	円筒下層a式	30	16.5	21.5	9.5	H23竪上2	深鉢	無	無	無	無	無		隆帯	隆帯と口縁部に沿結束第一種沿線。		5.0		結束第一種沿線文。	円 結束 沿線。					平底	切り込み上げ	無
竪穴	H23-6	円筒下層a式新段階	385	22.0	25.0	12.3	H23竪上2	深鉢	円筒下層a式新段階（a式の一点混在）	有	有	白色処理	上げ	上げ	隆帯	口縁に沿結束沿線。	円L結線によって波型を表現した文様。	4.5	1.5	結束第二種沿線文。	円 結束 沿線。		頸部中央に口縁部波型子と共通。		上げ	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-17	H25-1～3	円筒下層a式	276	21.0	22.0	10.0	H23竪上2層上2	深鉢	無	無	無	無	無	隆帯	口縁と頸部に円結束沿線。	円L結線によって波線構成。	3.0	1.0	円結合結束。	L結 結沿線。		波型。		上げ	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-18	H26-1～2	円筒下層a式～c式	456	18.0	40.0	18.5	H26-2 ※H26-1は第2層上2・H26層上2	深鉢	円筒下層a式古段階（第2層上2・H26層上2）	有	有	○	上げ	上げ	上げ	隆帯	隆帯上、結束が、波線。下部側に結束沿線。	円L結線によって縦線状文。	5.0					円L円結、L円L結びして円L結び結合。	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-19	H26-2	円筒下層a式～c式	447	23.0	51.5	14.5	H26-2 ※H26-1は第2層上2・H26層上2	深鉢	円筒下層a式古段階（円筒下層a～c式混在）	有	有		上げ	上げ	上げ	隆帯、垂上底下及び口縁直下に本一線の隆帯。	底部直面側に結束。	底部上半分は底部直面側に結束。下半分は底部は結束沿線。	5.0	底部上半分は底部直面側に結束。下半分は底部は結束沿線。					切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-20	H26-3	円筒下層a式～c式	506	25.5	48.0	—	H26竪上2（※第3層上2）	深鉢	円筒下層a式古段階（円筒下層a～c式混在）	有	有		上げ	上げ	上げ	隆帯	隆帯上、縦線。底面。	L字縦文頸部毛の字。半裁竹管の横と刻面で竹結び。円L円結合L円L結結文支。一部L円L結結で結合の一線。	8.0		円 結束1種沿線。	頸部上半L円L結結沿線。結束。		大波	大波	切り込み上げ	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-30	H26-4	円筒下層a式～c式	477	18.5	44.0	16.5	H26竪上2（※第3層上2）	深鉢	円筒下層a式古段階（円筒下層a～c式混在）	有	有		上げ	上げ	上げ	無	ゆるやか立面に沿結束。	L字結束の沿線か。	4.5		円結束4種沿線。				無	切り込み上げ	底部直面側にH26結束か
竪穴	H23-31	H26-5	円筒下層a式～c式	431	18.0	33.0	9.3	H26竪上2（※第3層上2）	深鉢	円筒下層a式古段階（円筒下層a～c式混在）	有	有		上げ	上げ	上げ	無	ゆるやか立面無	無	L字結結沿線。	4.0			L字結結沿線。		無	切り込み上げ	円L結文
竪穴	H23-35	H26-6	円筒下層a式～c式	502	—	13.0	14.5	H26竪上2（※第3層上2）	深鉢	円筒下層a式古段階（円筒下層a～c式混在）	有	有		大波	大波	大波	無 上げる	大波	大波	大波	大波	大波		底部直面側にH26結束沿線。		上げる	切り込み上げ	無文
竪穴	H27-1	円筒下層a式	246	14.0	16.0	7.0	H27竪上2層111	深鉢		有	有	○	上げ	上げ	上げ	上げ	隆帯	底部直面側H26L結結沿線。	ゆるやか立面無	4.0				底部直面側H26L結結文。		上げる	底部直面側H26L結文	無文
竪穴	H27-2	円筒下層a式～c式	206	13.0	23.0	8.5	H27竪上2層111	深鉢		有	有		上げ	上げ	上げ	上げ	無	ゆるやか立面無	L字結結沿線	3.0			L字結結沿線。			上げる		無文
竪穴	H23-1	円筒下層a式	190	15.0	26.0	10.0	H23竪上3層90	深鉢		有	有		上げ	上げ	上げ	上げ	上げ	結束第一種沿線文。結束。	ゆるやか立面結束沿線。円L結結文。	3.5			円結合沿線結束。	円 キ三結束第一種沿線文。	切り込み上げ	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-2	円筒下層a式古段階	216	12.0	15.5	4.5	H23竪上3層	小型深鉢		有	有	○	上げ	上げ	上げ	上げ	上げ	結束第一種沿線文。	ゆるやか立面無	4.0				L字結結沿線。		上げる	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-11	円筒下層a式古段階	30	17.0	16.0	10.0	H23竪上3層30	深鉢	※H23竪上2と同は2点円下の2個体がH23L。不明確なものが4つ以上に加算しなかった。	無			上げ	上げ	上げ	上げ	上げ	底部で平滑面。	円結結	結合の円結結を切断する。	1.0	1.0	L字結文。L字の結合結束沿線。	円L結結文。	無結束多段文支。L結二L結合L結合の結束沿線結合する。	円結結沿線結束。	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-12	円筒下層a式古段階	30	29.5	22.0	12.3	H23竪上3層	深鉢	1点のみ下の2個体がH23L。	無	無		無		横一L結	横一L結	横一L結	右方向に横L結。	底面内に2本上段に横L結。下段に1本L字結結文。横L結結文。	底面内に2本上段に横L結。下段に1本L結結文。横L結結文。	1.0			円結結沿線結束。		上げる	切り込み上げ	上げ
竪穴	H23-13	円筒下層a式古段階	30	20.0	12.3	H23竪上3層	深鉢	1点のみ下の2個体がH23L。	有				上げる	上げる	上げる	上げる	結束して平滑面とH23結束沿線。	無結束沿線とH23結束第一種沿線文。	無結束沿線とH23結束第一種沿線文。	1.0		円 結束1種沿線。	無結束沿線。結束沿線。	無結束沿線。結束沿線。	切り込み上げ	結束によりH23結束とH23	無文
竪穴	H23-14	円筒下層a式古段階	26	24.5 上 23	20.0	12.0	H23竪上3層	深鉢				無		上げる	上げる	上げる	上げる	横位のL結結と結束とおもわれる円形刻面。結束とおもわれる円形刻面。結束。	横位のL結結と結束とおもわれる円形刻面。結束。	上げる	1.0		円 結束1種沿線。	円結結沿線結束。	円結結沿線結束。	上げる	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-15	円筒下層a式古段階	30	25.5 上 23	20.0	10.0	H23竪上3層	深鉢				無		上げる	上げる	上げる	上げる	結束内にL結結と結束とおもわれる円形刻面。結束。	結束内にL結結の結合をわけて波状文結合。	3.0			円結結沿線結束。		上げる	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-16	円筒下層a式古段階	30	23.5 上 23	25.5	14.0	H23竪上3層	深鉢		無	無	無		上げる	上げる	上げる	上げる	L結結	L結結を横位に円形。	1.0	1.5	口縁部文字に結束第一種沿線文。円L字上結にするL結のつ連結する。	円結結沿線結束。	円結結沿線結束。	上げる	切り込み上げ	無文
竪穴	H23-34	H23-6	円筒下層a式古段階	30	17.0	12.5	14.0	H23竪上3層	小型深鉢		有	有		上げる	上げる	上げる	上げる	L結結	無	円L結結沿線結束を並べて。	1.0			円L結結沿線。		平底な上げる	円結文	
竪穴	H23-34	H23-7	円筒下層a式古段階	30	26.5	26.5	16.5	H23竪上3層	深鉢		有	有		上げる	上げる	上げる	上げる	口縁部横位に平。横L結結沿線結束。	L結結で一本横位。に円L結結沿線。	1.0				円L結文支結束沿線。		上げる	切り込み上げ	無文

掲図番号	遺構名－掲載番号	土器分類（円筒下層d1式古段階等）	復元番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	出土地点	器形	備考・編年的位置付け	胎土に繊維の有無	胎土に海綿骨針の有無	その他に胎土に含まれる特徴的なもの	[illegible]	内面調整口縁上半部	内面調整口縁下半部	内面調整胴部上半部	内面調整胴部下半部	内面調整その他	口縁部文様帯区画	口縁部文様帯連続圧痕の有無	口縁部文様帯区画内文様	口縁部文様帯その他	口縁部文様帯の幅(cm)	[illegible]	口縁部文様帯区画直下の文様	頸部単軸絡条体	頸部多軸絡条体	胴部縄文	胴部帯の有無	胴部多段の帯	胴部その他	底部形態	底部文様	底部その他
図Ⅲ-2-24	H29－8	円筒下層d1式古段階 新	392	18.0	26.1	9.5	H29盛土上位13	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	磨滅著しい。	口縁の肥厚部に、L縄線	無	結束第一種羽状縄文施文後その上にL縄線3段ほど。		1.5	1.5	結束第一種羽状縄文一段			R縄自縄自巻を縦走。				上げ底	R縄自縄自巻縄文	
図Ⅲ-2-25	H29－9	円筒下層d1式古段階 新	354	18.0	24.0	9.5	H29盛土上位30	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		R縄線	無	R縄線3本		1.5					R縄自縄自巻を縦走。				上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-25	H29－10	円筒下層d1式古段階 新	88	24.5	33.0	12.5	H29盛土上位3	深鉢	幅広の口縁部文様帯が下d1に近い。					ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨滅して不明瞭だが、横ミガキ主体。	ゆるやかな波頂部	口唇には丸先を押したものか縄の刺突が連続する。波頂部には右方向への押し引きが連続する。	口唇部にR縄とL縄を矢羽根状に配した縄線を3段施す。口唇部側の縄については磨滅が著しく可能性が高いといったところか。矢羽根状縄線から4.5cm下には右方向への押し引きが連続する。	四単位のゆるやかな波状口縁。	1.5					RL縄自縄自巻を縦走。		口縁部文様帯から1.5cm下に、2段二つ一組の横回転の結節が並ぶ。同じものがそこからほぼ3cm間隔にさらに2段、合わせて4段ある。		上げ底	磨滅著しい	
図Ⅲ-2-25	H29－11	円筒下層d1式古段階 新	38	26と29	36.3	14.0	H29盛土上位2	深鉢	器の薄さは円筒下層d1式的だが器の形状は円筒下層c式的。	有	有			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨滅により不明瞭だが、ミガキ	R縄とL縄の矢羽縄線	無	R縄とL縄の矢羽縄線によって直線的な山形の連続を描す	ゆるやかな四単位の波頂部。	2.5	1.5	磨滅して不明瞭だが、ふたつの結節を横回転させている可能性がある。			L縄自縄自巻を縦走。		磨滅して不明瞭だが、口縁部文様帯の区画部分から6cm間隔でふたつの結節を横回転させている可能性がある。口縁部直下のものは不明瞭だがそれを含めると4段あると見受けられる。底部側には無い。		上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-25	H29－12	円筒下層d式	323	—	—	10.0	H29盛土上位10	深鉢		有	有	砂粒		欠損	欠損	欠損	縦ミガキ		欠損	欠損	欠損	欠損	欠損	欠損	欠損			R縄自縄自巻を縦走。		所々、結束第一種羽状縄文。		上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-26	H29－13	円筒下層d1式古段階 新	386	22.0	(20.0)	—	H29盛土上位8	深鉢	(旧抵本番号H29-6)	有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		ゆるやかな波頂部	無	結束第一種羽状縄文2段。		4.0					RL縄文を縦走させる。				欠損	欠損	
図Ⅲ-2-28	H29－25	円筒下層d1式古段階 古	294	22.5	30.0	12.0	H29盛土下位18 M2－2 60G付近と[illegible]	深鉢	欠損	有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		ゆるやかな波頂部	無	L縄線とR縄線を2本一組にした羽状の縄線を3段施す。		2.0	1.5	結束第一種羽状縄文			R縄自縄自巻を縦走。		結束第一種羽状縄文、区画直下を入れて4段、およそ3cm、6cm、5cm間隔		欠損	欠損	
図Ⅲ-2-28	H29－26	円筒下層d1式古段階 古	298	14.3	17.0	7.0	H29盛土下位17	小型深鉢		有	微量			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		波頂部	無	R縄自縄自巻を横回転。		2.5					R縄自縄自巻を縦走。				上げ底	縄文の痕跡があるが文様部分が大きく不明	
図Ⅲ-2-28	H29－28	円筒下層d1式古段階 古	324	26.4	(25.0)	—	H29盛土下位16	深鉢	16と接合。	有	微量	白色砂粒		横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		L縄とR縄2本一組にした矢羽根状の縄線。	無	L縄とR縄2本一組にした矢羽根状の縄線により波線構成の文様。山形文様の連続。		2.0	2.0	結束第一種羽状縄文			R縄自縄自巻を縦走。		結束第一種羽状縄文、区画直下を含めると6cm間隔で4段残存する。		欠損	欠損	
図Ⅲ-2-28	H29－23	円筒下層d1式古段階 古	332	12.5	27.0	8.0	H29盛土下位20	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		ゆるやかな波頂部	無	R縄線3本		1.5	1.5	結束第一種羽状縄文	下半はR縄第1種横回転。		上半はR縄自縄自巻を縦走。				上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-29	H29－30	円筒下層d1式古段階 古	85	21.0	36.0	12.0	H29盛土下位19	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	磨滅により不明瞭。上半横ミガキ、下半縦ミガキか。	結束第一種羽状縄文	無	結束第一種羽状縄文が連続して2段並ぶものをそれとした。	四単位の緩やかな波状口縁である。	3.0	1.5	上の結束第一種羽状縄文を口縁部とするなら、下が直下とも考えられる。	L縄第1種が横回転。加えてL縄とR縄が矢羽根状になるように配されたが横回転、両者が絡み合う。				絡条体圧痕文後に口縁部文様帯とした二段の直下あたりから、同様の結束第一種羽状縄文がおおよそ5cm間隔で四段ほど帯状に施される。	磨滅が著しく不明瞭	上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-29	H29－31	円筒下層d1式古段階 古	248	17.5	30.5	11.0	H29盛土下位17	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		R縄、L縄R縄を並べて縄線を施す	無	R縄L縄R縄を並べて縄線を3段に施す		1.5	1.5	結束第一種羽状縄文。			R縄自縄自巻を縦走。		結束第一種羽状縄文3段。区画帯直下のものも含む。4cm、5cm、3cm、4cm間隔。		微妙な上げ底	胴部帯下部分と同じ単軸絡条体を回転施文	
図Ⅲ-2-29	H29－32	円筒下層d1式古段階 古	115	14.5	20.0	8.0	H29盛土下位24	深鉢		有	有	小石		横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		R縄線数本一組にしたもの	無	R縄線数本一組にしたものを2段複走させる。	四単位のゆるやかな波状口縁。	波頂部を除いて1.5			R縄第1種横回転。						微妙な上げ底	ミガキにより無文	磨滅によって不明瞭
図Ⅲ-2-29	H29－33	円筒下層d1式古段階 古	98	12.0	20.5	7.0	H29盛土下位26	深鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	上三分の一横ミガキ、下横ミガキ	R縄とL縄を横位矢羽根状縄線として区画。口唇にも同様に施文。	無	矢羽根状縄線間に結束第一種羽状縄文横回転を1段施文。		2.0					LR縄文を縦走。		口縁部側から結束第一種羽状縄文をおよそ3cm間隔で帯状に横回転させる。口縁部文様帯も含めて8段。		微妙な上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-30	H29－34	円筒下層d1式古段階 古	171	22.5	25.7	12.0	H29盛土下位27	深鉢		有	有	砂粒		横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ		L縄とR縄2本一組の縄線	無	L縄とR縄2本一組の縄線が区画と合わせて2段。	ゆるやかな四単位の波頂部	1.5	2.0	結束第一種羽状縄文	R縄横回転		結束第一種羽状縄文		結束第一種羽状縄文がおよそ5cm間隔で4段。		上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-30	H29－35	円筒下層d1式古段階 古	89	17.0	28.0	11.0	H29盛土下位22	深鉢	モチーフ的には下層d1式だが、器形と口縁部文様帯の幅が下層c式的である。	有	微量			不明瞭	不明瞭	不明瞭	不明瞭	磨滅が著しく不明だが、ミガキの可能性がある。	ゆるやかな波頂部上に矢羽根状にL縄とR縄の縄線を施して区画する。	無	磨滅により不明瞭だが横走するL縄とR縄の縄線を数段に施す。		3.0	1.0	結束第一種羽状縄文が帯状に横回転する。			R縄自縄自巻を縦走。		口縁部文様帯区画直下およびその下におよそ4cm間隔に結束第一種羽状縄文が帯状に横回転する。	磨滅著しく不明瞭である。	微妙な上げ底	胴部と同じ絡条体圧痕文がある	
図Ⅲ-2-30	H29－36	円筒下層d1式古段階 古	29	20と17.5	23.0	10.0	H29盛土下位13	深鉢	器形が内彎する	有				横ミガキ	横ミガキ	縦ミガキ	縦ミガキ	口縁部ミガキの前に横方向にサルボウ条痕。	L縄とR縄とR縄が矢羽根状に縄線	無	L縄とR縄とR縄のが矢羽根状風に縄線として横方向に2段施される。		1.5					R縄自縄自巻を縦走。		口縁部文様帯と胴部最大径のところに結束第一種羽状縄文が横方向に一段ずつ施される。RLが上なので>方向。		微妙な上げ底	無文	
図Ⅲ-2-30	H29－37	円筒下層d1式古段階 古	248	18.0	(23.5)	(13.0)	H29盛土最下位28	深鉢		有	有			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨滅により不明瞭	ゆるやかな突起部に、L縄とR縄2本一組にした縄線を2段施す。これを同様に口唇に施す。	無	結束第一種羽状縄文		2.5					R縄自縄自巻を縦走。		口縁の3cm下に口縁部文様帯と同様の結束第一種羽状縄文。その他にもかすかに羽状がみてとれる。		欠損	欠損	
図Ⅲ-2-31	H29－42	円筒下層c式	307	—	(11.0)	8.0	H29盛土46	深鉢	下cかそれに近い下d2	有	有		欠損	欠損	欠損	縦ミガキ	縦ミガキ		欠損	欠損	欠損	欠損	欠損	欠損	欠損			直前段反撚RRL縄横回転斜行縄文。				上げ底	ミガキにより無文	
図Ⅲ-2-33	H34－1	円筒下層d1式新段階	19	17.0	25.0	10.5	H34盛土2層7	深鉢		有	有	砂粒		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨滅と煤付着により不明瞭だがミガキ	薄い隆帯	薄い隆帯に刺突を連続。	口縁部文様帯内にはL縄とR縄の矢羽縄線とR縄が観察できる。		2.5			R縄第1種の横回転						上げ底	ミガキにより無文	

遺構番号	遺構名・周溝番号	土器分類（①縄文②弥生③古墳）	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	出土地点	器形	遺構番号・遺構名・位置図？	口径の比率（1/4以上は○、1/8以上は△、それ以下は空白）	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯 装飾	口縁部文様帯 連続図形の有無	口縁部文様帯 文様例	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 残存率 (cm)	口縁部文様帯 残存率 (%)	口縁部文様帯 装飾性	頸部単独 装飾有	頸部多段 装飾有	頸部構成	頸部間の有無	頸部多段の帯	頸部その他	底部形態	底部文様	底部その他
図第-0-03	H04-2	円筒下層式	23	14.5	16.0	7.0	H04遺土1間	深鉢	HA遺土2・12は同土片 ※この時点で同一個体。HA12の表面、HA2同じかや明瞭。	無	無	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	上端、縦	無	上端部によって区切られた連帯の連続図形。平面図では、位置ごとに明確区分。					外縁部縦走帯を確認。			隆起部分によって区切られた帯状文	底部上一面に明瞭文	底部上一面に明瞭文
図第-0-03	H04-3	円筒下層式底部破片	17	一	22.7	9.8	H04遺土1間	深鉢		無	無								2.0	1.0	結束第二種	同じ		外縁部縦走帯を確認。			上げ底	底部上一面に明瞭文	
図第-0-04	H03-1	円筒下層式	20	18.5 余 18.5	43.0	10.0	H03遺土4	深鉢		無	無	○	横 上方	横 上方	横 上方	上端、縦 下半	下半に縦ボケ多数による筋あり。ほぼ一連の位置は底面部に加え、下半の縦間隔で。	RL縦文を縦方向に施文後、半截された竹管で位置ごとに連続図形を施文。加えて、ほぼ全面に刷毛目あり。	5.0		結束第二種	同じ	外縁 第1間 の縦図帯				隆起部分と一致	隆起部分と一致	
図第-0-04	H03-2	円筒下層式	31	一 15.5	19.8	6.7	H03遺土4	深鉢	現存最大幅 19.8cm	無	無					横 上方	横 上方	横 上方	2.0					首部直下に RL縦走	行が縦走	外縁隆起部に縦走	隆起部分と一致	上げ底	平面隆起部分に縦走。	底上部形状は縦走として明確
図第-0-05	H06-1	円筒下層式 ～u式	157	16.0	16.0	7.0	H06遺土2間 H06遺土2間の接合	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	上端、縦	上端、縦 無	現存部から天地方向に施文。平面では、位置ごとに明確区分。	4.0		結束第二種	同じ	上、縦 第1間 の縦図帯。		下半は上方縦走帯を確認。	上げ底	上げ底	上げ底
図第-0-05	H06-2	円筒下層式 ～u式	390	16.5	17.0	7.0	H06遺土2間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	中央	中央やや右端間	天地方向に施文。	5.0		RL縦 第1間 の縦図帯。					隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-05	H06-3	円筒下層式 ～u式	714	22.5	26.0	11.8	H06遺土2間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横	横	横帯上へ。	4.0	2.5	上、RL縦 第1間	同じ	同じ第1間の縦図帯。上方縦走帯。横帯直下に RL縦走帯。			底部	底部	
図第-0-06	H08-6	円筒下層式	726	25.0	42.3	14.0	H08遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横	横	横部上の隆起部。L縦隆起部。RL縦隆起部。中截竹管によって、竹管間隔と、隆起で区別。	8.0	2.0	結束第二種	同じ	上、縦 第1間 の縦図帯。	外縁部縦走帯。		隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-2	円筒下層式底部破片	19	14.0	22.5	9.0	H09ベルト遺土2・12	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	上端、縦	上端、縦	上端一帯に縦刷毛目。中央は縦ボケ。	2.5				RL縦文を施文			かすかに	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-4	円筒下層式底部破片	18	15.0	22.0	9.5	H09遺土1間	深鉢	円筒下層式底部破片 H09ベルト遺土間	無	無	横			上、縦	横 上方	横 上方	横 上方	3.0			ケ。ルベリ多 結束第二種		外縁部縦走帯。	表裏縦走帯。	表裏面ともに明瞭な縦走。	隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-5	円筒下層式底部破片	134	13.0	15.0	4.0	H09遺土1間	深鉢	H09遺土1間バルーン状ケイ石の分が点在。	無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	2.0	1.5	結束第二種	同じ	上、RL縦 第1間		RL縦文縦走帯を確認。	隆起部分に縦走帯。	底部分は縦走	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-6	円筒下層式	47	一 17.0	25.0	9.0	H09遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横帯上に縦刷毛目。底部は、縦方向に施文。	横帯上へ不明	1.5	1.0	結束第二種	同じ	上、RL縦 第1間			隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-7	円筒下層式底部破片	180	15.0	26.0	9.0	H09遺土1間 H09ベルト 4間分が主	深鉢		無	無				上、縦	横 上方	横 上方	横 上方	1.0	1.0	結束第一種	同じ	条線を施した縦 第1間	外縁部縦走帯。	底部下から縦走帯。	隆起部下から縦走帯。	上げ底	上げ底
図第-0-06	H09-8	円筒下層式底部破片	284	14.0	21.0	7.0	H09遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	1.0	1.0	結束第二種	同じ	上、縦 第1間		外縁部縦走帯を確認。	隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-41	H08-13	円筒下層式底部破片	430	21.0	32.0	11.5	H08ベルト遺土2・3 84	深鉢		無	無		上方	上方	上方	上方	上方	縦	縦帯上に縦ボケ。	1.5				外縁部縦走帯を確認。			隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-42	H09-2	円筒下層式	390	—	19.0	7.5	H09遺土1間	深鉢	円筒下層式底部破片	無	無	無	縦 ボケ 部分多		上方	上方	上方	縦	縦帯	1.0以上		上、RL縦 第1間					隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-42	H09-3	円筒下層式	71	26.0	42.5	12.0	H09遺土遺土2間22	深鉢		無	有		小石	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	縦帯上部に沿って縦刷毛目。縦間隔は、底部に近くなるにつれて、間隔が狭くなる。底部内に縦刷毛目。縦間隔は一定。	縦帯内は RL縦目。縦帯の、縦間隔は、底部の文様、山形を表現。	5.0			RL縦 第1間	外縁部縦走帯を確認。		上げ底	上げ底	上げ底
図第-0-43	H09-7	円筒下層式	432	19.0	17.0	—	H09遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	縦帯上に縦刷毛目。RL縦隆起部。	縦帯上に縦刷毛目。RL縦隆起部。	4.0	1.5	結束第二種	同じ	上、RL縦 第1間		結束第下部に縦方向のケイ石表面は平滑。	底部	底部	
図第-0-43	H09-11	円筒下層式	186	15.3	26.0	10.0	H09遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	縦帯、上に縦刷毛目。底部は、	上下縦方向に縦目。縦目は、RL縦隆起部。	4.0	1.5	結束第二種	同じ	上、RL縦 第1間			隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-44	H09-12	円筒下層式	390	—	16.0	17.0	H09遺土1間	深鉢		無	無		上方	上方	上方	縦 上方	上方	上方	縦部上の隆起部。L縦隆起部。RL縦隆起部。	縦部上の隆起部。L縦隆起部。RL縦隆起部。	上方縦方向に縦目。縦目は、上下、中央の縦間隔は、	縦ボケ。	結束第二種	同じ	L縦隆起部。			隆起部分	上げ底	上げ底
図第-0-44	H09-16	円筒下層式	95	19.0	23.0	9.5	H09遺土1間	深鉢		無	無		横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	横 上方	縦部上の隆起部。L縦隆起部。RL縦隆起部。	縦部上の隆起部。L縦隆起部。RL縦隆起部。	縦帯は縦方向に縦目。縦目は、上下、中央の縦間隔は、	3.5	1.0	RL縦 第1間	同じ	縦帯、縦間隔は、縦目。	縦帯、縦間隔は、縦目。	縦帯、縦間隔は、縦目。	隆起部分	上げ底	上げ底

博物館番号	遺構名・周辺遺構	土器分類（1B:縄文早期前半以前）	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	生土地点	層名	焼成・編年的位置付け	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯 装飾	口縁部文様帯 装飾の方法（連続回転の有無）	口縁部文様帯 装飾の文様	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 (cm)	口縁部文様帯 装飾の方法	頸部 単独	頸部 多段	頸部装飾	頸部周辺の有無	頸部多段の有無	頸部 その他	底部形態	底部文様	底部 その他
国立-c-44	H29-17	円筒下層d式	32	29.0	9.0	13.0	H29遺土集02-3	深鉢	円筒下層d式系統					撚糸		口縁には撚糸圧痕を連続的に施す。	無条件の文様をもつ。		1.5	3.0	縦長楕円		頸部全面にヤルの下端条痕を施す。他不明。			頸部直線にヤルの下端条痕を施す。	上げ底	無文
国立-c-45	H29-18	円筒下層d式	42.0	29.0	40.0	14.0	H29遺土集03	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸・平行線を交互に多くの文様帯間隔。	撚糸一種のみ。口縁部によって長軸構成の文様。		4.0	3.0	縦長楕円	一種	不明。				頸部なし	上げ平底に近い	無文
国立-c-46	H29-19	円筒下層d式前期	23.0	16.3	26.0	9.5	H29遺土集12	深鉢	円筒下層d式前期newとd式の過渡期。					撚糸	口縁には撚糸圧痕。	口縁には撚糸圧痕を連続的に施す。		3.0	2.5	縦長楕円	二種	不明。		口縁部頸部帯を幅広。		大底	大底	
国立-c-47	H29-20	円筒下層d式	40.0	20.0	33.0	11.0	H29遺土集11-1 H29遺土集12-1	深鉢						撚糸	撚糸	撚糸		3.0	2.0	縦長楕円	二種	不明。		条痕間末端。ヤル前端条痕を施す。	ヤルの下の一条の条痕が前に条痕を施す。	無分なし	上げ平底に近い	無文
国立-c-48	H29-21	円筒下層d式	18.0	21.5	20.0	11.5	H29遺土集16	深鉢						撚糸	口縁と胴部にしゃくれ部にはヤルの下端条痕を施す。	口縁には撚糸圧痕。ヤルの下端条痕を施す。		5.0	1.5	縦長楕円	二種	不明。				出っぱりの条痕	上げ平底に近い	無文
国立-c-49	H29-22	円筒下層d式	40.0	23.0	28.0	13.5	H29遺土集21	深鉢						撚糸	上縁胴部圧痕。口縁部の連続。	上縁胴部圧痕。口縁部の連続。		4.0	1.5	上半縦長楕円	二種。	不明。				無分なし	上げ平底	無文
国立-c-50	H29-23	円筒下層d式	17.0	19.0	30.0	9.0	H29遺土集31	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸は単条撚糸による圧痕。口縁には撚糸圧痕。	撚糸は単条撚糸による圧痕。口縁には撚糸圧痕。		4.0		上縦、横長楕円。						上げ底	上げ平底に近い	無文	中期末に近い。ヤルの下端条痕を施す。
国立-c-51	H29-24	円筒下層d式	44.0	28.0	40.0	12.5	H29遺土集19 H29遺土集20	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸	撚糸に平行線とこれらに平行線。口縁部は撚糸。口縁には撚糸圧痕。		3.0		上縦長楕円	二種。	不明。				上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-52	H29-25	円筒下層d式	46	17.5 (9)	29.0	10.0	H29遺土集31-12	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸	撚糸は上縦横長楕長楕円圧痕に上に横長楕長楕円圧痕。		3.0		横長楕円						小さな上げ底	上げ平底	無文
国立-c-53	H29-26	円筒下層d式	30	16.5	22.0	4.5	H29遺土集25下21	深鉢	円筒下層d式					撚糸	横線写真にて下2本のみ。PTT下面下に横線。	横線に上に平行線。横は下に平行。		2.5		上、縦、横長楕円。		不明。				無分なし	上げ平底に近い	無文
国立-c-54	H29-27	円筒下層d式前期	317	25.0	31.0	10.0	H29遺土集14	深鉢	円筒下層d式とd式の過渡期。					撚糸	撚糸	上縦横長楕長楕円圧痕。		2.5	1.5	縦長楕円	二種	不明。		口縁部頸部帯を幅広。	縦長楕円圧痕の縦方向の条痕が前に上に横に上に。	下の段ヤルの条痕を縦方向に上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-47	H29-28	円筒下層d式	17.0	30 (8)	19.2	10.3	H29遺土集3 H29遺土集20-HPE	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸	口縁部には撚糸。胴部は撚糸とD字状の文様帯。	撚糸とD字状の文様帯。	2.5		縦長楕円	二種。	不明。		条痕文間末端。ヤルの下端条痕を施す。	胴部に不明。	上げ底	上げ平底に近い	無文	大底に近い平底。ヤルの下端条痕を施す。
国立-c-48	H29-29	円筒下層d式	39	13.0	14.0	7.5	H29遺土集10-37	深鉢	円筒下層d式					撚糸	上半撚糸圧痕。	上半撚糸圧痕。	ゆるやかな胴部	1.5		縦長楕円	二種。	不明。		条痕から連続する他部。	縦長楕円圧痕。ヤルの下端条痕を施す。	ヤルの下の上げ底	上げ底	無文
国立-c-49	H29-30	円筒下層d式前期	400	—	(160)	9.0	H29遺土集11-12	深鉢	関連根本あり		大底	大底	大底	撚糸	撚糸	撚糸	大底	大底	大底	大底	不明。	大底	不明。		縦長楕円圧痕。		上げ底	上げ平底に近い。上に長い。	無文
国立-c-50	H29-31	円筒下層d式前期	136	21.0	32.0	10.0	H29遺土集13	深鉢	円筒下層d式とd式の過渡期。					撚糸	撚糸	口縁部撚糸。胴部は撚糸。	撚糸とD字状の文様帯。	3.0		縦長楕円	二種。	不明。		上半撚糸圧痕。		無分なし	上げ平底	無文
国立-c-51	H29-32	円筒下層d式前期	136	21.0	32.0	10.0	H29遺土集13	深鉢	円筒下層d式とd式の過渡期。					撚糸	撚糸	撚糸	撚糸とD字状の文様帯。	3.0		縦長楕円	二種。	不明。		口縁部頸部帯を幅広。		無分なし	上げ平底	無文
国立-c-52	H29-33	円筒下層d式前期	410	—	(200)	9.5	H29遺土集20	深鉢			大底	大底	大底	撚糸	大底	大底	大底	大底	大底	大底	不明。	大底	不明。	口縁部頸部帯を幅広。		上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-53	H29-34	円筒下層d式前期	416	13.0	23.0	7.5	H29遺土集19	深鉢	円筒下層d式前期newとd式の過渡期。		胴部撚糸			撚糸	撚糸	口縁部には撚糸。口縁部は撚糸圧痕。	口縁部には撚糸。口縁部。	4.0	1.5	上半縦長楕円。	二種。	不明。		上半縦長楕円。	上半縦長楕円。	上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-54	H29-35	円筒下層d式前期	230	19.0	27.0	11.0	H29遺土集19	深鉢	円筒下層d式とd式の過渡期。					撚糸	撚糸	口縁には撚糸。胴部は撚糸。	口縁には撚糸。胴部は撚糸。	3.0	2.0	縦長楕円	二種。	不明。		口縁部頸部帯を幅広。		無分なし	上げ平底	無文
国立-c-55	H29-41	円筒下層d式前期	410	—	(240)	9.0	H29遺土集02下16	深鉢	関連最大値 15.0cm					撚糸	大底	大底	大底	大底	大底	大底	不明。	大底	不明。	口縁部頸部帯を幅広。		上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-56	H29-42	円筒下層d式	132	20.0	26.0	11.0	H29遺土集02H H29遺土集04HPE	深鉢						撚糸	口縁胴部撚糸。	ゆるやかな胴部	撚糸	大底	大底	大底	不明。			口縁部頸部帯による刻目。		上げ底	上げ平底に近いから上に縦長方向に上げ底	無文
国立-c-57	H29-43	円筒下層d式	230	17.0	(160)	—	H29遺土集02-1	深鉢	円筒下層d式					撚糸	撚糸	撚糸	撚糸	4.0	1.5	不明。縦長楕円	二種。	不明。		上縦長楕円。		上げ底	上げ平底に近い	無文
国立-c-58	H29-44	円筒下層d式前期	81	19 (6.5)	21.0	8.0	H29遺土集19	深鉢	円筒下層d式とd式の過渡期。					撚糸	撚糸	撚糸	撚糸	3.0		縦長楕円	二種。	不明。		ヤルの下の条痕。ヤルの下の条痕。		全面にヤルの条痕。ヤルの下の条痕。	無分なし	無文

埋蔵番号	遺構名・遺物番号	土器分類（日縄文・日縄文式など）	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	出土地点	器形	備考・編年的位置付け	口縁部	頸部	胴部	底部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯	口縁部文様帯 連続回転の有無	口縁部文様帯 波頂内文様	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 波頂部 (cm)	口縁部文様帯 波頂部 ナデ回転	器体	器形 多軸	器体	胴部縦文	胴部間の有無	胴部多段の有無	胴部 その他	底部形状	底部文様	底部 その他
図第-0-03	H39-49	円筒下層d式前段階	13	12.5	4.5	6.0	H39置土下位出	切り	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	切り無縄文	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	横位によって不明瞭										底台様の部分付	比較的にしかり	無文
図第-0-03	H39-50	円筒下層d式前段階	15	12	10.0	11.0	H39置土下位出	深鉢	有				横 上打	横 上打	上下横 上打	横 上打	縦縄文の上下横位に入り、縦位に入り	横位の刻目	横位の刻目	横位によって不明瞭	横位によって不明瞭	2.0										無文
図第-0-03	H39-51	円筒下層d式前段階	17	26.5	41.3	12.5	H39置土下位出	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	LR縦縄	口縁に沿い	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	2.0	1.5	結束第二種	平行	平行	平行	平行	無節縦文	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-01	H39-52	円筒下層d式前段階	16	22.0	16.0	11.3	H39置土下位出	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	上半横位に入り、下横位に入り	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	3.0	1.5	結束第一種	平行	平行	平行	平行	無節縦文	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-01	H39-53	円筒下層d式前段階	19	32.0	16.2	11.3	H39置土下位出	深鉢	有	有	自然胎土		横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	円形粘土	円形粘土	円形粘土	円形粘土	対応する文様は無い	3.5	1.5	結束第一種	平行	平行	平行	平行	無節縦文	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-01	H39-55	円筒下層d式	480	—	112.0	13.0	H39置土下位出	深鉢	有	有					上打	平行	大節	大節	大節	大節	大節										上打痕	比較的にしかり	無文
図第-0-02	H39-56	円筒下層d式	237	16.0	26.0	9.0	H39置土下位出	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横縄とその上の縦縄	無	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	4.5									横回転上打	比較的にしかり	無文
図第-0-03	H39-63	円筒下層d式	72	12.0	24.0	9.0	H39置土下位41	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	中央から下横位に入り、縦位に沿	無	横位の刻目	横位の刻目	横縄は縦位で横位ではない	4.0									横回転上打	比較的にしかり	無文
図第-0-03	H39-64	円筒下層d式	56	22.0	25.0	11.0	H39置土下位41	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	中央から下横位に入り、縦位に沿	無	横位の刻目	横位の刻目	横位の刻目	4.5									横回転上打	比較的にしかり	無文	底敷き（スノコ）
図第-0-02	H39-65	円筒下層d式	306	17.0	39.0	10.0	H39置土下位42	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	中央から下横位に結束第一種平行縦文の後に縦位による縦縄文、中央から下横位に沿い	無	結束第一種平行縦文を用いた後、結束第一種平行縦文の後に縦位による縦縄文、中央から下横位に沿い	結束第一種平行縦文を用いた後、結束第一種平行縦文の後に縦位による縦縄文、中央から下横位に沿い	結束第一種平行縦文を用いた後、結束第一種平行縦文の後に縦位による縦縄文、中央から下横位に沿い	3.0	2.0	結束第一種平行縦文	平行 縦 第1類 縦回転						横回転上打痕	比較的にしかり	無文
図第-0-04	H41-1	円筒下層d式	382	13.0	24.0	8.5	H41ベルト置土上1段	深鉢	有	波状	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	中央から下横縄文	無	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	5.0			平行 縦 第1類縦回転						横回転上打痕	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	無文
図第-0-04	H41-2	円筒下層d式	434	15.0	27.0	10.5	H41トレンチ内	深鉢	有	有	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	中央横無結束条第1類縦回転	無	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	5.0			平行 縦 第1類縦回転						横回転上打痕	中央横無結束条第1類縦回転	中央横無結束条第1類縦回転	無文
図第-0-04	H41-3	円筒下層d式	481	20.0	40.0	10.5	H41ベルト置土上1段	深鉢	有	有	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	縦縄	無	縦縄	縦縄	中央横無結束条第1類縦回転	5.0			平行 縦 第1類縦回転						上打痕	結束第1類縦回転、第2類縦回転	比較的にしかり	無文
図第-0-05	H41-4	円筒下層d式	390	32.4	35.0	15.0	H41ベルト置土1～6	深鉢	有	有	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	縦縄	無	縦縄とその上の横縄	縦縄とその上の横縄	縦縄	4.0			平行 縦 第1類縦回転						横回転上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-05	H41-5	円筒下層d式	370	14.0	15.5	7.0	H41ベルト置土上1段	小型深鉢	有	有	自然胎		横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	ゆるやかな縦縄	無	結束第一種平行縦文の後、縦位による縦縄文	結束第一種平行縦文の後、縦位による縦縄文	結束第一種平行縦文の後、縦位による縦縄文	4.0			平行 縦 第1類縦回転						上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-05	H41-6	円筒下層d式	446	20.0	29.0	—	H41ベルト置土上1段	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	縦縄	無	縦縄	縦縄上の円形刻目	無	4.0			平行 縦 第1類縦回転						上打痕	大節	大節	
図第-0-03	H41-7	円筒下層d式	374	18.0	40.0	10.0	H41ベルト置土下位41	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	縦縄により不明瞭	縦縄により不明瞭	縦縄	縦縄	縦縄	9.0			平行 縦 第1類縦回転						上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-07	H46-1	円筒下層d式～c式	116	17.5	16.0	11.0	H46置土上段1～H46置土上SX4 並行出	深鉢	有	無 無		○	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	縦縄	縦縄上に沿一部ゆるやかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿	四隅はゆるやかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿	四隅はゆるやかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿	四隅はゆるやかな縦位で左右に沿い、ゆるかな縦位で左右に沿	5.0			平行 縦 第1類縦回転						横回転上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-07	H46-2	円筒下層d式～c式	209	16.5	27.0	9.0	H46置土上段14	深鉢	有	有			横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	ゆるやかな縦縄	無	LR縦縄	LR縦縄	LR縦縄	4.0			平行 縦 第1類縦回転						横回転上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-03	H52-1	円筒下層d式	181	21.0	24.0	11.3	H52置土下層13	深鉢	有	有		○	横 上打	横 上打	横 上打	横 上打	ゆるやかな縦縄	無	結束第一種平行縦文を連続的に上方のみ	結束第一種平行縦文を連続的に上方のみ	ゆるやかな左右に沿い	3.0			平行 縦 第1類縦回転						上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文
図第-0-06	H56-1	円筒下層d式	86	14.0	14.5	7.0	H56置土最上段1	深鉢	有	有							口縁部縦位の上、横縄は下半	ゆるやかな縦縄	無	結束第一種平行縦文を連続的に上方のみ	結束第一種平行縦文を連続的に上方のみ	3.0	1.5	第一種結束平行縦文を用いた後、結束第一種平行縦文を用いた後	平行 縦 第1類縦回転				その下には3b間隔で10段文、縦横も各4で4段無文。		上打痕	比較的にしかり	比較的にしかり	無文

挿図番号	遺構名-掲載番号	土器分類	復元番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	出土地点	器種	備考・編年的位置付け	胎土に繊維の有無	胎土に海綿骨針の有無	その他胎土に含まれる特徴的なもの		内面調整 口縁上半部	内面調整 口縁下半部	内面調整 胴部上半部	内面調整 胴部下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯 区画	口縁部文様帯 連続圧痕の有無	口縁部文様帯 区画内文様	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯の幅(cm)		口縁部文様帯区画下の文様	胴部 単軸絡条体	胴部 多軸絡条体	胴部縄文	胴部帯の有無	胴部多段の帯	胴部その他	底部形態	底部文様	底部その他
第Ⅲ-2-60	H58-2	円筒下層e式	92	推定21	37.5	13.0	H58覆土最上位4	深鉢		有	有	砂粒		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]	無	[illegible]		5.0					LR縄文を横回転により施文				明瞭な上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-60	H58-3	円筒下層e式	361	20.0	(30.0)	—	H58覆土最上位3	深鉢		有	無	砂		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]	無	[illegible]		6.0					[illegible]				大径	大径	
第Ⅲ-2-60	H58-5	円筒下層d式新段階	93	14.5	(26.5)	—	H58覆土下位5	深鉢	[illegible]	有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]	無	[illegible]		5.0			[illegible]						大径	大径	
第Ⅲ-2-61	H58-6	円筒下層e式	91	38.3	40.0	16.0	H58覆土最上位3(H59覆土…と接合)	深鉢		有	微量	小石微量		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		5.0				[illegible]	[illegible]				上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-61	H57-4	円筒上層a式最古段階	11	23.0	25.0	12.0	H57HP5埋設土器	深鉢				砂粒	○	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	2本一組のLR縄縄	[illegible]	[illegible]		4.0					[illegible]				明瞭な上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-61	H57-7	円筒上層a式最古段階	105	25.0	12.5	16.5	H57覆土下位 一括土器	浅鉢		有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		口縁部文様帯を肥厚させる。	無	[illegible]		[illegible]			[illegible]						上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-62	H59-1	円筒上層a式最新段階	4	23.0	25.0	10.5	H59覆土上位G03Q 233一括土器	深鉢	[illegible]	[illegible]	無	[illegible]		横ミガキ	横ミガキ	—	—	[illegible]	隆帯	[illegible]	[illegible]		7.0							LR縄縄回転[illegible]		上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-63	H59-2	円筒上層a式最新段階	22	13.5と19	25.0	—	H59覆土上位G03Q 233一括土器	深鉢	[illegible]	微量		砂粒		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	隆帯	[illegible]	[illegible]		[illegible]							[illegible]	[illegible]	大径	大径	
第Ⅲ-2-63	H59-3	円筒上層a式	9	16と21	37.0	10.0	H59覆土上位G03Q 249一括土器	深鉢	[illegible]	有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		隆帯	[illegible]	[illegible]		[illegible]					[illegible]				明瞭な上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-63	H59-4	円筒上層a式	10	21と23	30.0	10.5	H59覆土中位G04P 168一括土器	深鉢	[illegible]	[illegible]		[illegible]		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	隆帯	[illegible]	[illegible]		7.0					[illegible]				明瞭な上げ底	無文	
第Ⅲ-2-64	H59-5	円筒上層a式	109	31.0	44.0	15.0	H59覆土1回 一括土器	深鉢	[illegible]	有		砂粒		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		5.0					LR縄縄回転による斜行縄文地紋。				明瞭な上げ底	無文	[illegible]
第Ⅲ-2-64	H59-6	円筒上層a式	433	27.0	(40.0)	—	[illegible]	深鉢	[illegible]	無	無	[illegible]		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	[illegible]		隆帯	[illegible]	[illegible]		5.0					LR縄縄回転。				大径	大径	
第Ⅲ-2-65	H59-7	円筒上層a式	277	14.0	21.0	10.0	H59覆土2回 一括土器	小型深鉢	一括土器⑤	有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		隆帯	[illegible]	[illegible]		5.0					LR縄縄回転。				大径	[illegible]	
第Ⅲ-2-65	H59-8	円筒上層a式	14	24.5と28	36.5	11.5	H59覆土147 一括土器	深鉢	[illegible]	有	有	砂粒		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		隆帯	[illegible]	[illegible]		[illegible]					LR縄縄回転。				明瞭な上げ底	無文	
第Ⅲ-2-65	H59-9	円筒上層a式	12	19.0	27.5	11.0	H59覆土中位G03Q 237一括土器	深鉢	一括土器⑤	有	有			横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		縦方向のR縄縄	無	[illegible]		7.5					RL縄文横回転。				明瞭な上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-65	H59-10	円筒上層a式	404	19.5	21.5	10.0	H59覆土上位G03Q 233一括土器	深鉢	[illegible]	有	無	砂		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		圧痕	無	[illegible]		5.0					RLR縄縄回転。斜行縄文。				上げ底	[illegible]	
第Ⅲ-2-66	H59-11	円筒上層a式	407	24.0	(32.0)	—	H59覆土1位2 一括土器	深鉢	一括土器③	有	有	[illegible]		横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		隆帯	無	[illegible]	[illegible]	6.5					LR縄縄回転斜行縄文。				大径	大径	
第Ⅲ-2-66	H59-12	円筒上層a式古	37	19.0	29.0	9.5	H59覆土上位G03Q 232一括土器	深鉢	[illegible]	有				横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ		[illegible]	[illegible]	[illegible]		4.0					LR縄縄回転。				かすかな上げ底	[illegible]	

構造番号	遺構名・周溝番号	土器分類（日数字は遺構名と対応）	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	出土地点	層位	備考・編年的位置付け	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯 装飾	口縁部文様帯 連続刻目の有無	口縁部文様帯 装飾刻目	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 口径比率	口縁部文様帯 連続刻目	口縁部文様帯 刻目比率	頸部単帯 頸部文様	頸部多帯 頸部文様	頸部文様	頸部直の有無	頸部多段の有無	頸部その他	底部形態	底部文様	底部その他
図第-0-66	H39-13	円筒上層式	8	16 → 19	21.2 → 22	3.6	表層	一括上層2, 隣接集大	横	横				撚糸			撚糸										平底	無文	
図第-0-67	H39-14	円筒上層式古	25	29.0	19.0	16.0	表層	一括上層3, 北約2.5m 関連していると考えられる	横	横				撚糸			撚糸								口縁部にはなることされた部分は縦条帯縦条帯は横が向れる。		平底	無文	
図第-0-68	H39-15	円筒上層式古	35	29.0	19.0	16.0	表層	一括上層3, 北約2.5m 関連していると考えられる	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的により上げ底	
図第-0-69	H39-16	円筒上層式古	34	10.3	13.0	6.7		H39第1, H39-15		横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-70	H39-18	円筒上層式	270	39.0	40.0	15.0	表層	一括上層3, 北約2.5m 220～一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-71	H39-17	円筒上層式	7	16 → 18	16.0	3.0	表層	H39第1, H39-12	横	横				撚糸			撚糸										平底	底	
図第-0-72	H39-19	円筒上層式古	32	17.0 → 18.0	19.0	—		H39第3, H39-20 21～一括上層3	横					撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-73	H39-19	円筒上層式	296	32.0	29.0	9.0	表層	一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-74	H39-20	円筒上層式	447	14.0	17.0	6.0	表層	H39第3, H39-21～一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-75	H39-21	円筒上層式	13	20.0 → 20.5	20.0	12.0	表層	H39第3, H39-19 21～一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-76	H39-22	円筒上層式	432	14.0	18.0	—	表層	H39第3, H39-19 ～一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-77	H39-23	円筒上層式古	246	17.0	22.5	10.0	表層	H39第1, H39 ～一括上層3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-78	H40-1	円筒下層d式古段階	197	32.5	44.0	10.0	表層	MA～H40 H40第1, H41第3	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-79	H47-1	円筒下層d式	319	13.0	22.0	10.5	表層	H47北側 H40～H60 より古い可能性も	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-80	P48-1	円筒下層d式	196	24.5	26.0	12.0	表層	P48西2, P48-2 ～P48 北約2.5m	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-81	P54-1	円筒下層d式	8	15.0 → 20	21.2	11.3 → 12	表層	P54北北西表面で表れていた土器。	横	横		—	—	—	撚糸		撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-82	P33-1	円筒下層d式	342	11.0	16.0	5.5	表層	P33表面	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	
図第-0-83	P36-1	円筒下層d ～c式	371	20.0	21.0	10.0	表層	P36表面	横	横				撚糸			撚糸										上げ底	比較的	

博物館番号	遺構名・発掘番号	土器分類（日縄文・日縄文式・日弥）	年代	規模 (cm)	規模 (cm)	出土地点	器形	構造・編年的位置付け	口縁部	頸部	胴部	底部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 上半部	内面調整 下半部	内面調整 その他	口縁部文様帯装飾	口縁部文様帯 連続的文様	口縁部文様帯 その他	口縁部文様帯 (cm)	口縁部文様帯 連続的文様	口縁部文様帯 連続的文様	頸部単独	頸部多段	頸部縦文	頸部横の有無	頸部多段の有無	頸部その他	底部縦	底部文様	底部その他
国立-0-74	TP7-2	円筒土器a式	縄文	40	19.0	243	11.0	TP7層上	深鉢		有	有	無	外反深	横	横	横	無	胴部以	胴部	無			4.3				LR縄圧痕。		無部分	丸平だより	無文	底部に	無部文
国立-0-75	PR3-3	円筒下層a式 ～c式	縄文	31.0	—	14.0	13.9	第7BG21 P-01層上	深鉢		有	有	有	外反	横	横	横	胴部以	無	無	無	無	無					LR縄圧痕。		無部分	上げ底	LR縄文		
国立-0-76	PR3-1	円筒下層a式 ～c式	縄文	29.5	20.0	37.0	17.5	第第8L 7BG4 P-01層上	深鉢		有		無	無	横	横	横	胴部以	無	胴部	無	無	無	平縁	円筒状	円筒状	外縁と胴部の接合部に、それぞれ多数穿孔した。			無部分	上げ底	外縁多角形	外縁多角形
国立-0-77	PR2-1	サイベ沢遺跡	縄文	29.0	14.9	17.1	8.0	P-02層上層①1	小型深鉢		無	無	無	無	横	横	横	胴部以	胴部以	胴部以	胴部以	胴部以	胴部以					胴部以		平底	丸平だより	無文		
国立-0-78	PR2-2	サイベ沢遺跡	縄文	23.2	13.5	25.0	8.5	P-02層上層①1	小型深鉢		有		自然研磨	丸平	横	横	横	無	口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。	口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。	口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。	口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。	口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。					口縁部直下に沿って、1条の沈線が巡る。		上げ底	丸平だより	無文		
国立-0-79	PR2-3	サイベ沢遺跡	縄文	35.0	—	14.0	8.0	P-02層上層①1	小型深鉢	無縄文	有	有	高杯状に開く。口縁部は、外反する。	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無		口縁部と胴部の境界が深く入る。	口縁部と胴部の境界が深く入る。	胴部分は、丸平だより	上げ底	無文	無作部から、刺部
国立-0-80	PR2-5	サイベ沢遺跡	縄文	34.0	9.5	13.0	3.0	P-02層上層3b	小型深鉢		有	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				底部周辺は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-81	PR2-6	サイベ沢遺跡	縄文	33.0	9.0	14.0	3.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-82	PR2-7	サイベ沢遺跡	縄文	34.0	—	14.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	胴部以の波型部	胴部以の波型部	胴部以の波型部	胴部以の波型部	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-83	PR2-8	サイベ沢遺跡	縄文	38.0	—	14.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-84	PR2-9	サイベ沢遺跡	縄文	37.0	—	13.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-85	PR2-10	サイベ沢遺跡	縄文	33.0	—	13.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-86	PR2-11	サイベ沢遺跡	縄文	34.0	—	14.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-87	PR2-12	サイベ沢遺跡	縄文	35.0	—	14.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-88	PR2-13	サイベ沢遺跡	縄文	32.0	—	13.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-89	PR2-14	サイベ沢遺跡	縄文	34.0	—	14.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-90	PR2-15	サイベ沢遺跡	縄文	38.0	—	15.0	9.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-91	PR2-16	サイベ沢遺跡	縄文	37.0	—	17.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-92	PR2-17	サイベ沢遺跡	縄文	33.0	—	13.0	8.0	P-02層上層3b	小型深鉢		無	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-93	PR2-18	サイベ沢遺跡	縄文	32.0	—	13.0	9.0	P-02層上層3b	小型深鉢		有	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-94	PR2-19	サイベ沢遺跡	縄文	35.0	—	16.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		有	無	無	丸平	横	横	横	無	無	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-95	PR2-20	サイベ沢遺跡	縄文	34.0	—	14.0	7.0	P-02層上層3b	小型深鉢		有	無	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続	無	無	無	無	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-96	PR2-21	サイベ沢遺跡	縄文	13.0	15.0	7.0	7.0	P-02層上層4b	小型深鉢		有	有	無	丸平	横	横	横	無	無	胴部以の波型部	胴部以の波型部	胴部以の波型部	胴部以の波型部	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-97	PR2-22	サイベ沢遺跡	縄文	23.0	12.0	24.0	—	P-02層上層4b	小型深鉢		有	有	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続	無	胴部分の波型部は、円形端に付けて孔を穿る。	胴部分の波型部は、円形端に付けて孔を穿る。	胴部分の波型部は、円形端に付けて孔を穿る。	無	無	無				胴部は、平縁	丸平だより	無文		
国立-0-98	PR2-23	サイベ沢遺跡	縄文	20.0	13.5	13.0	8.0	P-02層上層①1	小型深鉢		無	有	無	丸平	横	横	横	無	口縁外に縄側面圧痕連続											中央に胴部のあるRL縄。		上げ底	丸平だより	無文
国立-0-99	PR2-24	サイベ沢遺跡	縄文	20.0	13.5	13.0	8.0	P-02層上層①1	小型深鉢		無	有	無	丸平	横	横	横	無	口縁外に縄側面圧痕連続											中央に胴部のあるRL縄。		無部分	上げ底	丸平だより	無文
国立-0-100	PR2-25	サイベ沢遺跡	縄文	20.0	14.0	17.0	7.0	P-02層上層①1	小型深鉢		無	有	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続		胴上縁を口縁に沿って付し、強調の一種隆帯。									胴部は、平縁	分平底上げ底の胴部分	無文		胴部分は無文
国立-0-101	PR2-26	サイベ沢遺跡	縄文	20.0	21.0	23.0	7.0	第1BG 4P7b	胴部深鉢		無	有	無	丸平	横	横	横	無	LR縄側面圧痕が口縁に連続											胴部第二種隆帯。		無文		

表Ⅲ－5　遺構出土掲載復元土器接合破片一覧

遺構名・掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体かも知れない	合計点数	区分	備考
H18-1	367	H18遺土1層1567	905	6		10	住居覆土	367の2接合
H18-1	367	H18遺土1層3670	831	4		10	住居覆土	1567と接合
H18-3	236	H18遺土1層1568	805	59	16	75	住居覆土	
H18-4	568	H18遺土1層4106	914	45		45	住居覆土	
H19-4	499	H19遺土2層	828	112	12	125	住居覆土	
H19-4	499	H19遺土314	831	1		125	住居覆土	
H20-1	409	H20ピットレンチ34	909	55	51	119	住居覆土	
H20-1	409	H20ピット2206	914	8		119	住居覆土	
H20-1	409	H20ピットレンチ63	911	1		119	住居覆土	
H20-1	409	H20ピット2251	911	1		119	住居覆土	
H20-2	241	H20西ベルト遺土242	918	76	2	78	住居覆土	
H20-3	381	H20東ベルト遺土241	918	69	7	122	住居覆土	
H20-3	381	H20ピットレンチ63	911	2	2	122	住居覆土	
H20-3	381	H20ピットレンチ94	909	34	8	122	住居覆土	
H20-4	163	H20西ベルト遺土242	918	78	24	133	住居覆土	
H20-4	163	H20ピット2166	915	12		133	住居覆土	
H20-4	163	H20ピット2132	916	19		133	住居覆土	
H21-1	130	H21遺土2層南側159	911	51	11	62	住居覆土	
H21-2	116	H21遺土2層上面南側159	911	54	3	80	住居覆土	
H21-2	116	H21遺土東側壁B3	911	22	1	80	住居覆土	
H21-3	115	H21遺土3層上面2層297	911	26		26	住居覆土	
H21-4	111	H21遺土7層上面2層297	911	55		57	住居覆土	
H21-4	111	H21遺土東側下位113	911	2		57	住居覆土	
H21-5	112	H21遺土7層上面南側159	911	116	8	124	住居覆土	
H21-6	113	H21遺土7層31	915	165	98	263	住居覆土	
H21-7	114	H21遺土7層上面北側296	911	107	6	127	住居覆土	
H21-7	114	H21遺土東側下位113	911	8		127	住居覆土	
H21-7	114	H21遺土東側壁B2	911	3		127	住居覆土	
H21-7	114	H21中P1遺土312	930	2		127	住居付属遺構遺土	
H21-7	114	H21中P14遺土315	930	1		127	住居付属遺構遺土	
H21-8	271	H21遺土8層34	929	48	1	52	住居覆土	
H21-8	271	H21遺土下位ベルト部分遺	925	3		52	住居覆土	
H21-9	284	H21遺土7層31	915	52	10	87	住居覆土	
H21-9	284	H21遺土上位ベルト部分遺	925	4	1	87	住居覆土	
H21-9	284	H21遺土西側160	911	15		87	住居覆土	
H21-9	284	H21遺土東側161	911	4	1	87	住居覆土	
H21-10	110	H21遺土7層31	915	125	3	136	住居覆土	
H21-10	110	H21遺土東側下位113	911	7		136	住居覆土	
H21-10	110	H21遺土東側下位117	915	3		136	住居覆土	
H21-11	267	H21遺土東側上位163	911	2		100	住居覆土	
H21-11	267	H21遺土東側上位259	915	3		100	住居覆土	
H21-11	267	H21遺土7層上面北側297	911	4		100	住居覆土	
H21-11	267	H21遺土ベルト中位298	911	89	2	100	住居覆土	
H22-1	196	H22遺土5層2	911	122	43	206	住居覆土	
H22-1	196	H22ストレンチ遺土44	906	27	14	206	住居覆土	
H22-2	202	H22遺土東側41	911	41		41	住居覆土	
H23-1	334	H23遺土256	908	26		26	住居覆土	
H23-2	372	H23遺土129	901	42	4	48	住居覆土	
H23-2	372	H23遺土1	821	2		48	住居覆土	
H23-2	375	H23遺土255	903	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23遺土227	821	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23トレンチ遺土87	818	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23トレンチ遺土72	819	1		4	住居覆土	
H23-4	210	H23遺土2	906	63	68	131	住居覆土	
H23-5	382	H23遺土3	908	64	4	68	住居覆土	
H23-6	383	H23遺土3	908	89		89	住居覆土	
H25-1	376	H25遺土1層12	903	69	39	108	住居覆土	
H26-1	496	M6－2 No.1(44V)（実際はH26遺土2）	1028	148	120	268	墓土	
H26-2	497	M6－2 No.1(44V)（実際はH26遺土2）	1028	238	49	287	墓土	
H26-3	508	H26東面1（実際は遺土2）	926	47	1	88	住居床面	
H26-3	508	H26東面1（実際は遺土2）	926	3	3	88	住居床面	
H26-3	508	H26東面3（実際は遺土2）	926	14		88	住居床面	
H26-3	508	H26東面4（実際は遺土2）	926	7		88	住居床面	
H26-3	508	H26東面5（実際は遺土2）	926	1		88	住居床面	
H26-3	508	H26東面6（実際は遺土2）	926	6		88	住居床面	

遺構名・掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体かも知れない	合計点数	区分	備考
H26-3	508	H26東面5?（実際は遺土2）	926	1	6	88	住居床面	
H26-4	427	H26東面2（実際は遺土2）	926	105	7	115	住居床面	
H26-4	427	H26東面1（実際は遺土2）	926	1		115	住居床面	
H26-4	427	H26東面4（実際は遺土2）	926	2		115	住居床面	
H26-5	431	H26東面9（実際は遺土2）	926	117	69	186	住居床面	
H26-6	502	H26東面10（実際は遺土2）	926	23	10	36	住居床面	
H26-6	502	H26東面9（実際は遺土2）	926	5		36	住居床面	
H27-1	348	H27床面36	917	50			住居床面	
H27-2	358	H27遺土2層111	911	35		54	住居覆土	
H27-2	358	H27遺土2層160	907	13	4	54	住居覆土	
H27-2	358	H27遺土2層162	907	1		54	住居覆土	
H28-1	190	H28遺土3層200	922	86	1	87	住居覆土	
H28-2	218	H28遺土1129	922	27		39	住居覆土	
H28-2	218	H28遺土1130	922	8		39	住居覆土	
H28-2	218	H28遺土1137	922	4		39	住居覆土	
H29-1	30	H29遺土2位30	929	48	2	64	住居覆土	明らかに別個体の円筒下層は式が共存した
H29-1	30	H29遺土2位35	926	9		64	住居覆土	
H29-1	30	H29遺土2層46	918	4		64	住居覆土	
H29-1	30	H29遺土東側60	929	1		64	住居覆土	
H29-2	28	H29遺土2位34	916	65	2	67	住居覆土	1点の円筒下層が式別個体が共存した
H29-3	27	H29遺土2位1	916	72		72	住居覆土	13点の円筒下層が式別個体が共存した
H29-4	26	H29遺土2位14	916	69		69	住居覆土	
H29-5	25	H29遺土2位9	916	11		212	住居覆土	
H29-5	25	H29遺土2位11	916	15	10	212	住居覆土	
H29-5	25	H29遺土2位12	916	47	74	212	住居覆土	
H29-5	25	H29遺土2?位24	918	41	14	212	住居覆土	
H29-6	176	H29遺土2位5	916	40	8	54	住居覆土	
H29-6	176	H29遺土2位4	916	1		54	住居覆土	
H29-6	176	H29遺土2位158	916	1		54	住居覆土	
H29-6	176	H29遺土2?268	917	4		54	住居覆土	
H29-7	33	H29遺土2位5	916	64		68	住居覆土	
H29-7	33	H29遺土2位158	916	1		68	住居覆土	
H29-7	33	H29遺土2?295	917	1		68	住居覆土	
H29-7	33	H29遺土2?268	917	1		68	住居覆土	
H29-7	33	H29遺土2層46	918	1		68	住居覆土	
H29-8	282	H29遺土2位13	916	42		58	住居覆土	
H29-8	282	H29遺土2位9	916	11		58	住居覆土	
H29-8	282	H29遺土2?位166	917	3		58	住居覆土	
H29-8	282	H29ライントレンチ62区243	906	1	2	58	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土2位30	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土ベルト西端87	929	3		8	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土2位135	926	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土2位168	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土北側345	918	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29遺土2層246	918	1		8	住居覆土	
H29-10	88	H29遺土2位3	916	182	50	232	住居覆土	
H29-11	38	H29遺土2位2	916	190	27	217	住居覆土	
H29-12	323	H29遺土2位10	916	48		48	住居覆土	
H29-13	366	H29遺土2位6	916	14	4	36	住居覆土	
H29-13	366	H29遺土2位286	917	18		36	住居覆土	
H29-25	294	H29遺土?位18	918	28	3	81	住居覆土	
H29-25	294	M2－2 KG242	922	47	2	81		
H29-26	295	H29遺土?位337	1013	1		33	住居覆土	
H29-26	295	H29遺土?位17	918	10	3	18	住居覆土	
H29-26	295	H29遺土2位159	918	3	1	18	住居覆土	
H29-26	295	H29遺土2位288	917	1		18	住居覆土	
H29-28	324	H29遺土?位15	918	18	3	24	住居覆土	
H29-28	324	H29遺土?位16	918	3		24	住居覆土	
H29-29	333	H29遺土?位20	918	91	35	135	住居覆土	
H29-29	333	H29遺土2位158	916	8	3	135	住居覆土	
H29-30	85	H29遺土?位19	918	123	41	164	住居覆土	
H29-31	246	H29遺土?位17	918	45	5	225	住居覆土	
H29-31	246	H29遺土?位19	918	44	131	225	住居覆土	
H29-32	119	H29遺土?位24	918	19	6	40	住居覆土	
H29-32	119	H29遺土2位158	916	15		40	住居覆土	
H29-33	98	H29遺土?位26	918	52	3	56	住居覆土	
H29-33	98	H29遺土?位27	918	1		56	住居覆土	
H29-34	171	H29遺土?位27	918	12	3	33	住居覆土	
H29-34	171	H29遺土?位29	918	3		33	住居覆土	
H29-34	171	H29遺土?位20	916	7		33	住居覆土	
H29-34	171	H29遺土?位169	929	1		33	住居覆土	
H29-34	171	H29中P12遺土319	1001	4		33	住居覆土	
H29-35	68	H29遺土?位22	918	110	42	152	墓土	
H29-36	29	H29遺土?位15	918	35	1	38	住居覆土	
H29-36	29	H29中P19遺土361	1001	2		38	住居付属遺構遺土	
H29-37	248	H29遺土遺下位38	930	59	31	90	住居覆土	
H29-43	307	H29住居46	930	16	21	37	住居覆土	
H34-1	19	H34遺土?層7	910	71		71	住居覆土	

4　表

遺構名・掘組番号	層元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
H34-2	23	H34第2層1	909	73	3	77	住居覆土	30点ほど小砕片の同一個体
H34-2	23	H34南北トレンチ南側50	904	1		77	住居覆土	
H34-3	17	H34第2層6	910	95		95	住居覆土	
H35-1	20	H35床面6	1014	141	15	168	住居掘面	
H35-1	20	H35第2東側50	1013	3		168	住居覆土	
H35-1	20	H35第2西側57	1007	7		168	住居覆土	
H35-1	20	M2一2　64S7	902	1		168	M2盛土	
H35-1	20	M2一2　64S8	904	1		168	M2盛土	
H35-2	31	H35床面6	1014	91		92	住居掘面	
H35-2	31	H35第2西側57	1007	1		92	住居覆土	
H36-1	157	H36第2層5	915	30	6	37	住居覆土	
H36-1	157	H36第2層4	915	1		37	住居覆土	
H36-2	360	H36第2層5	915	49		49	住居覆土	
H36-5	714	H36第2層6	915	6		32	住居覆土	
H36-5	714	M4一3　56R12	1001	2		32	盛土	
H36-5	714	M4一4　56R10B	1016	22	2	32	盛土	
H36-6	726	H36第2層4	915	35	14	102	住居覆土	
H36-6	726	H36第2西側58	916	33	10	102	住居覆土	
H36-6	726	M2一3　58U17	907	7	2	102	盛土	
H36-6	726	H36第2東側57	922		1	102	住居覆土	
H38-2	16	H38ベルト墓土層上位62	1014	31		31	住居覆土	
H38-2	16	H38ベルト墓土層上位63	1014	18		31	住居覆土	
H38-4	18	H38第2土位1	1005	70	13	83	住居覆土	
H38-5	134	H38第2土位1	1005	22	3	31	住居覆土	H36第2土と接ぶ一点合わせ合があるが、別個体だった。
H38-5	134	H38第2下位東側77	1007	4		31	住居覆土	
H38-5	134	M2一2　63R26	902	1		31	盛土	
H38-5	134	M2一2　63R21	831	1		31	盛土	
H38-6	62	H38第2土位7	1015	89		107	住居覆土	
H38-6	62	H38ベルト墓土上位59	1014	1		107	住居覆土	
H38-6	62	H38南北トレンチ106	915	9		107	住居覆土	
H38-6	62	M2一2　63G2	911	8		107	盛土	
H38-7	100	H38第2土位3	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38第2土位34	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38第2東側133	1013	9		69	住居覆土	
H38-7	100	H38第2土層上位50	1020	1		69	住居覆土	
H38-7	100	M2一2　62R5	827	5		69	盛土	
H38-7	100	M2一2　63R26	902	22	4	69	盛土	
H38-7	100	M2一2　63R31	831	16	2	69	盛土	
H38-7	100	M2一2　63R40	826	2		69	盛土	
H38-7	100	M2一2　63R45	902	4		69	盛土	
H38-7	100	M2一2下位　62R6	1019	1		69	盛土	
H38-7	100	M2一2下位　63R16	1013	1		69	盛土	
H38-9	284	H38第2土位3	1005	4		28	住居覆土	
H38-9	284	H38ベルト墓土上位59	1014	2	1	28	住居覆土	
H38-9	284	H38東西トレンチ東側107	916	5		28	住居覆土	
H38-9	284	H38第2下位東側170	1007	1		28	住居覆土	
H38-9	284	M2一2　63R26	902	10	3	28	盛土	
H38-9	284	M2一2　63G5	902	1	1	28	盛土	
H38-13	489	H38ベルト墓土上位64	1014	56	20	100	住居覆土	
H38-13	489	H38ベルト墓土上位59	1014	9	11	100	住居覆土	
H39-2	392	H39第2土位33?	1013	37	5	392	住居覆土	
H39-2	392	H39東側第2下位146	1014	1		392	住居覆土	
H39-2	392	H39ベルト墓土2層直下189	1014	10		392	住居覆土	
H39-2	392	H39第2土位336	1013	17	1	392	住居覆土	
H39-2	392	H39第2土東側61	1014	1		392	住居覆土	
H39-3	71	H39第2土層上位22	1009	154	74	242	住居覆土	
H39-3	71	H39第2土位33?	1013	4		242	住居覆土	
H39-3	71	H39第2土365	1005	8		242	住居覆土	
H39-7	422	H39第2土位7	916	21	15	40	住居覆土	
H39-7	422	H39第2土南側13	922	1	2	40	住居覆土	
H39-7	422	H39第2土位337	1013	1		40	住居覆土	
H39-11	168	H39第2土位2	918	117	37	154	住居覆土	
H39-15	399	H39第2土位5	918	33	15	50	住居覆土	
H39-15	399	H39ベルト墓土上位135	1014	1		50	住居覆土	
H39-15	399	H39ベルト墓土層上位150	1013	1		50	住居覆土	
H39-16	95	H39第2土位16	1005	85	9	131	住居覆土	
H39-16	95	H39第2土位105	1006	22	15	131	住居覆土	
H39-17	52	H39第2土位23	1008	128	17	145	住居覆土	
H39-18	429	H39第2土位3	918	137	69	214	住居覆土	
H39-18	429	M1　62U4	826	10		214	盛土	
H39-18	429	M1　62U4	825	2		214	盛土	

遺構名・掘組番号	層元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
H39-18	295	H39第2土位21	1005	8		33	住居覆土	
H39-18	295	H39第2土位17	1005	14		33	住居覆土	
H39-18	295	H39第2土位18	1005	6		33	住居覆土	
H39-18	295	H39第2下位東側137	1013	1		33	住居覆土	
H39-19	295	H39第2下位東側306	1005	8		33	住居覆土	
H39-20	481	H39第2土位17	1005	1	6	348	住居覆土	
H39-20	481	H39第2土位21	1005	32		348	住居覆土	
H39-20	481	H39ベルト墓土2層直下189	1014	61	191	348	住居覆土	
H39-21	108	H39第2土位16	1005	135	13	160	住居覆土	
H39-21	108	H39第2土位407	1005	13		160	住居覆土	
H39-22	401	H39第2土位1	918	56	26	85	住居覆土	
H39-22	401	H39第2土側土位339	918	1	1	85	住居覆土	
H39-22	401	H39第2土南側313	922		1	85	住居覆土	
H39-23	174	H39第2土位11	918	93	40	144	住居覆土	
H39-23	174	H39第2土位407	1005		9	144	住居覆土	
H39-23	174	H39第2土位107	1006		1	144	住居覆土	
H39-23	174	M4一3　61R43	930		1	144	盛土	
H39-24	442	H39第2土位9	918	10	4	101	住居覆土	
H39-24	442	H39第2土位10	918	25	20	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト墓土上位260	1014	1	3	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト墓土層上位150	1015		1	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト墓土層上位262	1014	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39第2南側313	922	2		101	住居覆土	
H39-24	442	H39第2東側314	922	12	1	101	住居覆土	
H39-24	442	M1　62U3	826		1	101	盛土	
H39-24	442	M1　62U5	819		1	101	盛土	
H39-24	442	M2一2　62U2	831	9	2	101	盛土	
H39-24	442	H39第2土壁際258	1024		1	101	住居覆土	
H39-24	442	H39第2東側106	1007		1	101	住居覆土	
H39-25	49	H39第2土側土位12	918	120		120	住居覆土	
H39-25	49	H39第2土側土位339	918	8		120	住居覆土	
H39-26	50	H39第2土埋直下25	1014	76	17	93	住居覆土	展開写真に下下とあるが下下(段下)の間違い
H39-27	317	H39第2土位14	1005	56	8	75	住居覆土	
H39-27	317	H39第2下位26	1014	3		75	住居覆土	
H39-27	317	H39第2埋直下184	1014	3		75	住居覆土	
H39-27	317	H39ベルト墓土2層直下187	1014	1		75	住居覆土	
H39-27	317	H39第2土位17	1005		2	75	住居覆土	
H39-28	121	H39第2土位9	918	3		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト墓土上位126	1014	4		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト墓土層上位262	1014	6		49	住居覆土	
H39-28	121	H39第2南側313	922	1		49	住居覆土	
H39-28	121	H39第2東側314	922	11	1	49	住居覆土	
H39-28	121	H39東西トレンチ西側408	1005	1		49	住居覆土	
H39-28	121	M1　61U6	826	6		49	盛土	
H39-28	121	M1　61U13	819	1		49	盛土	
H39-28	121	M2一2　62U2	831	9	1	49	盛土	
H39-28	121	M1　62U3	826	3		49	盛土	
H39-28	121	M1　62U4	825	1		49	盛土	
H39-28	121	M2一2　63T3	821		1	49	盛土	
H39-29	59	H39第2土位337	1013	35	4	39	住居覆土	
H39-30	400	H39第2土側土位12	918	46	27	73	住居覆土	関連垣未あり
H39-32	126	H39第2土位13	1005	23	45	123	住居覆土	
H39-32	126	H39ベルト墓土中位404	1015	14		123	住居覆土	
H39-32	126	H39第2土位365	1005	17		123	住居覆土	
H39-32	126	H39第2下位東側306	1005	7		123	住居覆土	
H39-32	126	H39第2土埋直下357	1015	11		123	住居覆土	
H39-32	126	H39第2土埋直下184	1014	6		123	住居覆土	
H39-33	423	H39第2土位35	1005	48	11	59	住居覆土	
H39-34	416	H39ベルト墓土2層直下188	1014	65	18	85	住居覆土	
H39-34	416	H39第2下位東側306	1005		1	85	住居覆土	
H39-34	416	H39第2下位132	1013		1	85	住居覆土	
H39-35	255	H39ベルト墓土2層直下187	1014	56	13	110	住居覆土	
H39-35	255	H39第2土側土位339	918	33		110	住居覆土	
H39-35	255	H39第2土位365	1005	5		110	住居覆土	
H39-35	255	H39第2土位14	1005	3		110	住居覆土	
H39-41	413	H39第2土埋直下186	1014	59	1	69	住居覆土	
H39-41	413	H39第2土位107	1006	5	1	69	住居覆土	
H39-41	413	H39第2南側313	922		3	69	住居覆土	
H39-42	122	H39第2土位24	1014	7		37	住居覆土	
H39-42	122	H39第2ベルト墓土下位61	1014		1	37	住居覆土	
H39-42	122	H39第2ベルト墓土中位156	1016	1		37	住居覆土	
H39-42	122	H39東西トレンチ北側229	918	2		37	住居覆土	
H39-42	122	H39第2土東側61	1014		1	37	住居覆土	
H39-42	122	H39第2土位338	1013	9	2	37	住居覆土	
H39-42	122	H39第2土位406	1015	14		37	住居覆土	
H39-43	281	H39第2土位19	1005	36	10	53	住居覆土	
H39-43	281	H39第2土位107	1006	2	5	53	住居覆土	
H39-48	61	H39第2土位15	1005	36		87	住居覆土	
H39-48	61	H39第2土位365	1005	51	5	87	住居覆土	
H39-49	123	H39第2下位35	1019	34	6	40	住居覆土	
H39-50	51	H39第2下位31	1015	149	9	158	住居覆土	
H39-51	57	H39第2中位32	1015	122	5	136	住居覆土	
H39-51	57	H39ベルト墓土上位405	1015		1	136	住居覆土	
H39-51	57	H39ベルト墓土下位108	1019	2		136	住居覆土	
H39-52	86	H39第2下位26	918	125	143	268	住居覆土	
H39-53	179	H39第2下位152	1015		1	153	住居覆土	
H39-53	179	H39第2土位365	1005	2		153	住居覆土	

遺構名・掘組番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
H09-53	179	H39遺土下区33	1019	51	19	153	住居覆土	
H09-53	179	H39遺土下区27	1014	22	4	153	住居覆土	
H09-53	179	H39遺土下区35	1019	32	1	153	住居覆土	
H09-53	179	H21遺土/開土東中央157	911	1		153	住居覆土	
H09-53	179	H39遺土下区34	1019	17	2	153	住居覆土	
H09-53	179	H39遺土下区28	1014		1	153	住居覆土	
H09-55	482	H39遺土下区28	1014	13		15	住居覆土	
H09-55	482	H39遺土下区37	1019	2		15	住居覆土	
H09-56	257	H39遺土下区39	1019	69	8	82	住居覆土	
H09-56	257	H39遺土下区299	1020	3		82	住居覆土	
H09-56	257	M2−2　60T36	922	2		82	盛土	
H09-63	72	H39遺土最下位40	1020	77	16	95	住居覆土	
H09-63	72	H39遺土最下位41	1020	2		95	住居覆土	
H09-64	56	H39遺土最下位41	1020	112	9	122	住居覆土	
H09-64	56	H39遺土下区299	1020	1		122	住居覆土	
H09-65	309	H39遺土最下位42	1020	32	7	97	住居覆土	
H09-65	309	H39遺土下区38	1019	30		97	住居覆土	
H09-65	309	H39南北トレンチ北側229	918	12		97	住居覆土	
H09-65	309	H39遺土下区202	1019	2		97	住居覆土	
H09-65	309	H39遺土下区152	1015	8		97	住居覆土	
H09-65	309	H39ベルト西土167	1016	1		97	住居覆土	
H09-65	309	H39遺土下区299	1020	5		97	住居覆土	
H41-1	262	H41ベルト西土上位66	1020	100		100	盛土	
H41-2	434	H41トレンチ70	925	61	55	116	住居覆土	
H41-3	461	H41ベルト西土上位68	1020	74	120	195	住居覆土	
H41-3	461	H41西トレンチ71	1005		1		住居覆土	
H41-3	462	M4−6　59S71	1007	27		27	盛土	
H41-4	390	H41ベルト西土上位65	1020	98	192	290	住居覆土	
H41-5	373	H41ベルト西土上位65	1020	29	14	43	住居覆土	
H41-6	444	H41ベルト西土上位67	1020	55	8	64	住居覆土	
H41-6	444	H41遺土東側18	1005	2	1	64	住居覆土	
H41-7	374	H41ベルト西土下位47	1021	95	42	137	住居覆土	
H46-1	118	H46遺土北M4盗行31	1024	58	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46遺土北区14	1024	38	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46遺土下区62	1026	1		99	住居覆土	
H46-2	359	H46遺土北区14	1024	24		35	住居覆土	
H46-2	359	H46遺土下区62	1026	8		35	住居覆土	
H46-2	359	H46遺土東側63	1026	3		35	住居覆土	
H52-1	181	H52遺土M55	1027	41	8	96	住居覆土	
H52-1	181	H52遺土M56	1027	47		96	住居覆土	
H56-1	89	H56遺土最上位1	1020	50	7	57	住居覆土	
H56-2	92	H56遺土最上位4	1020	72	26	98	住居覆土	
H56-3	361	H56遺土最上位3	1020	55	33	116	住居覆土	
H56-3	361	H56遺土最上位50	1020	17	10	116	住居覆土	
H56-3	361	H56遺土最上位1	1020		1	116	住居覆土	
H56-5	93	H56遺土下位5	1020	43	1	44	住居覆土	
H56-6	91	H56遺土最上位2	1020	184	53	251	住居覆土	
H56-6	91	H29遺土北側246	918	14		251	住居覆土	
H57-4	11	H57HP3埋設土器13	1109	64	19	83	住居埋設土器	
H57-7	105	H57遺土下位99−一括土器	1104	7	3	19	住居覆土	
H57-7	105	H57遺土8Q18	1020		1	19	住居覆土	
H57-7	105	H57遺土8	1110	5		19	住居覆土	
H57-7	105	面　8SP1	1019	2		19	包含層	
H57-7	105	面　8ZQ3	1013	1		19	包含層	
H58-1	4	H58遺土8SP121	1022	2		38	住居覆土	
H58-1	4	H58遺土上位8SQ233−一括土器⑤	1027	2		38	住居覆土	一括土器⑤
H58-1	4	H58遺土上位8SQ235−一括土器⑤	1027	29		38	住居覆土	一括土器⑤
H58-1	4	面　8SP3	1019	3		38	包含層	
H58-1	4	面　8SP4	1019	2		38	包含層	

遺構名・掘組番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
H58-2	22	H58遺土上位8SQ232−一括土器⑤	1027	4		34	住居覆土	一括土器⑤
H58-2	22	H58遺土上位8SQ233−一括土器⑤	1027	30		34	住居覆土	一括土器⑤
H58-3	9	H58遺土上位8SQ240−一括土器⑤	1027	26		42	住居覆土	一括土器⑤
H58-3	9	H58遺土上位8SQ233−一括土器⑤	1027	12		42	住居覆土	一括土器⑤
H58-3	9	H58遺土上位8SQ127	1023	1		42	住居覆土	
H58-3	9	H58遺土上位8SQ166	1024	2		42	住居覆土	
H58-3	9	H58遺土上位8SQ239−一括土器⑤	1027	1		42	住居覆土	一括土器⑤
H58-4	10	H58遺土中位8SP168−一括土器⑤	1028	43	11	62	住居覆土	一括土器⑤ 焼成粘土塊が点在
H58-4	10	H58遺土下位8SQ12	1020	1		62	住居覆土	
H58-4	10	H58遺土上位8SQ6−一括土器⑤	1027	2		62	住居覆土	一括土器⑤
H58-4	10	H58遺土167−一括土器⑤	1024	2		62	住居覆土	一括土器⑤
H58-4	10	H58遺土8SP119	1026	3		62	住居覆土	
H58-5	108	H58遺土120−一括土器⑦	1024	82	2	97	住居覆土	一括土器⑦
H58-5	108	H58遺土上位8SQ234−一括土器⑤	1027	5	2	97	住居覆土	一括土器⑤
H58-5	108	H58遺土上位8SQ127	1023	2		97	住居覆土	
H58-5	108	面　8SP9	1007	2	1	97	包含層	
H58-5	108	面　8SQ5	1008		2	97	包含層	
H58-6	455	H58遺土165−一括土器⑥	1024	131	95	230	住居覆土	一括土器⑥
H58-6	455	H58遺土230−一括土器⑥	1024	13		230	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	H58遺土230−一括土器⑥	1024	20		25	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	面　8SP15	1019	4	1	25	包含層	
H58-8	14	H58遺土167−一括土器⑤	1024	47		47	住居覆土	一括土器⑤ 別個体の磨滅した底ヘと底が60点ほど共同した。
H58-9	12	H58遺土中位8SQ237−一括土器⑤	1027	56	4	60	住居覆土	一括土器⑤
H58-10	404	H58遺土上位8SQ233−一括土器⑤	1027	2		36	住居覆土	一括土器⑤
H58-10	404	面　8SP6	1019	1		36	包含層	
H58-10	404	面　8SP8	1006	4		36	包含層	
H58-10	404	面　8SP12	1016	16	2	36	包含層	
H58-10	404	面　8SP13	1016	2	2	36	包含層	
H58-10	404	面　8SP14	1019	1	1	36	包含層	
H58-10	404	面　8SQ2	1026	2		36	包含層	
H58-10	404	面　8SQ5	1008		3	36	包含層	
H58-11	497	H58遺土162−一括土器⑤	1022	35	17	52	住居覆土	一括土器⑤
H58-12	37	H58遺土上位8SQ232−一括土器⑤	1027	1		73	住居覆土	一括土器⑤ 円筒下層d式の最新または円筒上層a式古段階。上限とした。
H58-12	37	H58遺土上位8SQ233−一括土器⑤	1027	48	24	73	住居覆土	一括土器⑤ 円筒下層d式の最新または円筒上層a式古段階。上限とした。
H58-12	37	H58遺土上位8SQ235−一括土器⑤	1027	2		73	住居覆土	一括土器⑤
H58-13	6	H58遺土8HP163−一括土器④	1022	28	3	31	住居覆土	一括土器④
H58-14	25	H58遺土中位8SQ169−一括土器⑤	1028	82	36	119	住居覆土	一括土器⑤ 体部付近焼灰とそれに沈証ミスか
H58-15	34	H58遺土8SP119	1026	22		22	住居覆土	円筒下層d式の最新または円筒上層a式古段階。上限とした。
H58-16	270	H58遺土上位8SQ239−一括土器⑤	1027	39	2	57	住居覆土	一括土器⑤
H58-16	270	H58遺土上位8SQ240−一括土器⑤	1027	6	9	57	住居覆土	一括土器⑤
H58-16	270	H58遺土上位8SQ234−一括土器⑤	1027	1		57	住居覆土	一括土器⑤
H58-17	7	H58遺土8ZP72	1102	37	3	40	住居覆土	
H58-18	32	H58遺土中位8SQ7−一括土器⑤	1028	36		36	住居覆土	円筒下層d式の最新または円筒上層a式古段階の別個体磨滅が1点が混じっていた。一括土器⑤
H58-19	266	H58遺土8HP163−一括土器④	1022	11	1	29	住居覆土	一括土器④
H58-19	266	H58遺土8HP161	1022	1		29	住居覆土	
H58-19	266	H58遺土8Z	1110	15		29	住居覆土	
H58-19	266	H58遺土8HP119	1026	1		29	住居覆土	
H58-20	447	H58遺土上位8SQ6−一括土器⑤	1027	7		21	住居覆土	一括土器⑤
H58-20	447	H58遺土中位8SQ9	1028	2	2	21	住居覆土	

遺構名・掘鑑番号	層元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
H58-20	447	H58盛土中但34P168一括土器等	1028	1		21	住居盛土	一括土器⑨
H58-20	447	H58盛土中但34Q10	1028	2	7	21	住居盛土	
H58-21	13	H58盛土土但83Q127	1023	44		61	住居盛土と包含層	
H58-21	13	H58盛土土但83Q168	1024	2		61	住居盛土と包含層	
H58-21	13	盛 83Q1	1023	1		61	住居盛土と包含層	
H58-21	13	盛 83Q5	1008	9		61	住居盛土と包含層	
H58-21	13	盛 83Q6	1008	1		61	住居盛土と包含層	
H58-21	13	盛 81Q7	1109	4		61	住居盛土と包含層	
H58-22	452	H58盛土土但83Q6一括土器⑨	1027	7		7	盛土	一括土器⑨
H58-23	260	H58盛土124一括土器②	1022	25	9	34	住居盛土	一括土器②
H60-3	287	M4-6 61Q2（H60盛土49と接合）	1022	71	38	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q12	1026	2		164	盛土	
H60-3	287	M4-3 61Q13	1021	2	2	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q28	1022	17	18	164	盛土	
H60-3	287	H60盛土49	1026	13		164	住居盛土	
H67-1	519	H67床面66	1106	33	4	50	住居床面	
H67-1	519	H67床面65	1104	14	25	50	住居床面	
H67-1	519	H67HP1盛土1 67	1106	19	21	50	付属遺構	
P45-1	164	M2-2 63R28	902	8	2	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R30	902	5		37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R33	831		1	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R31	831	13		37	盛土	
P45-1	164	M2 62Q5	817	3		37	盛土	
P45-1	164	M1 62Q11	806	1		37	盛土	
P45-1	164	MT5 63S10	804	1		37	盛土	
P45-1	164	P45盛土2	904	1		37	土坑墓土	
P54-1	5	P54盛面1	1109	127		133	土坑墓面	土坑墓面で潰れていた土器
P54-1	5	P54盛土3	1104	6		133	土坑墓土	取上げ時に墓面のものが混じったものか
P55-1	340	P55盛面6	1029	71	9	85	土坑墓面	
P55-1	340	P55盛土7	1029	4	1	85	土坑墓土	
P56-1	371	P56盛面9	1031	92	56	160	土坑墓面	
P56-1	371	P56盛面10	1031		7	160	土坑墓面	
P56-1	371	P56盛土14	1031	5		160	土坑墓土	
TP7-2	443	TP7盛土1	1028	10	3	25	Tピット墓土	
TP7-2	443	TP7盛土4	1023	5	1	25	Tピット墓土	
TP7-2	443	H58盛土62P57	1022	4	2	25	住居盛土	
F65-1	269	盛 盛面 76R4(F65関連)	609	37	16	86	焼礫	
F65-1	269	盛 盛面 76R5(F65関連)	609	7	7	86	焼礫	
F65-1	269	盛 76R2	619	2	18	86	焼礫	
F65-1	269	盛 76R1	618		1	86	包含層	
F65-2	313	盛 76Q3(F65関連)	624	23	5	28	包含層-黒色土入り込み.	
F32-1	330	F32盛土1層37	1102	2		10	焼土	
F32-1	330	甲1 45T61	1031	8		10	沢地形	
F32-2	352	F32盛土1層11	1102	25	11	36	焼土	
F32-3	350	F32盛土1層37	1102	10	1	23	焼土	点取り5.8.12と接合
F32-3	350	F32沢1層45T5	1102	2		23	焼土	
F32-3	350	F32盛土1層6	1102	1	1	23	焼土	
F32-3	350	F32沢1層45T12	1102	1		23	焼土	
F32-3	350	沢1層 45T61	1031	4	2	23	沢地形	
F32-3	350	沢1層 44S63	1031	1		23	沢地形	
F32-5	340	F32盛土2層36	1102	4		16	焼土	
F32-5	340	F32盛土1層37	1102	4		16	焼土	
F32-5	340	甲1 45T61	1031	8		16	沢地形	
F32-6	338	F32盛土2層36	1102	13		13	焼土	
F32-14	336	F32盛土1層37	1102	4		4	焼土	
F32-15	346	F32盛土2層38	1102	5		6	焼土	
F32-15	346	F32盛土1層37	1102	1		6	焼土	
F32-16	337	F32盛土1層37	1102	2		2	焼土	
F32-17	339	F32盛土2層36	1102	3		3	焼土	
F32-18	332	F32盛土2層36	1102	6		13	焼土	
F32-18	332	甲1 45T61	1031	7		13	沢地形	
F32-19	335	F32盛土2層36	1102	1		4	焼土	
F32-19	335	F32盛土1層37	1102	2	1	4	焼土	

遺構名・掘鑑番号	層元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か未接合	合計点数	区分	備考
F32-20	347	F32沢1層46T1	1102	26		26	焼土	
F32-21	344	M4-3 58R100	1014	13	16	151	盛土	
F32-21	345	F32沢1層46T2	1102	7	3	10	焼土	
F32-22	356	F32沢1層45T5	1102	39	16	55	焼土	
F32-24	201	F32沢1層3	1102	29	1	30	焼土	
F32-25	202	F32沢1層6	1102	29		29	焼土	
F32-26	351	沢1層 45T61	1031	4		11	沢地形	
F32-26	351	F32盛土1層6	1102	1		11	焼土	
F32-26	351	F32盛土2層36	1102	3		11	焼土	
F32-26	351	沢1層 45S62	1031	3		11	沢地形	

表Ⅲ－６　遺構出土掲載土器破片拓影化一覧

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類（上段：全体）（下段：本稿）	層位	接合点数	同一個体か（未接合）	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-1	H18	2	円筒上層a式	H18-3	Ⅲa	H16層土1層1569	57	44	101	住居覆土	28×28×10.0程ク器高×底径0m/機構・海綿資材含む。内面ミガキ、撫減著しく詳細不明。曲線的な整形によりこの縁部を成形。口縁部近傍内および口縁部文様帯直下には縦之字縄により矢羽根状の縄縄曲線構成、いずれも幅6mm。地紋は八本縄縄転帯行構文。縄間下半には無。底部は整状かとげて。底面は平たくより無文。
図Ⅲ-2-1	H18	5	円筒下層d2式	H18-4	Ⅱb	H18層土1層3311	1	0	1	住居覆土	縄文・海綿資材含む。内面ミガキ、地紋は山形多軸無条体単節縄文。再生土製品円形未使用。
図Ⅲ-2-1	H18	6	円筒下層d2式	H18-2	Ⅱb	H18床面4207	22	29	51	住居床面	口唇10cm、縄文・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部は縄、胴部には口縁部を区画、胴部より下には八本縄縄曲線が連続する。口縁部文様帯は八本縄縄による縄構構成の文様、幅6cm、区画直下には結束第二種の結束が走る。幅10m、地紋は八本縄多軸無条体縄回転。H18-1と同一個体か。
図Ⅲ-2-1	H18	7	円筒下層d2式	H18-1	Ⅱb	H18ベンチ上4243	11	9	20	住居ベンチ上	口唇10cm、縄文・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部は縄、胴部には口縁部を区画、胴部より下には八本縄縄曲線が連続する。口縁部文様帯は八本縄縄による縄構構成の文様、幅6cm、区画直下には結束第二種の結束が走る。幅10m、地紋は八本縄多軸無条体縄回転。H18-2と同一個体か。
図Ⅲ-2-2	H19	1	円筒上層a式	H19-1	Ⅱa	H19層土2層554	1	2	1	住居覆土	内面ミガキ・砂粒含む。海綿資材少量含む。L縄縄によって縄縄目文様帯を加飾し、区画内には一ヘラによる刺突が走る。
図Ⅲ-2-2	H19	2	円筒下層d式	H19-2	Ⅱb	H19層土1層315	2	1	2	住居覆土	口唇2cm、縄文・海綿資材含む。内面ミガキ、地紋は十九ボウ条体を水平方向に施文後したのちに、円環で、自縄自巻を縄走。円形再生土製品の破片か。
図Ⅲ-2-2	H19	3	円筒下層b式	H19-5	Ⅱb	H19層土2層355	1		1	住居覆土	内面ミガキ・海綿資材縄種、小石含む。RLR縄回転斜行縄文。円形そして穿孔された再生土製品。
図Ⅲ-2-2	H19	5	円筒下層d式	H19-3a	Ⅱb	H19層土1層383	3	1	4	住居覆土	内面ミガキ・海綿資材と縄種含む。胴部で口縁部文様帯を区画し、胴には単節で菱に上から縄結束。口唇には縄側面区画が連続する。上第一結の、縄種で区画内を充填する。地紋は同時多軸無条体縄回転。
図Ⅲ-2-2	H19	5		H19-3b	Ⅱb	H19層土2層328	1			住居覆土	
図Ⅲ-2-2	H19	6	円筒下層d2式古段階	H19-4	Ⅱb	H19床面79	16		16	住居床面	内面ミガキ・海綿資材と縄種含む。胴部で口縁部文様帯を区画し、L縄縄で区画内を充填する。区画下には結束第一種非就結文を施す。幅はそれぞれ2.5cmと1.5cm。地紋は四縄多軸無条体縄回転。
図Ⅲ-2-2	H20	5	円筒下層d1式	H20-6	Ⅱb	H20西ベルト242		11	23	住居覆土	口唇2cm、縄種含む。海綿資材少量含む。内面ミガキ、口縁側方向、胴部縄方向。L縄縄方向、胴部縄方向。口縁部区画は縄により平行、幅1cm。胴部は四単軸縄無条体第1類縄回転。
						H20南トレンチ66	7	4		住居覆土	
						H20北トレンチ194		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-4	H20	6	円筒下層d1式	H20-16	Ⅱb	H20北側トレンチ194	26			住居覆土	口唇10cm、内面ミガキ、口縁方向、縄種・海綿資材含む。口縁部には縄による単軸無条体側面区画が走り、幅1.5cm。区画直下には八の上の結束第一種。幅1.5cm。これは多段の単位に3cm間隔で施す。地紋は、L縄で単軸無条体第1類を縄回転。
図Ⅲ-2-4	H20	7	円筒下層b2～c式	H20-10	Ⅱb	H20南トレンチ66	7	12	19	住居覆土	底径8cm、内面ミガキ、縄種・海綿資材含む。地紋は、円環で単軸無条体第1類縄回転。上げ底でなだら平無文。
図Ⅲ-2-4	H20	8	円筒下層b式	H20-15	Ⅱb	H20ベルト底土51	1		1	住居覆土	口唇10cm、内面ミガキ、口縁方向、縄種・海綿資材含む。口縁部で口縁部を区画、区画内にはサルボウ条体その上に3本一組の八縄縄、幅3cm。地紋は、L縄で単軸無条体第1類を縄回転。
図Ⅲ-2-4	H20	9	円筒下層d1式	H20-14	Ⅱb	H20ベルト底土51	4	1	5	住居覆土	内面ミガキ、口縁側、胴部縄方向、縄種・海綿資材含む。胴部で口縁部を区画し、右へ向くヘラによる連続刺突、幅4cm。地紋は、L縄で、撚りのたった単軸無条体第1類を縄回転か。自縄自巻を縄走。
図Ⅲ-2-4	H20	10	円筒下層d1式	H20-12	Ⅱb	H20南トレンチ66	15		15	住居覆土	底径10cm、内面ミガキ、縄種・海綿資材含む。地紋は、地紋はサルボウ条体を水平方向に施文後したのちに、円環で、自縄自巻を縄走。上げ底で地紋と同一原体を回転施文。
図Ⅲ-2-4	H20	11	円筒下層b2～c式	H20-4	Ⅱb	H20ベルト底土166	2	6	8	住居覆土	縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁上方向、縄種方向、その下縄方向。胴部に胴部区画、そのエにへ向き後に押し引き、口縁部は八の縄結節後回転のエに1mm2段縄の結合がかすによる矢羽根状縄構。
						H20北トレンチ194	4			住居覆土	
図Ⅲ-2-4	H20	12	円筒下層b2～c式	H20 11	Ⅱb	H20南ベルト底土364	9	3	12	住居覆土	口唇10cm、内面ミガキ、口縁方向、胴部縄方向、縄種・海綿資材含む。胴部で口縁部を区画。胴部上には縄側面による連続刺突。地紋と同一原体か。区画内には胴部地紋と同じ結束の上から、直前直後第四RRL縄縄回転。幅4cm。地紋は、直前直後第四RRL縄縄回転。
図Ⅲ-2-4	H20	13	円筒下層b2～c式	H20-9	Ⅱb	H20南ベルト底土364	12	13	25	住居覆土	底径8cm、内面ミガキ、縄種・海綿資材含む。地紋は、RLR縄で縄回転。無紋なとげ底でRL縄回転無。
図Ⅲ-2-4	H20	14	円筒下層b2～c式	H20-13	Ⅱb	H20北区底土266	21		30	住居覆土	縄種含む。海綿資材少量含む。内面ミガキ、口縁14cm、底径8cm、口縁縄、胴部縄。胴部には縄側面区画。区画内には縄側面地紋と同じ直前直後第四L縄縄文地紋と地紋とが走る。幅3cm。地紋は前述の縄文を縄走する。上げ底で底面はミガキにより無文。
図Ⅲ-2-5	H20	15	コッタロー東銅路IV式	H20-1	Ⅰb	H20トレ底土37	1		1	住居覆土	内面ミガキ・砂粒含む。地紋は中縄の縄人結び縄が無限縄結。詳って施される。
図Ⅲ-2-5	H20	16	東銅路IV式	H20-3	Ⅰb	H20ZC区底土296	1		1	住居覆土	内面ミガキ・砂粒含む。地紋は集管回転スニンシタイプ。
図Ⅲ-2-5	H20	17	東銅路IV式	H20-2	Ⅰb	H20トレ底土117	1		1	住居覆土	内面ミガキ・砂粒含む。地紋は八中縄の無軸無条体回転。
図Ⅲ-2-5	H20	18	中茶路式	H20-17	Ⅰb	H20床上446②ニ	1		1	住居覆土	内面ミガキ・縄方向、砂含む。地紋は、RL縄縄回転条無地起縄紋付。
図Ⅲ-2-5	H20	19	円筒下層b2～c式	H20-7	Ⅱb	H20ZC区底上447	1	2	8	住居覆土	縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、地紋は四縄無軸無条体第1類縄回転。
						H20ZC区底上284	1	5		住居覆土	
図Ⅲ-2-5	H20	20	円筒下層b2～c式	H20-5	Ⅱb	H20床面6	2		2	住居床面	縄種・海綿資材少量含む。内面ミガキ、地紋は四縄無軸無条体第1類縄回転。
図Ⅲ-2-5	H20	21	円筒下層b式	H20-6	Ⅱb	H20床面6	3		3	住居床面	縄種含む。海綿資材少量含む。内面ミガキ、地紋は八L縄縄回転。底部側は縄単軸無条体第1類縄回転。上げ底で無文。縄減している。底径12cm。
図Ⅲ-2-9	H21	12	焼成粘土塊	H21-1	Ⅱb	H21層土東側土平259	1		1	住居覆土	縄種・海綿資材含む。
図Ⅲ-2-9	H21	14	円筒下層d1式	H21-14	Ⅱb	H21層土東側土平162	7	8	15	住居覆土	口唇2cm、底径8cm、縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部側は縄。胴部で口縁部を区画。そのエにはヘラによる右方向への押し引き。区画には八縄縄本一結を3段ほど、幅12cm。内環で、自縄自巻を縄走。
						H21層土東側土平163	6	2		住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	14	円筒下層d1式	H21-13	Ⅱb	H21層土東側土平162	4	8	12	住居覆土	口唇25cm、縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側縄、胴部縄。L縄と八縄本一結によって口縁部を区画。口唇に左側、区画内は結束第一種非就結文。区画直下には結束、幅14cm2.5cm。内環で本一結の単軸無条体第1類を縄回転。
						H21層土東側土平163	8			住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	15	円筒下層d1式	H21-8	Ⅱb	H21層土東側壁82	1		18	住居覆土	口唇16cm、縄種・砂含む。内面縄ミガキ、L縄と八縄本一結によって口縁部を区画。区画内には四の結節回転。幅12cm。L縄で単軸無条体第1類を縄回転。
図Ⅲ-2-9	H21	16	円筒下層d1式	H21-17	Ⅱb	H21層土北東側壁158	6		6	住居覆土	底径10cm、縄種・砂含む。海綿資材少量含む。内面縄ミガキ、地紋は、R縄で、自縄自巻を縄走。無紋なとげ底で、なだらにより無文。
図Ⅲ-2-9	H21	17	円筒下層d1式	H21-11	Ⅱb	H21層土東側土平162	7	8	15	住居覆土	口唇12cm、縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部側は縄。胴部側は縄、口縁部区画に八縄縄本一結。幅12cm。内環で、自縄自巻を縄走。区画直下および帯状に結束第一種非就結文を2段一組で施す。
						H21層土東側土平163				住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	18	円筒下層d1式	H21-4	Ⅱb	H21層土東側壁83	2		2	住居覆土	口唇19cm、縄種・海綿資材・白色砂含む。内面ミガキ、撫減著しい。L縄と八縄本一結によって口縁部を区画。胴部の縄縄を口唇部と胴、区画内は結束第一種非就結文。幅12.5cm。区画直下に胴部、内環で、自縄自巻を縄走。2段の単位で3cm間隔で施す。地紋は、L縄で、再生土製品か。
図Ⅲ-2-9	H21	19	円筒下層d1式	H21-3	Ⅱb	H21層土東側壁83	4		4	住居覆土	口唇19cm、縄種・海綿資材含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部側は縄。胴部側は縄。胴部で区画する。L縄と八縄本一結によって直線構成の文様、幅24.5cm。地紋は同上と同一結によって回転。
図Ⅲ-2-9	H21	20	円筒下層d1式	H21-5	Ⅱb	H21層土東側下位113	2		3	住居覆土	口唇12cm、縄種含む。海綿資材少量含む。内面ミガキ、口縁側は縄、胴部側は縄。胴部側は縄。胴部は縄。胴部には縄。胴部で区画。L縄と八縄本一結によって直線構成の文様。幅24.5cm。地紋は同上と同一結によって回転。
						H21層土東側上位163	1			住居覆土	
						H21層土9層33	2			住居覆土	口唇20cm、砂含む。内面縄ミガキ、撫減。L縄と八縄本一結の矢羽根状縄結合は縄間の縄上に縄ミガキ。区画内とその直下には結束第一種非就結文を施す。幅はそれぞれ2m、地紋は、R縄で、自縄自巻を縄走。
図Ⅲ-2-10	H21	21	円筒下層d1式	H21-22	Ⅱb	H21層土位ベルト37	2	14	61	住居覆土	
						H21層土下位ベルト35	5			住居覆土	
						H21層土東側下平113	33			住居覆土	
						H21層土7層30	1			住居覆土	
						H21東西トレンチ西側136	3			住居覆土	
						H21層土西側84	1			住居覆土	
図Ⅲ-2-10	H21	22・23・24・25	焼成粘土塊	H21-26	Ⅱb	H21層土東側下平113	4		4	住居覆土	縄種・海綿資材・白色砂含む。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と細名略)	層位	接合点数	同一個体かも(未接合)	合計点数	区分	特徴
図II-2-10	H21	26	円筒下層d1式	H21-16	IIb	H21東西トレンチ東側270	11	4	54	住居覆土	口径20cm、縄模・砂含む、海綿骨針少量含む、内面縦ミガキ、口縁端、胴部縦方向、強い筆圧によって口縁部を波潮する。器の直径は21円形前型が連結する。波潮内には胴幅により筆形を基調とした直線構成の文様。所々縦方向の波潮。幅13cm、円縄車軸絵条体第1類縦回転。
						H21第2上部東側158	2	14		住居覆土	
						H21覆土1	2			住居覆土	
						H21覆土と部中央157		5		住居覆土	
						H21覆土と部北東側162		8		住居覆土	
						H21AトレンチP269		8		住居覆土	
図II-2-10	H21	27	円筒下層d1式	H21-15	IIb	H21覆土7層30	13	59	117	住居覆土	縄模・砂含む、撫縦重いし、内面ミガキ、地紋は円縄車軸絵条体第1類縦回転。帯状に結束第一種羽状縄文が施されも。筆跡によって区切られた口縁部文様帯は重複によって胴文等不明。他部は上部で区切りをつけ等大。
						H21覆土と側下W15	14	29		住居覆土	
						H21覆土1	2			住居覆土	
						H21覆土7層28		1		住居覆土	
図II-2-10	H21	28	円筒下層d1式古段階古	H21-23	IIb	H21覆土東側下半177	20	8	29	住居覆土	口径22cm、底径13cm、縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁部は端、胴部は縦、筆跡は縦。口縁部は胴部を区別する。口縁部は面内は直前前面部分RL結文、他は上LR縄車軸絵条体第1類縦回転。胴部は上げ底でミガキにより無文。
						H21東西トレンチ東側270	1			住居覆土	
図II-2-11	H21	29	円筒下層b式	H21-25	IIb	H21覆土下位ベルト35	1		1	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、RL縄車軸絵条体第1類縦回転。縦辺を調整、再生土器品。
図II-2-11	H21	30	円筒下層b2～c式	H21-7	IIb	H21覆土7層上部北側297	1		1	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、RL車軸絵条体第1類縦回転。注ぎ口矢に筆孔、縦辺円形に打ち欠き大雑り切りによって成形。
図II-2-11	H21	31	円筒下層d1式	H21-21	IIb	H21覆土上部東側159	6		6	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、地紋は、自縄自巻を縦走。口縁部に結束第一種羽状縄文、幅3cm。
図II-2-11	H21	32	円筒下層d1式	H21-2	IIb	H21覆土9層35	4	8	58	住居覆土	口径21cm、底径13cm、砂含む、内面ミガキ、撫縦重いし、口縁部区画内は上縄と胴の矢羽根状に九之字一組によって直線構成の文様。地紋は上縄車軸絵条体第1類縦回転。胴部以上げ底でミガキにより無文。
						H21覆土9層32	18	19		住居覆土	
						H21覆土AトレンチP269	9			住居覆土	
図II-2-11	H21	33	円筒下層d1式	H21-27	IIb	H21覆土7層上部中央157	42	138	180	住居覆土	口径15cm、底径13cm、器高30cm、縄模・白色砂含む、内面ミガキ、口縁部は端、胴部横は縦。口縁部区画内は上縄と胴2本一組によって直線構成の文様。地紋は円縄車軸絵条体第1類縦回転。胴部以上げ底でミガキにより無文。多段の巻は結束第一種羽状縄文。
図II-2-11	H21	34	円筒下層d1式	H21-24	IIb	H21覆土上位ベルト178	3		3	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、RL縄文を縦走、胴部以上げ底で、ミガキにより無文。
図II-2-11	H21	35	円筒下層d1式	H21-18	IIb	H21覆土上部南側159	5		5	住居覆土	胴径30cm、縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、車軸絵条体第1類縦回転。撫縦により筋は不明。
図II-2-11	H21	36	円筒下層d1式	H21-19	IIb	H21覆土9層28	4	10	33	住居覆土	口径20cm、縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、撫等にまって口縁部を区画、区画内は胴間地紋と連続するRL結縄回転。幅13.5cm。
						H21覆土西側60	3	4		住居覆土	
						H21覆土9層29		12		住居覆土	
図II-2-12	H21	37	円筒下層d1式	H21-19	IIb	H21AトレンチP269	2		2	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面縦ミガキ、RL縦で、自縄自巻を縦走。帯状に結束第一種羽状縄文。
図II-2-12	H21	38	円筒下層d1式	H21-10	IIb	H21覆土西側156	14	14	28	住居覆土	口径20cm、縄模・海綿骨針・白色砂含む、内面ミガキ、撫縦、口縁部区画には結束第一種羽状縄文を2段、幅2.4cm、RL縦で、自縄自巻を縦走。
図II-2-12	H21	39	円筒下層d1式	H21-20	IIb	H21AトレンチP269	1		1	住居覆土	縄模・白色砂含む、内面ミガキ、RL縦で、自縄自巻を縦走。上げ底で、ミガキにより無文。
図II-2-12	H21	40	円筒下層d1式	H21-6	IIb	H21床面2	1		1	住居床面	口径17cm、縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁部は端、口縁部の区画は上縄縄2本一組を多用。
図II-2-13	H22	3	円筒下層b式	H22-1	IIb	H22覆土6-8	1	1	4	住居覆土	RL車軸絵条体第1類縦回転入口結節2段等状
						H22覆土E10		2		住居覆土	
図II-2-13	H22	4	円筒下層d1式	H22-3	IIb	H22覆土W11	2		2	住居覆土	縄模で、自縄自巻を縦走。口縁部には上縄で矢羽根状の車軸絵条体を縦回転。その直下に結束第一種羽状縄文。
図II-2-13	H22	5	円筒下層d1式	H22-2	IIb	H22覆土W11	1		1	住居覆土	縄模車軸絵条体第1類縦回転その上から車軸絵条体第1類を帯状に施す。
図II-2-13	H22	6	円筒下層d1式	H22-4	IIb	H22HP-2覆土87	1		1	住居覆土	縄模で、自縄自巻を縦走。加工で粗表第一種羽状縄文
図II-2-15	H23	7	円筒下層d1式	H23-8	IIb	H23覆土1	3		3	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁一部上半縦、下は縦、七尺縦による不完縦状縄線2段を口縁部に施し、胴下には上縄が結節を2段施す。幅はそれぞれ3cm と1.5cm。地紋は上部にRL円縄車軸回転。
図II-2-15	H23	8	円筒下層d1式	H23-9	IIb	H23覆土2	1		1	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁一周上半縦、下は縦、上縄縄2段は全ロ縄部に施し、同一縄縄で縦区画も施す。幅は1.5cmほど。地紋は円縄車軸絵条体第1類を縦回転。
図II-2-15	H23	9	円筒下層d1式	H23-2	IIb	H23覆土3	3		3	住居覆土	内面ミガキ 縄模・海綿骨針含む、RL縦で、自縄自巻を縦走。
図II-2-15	H23	10	後成粘土塊	H23-15	IIc	H23覆土トレンチ274	1		1	住居覆土	縄模・白色砂含む。
図II-2-15	H23	11	円筒下層d1式	H23-12	IIb	H23覆土1	3	7	28	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁一部上部は縦、胴下部は縦、結束第一種羽状縄文2段を口縁部に施す。幅13cm。地紋は円縄で、自縄自巻を縦走。
						H23覆土71	4	3		住居覆土	
						H23覆土2		1		住居覆土	
						H23覆土トレンチ72		8		住居覆土	
						H23覆土227		1		住居覆土	
						H23覆土191		1		住居覆土	
図II-2-15	H23	12	円筒下層d2式	H23-1	IIb	H23覆土3	1		1	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、小石少量含む、内面ミガキ、口縁一部上半縦、波潮部に対応して穿孔あり。上縄縄で直線構成の文様を口縁部に施す。幅12.5cmほど。地紋は上縄車軸絵条体第1類を縦回転。
図II-2-15	H23	13	円筒下層d2式	H23-3	IIb	H23覆土5	5		5	住居覆土	高径30cm、内面ミガキ、縦方向、縄模・海綿骨針含む、縦で、車軸絵条体第1類を縦回転。他部分上げ底でミガキにより無文。
						H23覆土4	4	9		住居覆土	内面ミガキ 縄模・海綿骨針含む、RL縦で、自縄自巻を縦走。
図II-2-15	H23	14	円筒下層d1式	H23-10	IIb	H23覆土トレンチ72	1		1	住居覆土	
						H23覆土トレンチ66		3		住居覆土	
図II-2-15	H23	15	円筒下層d1式	H23-5	IIb	H23覆土228	2		2	住居覆土	口径20cm、内面ミガキ、縄模、胴部縦方向、縄模含む、口縁には縄縄3本を施す。波潮部下には円縄車軸絵。幅はそれぞれ1.5cm1cm。地紋は円縄で、自縄自巻を縦走。下に円縄縄文か。
図II-2-15	H23	16	円筒下層d1式	H23-11	IIb	H23覆土4	14		16	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、口縁端、胴部縦、縄模による山形文を口縁部に施し、胴下には上縄が結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ3cm2cm。山形文は双頭の波潮部に対応する。地紋は円縄で、自縄自巻を縦走。
						H23覆土トレンチ90	2			住居覆土	
図II-2-15	H23	17	コシそぼたいしは中系路式	H23-7	Ib	H23覆土229	1		1	住居覆土	砂粒含む、内面ミガキ、地紋は円縄区画を無規起縄の間に縦走。
図II-2-15	H23	18	円筒下層b式	H23-13	IIb	H23覆土129	1		1	住居覆土	縄模・海綿骨針含む、内面ミガキ、地紋は上縄で、車軸絵条体第1類を縦回転。再生土器品。
図II-2-15	H23	19	円筒下層d1式	H23-4	IIb	H23覆土229	2		3	住居覆土	口径20cm、内面ミガキ、口縁端、胴部縦方向、縄模・海綿骨針・砂粒含む、撫等で口縁部を区画し、口縁には縄縄3本を施す。区画面下には結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ2.5cm2.5cm。地紋は上縄で、車軸絵条体第1類を縦回転。4cm間隔で結束第一種羽状縄文。口縁に円縄文。結束と同一原体か。
						H23覆土255	1			住居覆土	
図II-2-15	H23	20	円筒下層d1式	H23-6	IIb	H23覆土228	11		12	住居覆土	底径13cm、内面ミガキ、口縁端、胴部縦方向、縄模・海綿骨針含む、地紋は上縄で、車軸絵条体第1類を縦回転。他部分上げ底で、ミガキにより無文。
						H23覆土227	1		1	住居覆土	
図II-2-15	H23	21	円筒下層d1式	H23-14	Ib	H23HP2覆土259	1		1	付属遺構覆土	縄模・海綿骨針・砂含む、内面ミガキ、RL縦で、自縄自巻を縦走。結束第一種羽状縄文は縦方向。
図II-2-16	H24	1	サイベ沢遺跡	H24-5	IIa	H24床面32	1		1	住居床面	内面ミガキ、口縁に縄圧痕、撫等と口縁部、突起の上縦部三角形、撫等上に指頭圧痕、LR縦起節あり。
図II-2-16	H24	2	サイベ沢遺跡	H24-6	IIa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	縄模・砂含む、撫等上に縄圧痕、突起の上縦部三角形、撫等上に指頭圧痕、LR縦起節あり。
図II-2-16	H24	3	サイベ沢遺跡	H24-7	IIa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針含む、内面ミガキ、撫等上に RL縦縦、 円形貼り付け。
図II-2-16	H24	4	サイベ沢遺跡	H24-9	IIa	H24覆土2層98	2		2	住居覆土	海綿骨針・砂含む、内面ミガキ、RL縦起節あり。
図II-2-16	H24	5	円筒上層a式	H24-4	Ib	H24覆土1層176	1	3	3	住居覆土	砂含む、内面ミガキ、地紋は縦、撫等上に縦縦、地紋は円縄縦回転。
図II-2-16						H24覆土2層148	1			住居覆土	
図II-2-16	H24	6	サイベ沢遺跡	H24-8	IIa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針無含む、内面ミガキ、波線文、結束第二種羽状縄文地紋か。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類（上段名略）	層位	接合点数	同一個体かも（未接合）	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-15				H24第2層147			4	5	19	住居跡	石作り石室と、内面ミガキ調整。口縁部に刻目。
図Ⅲ-2-16	H24	7	大安在B式	H24-10	Ⅲb	H24第2層134	2	4		住居跡	底部内に刷毛目。
図Ⅲ-2-16						H24第2層176		4		住居跡	
図Ⅲ-2-16	H24a	8	円筒下層d式	H24-2	Ⅱb	H24第2層98	9		10	住居跡	縄文・海綿骨針含む。底径10cm。内面ミガキ。地紋は円縄で、底面は敷き縄痕。微妙な上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16				H24第2層148			1		1	住居跡	
図Ⅲ-2-16	H24	9	円筒下層d式	H24-3	Ⅱb	H24第2層98	1		1	住居跡	縄文・砂含む。海綿骨針少量含む。底径13cm。内面ミガキ。地紋は円縄で、底面自巻き回転。上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16	H24	10	円筒下層b式～下層c式	H24-11	Ⅱb	H24第2層98	1		1	住居跡	海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。底面地紋直前貝殻沢原YR.L縄。微妙な上げ底。
図Ⅲ-2-16	H24	11	円筒下層b式	H24-1	Ⅱb	H24第2層98	2		3	住居跡	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は乱縄無縄条体第1類縄回転。
						H24床面34	1			住居床面	
図Ⅲ-2-17	H25	2	円筒下層c式	H25-1	Ⅱb	H25第2土層86	5		6	住居跡	口径36cm。縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部2段。刷毛目縄。縄帯によって口縁部を区画。区画内には円L縄側面圧痕の連続によって縄無状の文様が施される。幅5cm。地紋は直前貝殻沢原YR.R.縄文。
				H25第2土層88			1			住居跡	
図Ⅲ-2-17	H25	3	円筒下層c式	H25-2	Ⅱb	H25第2土層88	3		3	住居跡	口径15cm。縄文・海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口縁部2段。縄帯によって口縁部を区画。区画内には円L縄により菱形基調連続構成の文様。幅4cm。地紋は円L縄文縦回転。
図Ⅲ-2-17	H25	4	円筒下層c式	H25-3	Ⅱb	H25第2土層89	2		2	住居跡	口径24cm。縄文・海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口縁部に沿って、縄文帯。縄帯によって口縁部を区画。区画内には円L縄。縄文を横方向に付す。その上に円縄と縦に2本の沈線。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-17	H25	5	サイベ沢式類	H25-9	Ⅲa	H25第2土層85	1		1	住居跡	砂含む。内面ミガキ。簡単上げ底。縄縄。
図Ⅲ-2-17	H25	6	円筒下層c式	H25-4	Ⅱb	H25第2土層86	21	6	27	住居跡	縄文・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。地紋は直前貝殻沢原YR.L縄文。H25-1と同一個体の可能性高い。
図Ⅲ-2-17	H25	7	円筒下層b式～下層c式	H25-5	Ⅱb	H25第2土層87	2		2	住居跡	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は円L縄文縦走。両生土製品。ほぼ同形で小さに歪む。
図Ⅲ-2-17	H25	8	円筒下層b式	H25-6	Ⅱb	H25HP2第1層1	2		2	付属遺構墓土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は円L縄文縦走。両生土製品。ほぼ同形で小さに歪む。
図Ⅲ-2-17	H25	9	円筒下層d式又はかⅢ群a類土器	H25-8	Ⅱb	H25HF-1第2土層28	1		1	石囲い炉の石の縁り方中	砂含む。量減量い。Ⅱ-b上たが形状から円筒下層d式の特種器形かⅢ群a の型深鉢の可能性がある。底径6cmで平底無文。
図Ⅲ-2-17	H25	10	円筒下層d式	H25-7	Ⅱb	H25床面18	1		1	住居床面	縄縄含む。内面ミガキ。口縁部文様帯には3本の沈線。口縁部直下には円縄の結束回転。それぞれ幅1cm。円縄単軸縄条体第1類回転。縄縄無い。
図Ⅲ-2-21	H27	3	円筒上層a式	H27-5	Ⅲa	H27第2土層111	1		1	住居跡	縄縄・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。L縄縦2本一組と草本の断面のような平行の刻目が平文縦構成。
図Ⅲ-2-21	H27	4	円筒下層d式最古（o式に近い）	H27-2	Ⅱb	H27第2土層111	3		3	住居跡	口径12cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。反り返る口縁で口縁上半は丸ガキ。その下は縦ミガキ。縄帯によって縄部を区画する。縄帯上には刻目。縄帯直上は刻目。縄帯直上部分および縄部に縄縄。口縁には縦。底面には縦。底面は結束第一種回転縦文。その幅4cm。
図Ⅲ-2-21	H27	5	徳成粘土層	H27-6	Ⅱb	H27第2土層161	1		1	住居跡	砂粒含む。
図Ⅲ-2-21	H27	6	円筒下層b式前段階	H27-3	Ⅱb	H27第2土層160	23		23	住居跡	縄縄少量の海綿骨針含む。内面ミガキ。器壁で　口縁部を区画。器壁上には円L縄回転。幅6cm。器面には結束L縄回転。円縄単軸縄条体第1類回転。全体的に整然して不明瞭。
図Ⅲ-2-21	H27	7	円筒下層c式	H27-4	Ⅱb	H27第2土層111	5		5	住居跡	縄縄少量の海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部下に円縄で、口縁部を縦走。器の切り口が鋭った可能性がある。全体的に整然して不明瞭。
図Ⅲ-2-21	H27	8	円筒下層d式	H27-1	Ⅱb	H27第2土層163	5		5	住居跡	口径25cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。結束第一種回転縦文2段で口縁部文様帯を構成。その幅2cm。多段の帯も同様の縦文で、5cm間隔。地紋は縦の結束縄条体第1類縄回転。
図Ⅲ-2-22	H28	3	徳成粘土層	H28-7	Ⅱb	H28第2土層139	1		1	住居跡	縄縄・砂含む。
図Ⅲ-2-22	H28	4	円筒下層c式	H28-9	Ⅱb	H28床面80	17	7	26	住居床面	口径23cm。器厚3cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁直方向。刷毛縦方向。器壁は薄やかな無形で口縁部を区画。区画内は直前貝殻沢原YR.R.縄縄回転。幅2.5cm。地紋は円縄単軸縄条体第1類縄回転。上げ底でもの凄くよい無文。
				H28床面94			2		2	住居床面	
図Ⅲ-2-22	H28	5	円筒下層b式前段階	H28-6	Ⅱb	H28第2土層129	13	1	19	住居跡	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。L字L縄縦走。無砂な上げ底で引き無文。
				H28第2土層130			5			住居跡	
				H28第2土層129			8	1	13	住居跡	
図Ⅲ-2-22	H28	6	円筒下層b式前段階	H28-5	Ⅱb	H28第2土層130	4			住居跡	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。円縄多軸縄条体縦回転。無砂な上げ底で引き無文。
図Ⅲ-2-22	H28	7	円筒下層d式	H28-2	Ⅱb	H28第2土層201	18		18	住居跡	底径21cm。縄縄・白色砂含む。海綿骨針無含む。内面ミガキ。口縁部2段。内面ミガキ。口縁部。L縄単軸縄条体第1類縄回転。無砂な上げ底で上げ底で縦走する。
図Ⅲ-2-22	H28	8	東釧路式	H28-8	Ⅰb	H28第2土層137	1		1	住居跡	砂含む（極石足じりか）。内面ミガキ。L縄と円縄の回転と複雑組縄みを合わせる。
図Ⅲ-2-22	H28	9	円筒下層d式	H28-4	Ⅱb	H28第2土層161	1		1	住居跡	縄縄・砂含む。内面ミガキ。L字縄縦。円形縦縄刺突。
図Ⅲ-2-22	H28	10	円筒下層d式から下層c式	H28-3	Ⅱb	H28第2土層129	1		1	住居跡	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。無砂な上げ底で縦走する。
図Ⅲ-2-22	H28	11	円筒下層c式	H28-1	Ⅱb	H28第2土層161	2	3	5	住居跡	口径122cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。開部によって口縁部を区画。開部には右に付後に連続刻突。区画内には縦縄。地紋は縦で、単軸縄条体第1類を斜の回転。
				H29第2土層8			24	11	38	住居跡	縄縄含む。海綿骨針無含む。内面ミガキ。口縁部2段。縄帯によって区画。区画内には縦で。
図Ⅲ-2-26	H29	14	円筒下層d式古段階 新	H29-4	Ⅱb	H29第2土層121			1	住居跡	口縁部文様帯は。縄縄状による直線構成の文様が施される。幅1.5cmである。地紋は。円縄で。直線自巻き縦走。
				H29第1トレンチ62S243			2		2	住居跡	
図Ⅲ-2-26	H29	15	円筒下層b式	H29-20	Ⅱb	H29第2土層132	15	1	16	住居跡	底径8cm。縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。開部には円縄で口縁部を区画。底面は無砂な上げ底で。ミガキにより無文。
											内面縦ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。円縄単軸縄条体第一種縦回転。底部は上げ底で。開部と同じ原体を回転。
図Ⅲ-2-26	H29	16	円筒下層b式	H29-2	Ⅱb	H29第2土層127	3	3	6	住居跡	HD明トレンチ62S242が一点同一個体か。縄縄・海綿骨針含む。内面はミガキ調整口縁部上半は縦ミガキ。下半は丸ミガキ。口縁部文様帯には。結束第一種回転縦文3cm幅で間隔。区画部下には3cm幅で。結束第一種回転縦文で口縁部と区画。口縁で。底縄自巻き縦走。結束第一種回転縦文をおよそ4cm間隔で区画部下を含めて3段に帯状に施す。
図Ⅲ-2-27	H29	17	円筒下層d式古段階 新	H29-3	Ⅱb	H29第2土層129	12		12	住居跡	口径16cm。縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部。開部縦。L縄が縦の羽状縦縄で口縁部を区画。同縄を2段にも施す。区画には結束第一種回転縦文。その幅下には結束羽状縦結束第一種を施す。それぞれの幅2cm。同羽状縦文により多段の帯も4cm間隔。開部には円縄で。
図Ⅲ-2-27	H29	18	円筒下層d式	H29-19	Ⅱb	H29第2土層132	9	3	12	住居跡	口径35cm。縄縄・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部。L縄と円縄の羽状縦縄で口縁部を区画。同縄は2段。区画には。結束第一種回転縦文。その幅下には結束第一種を施す。それぞれの幅2cm。同羽状縦文により多段の帯も4cm間隔。開部には円縄で。底面は無砂。
				MT3　63STJ縄部側			1		2	盛土	
図Ⅲ-2-27	H29	19	円筒下層d式	H29-8	Ⅱb	H29第1トレンチ62S243	1		1	住居跡	口縁部文様帯には。縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部。L縄と円縄。開部。開部縦。一部に開部と同じ円縄単軸縄条体第1類。L円縄間で2～3本で口縁部文様帯。その幅3cm。口縁には。縄側面圧痕。開部には円縄単軸縄条体第1類縄回転。台付き上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-27	H29	20	円筒下層d式	H29-7	Ⅱb	H29第1トレンチ62S242	2		2	住居跡	口径14cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部。L縄。開部縦。円縄で口縁部を区画。同縄は2～3本を区画に施す。その幅1.5cm。口縁には。縄文区転。開部には円縄で。底縄自巻き縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	21	円筒下層d式	H29-12	Ⅱb	H29第2土338	8	8	16	住居跡	口径22cm。縄縄と無量の海綿骨針含む。内面ミガキ。L縄と円縄の羽状縦縄で口縁部を区画。同縄は二段を区画に施す。その幅2cm。開部には円縄で。底縄自巻き縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	22	円筒下層d式	H29-11	Ⅱb	H29第2土位288	1		1	住居跡	口径18cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部。L縄と円縄の羽状縦縄で口縁部を区画。同縄は2段。区画には。結束第一種回転縦文。その幅下には結束羽状縦文3cm幅で区画。その幅下には結束羽状縦文。幅1.5cm。底面部下には結束羽状縦文3cm間隔で区画を施す。それぞれの幅1.5cm。同羽状縦文により多段の帯も4cm間隔。開部には円縄で。底縄自巻き縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	23	円筒下層d式	H29-13	Ⅱb	H29第2土位135	10	9	19	住居跡	口径23cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部。開部縦。L縄と円縄を区画。同縄は2段。区画には。結束第一種回転縦文。その幅下には結束羽状縦文3cm間隔で区画を施す。それぞれの幅2cmと1cm。同羽状縦文により多段の帯も5cm間隔。開部には円縄で。底縄自巻き縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	24	円筒下層d式	H29-10	Ⅱb	H29第2土位284	3		3	住居跡	口径24cm。縄縄・白色砂含む。内面縦ミガキ。開部で口縁部を区画し。そこには円形刺突が連続する。R.L縄を区画に施す。その幅4cm。開部には円縄の多軸縦条体縦回転。
図Ⅲ-2-28	H29	27	円筒下層d式古段階 古	H29-1	Ⅱb	H29第2土下位16	2		5	住居跡	HD9-26（発足番号20）と共通。口径13cm。内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。円縄は。二つの段縦構成の口縁部文様帯。幅1.3cm。区画部下には結束羽状縦文3cm間隔で区画する。
				H29第2土下位37			3			住居跡	R.L縄単軸縄条体第一種縦回転。帯状に結束第一種羽状縦文が3cm間隔で区画する。
図Ⅲ-2-29	H29	38	円筒下層d式古段階 古	H29-6	Ⅱb	H29第2土下位20	17		18	住居跡	縄縄・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。口縁部は直線状ガキ。開部は円L。L縄側に2段縦方向の区画を作り。R.L縄。地紋は。縄単軸条体第1類を斜回転。結束第一種羽状縦文を4cm間隔で区画する。区画部下には。
				H29第2土337			1			住居跡	

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(Ⅱ:図名略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図12-2-31	H29	39	円筒下層d1式	H29-15	Ⅱb	H29土上位31	1		24	住居覆土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ、胴部には縦の自縄自巻を縦走。帯状にRL縄の結節を2段規則あさく。
						H29埋土下位19		1		住居覆土	
						H29埋土最下位38		23		住居覆土	
図12-2-31	H29	40	円筒下層d1式古段階 古	H29-16	Ⅱb	H29埋土下位23	18		25	住居覆土	口径24cm、縄文・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁端、胴部縦、LR縄の結節を横走。胴部を区画。同縄の巻側に3段。区画には結束第一種同状縄文。その直下に3結束同状縄文第一種を施す。それぞれの縄2cm。同同状縄文により多段の帯を4cm間隔。胴部には中段で、自縄自巻を縦走。
						H29埋土最下位27		2		住居覆土	
図12-2-31	H29	41	円筒下層d1式	H29-14	Ⅱb	H29埋土最下位39	7	3	10	住居覆土	底径10cm、縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。下半には縦付意。LR縄の単軸縄条体第1類縦回転。無砂なよく焼成でにぶい赤褐色。
図12-2-31	H29	42	円筒下層d1式	H29-9	Ⅱb	H29HP-12覆土359	1		1	付属遺構覆土	縄文・海綿骨針と少量の小石含む。内面ミガキ。内面で、外面で、自縄自巻を縦走。
図12-2-31	H29	44	円筒下層d1式	H29-18	Ⅱb	H29埋土上位135	6		6	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。胴部には同縄の自縄自巻を縦走。縄端は胴りぬけにより短縄状に全体を成形する。結節、4S4Rの2かく結束第いかり同。波物重号のものが6点接合し、同様のものが2かとなった。
図12-2-31	H29	45	円筒下層d1式	H29-17	Ⅱb	H29埋土上位158	2		2	住居覆土	内面ミガキ。口縁端、胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。口径24cm。口縁部には結束第1類同状縄文を横走。胴部には中段で、自縄自巻を縦走。縄端は胴りぬけにより短縄状に全体を成形する。結節。
図12-2-31	H29	46	円筒下層d1式	H29-21	Ⅱb	H29埋土上位135	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。胴部には中段で、自縄自巻を縦走。縄端は胴りぬけにより短縄状に全体を成形する。結節。
図12-2-31	H29	47	円筒下層d1式	H29-23	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。胴部縦軸条体第1類縦回転。
図12-2-31	H29	48	円筒下層d1式	H29-22	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。胴部縦軸条体第1類縦回転。
図12-2-31	H29	49	円筒下層d1式	H29-24	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向、縄縄・海綿骨針含む。結束第一種同状縄文2段規で、自縄自巻を縦走。
図12-2-31	H29	50	徐成粘土塊	H29-25	Ⅱb	H29埋土上位82	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。竹管由面による押し引きの痕跡あり。32×22×13cm
図12-2-32	H30	1	円筒下層b式	H30-1	Ⅱb	H30床面40	1		1	住居床面	縄縄・海綿骨針含む。意図重い。内面ミガキ。RL縄縦節が表面に残る。縄辺を丸く打ち欠いており、再生土製品の可能性がある。
図12-2-32	H31	1	円筒上層d式	H31-1	Ⅱa	H31埋土1間50	1	2	3	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。内面文様文様無縄以外付。隆帯上に縄側面圧痕。
図12-2-32	H31	2	円筒上層d式	H31-2	Ⅱa	H31埋土1間75	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。無砂なよく焼成。胴代の上から3段ナデ。
図12-2-32	H31	3	円筒下層d1式	H31-5	Ⅱb	H31埋土1間75	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。内面で、自縄自巻を縦走。
図12-2-32	H31	4	円筒下層d1式	H31-3	Ⅱb	H31埋土1間75	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。LR縄を縦3本一組で複数段の縄縦を施す。
図12-2-32	H31	5	円筒下層d1式	H31-4	Ⅱb	H31埋土1間75	6		6	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。内面で、自縄自巻を縦走。結束第一種同状縄文を帯状に施す。
図12-2-32	H31	6	円筒下層b式	H31-6	Ⅱb	H31埋土1間42	1	3	4	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦回転。上げ底で底面にRL縄文回転。
図12-2-32	H31	7	円筒下層b式	H31-7	Ⅱb	H32床面17	3		3	住居覆土	縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。RL縄文縦走。上げ底で底面にRL縄文回転。
図12-2-32	H32	1	円筒下層b式	H32-1	Ⅱb	H32床面6	1		1	住居床面	内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。底面没合部にRL縄RL縄縦回転前。
図12-2-32	H32	2	円筒下層b式	H32-2	Ⅱb	H32床面3	1		1	住居床面	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄文縦回転。
図12-2-32	H32	3	円筒下層b式	H32-3	Ⅱb	H32HP-1覆土1間13	1		1	付属遺構覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄軸条体第1類縦回転。
図12-2-32	H33	1	円筒下層b式	H33-1	Ⅱb	H33覆土1間50	2		2	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦走。
図12-2-32	H33	2	円筒下層b式	H33-2	Ⅱb	H33HP-1覆土3間28	1		1	付属遺構覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面整順により不明。器壁の厚さとどれかで口等さからちの可能性あり。
図12-2-32	H33	3	円筒下層b式	H33-3	Ⅱb	H33床面16	1		1	住居床面	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。上げ底。地域はRL縄単軸縦条体第1類縦回転。
図12-2-33	H34	4	円筒下層d1式	H34-2	Ⅱb	H34覆土2間6	67	169	237	住居覆土	底径14cm、縄縄・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。サルボウ金属を縦走させた後、上端で、間りかたった単軸縦条体第1類を縦回転。自縄自巻を縦走。無砂なよく焼成で、ミガキによる無文。
						H34覆土2間9		1		住居覆土	
図12-2-33	H34	5	円筒下層d1式新段階	H34-1	Ⅱb	H34覆土2間1	6	69	153	住居覆土	口径34cm、底径20cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部端方、胴部縦方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を胴部で区画。L縄縦による横縄構成の文様。幅3.5cm。サルボウによる水平方向の金属製文様。胴部には中段で、自縄自巻を縦走。
						H34覆土2間9	16	36		住居覆土	
						H34覆土2間9	2	24		住居覆土	
図12-2-34	H35	3	円筒下層b2～c式	H35-3	Ⅱb	H35床面2		1		住居床面	内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地域は、R単軸縦条体第1類縦回転。再生土製品摩耗。
図12-2-34	H35	4	円筒下層b式	H35-4	Ⅱb	H35覆土西側57		1		住居覆土	内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地域は、RL縄回転。再生土製品摩耗未完。
図12-2-34	H35	5	円筒下層b式	H35-5	Ⅱb	H35埋土北側52		1		住居覆土	内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地域は、RL縄回転。上げ底で、LR縄回転。再生土製品摩耗未完。
図12-2-34	H35	6	円筒下層b2～c式	H35-2	Ⅱb	H35覆土1間下位22	14		14	住居覆土	底径7.5cm。内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地域は、LR縄縦回転。上げ底で、LR縄回転。
図12-2-34	H35	7	円筒下層b2～c式	H35-1	Ⅱb	H35覆土1間下位18	4		6	住居覆土	底径6.5cm。内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地域は、RL縄で単軸縦条体第1類を縦一斜の回転。上げ底で、LR縄回転。
						H35覆土西側57	2			住居覆土	
図12-2-34	H35	8	円筒下層b2～c式	H35-6	Ⅱb	H35覆土1間下20	7		25	住居覆土	底径12cm。縄縄含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。胴部にはRL縄を横走。斜行縄文。底部は上げ底で。胴部と同一原体を回転。
						H35覆土1間下19	9	2		住居覆土	
						H35覆土北側52		2		住居覆土	
						M11 63S14		2		盛土	
						MT10 63S26		1		盛土	
						MT11 63S27		1		盛土	
						MT12 63S36		1		盛土	
図12-2-35	H36	3	円筒下層b2～c式	H36-3	Ⅱb	H36覆土西側59	15	21	36	住居覆土	口径13cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部端方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を胴部で区画。サルボウによる水平方向の金属製文。幅3cm。胴部には中段。RL縄単軸縦条体第1類縦。
図12-2-35	H36	4	円筒下層b2～c式	H36-1	Ⅱb	H36覆土4間西側106	15	3	21	住居覆土	縄縄・砂含む。内面縦ミガキ。地域は中段の単軸縦条体第1類を縦回転。罫孔あり。上げ底で底面にLR縄回転。
						H36覆土西側トレンチ151	1	2		住居覆土	
図12-2-36	H36	7	円筒下層d1式	H36-7	Ⅱb	H36覆土東側57	5	13	18	住居覆土	底径10cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には縦で、間りかたった単軸縦条体第1類を縦回転。自縄自巻を縦走。多量の粒状にLR縄の結節を施す。結束される。底部は無砂なよく焼成で。ミガキにより無文。
図12-2-36	H36	8	円筒下層b式	H36-6	Ⅱb	H36覆土西側76	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には縦前後部RLR-RL-RRR-RRL縄文。意図的に縄辺を成形した可能性あり。
図12-2-36	H36	9	円筒下層b式	H36-5	Ⅱb	H36覆土西側トレンチ151	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には反撥URR縄文。意図的に縄辺を成形した可能性あり。
図12-2-36	H36	10	円筒下層b2式	H36-4	Ⅱb	H36覆土西側105	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には、RL縄文。意図的に縄辺を成形した可能性あり。
図12-2-36	H36	11	円筒下層b2式	H36-2	Ⅱb	H36覆土4間西側106	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。地域はRLR縄文を縦走。金属摩滅。再生土製品。
						H36西側トレンチ151	2	1	34	住居覆土	口径24cm、底径13cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部端方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を胴部で区画。L縄文を縦回転と縦回転することで同状縄文をとおり形成する。RL縄単軸縦条体第1類縦回転地域。上げ底で。ミガキにより無文とする。
図12-2-36	H36	12	円筒下層b2～c式	H36-8	Ⅱb	H36覆土西側76	7	24		住居覆土	
図12-2-37	H37	1	円筒下層b式	H37-1	Ⅱb	H37床面24	50	93	143	住居床面	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地域上半は中段R単軸縦条体縦回転。底部は上げ底で。胴部と同一原体を回転。
図12-2-37	H37	2	円筒下層b2式	H37-2	Ⅱb	H37覆土1-124	1	1	8	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地域上半は中段R単軸縦条体縦回転。底部は上げ底で。胴部と同一原体を回転。
						H37覆土2-125	2	2		住居覆土	
						H37床面81		1		住居床面	
						H37床面93		1		住居床面	

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類（上2段を略）	層位	接合点数	同一個体か（未接合）	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-38	H38	1	円筒下層d2式	H38-12	Ⅱb	H38ベルト層土位34	3	4	10	住居覆土	口径26cm、縄文・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁張方向、胴部縦方向。異質で口縁部を区画。区画内は1.5段の縄文一結び目縄構成の文様構成。区画面下は1.5段の結節が2段。それぞれ幅5cmと3cm。地紋は1.5段の多軸縄絡条体縦回転。
						H38ベルト層土位25	2			住居覆土	
						H38ベルト層土位65		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-38	H38	3	円筒下層d2式	H38-11	Ⅱb	H38ベルト層土位61	11	5	21	住居覆土	高理13cm、縄文・施縄斜行条む。内面ミガキ。地紋は1段の多軸絡条体縦回転。
						H38ベルト層土位65	1	5		住居覆土	
図Ⅲ-2-39	H38	8	円筒下層d2式新段階	H38-13	Ⅱb	H38覆土上部3	7		9	住居覆土	口径24cm、縄文・施縄斜行条む。内面横ミガキ。口縁から肩上半まで縦方向、肩で口縁部文様帯を区画。肩部に右に引く刺し引き。区画内は1.5縄結び直線構成の文様。区画面下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ2cm、1.5cm。地紋には条痕無文後に、円縄で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土上部34	2			住居覆土	
図Ⅲ-2-40	H38	10	円筒下層d1式古段階	H38-1	Ⅱb	H38覆土上位5	29		29	住居覆土	口径32cm、縄文・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁部縦方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を1.5縄結び直線、口縁部直面内は結束第一種羽状縄文構図転。縄それぞれ1cmずつ。地紋には1段で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-40	H38	11	円筒下層d1式	H38-8	Ⅱb	H38覆土上位6	55	14	70	住居覆土	胴部1/6程20cm、縄縄含む。施縄斜行・白色砂少量含む。内面ミガキ。胴部には1段で、自縄自巻を縦走。多段の等位に1.5縄の結節を4cm間隔で巡り。
						MT13　63S28		1		蛇土	
図Ⅲ-2-40	H38	12	円筒下層d1式	H38-9	Ⅱb	H38覆土上位4	7	47	55	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面縦ミガキ。地紋は1段で、自縄自巻を回転。
						H38覆土下位東側77		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	14	円筒下層d1式古段階	H38-2	Ⅱb	H38覆面9	6		10	住居床面	口径23cm、縄縄・施縄斜行・砂含む。内面ミガキ。口縁部と胴上部縦方向、それより下は縦方向。口縁部文様帯を1縄結合体側面圧痕で区画。口縁部区画内は1.5縄結ぶ。縄区画内、幅1.5cm。地紋は1段で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土 東側79	3			住居覆土	
						H38ベルト層土上位59		1		住居覆土	
						H38覆土下位東側77	6		11	住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	15	円筒下層d1式古段階	H38-3	Ⅱb	H38ベルト層土上位59	3			住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁部縦方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を1縄結び区画。1縄結ぶ2段縄構成の文様。区画面下には1段の結節が2段。それぞれ幅3cm、1cm。サルボウによる水平方向の条痕無文後、胴部には1段で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土上位34	2			住居覆土	横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	16	円筒下層d1式古段階	H38-4	Ⅱb	H38覆土下位東側77	1		1	住居覆土	1と同一個体か。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	17	円筒下層d1式古段階	H38-5	Ⅱb	H38ベルト層土下位西側17	1		1	住居覆土	1と他個体か。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	18	円筒下層d1式	H38-6	Ⅱb	H38南北トレンチ06	1		1	住居覆土	1と他個体か。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	19	円筒下層d1式	H38-10	Ⅱb	H38覆土下位西側168	1		1	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。表面は磨滅。地紋は不明。厚さおよび高さ土器品。
図Ⅲ-2-41	H38	20	円筒下層d1式	H38-7	Ⅱb	H38覆土上位34	1		1	住居覆土	縄縄・砂含む。地紋には縄束軸結合体第1段を縦回転。巻巻に口縁の結節を縦回転。横り切りによって重説的に円筒に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-42	H39	1	円筒下層d2式	H39-26	Ⅱb	H39覆土最上部22	10	34	44	住居覆土	口径14cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁側は縦、その下は傾斜著しい。肩によって口縁部を区画する。そこには半竹を右側へ押し引き。口縁部区画内は1.5縄によって直線構成の文様。地紋は撚り結ぶ2条軸絡条体回転。撚糸な上げ度で方形に上り撚文。
						H39ベルト層土最上位262	3	3	10	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋は1段目には単軸縄絡条体第1段縦回転。
						H39ベルト層土最上位150	1	1		住居覆土	
						H39覆土南側314		1		住居覆土	
						M2-2　62U2		1		蛇土	
図Ⅲ-2-42	H39	4	円筒下層d2式	H39-24	Ⅱb	H39覆土上位8	5	4	43	住居覆土	口径13cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁側は縦、胴部側は縦。肩によって口縁部を区画する。肩部には1段目側面圧痕による側面圧痕を連続。区画内には1段目縦と、縄縄条体側面圧痕による直線構成の文様。幅2cm。地紋は1段の単軸縄条体第1段を縦回転。波頂部に対応して切つの穴あり。
						H39ベルト層土上位262	5	6		住居覆土	
						H39覆土南側313	1			住居覆土	
						M1　62U3	2			蛇土	
図Ⅲ-2-42	H39	5	円筒下層d2式	H39-1	Ⅱb	H39ベルト層土上位262		4		住居覆土	
						H39ベルト層土上位260		1		住居覆土	
						M1　62U5		4		蛇土	
						H39ベルト層土上位126		1		住居覆土	
						H62南北トレンチ層土54		1		住居覆土	
						表60V6		1		包含層	
						M1　60U13		1		蛇土	
						M2-2　62U2		7		蛇土	
図Ⅲ-2-43	H39	6	円筒下層d1式新段階	H39-2	Ⅱb	H39覆土上位18	10	1	15	住居覆土	口径33cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁は縦、胴部側は縦。肩部には縦。肩によって口縁部を区画する。区画内には縄縄による直線構成の文様。区画面下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ3cmと1.5cm。後者は多段の等位になる。地紋は1段で、自縄自巻を回転。
						H39覆土最上部337		4		住居覆土	
図Ⅲ-2-43	H39	8	円筒下層d2式	H39-13	Ⅱb	H39ベルト層土上位260	1		1	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。地紋は1段目の多軸縄絡体回転。撚糸に円形に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-43	H39	9	円筒下層d2式	H39-23	Ⅱb	H39覆土上位8	2		2	住居覆土	口径26cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。肩部で口縁部を区画。肩部には縄縄側面圧痕で連続刺突。区画内には縄縄の文様。区画面下には1段目の横回転沿道。地紋は多軸縄絡条体縦回転。RL縄による。
図Ⅲ-2-43	H39	10	後成粘土塊	H39-3	Ⅱb	H39覆土上位13-2		1	1	住居覆土	縄縄・砂含む。
図Ⅲ-2-43	H39	12	円筒下層d2式	H39-6	Ⅱb	H39覆土上位2	2		2	住居覆土	表現6cm、内面ミガキ。縄縄・施縄斜行条む。地紋には1段で、多軸絡条体を縦回転。撚糸なし打度で、方形に上り撚文。
						H39南北トレンチ北側229	3		8	住居覆土	口径22cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。RL縄縄側面圧痕で直線構成の文様構成。地紋には1段の多軸絡条体縦回転。
図Ⅲ-2-43	H39	13	円筒下層d2式	H39-22	Ⅱb	H39覆土1層407		1		住居覆土	口径約九RL縄縄側面圧痕で直線構成の文様構成。地紋は1段の多軸絡条体縦回転。
						H39覆土1層407		2		住居覆土	
						M2　62T13		1		蛇土	
						M2　62T14	1			蛇土	
図Ⅲ-2-43	H39	14	円筒下層d2式	H39-15	Ⅱb	H39覆土上位6	28	61	89	住居覆土	縄縄・砂含む。内面縦ミガキ。地紋は1段の縦回転。撚糸なし打度で重説は方形に上り撚文。
図Ⅲ-2-47	H39	30	円筒下層d2式	H39-27	Ⅱb	H39覆土北側上位12	8		8	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。肩部で口縁部を区画する。区画面下には結束第2種羽状縄文。地紋は1縄による単軸縄条体第1段縦回転。H39-31（復元著号400）と外径。
図Ⅲ-2-48	H39	36	円筒下層d1式	H39-9	Ⅱb	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	縄縄含む。内面ミガキ。地紋は4段で、自縄自巻を縦走。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	37	円筒下層d1式	H39-10	Ⅱb	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。地紋は1段で、単軸絡条体第1段目縦。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	38	円筒下層d1式	H39-12	Ⅱb	H39覆土上位15	1		1	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。地紋は撚糸単軸を1縄結び区画。1縄結ぶ3本。地紋は1段で、自縄自巻を縦走。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	39	円筒下層d1式	H39-11	Ⅱb	H39覆土1層407	1		1	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。地紋は1段で、単軸絡条体第1段目縦。横り切りによって重説的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-49	H39	40	円筒下層d1式新段階	H39-4	Ⅱb	H39覆土上位13	14	111	135	住居覆土	内面ミガキ。縄縄・砂含む。口縁部は肩部で区別する。区画内には縄縄による側面圧痕の直線構成の文様。縦区画に二つ一組の円形刺突。区画面下には結束第二種羽状縄文。多段の等位に1.5縄。地紋は1段の単軸絡条体第1段縦回転。
						H39覆土上位東側366		10		住居覆土	
図Ⅲ-2-49	H39	44	円筒下層d式	H39-7	Ⅱb	H39覆土南側313	6		6	住居覆土	口径20cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。口縁部縦方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を直線区反部分RL縄縄で区画。直線区反部分RRL縄文を縦走させる。地紋m。
図Ⅲ-2-49	H39	45	円筒下層d式	H39-8	Ⅱb	H39覆土南側313	4		4	住居覆土	縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。縦方向。口縁部文様帯をLR縄縄で区画LR縄文で方縦。地紋は1縄単軸絡条体第1段縦回転。
図Ⅲ-2-49	H39	46	円筒下層d1式最古（c式に近い）	H39-5	Ⅱb	H39覆土上位18	8		17	住居覆土	表現8cm、縄縄・施縄斜行条む。内面ミガキ。胴部には1段目の自縄自巻を縦走。多段の等位にLR縄の結節を4cm間隔で巡り。重説は上げ度で、1方ずらし撚文。
						H39覆土上位217	4			住居覆土	
						H39覆土上位221	5			住居覆土	

図版番号	遺構番号	掘載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と細名略)	層位	接合点数	同一個体かも(未接合)	合計点数	区分	特徴
						H39層上位24	6		33	住居覆土	口径22cm、縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ、磨滅著しい。口縁部、胴部縦方向、面前段反撫(HR)、横線によって口縁部を区画する。区画内には直前段反撫(HR)、縄を回転、縦、横走させる。幅26cm、地紋は沖縄単軸曲条体第1類相当。
						H39ピット上位集側306	1		1	住居覆土	
						H39ベルト西土層上位150	1		1	住居覆土	
						H29層上下位19	1		1	住居覆土	
						H39層上151	1		1	住居覆土	
図II-2-49	H39	47	円筒下層c式	H39-14	IIb	H39ベルト東土2層直下189	1		1	住居覆土	
						H39層土東側261	2		2	住居覆土	
						M2 62T8	2		2	盛土	
						H39層土東側106	11		11	住居覆土	
						H39層土上位21	2		2	住居覆土	
						H39層土下位152	4		4	住居覆土	
						H39層上201	1		1	住居覆土	
図II-2-51	H39	54	円筒下層d1式	H39-16	IIb	H39層土下位152	8		11	住居覆土	底径10cm、縄縄含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋は1.4mの単軸曲条体縦回転。側部以上ナデ。ミガキ無文。
						H39層土下位241	3		3	住居覆土	
図II-2-52	H39	57	円筒下層d式	H39-25	IIb	H39層土下位30	26	2	28	住居覆土	口径24cm、器高40cm、底径13cm。縄縄・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁部2段、胴部は縦方向、横ハケ後等で口縁部を区画。横帯によって区画の。RL引き状連続する。幅25cmの口縁部文様等には、胴部から連続する5段単軸曲条体第1類縦一条の回転。加えて結束第一種羽状縄文。区画の3cm下に2cm幅で、結束第一種羽状縄文施文。地紋は、沖縄単軸曲条体第1類縦一条の回転。底部は無紋なナデ底で、ミガキもしくは無文。
図II-2-52	H39	58	円筒下層d式	H39-18	IIb	H39層土下位東側366	1		1	住居覆土	口径16cm、縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。外縄縦2段で口縁部を区画。土本目の間には円形の施文具を右へ45(HR)引き状連続。区画内はRL縦節が2段。地紋は単軸曲条体第4類縦回転。外縄ナデ。
図II-2-52	H39	59	円筒下層d式	H39-20	IIb	H39層土下位156	3		3	住居覆土	口径20cm、縄縄・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁部方向、胴部縦方向、RL縦節本で口縁部を区画。区画内にはLR縦文横回転。幅4cm。地紋は沖縄単軸曲条体第1類縦回転。
図II-2-52	H39	60	円筒下層d1式最古(d式に近い)	H39-19	IIb	H39層土東側261	1		1	住居覆土	口径17cm、縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は上半縦方向、下は縦方向。上縄縦2段一種で口縁部区画内を施文。
図II-2-52	H39	61	円筒下層d式	H39-17	IIb	H39層土東側261	1		1	住居覆土	口径20cm、縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縦単軸曲条体側面圧痕2段で口縁部を区画。土本目の間に円形の施文具を右へRL(HR)引き状連続。区画内はRL結節が2段。地紋は単軸曲条体第4類縦回転。外縄ナデ。
図II-2-52	H39	62	円筒下層d式	H39-21	IIb	H39層上位18	1		4	住居覆土	口径15cm、縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁縦方向、胴部縦方向。なだらかな無紋で口縁部を区画。区画内には直前段反撫(HR)とRL縦文横回転。幅4cm。地紋は直前段反撫(HR)、縦文縦回転。
						H39層上位338	2			住居覆土	
						H39層土下位東側306	1			住居覆土	
図II-2-53	H40	1	円筒下層b式	H40-1	IIb	H40層土1層6	1		3	住居覆土	縄縄・砂含む。海綿骨針少量含む。内外面ともに縦縦文1段施等不明。
						H40層土2層7	2			住居覆土	
図II-2-53	H40	2	円筒下層b式	H40-2	IIb	H40表面	2		2	住居覆土	
図II-2-55	H41	8	円筒下層b2式	H41-4	IIb	H41トレンチ30	5		5	住居覆土	縄縄・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。口縁縦方向、胴部縦方向。口縁部区画は単軸曲条体第1類縦回転。胴部は同じものの結束縦の可能性がある。口縁部区画の内縄縦もしくは前述のものよりも太い単軸曲条体の側面圧痕。
						H41層土東側18	10	9	67	住居覆土	口径20cm、底径8cm。縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は縦、胴部縦は縦。無紋で口縁部を区画する。地巻上方胴部突の連続。区画内にはLR縦文、幅3cm。地紋は沖縄単軸曲条体第1類縦回転。側部以上ナデ底で上方ミガキにより無文。
図II-2-55	H41	9	円筒下層b2式前段階	H41-6	IIb	H41ベルト東土下位47	2	60		住居覆土	
図II-2-55	H41	10	円筒下層b2式	H41-3	IIb	H41トレンチ70	1	2	3	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁部区画は沖縄単軸曲条体第1類の側面圧痕3段による。区画内にはLR縦文2段。胴部は沖縄単軸曲条体第1類縦回転。
図II-2-55	H41	11	円筒下層b2式	H41-2	IIb	H41トレンチ70	25	2	27	住居覆土	底径9cm、内面ミガキ。縄縄含む。海綿骨針少量含む。地紋は、沖縄単軸曲条体第1類縦回転。底部際には同一原体で縦方向に無紋の施文。幅4cm。上げ底で上方ミガキ無文。
図II-2-55	H41	12	円筒下層b2式	H41-1	IIb	H41トレンチ70	23		23	住居覆土	底径10cm、内面ミガキ。縄縄・海綿骨針含む。地紋は、RL縦単軸曲条体第1類を縦回転。底部際には同一原体で縦方向に等間の施文。幅4cm。上げ底で上方ミガキ無文。
図II-2-55	H41	13	東釧路双式	H41-5	Ia	H41西トレンチ71	1		1	住居覆土	内面ミガキ。研磨含む。地紋は魚骨回転文とニンジャイプ、一部にRL縦回転。
図II-2-56	H42	1	円筒下層d2式	H42-1	Ia	H42表土8	9	15	25	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁上半は縦、口縁下半から胴部にかけては縦方向。地紋は口縁から胴部へと連続する6L縦回転。
					IIa	H42表土4-7	1			住居覆土	
					IIb	H42表土8	5	23	47	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁から胴部上半は縦、胴部下半にかけては縦方向。無紋で口縁部文様等を区画。幅4cm。R縦側面圧痕を5段に連続。区画内には、LR縦縦による直線構成の文様。区画面下には幅2cmで、結束第二種羽状縄文施文。地紋は沖縄で、回縦自巻縦走。
図II-2-56	H42	2	円筒下層d2式	H42-2	IIa	H42表土2-1	1	11		住居覆土	
					IIb	H42表土2-2	9			住居覆土	
					IIb	H42表土2-3	7	1		住居覆土	
					Ia	表採V6		2		包含層	
図II-2-56	H43	1	円筒下層b2～c式	H43-1	IIb	H43表土2層27	3		3	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縦文施文後、口縁部に二条縦縦4本。
図II-2-56	H43	2	円筒下層b式	H43-2	Ib	H43表土1層26	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。二条縦を等間で区画し、RL縦文横回転。
図II-2-56	H43	3	円筒下層b2式	H43-3	Ib	H43表面	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。高さと製品、縦溝内形に成型。中央穿孔。
図II-2-56	H44	1	円筒下層b式	H44-1	Ib	H44表面25	1		1	住居覆土	縄縄・小石含む。内面ミガキ。RL縦単軸曲条体第1類縦回転。
図II-2-56	H44	2	円筒下層b式	H44-2	Ib	H44表面16	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縦文縦回転。上げ底。縦目がある。RL縦かん。表環1cm。
図II-2-56	H45	1	円筒下層b式	H45-1	Ib	H45西溝遺土1層11	1		1	付属溝構造土	縄縄・小石含む。内面ミガキ。RL縦単軸曲条体第1類縦回転。
図II-2-56	H45	2	円筒下層b式	H45-2	Ib	H45ピット遺土2層18	1		1	付属溝構造土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面縦横にハケ不明。
図II-2-57	H46	3	円筒下層b2～c式	H46-4	Ib	H46表土下位62	3	2	6	住居覆土	口径20cm、縄縄・海綿骨針・小石含む。内面ミガキ。口縁部は縦、胴部は縦。胴部は縦に2条H46表土下位63	口縁部2段目、口縁部・地紋ともにH28同様単軸曲条体第1類縦一条の回転。口縁部区画縦1cm。
						H46表土下位63	1			住居覆土	
						H46表上30	1	29		住居覆土	口径21cm、縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は縦。胴部は縦。隆帯による口縁部区画。口縁部・地紋ともにLR縦文。
図II-2-57	H46	4	円筒下層b2式	H46-1	IIb	M4-3 61T37	1	21		盛土	
						M4-3 61T38	2			盛土	
						M4-3 61R37		3		盛土	
図II-2-57	H46	5	円筒下層b2式	H46-5	IIb	H46表土32	3		4	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はH28単軸曲条体第1類縦回転。
						M4-3 61S89	1			盛土	
						H46表土東6-3	2		10	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLR縦文縦走。
図II-2-57	H46	6	円筒下層b2式	H46-3	IIb	H46表土下位62	1	4		住居覆土	
						H46ピット遺土52	2			付属溝構造土	
						H46ピット遺土上位70		1		付属溝構造土	
図II-2-57	H46	7	円筒下層b2式	H46-6	IIb	H46表面3	6	3	11	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。保付帯。地紋はH28単軸曲条体第1類縦回転。
						H46表面7		2		住居覆土	
図II-2-57	H46	8	円筒下層b2式	H46-2	Ib	H46表土位30	3		3	盛土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はH28に2条縦縦条体第1類縦に近い斜め回転。縦溝が内側に成型。中央穿孔。
図II-2-57	H46	9	円筒下層b2式	H46-7	Ib	H46ピット遺土74	1		1	付属溝構造土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はH28縦1類縦回転。底部は上げ底で、ミガキ上から無文。
図II-2-58	H47	1	円筒下層b式	H47-1	Ib	H47表土1	1		1	住居覆土	口縁内、結節を施文。縄縄・海綿骨針・小石を含む。
図II-2-58	H47	2	円筒下層b式	H47-2	Ib	H47表土1	1		1	住居覆土	底部上げ底で、内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。
図II-2-58	H48	1	円筒下層b式	H48-1	Ib	H48表面	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針・小石含む。内面ミガキ。地紋は金雲母。
図II-2-58	H48	2	円筒下層b式	H48-2	Ib	H48ピット遺土16	1		1	付属溝構造土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は結束第1類。
図II-2-58	H49	1	円筒下層b式	H49-1	Ib	H49表土1層1	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縦文縦回転。上げ底で、底面にも地紋と同じ縦文。
図II-2-58	H50	1	円筒下層b式	H50-1	Ib	H50表土4	1		1	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縦文縦回転。
図II-2-58	H51	1	円筒下層b式	H51-5	Ib	H51表土西側28	6		6	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁縦、胴上縦。胴部には縦に2条縦。区画には縦縦単軸曲条体側面圧痕による直線構成の文様。幅3.5cm。地紋は直前段反撫(HR)とRL縦文を縦走。
図II-2-58	H51	2	円筒下層b2～c式	H51-5	Ib	H51表土東側29	12	19	31	住居覆土	縄縄・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁縦、胴は縦。隆帯によって縦部を区画し、区画には縦に2条単軸曲条体第4類回転。幅2.5cm。隆帯上に円形刻文。その直上第下に単軸曲条体側面圧痕。地紋は直前段反撫(HR)とRL縦を縦回転。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(Ⅱ:2類 ⅢⅣ:3類)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図版-2-58	H51	3	円筒下層c式	H51-3	Ⅱa	H51埋土西側28	19	7	26	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口径26cm、底径12cm。口縁端、胴は縦、底部には口縁部を区画し、区画には連続反復のRRL縄文を施文する。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ5cm、2cm。地紋は直前段反復のRRL縄文を施文させる。上げ底で底面は整風。
図版-2-58	H51	4	円筒下層c式	H51-1	Ⅱa	H51ベルト土層ⅢⅢ33	1	2	3	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁端、胴は縦。地紋を無文にすることにより区画を区画し、区画には縄結条体側面圧痕で直線構成の文様を施す。地紋は直前段反復のLLR縄文を施文。
図版-2-58	H51	5	円筒下層c式	H51-4	Ⅱa	H51ベルト土層ⅢⅢ33	5	9	14	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口径15cm、底径13cm。口縁端、胴は縦、底部には口縁部を区画し、区画には胴部地紋と同じ縄文を施文。地紋は直前段反復のLLR縄文を施文。幅はそれぞれ2.3cm、上げ底で底面は整風。
図版-2-58	H51	6	後成粘土塊	H51-8	Ⅱa	H51埋土西側28②	1		1	住居埋土	縄文含む。
図版-2-58	H51	7	円筒下層b式	H51-7	Ⅱa	H51床面13	1		1	住居床面	縄文・海綿骨針・砂粒含む。内面ミガキ。地紋はLR縄による単軸縄条体第1類を縦回転。
図版-2-58	H51	8	円筒下層b式	H51-6	Ⅱa	H51ピット埋土81	1		1	住居付属遺構埋土	縄文含む。内面ミガキ。地紋はLR縄による単軸縄条体第1類縦回転。
図版-2-59	H52	2	円筒下層c式	H52-1	Ⅱa	H52埋土1層56	14	21	35	住居埋土	口径17cm。縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は縦、胴部は縦、地紋を無文にすることにより区画を区画し、区画には縄結条体第2類を横回転。地紋は直前段反復のLLR縄文を施文。
図版-2-59	H53	1	円筒下層b式	H53-3	Ⅱa	H53埋土1-21	10		10	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は縄結条体第1類回転。底面にも同様の文様を施し、上げ底。
図版-2-59	H53	2	円筒下層b式古段階	H53-2	Ⅱa	H53埋土1-22	13	21	34	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁端、胴は縦。胴部には口縁部を区画し、区画には連続反復の2段目を区画させる。区画直下にも同様の施文。幅はそれぞれ3.5cm、2.5cm。地紋は同様条体第1類縦回転。
図版-2-59	H53	3	コップ口式	H53-1	Ⅰb	H53埋土1-22	2		2	住居埋土	角閃石含む。内面ミガキ。無節縦回転ラウレ。地紋は同様に縦を交互に縦回転。又は結の圧痕を連結する。
図版-2-59	H54	1	円筒下層b式	H54-2	Ⅱa	H54埋土2-43	6		6	住居埋土	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。無節ラウレ圧痕で、回転又は結。
図版-2-59	H54	2	円筒下層b式	H54-1	Ⅱa	H54埋土2-43	4	3	7	住居埋土	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。無節ラウレ圧痕で、回転又は結。
図版-2-59	H54	3	円筒下層b式古段階	H54-3	Ⅱa	H54埋土2-1	1		1	住居床面	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。LR縄文・結束第一種羽状縄文。
図版-2-59	H55	1	円筒下層b式	H55-1	Ⅱa	H55埋土1-16	1		1	住居埋土	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。RL縄文・結束第一種羽状縄文。
図版-2-59	H55	2	円筒下層b式	H55-2	Ⅱa	H55埋土1-16	3		3	住居埋土	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。LR縄文・結束第1類
図版-2-59	H55	3	円筒下層b式	H55-3	Ⅱa	H55埋土1-16	2		2	住居埋土	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。結束第一種羽状縄文とRL縄単軸縄条体1類。
図版-2-60	H56	4	円筒下層c式	H56-1	Ⅱa	H56埋土最上位3	5		5	住居埋土	口径15cm。縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁端、胴部縦。胴部で縦胴部を区画し、区画には縄結節を2段目を区画させる。区画直下にも同様の施文。幅はそれぞれ3.5cm、2.5cm。地紋は同様条体第1類縦回転。
図版-2-62	H57	1-2	後成粘土塊	H57-2	Ⅲa	H57埋土西側28	12	20	34	住居埋土	3cm以下15×4×1.3cm、3cm以下4×3×1cm。胎土には海綿骨針と縄文を含む。3cm以の表面が剥離したもの。胎土からLa並行と判断した。
						H57埋土85P底49	2			住居埋土	
図版-2-62	H57	3	円筒上層a式	H57-4	Ⅲa	H51埋土1	1	1	6	住居埋土	胎土には繊維、砂を含む。内面は種ミガキ。口縁部文様帯全体が肥厚。口唇には縄単軸縄条体側面圧痕が連続。口縁には同様の圧痕によって縄結果に7段回転を施す。四単位の波頂部からは波打ちが生じる。胴部は縦回転。
				H57埋土			1			住居埋土	
				表採P1			3			包含層	
図版-2-62	H57	5	円筒下層b式	H57-2	Ⅱa	H57埋土96P底17	5		5	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。器壁で口縁部を区画。器壁には結束第一種羽状縄文。口唇には撚糸で不明瞭だがヘラ状によるものか、連続圧痕が残る。幅4cm。口縁部から胴部、胴部文、縦文地文を施像後付。非型風再生土製品。補修。
図版-2-62	H57	6	円筒上層a式	H57-1	Ⅲa	H57埋土96P底17	6		6	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。肥厚部で口縁部を区画。区画には結束第一種羽状縄文。幅4cm。胴部文、非型風再生土製品。補修。
図版-2-60	H59	1	円筒下層b式	H59-1	Ⅱa	H59埋土1	1		1	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄単軸縄条体第1類縦回転。底部際は帯状に縦回転。底部項0cm。
図版-2-60	H60	1	円筒下層b式古段階	H60-4	Ⅱa	H60埋土49	1		6	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は同種単軸縄条体第1類縦回転。幅3cm以上。地紋は同種単軸縄条体第1類縦回転。
				M4-3 62R21			5			盛土	
図版-2-60	H60	2	円筒下層b式古段階	H60-3	Ⅱa	H60埋土49	1	3	15	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。器壁薄い。器壁には結束第一種羽状縄文。口唇には縄部区画。口縁部は同種単軸縄条体第1類斜の回転。幅3cm。地紋は同種単軸縄条体第1類縦回転。
				M2-2 62R45			10			盛土	
				M2-2下位 62R6			1			盛土	
図版-2-60	H60	4	円筒下層b式古段階	H60-2	Ⅱa	H60埋土49	1	1	19	住居埋土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は同種第1類縦回転を主とする。下層は同種第3類縦回転。
				M2 62R42			8	9		盛土	
図版-2-60	H60	5	円筒下層b式古段階	H60-6	Ⅱa	H60埋土43	8		8	住居埋土	縄文含む。海綿骨針少量含む。内面撫滑。地紋はL同種単軸条体第1類縦回転。底部は上げ底で、地紋と同一原体にて回転施文。
図版-2-60	H60	6	円筒下層b式古段階	H60-5	Ⅱa	M4-6 61Q1	5		11	盛土	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。器壁薄い。胎土には縦回転。
				H60埋土49			6			住居埋土	
図版-2-60	H60	7	円筒下層b式古段階	H60-1	Ⅱa	H60床面24	1		1	住居床面	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は同種単軸縄条体第1類縦回転。
図版-2-70	H62	1	円筒下層d式	H62-6	Ⅱa	H62南北トレンチ埋土54	1	4	33	住居埋土	口径20cm。縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は縦。胴部によって口縁部を区画する。区画内には縄結合同縄結による文様。四単位の波頂部は波に縄結の文様構成が乱されられる。半截竹管による連続刺突が、四単位と縄結間。さらに口縁に連続する。地紋は上半分が結束第一種羽状縄文、下半分にL縄による多軸縄条体。
				H62埋土37			3	6		住居埋土	
				表 61V1			4	3		包含層	
				表 61V2				4		包含層	
				表 61V3				1		包含層	
				表 60R175				1		包含層	
				表 61V5				6		包含層	
				M1 61Q20				1		盛土	
				M1 60R177				1		盛土	
				M1 61U13				2		盛土	
				M1 61U20				2		盛土	
				H62埋土37			1	6	61	住居埋土	口径20cm。底径12cm。縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は縦。胴部際は縦。胴によって縄結を区画する。胴部には結束第二種羽状縄文。口唇には縄単軸縄条体による側面圧痕を連続。区画内には結束第二種羽状縄文と連結構成の文様。幅3.3cm。地紋は同種の多軸縄条体を縦回転。上げ底でミガキにより無文。
				H62 南北トレンチ埋土34			11	24		住居埋土	
				M2-2 61U11			1			盛土	
				M2-2 61U18			1			盛土	
				表61V1			2	3		包含層	
				表61U16			2	1		包含層	
				表61V6			1			包含層	
				表61V5				7		包含層	
図版-2-70	H62	2	円筒下層d式	H62-7	Ⅱa	H62埋土113	6		6	住居埋土	縄文・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。器壁薄い。口縁部を区画する。区画内には結束第一種羽状縄文。
図版-2-70	H62	4	円筒下層d式	H62-2	Ⅱb	H62埋土55	6	3	15	住居埋土	縄文・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。器壁薄い。口縁部を区画する。区画内には結束第一種羽状縄文。
				M4-3 61B3			6			盛土	縄文・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。器壁薄い。胎土には繊維を含む。
図版-2-70	H62	5	円筒下層d式古段階	H62-5	Ⅱb	H62床面19	7		7	住居床面	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋の上半はL同種文様。下半は直前段反復の第1段目。RLR上はL縄とRRR上はRL縄を施文。
図版-2-70	H62	6	円筒下層b式古段階	H62-3	Ⅱb	H62床面16	1		1	住居床面	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。器壁薄いことにより縄部を区画する。器壁上には指頭圧痕の連続。区画直下にはRL縄結節が2段。地紋はLR縄単軸縄条体第1類縦回転。
図版-2-70	H62	7	円筒下層b式古段階	H62-4	Ⅱb	H62床面23	2		2	住居床面	縄文・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLR単軸縄条体第1類縦回転。上げ底でLR縄文施転。
図版-2-70	H63	1	円筒下層b式	H63-1	Ⅱb	H63床面27	1		1	住居床面	内面ミガキ。縄文・海綿骨針・砂含む。RL縄単軸縄条体第1類縦回転。
図版-2-70	H63	2	円筒下層b式	H63-2	Ⅱb	H63床面13	1		1	住居床面	内面撫頂圧痕調整　縄文・海綿骨針含む。無節ラウレ圧痕で回転。RL縄単軸縄条体1類回転。
図版-2-71	H64	1	円筒下層b式	H64-3	Ⅱb	H64床面10	2		2	住居床面	内面ミガキ。縄文・海綿骨針含む。RL縄単軸縄条体第1類縦回転。上げ底でLR縄文。

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類（群と細を略）	層位	接合点数	同一個体かも（未接合）	合計点数	区分	特徴
図版-2-71	H64	2	円筒下層b2式	H64-1	Ⅱb	H64層土-86	6	6	12	住居覆土	内面ミガキ 縄文・海蝕骨針含む。平縄文帯は、幅約2cmの間隔で横位に施文。上げ底ミガキ無文。
図版-2-71	H64	3	円筒下層b2式	H64-2	Ⅱb	H64層面63	1		1	住居床面	内面ミガキ 縄文・海蝕骨針含む。平縄文帯は、幅約2cmの間隔で横位に施文。上げ底ミガキ無文。
図版-2-71	H65	1	円筒下層b2式	H65-1	Ⅱb	H65床面9	8		8	住居床面	内面ミガキ 縄文・海蝕骨針含む。平縄文帯は、幅約2cmの間隔で横位に施文。上げ底ミガキ無文。
図版-2-71	H65	2	円筒下層b式	H65-2	Ⅱb	H65覆土-21	1	1	2	住居覆土	縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅方向、口縁部区間内には小縄縄文8本以上。
図版-2-71	H65	3	円筒下層b式	H65-2	Ⅱb	H65覆土-21	3		3	住居覆土	縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅、微妙な間によって口縁部を区画する。2本一組の縄文帯が横位に2段間隔で施文。上、間に2つ隆突列を配す。区画直下には結束第一種羽状縄文を配す。区画とその直下の文様幅はそれぞれ3cm、2cm。地紋は縄の単軸絡条体を縦回転。
図版-2-71	H66	1	円筒下層d1式	H66-1	Ⅱb	H66床面7	1		1	住居床面	縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅、微妙な間によって口縁部を区画する。2本一組の縄文帯が横位に2段間隔で施文。上、間に2つ隆突列を配す。区画直下には結束第一種羽状縄文を配す。区画とその直下の文様幅はそれぞれ3cm、2cm。地紋は縄の単軸絡条体を縦回転。
図版-2-71	H66	2	円筒下層b2式	H66-2	Ⅱb	H66中一覆土2-58	1		1	住居付属遺構覆土	縄文・海蝕骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部は幅方向、RL縄縄文。
図版-2-72	P45	2	円筒下層d2式	P45-1	Ⅱb	P45覆土中位2	2	2	36	遺構覆土	口径21cm。縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅、隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上には小側面圧痕が連続。区画内は縄縄と円筒刺突が連続する。幅15cm。地紋は縄の単軸絡条体を縦回転。
						M2 63T1	2			焼土	
						M2 63T2	1	1		焼土	
						M2 62Q6	1	1		焼土	
						M2 63Q11	6	4		焼土	
						H39覆土南側13		1		住居覆土	
						M2 63S34		4		焼土	
						M2 63S3		2		焼土	
						M2 62Q3		5		焼土	
						M1 62Q11		1		焼土	
						M1 63Q1		2		焼土	
						覆 63S37		1		包含層	
図版-2-72	P47	1	円筒上層d式	P47-1	Ⅲa	P47覆土2 1	4	39		住居覆土	縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。地紋は結束第一種羽状縄文か。底部は無紋な上げ底で、ミガキによって無文だが、かすかに斜代のような痕跡がうかがえる。幅い無文の隆帯で胴部上半から口縁にかけて施回。波頂部に対応した突起をもつ。
						P47覆土2 2		2		住居覆土	
						P47覆土2 3	2	1		住居覆土	
						P47覆土2 4		1		住居覆土	
						P47覆土2 5	2	1		住居覆土	
						P47覆土2 6		1		住居覆土	
						P47覆土2 7		1		住居覆土	
						P47覆土2 8	1			住居覆土	
						P47覆土2 9		3		住居覆土	
						P47覆土2 10	1	2		住居覆土	
						P47覆土2 11		1		住居覆土	
						P47覆土2 14		5		住居覆土	
						P47覆土2 15	1			住居覆土	
						P47覆土2 17	2			住居覆土	
						P47覆土2 18	4			住居覆土	
						P47覆土2 19		3		住居覆土	
						P47覆土2 20		1		住居覆土	
図版-2-73	P56	1	円筒下層b2～c式	P56-1	Ⅱb	P56覆土14	5		5	土坑覆土	縄文・海蝕骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅。隆帯によって口縁部を区画する。区画内には小縄縄文がめぐるほか、隆帯上と区画内に円筒刺突が連続する。幅13cm。地紋は縄単軸絡条体第1類縦回転。
図版-2-73	P56	2	円筒下層b2～c式	P56-2	Ⅱb	P56底面10	8	46	83	土坑底面	口径15cm。縄文・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅。隆帯によって口縁部を区画する。区画内にはマルボウ象痕を模倣させる。幅14cm。地紋は縄単軸絡条体第1類縦回転。
						P56底面11		29		土坑底面	
図版-2-73	P56	3	円筒下層b2～c式	P56-3	Ⅱb	P56底面9	4		5	土坑底面	口径17cm。縄文・海蝕骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。撫減著しい。隆部によって口縁部を区画する。区画内には結束第一種羽状縄文を模倣させる。幅24cm。地紋は結束第一種羽状縄文か。撫減著しい。
						P56底面6	1			土坑底面	
図版-2-73	P56	4	円筒下層b2～c式	P56-4	Ⅱb	P56底面9	13		13	土坑底面	縄文・海蝕骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。撫減著しい。地紋は縦の多軸絡条体。撫減著しい。遺物番号8の注記を持つ土器が複数いたものか。9の間違い。
図版-2-74	P60	1	円筒上層a式	P60-1	Ⅲa	P60覆土1	4		32	土坑覆土	口径24cm。口色ハロ・海蝕骨針含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅。隆帯によって口縁部を区画する。区画内には円筒刺突と考えられる、LR縄縄文。
						覆81P5	13			包含層	
						覆81P1	3	3		包含層	
						覆81P4	2			包含層	
						覆81Q5		4		包含層	
						覆 63S2		5		包含層	
図版-2-74	TP7	1	円筒上層a式	TP7-1	Ⅲa	TP7覆土4	7		7	遺構覆土	口径30cm。砂含む。内面ミガキ。口縁部は幅、隆起帯は幅。隆帯によって口縁部を区画する。区画内には円筒刺突と～3本一組とした文様施文。幅23cm。地紋は結束第一種羽状縄文。
						覆82P8	3			包含層	
図版-2-74	TP7	2	円筒上層a式	TP7-2	Ⅱb	TP7覆土9	3		6	遺構覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はRL縄文。LR結節縄回転。
						H59覆土82P159	2	1		住居覆土	
図版-2-74	S5	1	円筒上層d式	S5-1	Ⅲa	S5覆土1層7	1		1	集石廻りかた	砂、海蝕骨針含む。内面ミガキ。口径26cm。縄い撫等で加飾後、LR縄文施回。
図版-2-75	F85	1	円筒下層b2～c式	269b	Ⅱb	覆 榎瓦76R4	1		1	包含層	269D異部。円形刺突がある。269c
図版-2-75	F85	1	円筒下層b2～c式	269c	Ⅱb	覆 76R2	1		1	包含層	269D異部。円形刺突がある。269c
図版-2-76	F82	4	サイベ沢式期	F82 14	Ⅲa	F82 覆土1 37	4		6	F82	内面ミガキ 縄文・海蝕骨針・砂粒含む。地紋はRL縄全面転。口唇にはRL縄側面連続圧痕。円形貼り付け。
						沢1層 45T81	2			沢地形F82周辺	
図版-2-76	F82	6	サイベ沢式期	F82 15	Ⅲa	F82 覆土1 11	14	57	71	F82	口径30cm、底径7.5cm。内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄と円、縄そしてそれぞれ結節全面転。口唇には縄側面連続圧痕。胴部まで左上2文様単位結束之字縄で施文する。隆帯上には円型文様、高台による上げ底ミガキにより無文。
図版-2-76	F82	7	サイベ沢式期	F82 16	Ⅲa	F82 覆土1 10	21	82	103	F82	内面ミガキ 海蝕骨針・砂粒含む。地紋はLR縄と円、縄そしてそれぞれ結節全面転。L円縄が主体。口唇にはLR縄側面連続圧痕。胴部以上げ底でミガキにより無文。
図版-2-76	F82	9	サイベ沢式期	F82 3	Ⅲa	F82 覆土1 12	17	56	73	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄又は結節。口唇には無縄。
						F82 覆土1 8	2		7	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄と円縄の結束第一種羽状縄文縦回転。口唇には無縄。
図版-2-77	F82	10	サイベ沢式期	F82-12	Ⅲa	F82 覆土1 37	1	3		F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋は無節縄文横回転とその横結節転。口唇には隆帯上横結節圧連続圧痕。
						沢1層 45T81	1			沢地形F82周辺	
図版-2-77	F82	11	サイベ沢式期	F82-2	Ⅲa	F82 覆土1 6	3		66	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋L無節縄文横回転とその横結節転縦。口唇には隆帯上横結節圧連続圧痕。
						F82 覆土1 10	6	57		F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。隆帯上は無。
図版-2-77	F82	12	円筒上層d式	F82-4	Ⅲa	F82 覆土1 8	11		11	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第二種羽状縄文。隆帯上は無縄。
図版-2-77	F82	13	サイベ沢式期	F82-13	Ⅲa	F82 覆土1 37	5	8	13	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄と円縄の結束第一種羽状縄文縦回転。口唇には隆帯上横結節圧連続圧痕。
図版-2-78	F82	23	サイベ沢式期	F82-1	Ⅲa	沢1層 45T81	17	71	88	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には隆帯上横結側面連続圧痕。突起型付と夢孔。ミガキにより無文の平底。
図版-2-79	F82	27	サイベ沢式期	F82-7	Ⅲa	沢1層 45T81	2		2	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・海蝕骨針含む。隆帯上無文。縄辺キザミ。
図版-2-79	F82	28	サイベ沢式期	F82-8	Ⅲa	沢1層 45T81	1		1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・海蝕骨針含む。隆帯上無縄。
図版-2-79	F82	29	サイベ沢式期	F82-5	Ⅲa	沢1層 45T81	1	4	5	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・縄縄・海蝕骨針含む。地紋RL縄回転施文。隆帯上LR縄回転施文。
図版-2-79	F82	30	サイベ沢式期	F82-6	Ⅲa	沢1層 45T81	2	3	5	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄縄回転施文。隆帯上無文。
図版-2-79	F82	31	サイベ沢式期	F82-9	Ⅲa	沢1層 45T81	1		1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 海蝕骨針含む。隆帯上円形刺突連続。L縄文地紋
図版-2-79	F82	32	サイベ沢式期	F82-11	Ⅲa	沢1層 47V60	1		1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 海蝕・海蝕骨針含む。L縄による地紋か。再生土製品。円形、中央穿孔。
図版-2-79	F82	33	焼成粘土塊	F82-10	Ⅲa	沢1層 45T81	1		1	沢地形F82周辺	海蝕骨針含む。

表Ⅲ－７　遺構出土石器一覧

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-1	H18	1	覆土3層	石核	頁岩	4169	5.80	6.80	6.60	260.00
図Ⅲ-3-1	H18	2	覆土2層	石斧未成品	砂岩	2956	19.60	6.90	4.65	750.50
図Ⅲ-3-1	H18	3	覆土49Vトレンチ	石製品	異形石器　頁岩	4459	6.29	5.10	0.52	10.40
図Ⅲ-3-1	H18	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	1155	5.60	7.80	2.00	114.70
図Ⅲ-3-1	H18	5	覆土1層	北海道式石冠	小型　安山岩	1043	7.25	8.00	4.70	398.60
図Ⅲ-3-1	H18	6	覆土3層	扁平打製石器	砂岩	4229	8.90	14.90	3.95	542.70
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒　凝灰岩	438	5.60	16.60	5.05	538.10
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒　凝灰岩	407	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒　凝灰岩	408	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	8	床	石皿片	安山岩	4304	(17.00)	(13.30)	(3.60)	(1340.00)
図Ⅲ-3-2	H18	9	HP－5覆土	扁平打製石器	閃緑岩	4385	7.60	16.30	2.90	597.70
図Ⅲ-3-2	H18	10	床	北海道式石冠	被熱　砂岩	4306	10.90	13.50	5.20	1090.30
図Ⅲ-3-2	H18	11	HP11覆土	たたき石	流紋岩	4418	11.60	7.60	2.60	312.50
図Ⅲ-3-2	H18	12	HP8覆土	たたき石	砂岩	4412	11.80	8.50	4.60	620.70
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	1	ホリアゲ土－49V	ドリル	頁岩	167	4.80	1.60	0.60	3.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	2	ホリアゲ土－52S	ドリル	頁岩	34①	9.80	3.30	1.15	28.90
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	3	ホリアゲ土－52S	ドリル	頁岩	34②	8.50	3.84	1.13	31.40
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	4	ホリアゲ土	石製品	打ち欠きあり　頁岩	100	10.95	2.45	1.25	34.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	5	ホリアゲ土－53T	石製品	凝灰岩	131	(9.95)	(4.25)	(3.80)	(173.00)
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	6	ホリアゲ土－52R	石製品	軽石	19⑤	2.30	3.15	1.33	1.50
図Ⅲ-3-4	H19	1	覆土2層	石鏃	頁岩	346	3.24	1.40	0.32	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	2	覆土2層	石鏃未成品	頁岩	347	3.28	1.23	0.28	1.10
図Ⅲ-3-4	H19	3	覆土2層	石製品	異形石器　頁岩	398	4.70	6.90	0.98	18.70
図Ⅲ-3-4	H19	4	覆土2層	石錘	砂岩	370	(8.25)	(10.70)	1.65	(171.00)
図Ⅲ-3-4	H19	5	床面	ドリル	頁岩	146	4.45	2.90	0.50	6.00
図Ⅲ-3-4	H19	6	床面	ドリル	頁岩	94	3.20	1.50	0.30	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	7	周溝覆土1層	つまみ付きナイフ	頁岩	182	5.55	3.20	0.80	11.70
図Ⅲ-3-4	H19	8	床面	スクレイパー	頁岩	96	4.80	4.20	1.10	15.60
図Ⅲ-3-4	H19	9	床面	スクレイパー	頁岩	92	8.50	6.20	1.55	43.70
図Ⅲ-3-4	H19	10	床面	スクレイパー	頁岩	84	10.90	4.70	2.40	120.80
図Ⅲ-3-4	H19	11	床面	スクレイパー	頁岩	93	5.50	6.30	1.35	35.30
図Ⅲ-3-4	H19	12	HP15覆土1層	スクレイパー	頁岩	143	13.30	6.40	2.40	179.70
図Ⅲ-3-4	H19	13	床面	両面調整石器	頁岩	26	8.70	8.00	2.40	165.80
図Ⅲ-3-5	H19	14	床面	北海道式石冠	安山岩	67	(11.60)	(9.50)	7.80	1041.90
図Ⅲ-3-5	H19	15	床面	北海道式石冠片	閃緑岩	16	(5.90)	(4.60)	(5.50)	(116.80)
図Ⅲ-3-5	H19	16	HP18覆土1層	石錘	砂岩	240	7.40	9.35	1.55	139.30
図Ⅲ-3-5	H19	17	床面	たたき石	砂岩	66	12.50	6.50	3.95	527.90
図Ⅲ-3-5	H19	18	床面	たたき石	緑色泥岩	18	10.90	5.63	1.15	101.00
図Ⅲ-3-5	H20	1	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	11	8.50	2.20	1.10	16.40
図Ⅲ-3-5	H20	2	床面	扁平打製石器	本州的北海道式石冠　砂岩	4	8.90	13.45	5.10	951.00
図Ⅲ-3-5	H20	3	床面	石皿	安山岩	12	16.80	29.50	8.60	4200.00
図Ⅲ-2-5	H20ハ～ヘ土器ベスト1ハ	土器ベ最新	床上	高杯土製品ハ～土器H20ベスト1ハ	Ⅰ群b類土器　中茶路式	446②	6.10	6.55	0.67	30.50

4　表

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-6	H21	1	覆土	石錘	凝灰岩	276	4.21	7.55	0.85	28.10
図Ⅲ-3-6	H21	2	覆土西側	石製品	異形石器　頁岩	68	3.40	5.30	1.00	15.70
図Ⅲ-3-6	H21	3	覆土東側下位	石製品	軽石	113⑤	4.00	4.85	2.20	7.40
図Ⅲ-3-6	H21	4	床面	スクレイパー	頁岩	1	(6.20)	2.50	0.65	6.80
図Ⅲ-3-6	H21	5	HP－11覆土	台石	砂岩	327	34.10	26.00	16.70	17500.00
図Ⅲ-3-6	H21	6	床面	砥石	砂質凝灰岩	11	(7.70)	(5.50)	1.35	66.20
図Ⅲ-3-6	H21	7	床面	石皿	安山岩	27	34.80	(27.40)	7.50	6000.00
図Ⅲ-3-6	H23	1	覆土	石製品	安山岩	61	7.10	11.80	5.00	586.90
図Ⅲ-3-7	H23	2	覆土	石鏃	頁岩	97	3.84	1.39	0.35	1.40
図Ⅲ-3-7	H23	3	覆土	両面調整石器	頁岩	76	9.80	5.35	2.15	72.20
図Ⅲ-3-7	H23	4	覆土	たたき石	凹み石　安山岩	176	11.60	5.60	5.30	388.70
図Ⅲ-3-7	H23	5	覆土	石製品	棒状礫　安山岩	213	23.50	6.50	4.65	861.10
図Ⅲ-3-7	H23	6	床面	両面調整石器	頁岩	20	(6.60)	3.40	1.70	38.60
図Ⅲ-3-7	H23	7	床面	スクレイパー	頁岩	39	(6.90)	3.80	1.45	30.50
図Ⅲ-3-7	H23	8	床面	スクレイパー	頁岩	44	(6.00)	2.60	1.70	19.70
図Ⅲ-3-7	H23	9	床面	扁平打製石器	砂岩	51	9.30	(15.30)	4.00	850.60
図Ⅲ-3-7	H23	10	床面	石鏃	安山岩	30	3.90	13.00	0.95	74.60
図Ⅲ-3-8	H24	1	床面	ドリル	頁岩	82	4.65	3.05	0.70	10.80
図Ⅲ-3-8	H24	2	床面	スクレイパー	頁岩	65	(5.30)	2.60	0.70	12.20
図Ⅲ-3-8	H24	3	床面	スクレイパー	頁岩	17	7.40	4.60	1.15	37.70
図Ⅲ-3-8	H24	4	覆土2層	石製品	凝灰岩	126	(8.10)	(5.60)	(2.35)	(109.90)
図Ⅲ-3-8	H25	1	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	140	7.05	5.50	3.10	144.00
図Ⅲ-3-8	H25	2	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	111	10.10	7.20	5.20	402.40
図Ⅲ-3-8	H25	3	覆土1層	石製品	凝灰岩	75	10.50	4.60	2.60	110.90
図Ⅲ-3-8	H25	4	覆土2層	北海道式石冠未成品	安山岩	138	10.40	9.60	6.60	1005.00
図Ⅲ-3-9	H25	5	床面	石槍又はナイフ	頁岩	24	(6.10)	5.10	1.60	34.10
図Ⅲ-3-9	H25	6	床面	スクレイパー	頁岩	9	8.45	4.90	1.85	55.20
図Ⅲ-3-9	H25	7	床面	石皿	砂岩	21	19.80	13.80	4.10	1320.00
図Ⅲ-3-9	H26	1	床面	石鏃	頁岩	47	2.80	1.40	0.40	1.00
図Ⅲ-3-9	H26	2	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	55	7.55	4.70	1.30	29.60
図Ⅲ-3-9	H26	3	HP－16覆土1層	石核	頁岩	68	8.60	8.50	3.70	266.00
図Ⅲ-3-9	H26	4	床面	石斧	緑色泥岩	50	8.00	4.70	1.65	93.50
図Ⅲ-3-9	H26	5	床面	石斧	緑色泥岩	21	8.60	4.80	2.85	191.60
図Ⅲ-3-10	H26	6	床面	扁平打製石器未成品	安山岩	43	7.30	11.20	2.20	205.70
図Ⅲ-3-10	H26	7	床面	扁平打製石器	安山岩	31	7.00	(8.65)	2.70	215.20
図Ⅲ-3-10	H26	8	HP－4覆土1層	たたき石	砂岩	69	8.40	7.00	5.60	389.00
図Ⅲ-3-10	H26	9	床面	石皿	安山岩	13	45.90	27.80	8.60	19500.00
図Ⅲ-3-10	H27	1	覆土2層	たたき石	凹み石　安山岩	156	8.30	7.80	4.95	395.80
図Ⅲ-3-10	H27	2	床面	石槍又はナイフ	頁岩	9	10.00	3.40	1.00	27.80
図Ⅲ-3-10	H27	3	周溝覆土1層	スクレイパー	頁岩	39	(5.10)	(4.60)	(0.80)	15.10
図Ⅲ-3-10	H27	4	床面	石斧	緑色泥岩	32	(11.90)	(5.10)	(3.00)	314.70
図Ⅲ-3-10	H27	5	HP－1覆土1層	扁平打製石器	砂岩	47	(9.00)	(9.70)	3.20	458.20
図Ⅲ-3-11	H27	6	床面	扁平打製石器	砂岩	6	15.70	19.90	5.30	2090.00

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-11	H27	7	床面	扁平打製石器	安山岩	5	8.00	13.80	3.90	675.00
図Ⅲ-3-11	H27	8	床面	台石	砂岩	21	(27.00)	(25.20)	5.40	3298.00
図Ⅲ-3-11	H28	1	覆土2層	石核	頁岩	123	17.50	5.85	5.55	613.40
図Ⅲ-3-11	H28	2	覆土1層	石製品	玦状耳飾　滑石	170	2.90	2.60	0.50	5.70
図Ⅲ-3-12	H28	3	覆土3層	石製品	軽石	187	11.10	13.50	6.70	260.50
図Ⅲ-3-12	H28	4	覆土2層	石製品	軽石	153	7.90	6.40	5.60	90.70
図Ⅲ-3-12	H28	5	覆土2層	石製品	軽石	141①	2.90	3.90	1.20	3.70
図Ⅲ-3-12	H28	6	覆土2層	石製品	軽石	141②	1.60	1.87	0.50	0.40
図Ⅲ-3-12	H28	7	覆土3層	たたき石	凹み石　安山岩	158	7.20	5.90	4.50	219.90
図Ⅲ-3-12	H28	8	床面	石鏃	頁岩	111	2.70	1.05	0.40	0.70
図Ⅲ-3-12	H28	9	床面	つまみ付きナイフ+ドリル	頁岩	91	8.70	2.05	1.00	11.80
図Ⅲ-3-12	H28	10	床面	両面調整石器	頁岩	84	9.55	6.50	3.50	196.80
図Ⅲ-3-12	H28	11	床面	石製品	異形石器　頁岩	66	6.40	6.50	1.20	22.10
図Ⅲ-3-13	H28	12	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	砂岩	34	9.70	15.30	5.50	1240.00
図Ⅲ-3-13	H28	13	周溝覆土1層	扁平打製石器	砂岩	26	11.40	17.40	4.10	885.00
図Ⅲ-3-13	H28	14	床面	たたき石	砂岩	75	12.00	8.30	5.40	566.20
図Ⅲ-3-13	H28	15	HP6覆土1層	台石	砂岩	106	26.40	26.00	10.50	10500.00
図Ⅲ-3-14	H29	1	覆土上位	石鏃	頁岩	152	4.30	1.55	0.40	2.20
図Ⅲ-3-14	H29	2	覆土下位	石鏃	頁岩	161	4.15	1.60	0.45	2.40
図Ⅲ-3-14	H29	3	覆土北側	石槍又はナイフ	頁岩	253	10.15	3.90	1.85	66.50
図Ⅲ-3-14	H29	4	覆土	つまみ付きナイフ	線対称　頁岩	297	6.45	3.05	0.85	15.20
図Ⅲ-3-14	H29	5	覆土上位	つまみ付きナイフ	線対称　頁岩	148	7.50	3.40	1.25	26.50
図Ⅲ-3-14	H29	6	覆土	石斧	両端潰れる　緑色泥岩	299	7.90	3.70	3.20	158.20
図Ⅲ-3-14	H29	7	覆土南端	石製品	環　凝灰岩	117	4.70	5.50	0.65	22.10
図Ⅲ-3-14	H29	8	覆土北トレンチ	石製品	軽石	186	9.00	4.30	4.00	134.40
図Ⅲ-3-14	H29	9	床面	石錐	安山岩	37	(10.75)	(10.60)	(2.65)	(353.80)
図Ⅲ-3-14	H29	10	床面	扁平打製石器	閃緑岩	40	8.30	16.55	3.45	800.70
図Ⅲ-3-14	H29	11	床面	扁平打製石器	閃緑岩	46	6.40	13.00	2.30	306.10
図Ⅲ-3-15	H29	12	HP－29覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	385	9.95	2.50	0.80	20.80
図Ⅲ-3-15	H29	13	HP－21覆土	たたき石	砂岩	375	14.70	8.25	2.70	480.20
図Ⅲ-3-15	H29	14	床面	たたき石	砂岩	55	10.80	8.70	4.65	585.00
図Ⅲ-3-15	H29	15	床面	台石	凝灰岩	49	41.70	34.50	5.20	5500.00
図Ⅲ-3-15	H29	16	床面	石皿	輝石安山岩	50	(30.80)	30.90	14.00	16000.00
図Ⅲ-3-16	H30	1	床面	スクレイパー	頁岩	33	3.50	3.50	0.85	9.20
図Ⅲ-3-16	H30	2	床面	扁平打製石器	安山岩	28と29	8.00	16.80	3.70	548.50
図Ⅲ-3-16	H30	3	床面	扁平打製石器	砂岩	1	8.15	13.90	2.95	458.40
図Ⅲ-3-16	H30	4	床面	たたき石	砂岩	27	(11.40)	7.20	6.00	680.10
図Ⅲ-3-16	H30	5	床面	たたき石	砂岩	35	(13.10)	6.70	4.40	442.70
図Ⅲ-3-16	H30	6	床面	たたき石	砂岩	36と37	14.90	8.90	3.30	591.50
図Ⅲ-3-16	H30	7	床面	台石	砂岩	19	40.10	25.00	12.20	21000.00
図Ⅲ-3-16	H30	8	床面	台石	安山岩	25	39.90	34.20	10.80	22000.00
図Ⅲ-3-17	H31	1	覆土1層	両面調整石器	頁岩	92	14.10	4.60	2.40	139.90
図Ⅲ-3-17	H31	2	覆土1層	たたき石	頁岩	45	14.70	4.90	5.15	470.30

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-17	H31	3	床面	スクレイパー	頁岩	26	7.10	3.90	1.30	19.00
図Ⅲ-3-17	H31	4	床面	石錐又はナイフ	片岩	5	11.90	3.40	0.75	41.00
図Ⅲ-3-17	H31	5	周溝覆土1層	石核	頁岩	38	7.50	15.10	7.80	703.20
図Ⅲ-3-18	H31	6	周溝覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	37	9.30	15.40	3.10	706.70
図Ⅲ-3-18	H31	7	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	39	11.60	20.40	7.35	2155.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	4	(18.75)	(11.10)	4.20	920.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	31	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-18	H31	9	床面	たたき石	砂岩	7	(17.90)	(12.00)	6.00	1450.00
図Ⅲ-3-18	H31	10	床面	たたき石	砂岩	32	11.70	9.20	5.70	733.80
図Ⅲ-3-18	H32	1	床面	扁平打製石器片	安山岩	4	(6.20)	(9.45)	1.20	90.40
図Ⅲ-3-19	H33	1	床面	スクレイパー	頁岩	49	5.80	2.30	0.90	8.80
図Ⅲ-3-19	H33	2	床面	スクレイパー	頁岩	48	5.50	4.50	0.80	19.50
図Ⅲ-3-19	H33	3	床面	石斧	緑色泥岩	7	(5.50)	(4.40)	(1.10)	(47.90)
図Ⅲ-3-19	H33	4	覆土1層	石斧	緑色泥岩	53	9.00	5.30	3.10	253.70
図Ⅲ-3-19	H33	5	床面	たたき石	メノウ	12	9.00	8.10	4.10	481.70
図Ⅲ-3-19	H33	6	床面	たたき石	砂岩	17	11.10	5.80	3.20	274.00
図Ⅲ-3-19	H33	7	床面	砥石	砂岩	20	(18.20)	(18.20)	(5.20)	1710.00
図Ⅲ-3-20	H34	1	覆土4層	石鏃	頁岩	20	2.70	1.20	0.40	0.90
図Ⅲ-3-20	H34	2	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67②	8.10	3.40	1.50	41.10
図Ⅲ-3-20	H34	3	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67①	10.70	4.00	1.50	63.00
図Ⅲ-3-20	H34	4	覆土4層	スクレイパー	頁岩	12	(5.40)	5.40	1.10	27.10
図Ⅲ-3-20	H34	5	覆土西側	扁平打製石器	北海道式石冠的 安山岩	78	9.50	15.40	4.85	780.90
図Ⅲ-3-20	H34	6	覆土4層	たたき石	砂岩	9	13.80	8.00	3.60	561.10
図Ⅲ-3-20	H35	1	覆土1層下位	石皿	安山岩	25	36.00	21.70	7.60	5500.00
図Ⅲ-3-20	H35	2	覆土1層下位	石皿	砂岩	24	38.90	22.40	15.60	17500.00
図Ⅲ-3-21	H35	3	覆土1層下位	台石	安山岩	23	34.80	27.90	11.80	13500.00
図Ⅲ-3-21	H36	1	覆土西側	石錐又はナイフ	頁岩	111	8.50	2.70	0.80	16.50
図Ⅲ-3-21	H36	2	覆土東側	石斧片	油ぬって焼 緑色泥岩	40	(7.70)	2.95	2.30	80.70
図Ⅲ-3-21	H36	3	覆土4層	石皿	安山岩	15	30.00	29.40	10.50	8000.00
図Ⅲ-3-21	H37	1	覆土1層	ドリル	石鏃転用 頁岩	131	5.75	1.60	0.60	4.80
図Ⅲ-3-21	H37	2	覆土2層	砥石	砂岩	141	12.90	8.70	1.90	130.00
図Ⅲ-3-21	H37	3	覆土2層	たたき石	凹み石 頁岩	143	11.25	5.30	2.95	207.90
図Ⅲ-3-21	H37	4	周溝覆土1層	石鏃	頁岩	114②	1.90	1.20	0.40	0.80
図Ⅲ-3-21	H37	5	床面	ドリル	頁岩	76	7.50	3.50	1.70	31.50
図Ⅲ-3-21	H37	6	床面	スクレイパー	頁岩	119	5.95	4.00	1.20	23.40
図Ⅲ-3-22	H37	7	周溝覆土1層	スクレイパー	掻器 頁岩	118	6.70	5.75	1.55	67.50
図Ⅲ-3-22	H37	8	床面	両面調整石器	頁岩	25	9.05	4.50	1.90	78.10
図Ⅲ-3-22	H37	9	床面	両面調整石器	頁岩	44	10.80	5.80	2.40	115.90
図Ⅲ-3-22	H37	10	覆土2層	扁平打製石器	安山岩	142	7.00	8.00	2.90	219.20
図Ⅲ-3-22	H37	11	床面	扁平打製石器	凝灰岩	62	6.70	14.40	3.00	289.80
図Ⅲ-3-22	H37	12	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	117	8.90	8.15	5.85	555.10
図Ⅲ-3-22	H37	13	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	115	10.30	7.70	5.25	496.00
図Ⅲ-3-22	H37	14	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	121	6.50	5.50	6.10	313.10

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-22	H38	1	床面	北海道式石冠	閃緑岩	16	10.90	(14.40)	7.50	1729.00
図Ⅲ-3-23	H38	2	床面	石鏃	頁岩	19②	(2.50)	1.65	0.30	1.10
図Ⅲ-3-23	H38	3	覆土南北トレンチ	ドリル	つまみ付き　頁岩	109	7.80	1.90	0.80	9.40
図Ⅲ-3-23	H38	4	覆土最下位	石のこ	砂岩	140	12.60	18.90	5.70	1230.00
図Ⅲ-3-23	H38	5	覆土上位	石皿	安山岩	2	(22.20)	(19.80)	10.10	4900.00
図Ⅲ-3-23	H39	1	床面	石鏃未成品	頁岩	43	3.13	1.90	0.40	2.00
図Ⅲ-3-23	H39	2	覆土下部	石鏃	頁岩	393	(1.12)	1.76	0.48	2.70
図Ⅲ-3-23	H39	3	覆土東側	石鏃	頁岩	90	2.90	1.40	0.40	1.50
図Ⅲ-3-23	H39	4	覆土東西トレンチ西側	石鏃	頁岩	413	4.90	1.25	5.50	3.00
図Ⅲ-3-23	H39	5	覆土上部ベルト	つまみ付きナイフ片	黒曜石	249	(1.60)	(1.10)	(0.37)	(0.60)
図Ⅲ-3-23	H39	6	覆土南側	ドリル	頁岩	345	5.75	0.90	0.30	2.20
図Ⅲ-3-23	H39	7	覆土壁際	石槍又はナイフ	片岩	291	13.10	3.80	1.00	55.40
図Ⅲ-3-23	H39	8	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩　無茎	241	6.90	3.60	1.30	16.60
図Ⅲ-3-23	H39	9	ベルト覆土下位	両面調整石器	打製石斧風　頁岩	147	15.00	4.90	3.10	229.80
図Ⅲ-3-23	H39	10	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344③	7.40	3.20	2.30	44.70
図Ⅲ-3-23	H39	11	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑤	4.90	3.85	1.15	28.30
図Ⅲ-3-23	H39	12	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑥	(4.40)	3.20	1.10	11.70
図Ⅲ-3-24	H39	13	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344①	8.80	3.90	2.05	50.80
図Ⅲ-3-24	H39	14	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344②	8.40	4.70	1.30	41.10
図Ⅲ-3-24	H39	15	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344④	7.00	3.10	1.20	21.20
図Ⅲ-3-24	H39	16	覆土南側	石核	頁岩	351	9.80	15.80	15.30	3040.00
図Ⅲ-3-25	H39	17	覆土南北トレンチ北側	スクレイパー	頁岩	224	13.00	6.40	3.30	221.70
図Ⅲ-3-25	H39	18	覆土壁際ベルト	石錐	扁平打製石器転用　安山岩	386	9.60	14.50	1.65	265.40
図Ⅲ-3-25	H39	19	覆土下位	扁平打製石器	安山岩	307	8.70	15.00	2.00	297.70
図Ⅲ-3-25	H39	20	覆土ベルト下位	扁平打製石器	粘板岩	255	5.85	12.20	1.00	84.30
図Ⅲ-3-25	H40	1	覆土南側	石製品	頁岩	28	3.40	8.05	0.65	10.30
図Ⅲ-3-26	H41	1	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86①	12.20	3.80	1.90	78.60
図Ⅲ-3-26	H41	2	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86②	8.40	3.60	1.05	22.50
図Ⅲ-3-26	H41	3	覆土南側	Rフレイク	つまみ付きナイフ形ラウンドスクレイパーもしくは　剥片	61	3.60	1.90	0.80	3.50
図Ⅲ-3-26	H41	4	覆土ベルト	石核	頁岩	41①	5.95	7.60	3.60	98.90
図Ⅲ-3-26	H41	5	覆土ベルト	石核	頁岩	41②	7.28	6.57	2.41	75.30
図Ⅲ-3-26	H41	6	床面	両面調整石器	頁岩	1	(11.80)	7.30	4.70	295.50
図Ⅲ-3-26	H41	7	床面	石皿	安山岩	5	16.20	10.20	8.00	2010.00
図Ⅲ-3-27	H43	1	床面	ドリル+つまみ付きナイフ	頁岩	2	9.40	2.20	0.90	18.10
図Ⅲ-3-27	H43	2	床面	スクレイパー	珪岩	20	9.40	3.80	1.85	55.90
図Ⅲ-3-27	H43	3	床面	石核	頁岩	14	4.20	9.70	6.55	186.30
図Ⅲ-3-27	H44	1	床面	石槍又はナイフ	頁岩	11	(12.60)	4.60	1.30	90.10
図Ⅲ-3-27	H44	2	床面	石核	頁岩	15②	4.60	8.80	3.50	133.20
図Ⅲ-3-27	H44	3	床面	扁平打製石器	砂岩	18	6.80	16.60	3.40	599.20
図Ⅲ-3-28	H45	1	HF－1覆土2層	石斧	緑色泥岩	20	(8.20)	(4.60)	(2.80)	(166.60)
図Ⅲ-3-28	H45	2	HF－1覆土2層	扁平打製石器	安山岩	21	7.85	10.00	2.80	287.40
図Ⅲ-3-28	H46	1	床面	石核	頁岩	12	10.30	9.70	6.50	794.00
図Ⅲ-3-28	H49	1	覆土1層	石製品	頁岩	6	4.10	5.85	0.92	14.50

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-28	H51	1	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩	61①	9.15	4.80	1.25	54.60
図Ⅲ-3-28	H51	2	覆土ベルト	石製品	線刻穂 凝灰岩クサレ	33④	5.50	6.40	1.05	17.30
図Ⅲ-3-28	H51	3	床面	たたき石	砂岩	9	7.10	5.00	3.60	183.90
図Ⅲ-3-28	H51	4	床面	たたき石	砂岩	11	9.80	8.50	6.70	608.40
図Ⅲ-3-29	H51	5	床面	扁平打製石器	砂岩	8	8.80	18.60	3.80	783.60
図Ⅲ-3-29	H51	6	床面	扁平打製石器	凝灰岩	4	7.50	18.00	2.70	494.70
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	16	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	17	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	8	床面	台石片	砂岩	7	10.00	12.10	4.30	560.20
図Ⅲ-3-29	H52	1	床面	スクレイパー	頁岩	44	3.90	4.00	1.10	12.80
図Ⅲ-3-29	H52	2	床面	スクレイパー	頁岩	19	5.50	3.80	1.45	18.80
図Ⅲ-3-29	H52	3	床面	台石	砂岩	38	36.80	27.00	11.40	17500.00
図Ⅲ-3-30	H52	4	床面	たたき石	砂岩	28	10.75	8.90	6.20	749.40
図Ⅲ-3-30	H52	5	床面	扁平打製石器	閃緑岩	33	6.75	15.10	2.75	407.30
図Ⅲ-3-30	H52	6	床面	扁平打製石器	閃緑岩	37	6.90	16.10	2.90	365.80
図Ⅲ-3-30	H52	7	床面	扁平打製石器	閃緑岩	34	7.70	16.00	3.80	685.40
図Ⅲ-3-30	H52	8	床面	扁平打製石器	砂岩	26	7.20	14.50	3.30	454.40
図Ⅲ-3-30	H53	1	覆土1層	石鏃	頁岩	13	2.77	1.22	0.27	0.90
図Ⅲ-3-30	H53	2	覆土2層	石槍又はナイフ片	頁岩	27	(7.10)	(5.45)	(1.05)	(39.70)
図Ⅲ-3-31	H54	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	54	11.95	5.85	4.15	377.30
図Ⅲ-3-31	H54	2	覆土2層	台石	安山岩	42	34.80	28.30	13.00	15000.00
図Ⅲ-3-31	H54	3	覆土2層	石皿	安山岩	21	32.50	22.00	8.10	7500.00
図Ⅲ-3-31	H54	4	床面	棒	石棒的 安山岩	1	35.60	11.40	9.40	5500.00
図Ⅲ-3-31	H54	5	HF－1覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	14	(3.75)	(4.55)	1.05	13.70
図Ⅲ-3-32	H55	1	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	9①	8.75	18.15	3.30	835.70
図Ⅲ-3-32	H55	2	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	9②	8.25	13.95	2.62	462.80
図Ⅲ-3-32	H55	3	覆土1層	扁平打製石器	安山岩	12①	(10.50)	(16.35)	(4.85)	(1065.00)
図Ⅲ-3-32	H55	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12③	5.25	11.30	3.00	233.60
図Ⅲ-3-32	H55	5	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12②	7.80	12.40	1.85	228.90
図Ⅲ-3-32	H56	1	覆土西側	台石	安山岩	17	26.90	23.40	5.10	3730.00
図Ⅲ-3-32	H56	2	覆土西側	台石片	安山岩	19	(34.50)	(19.20)	(10.90)	5000.00
図Ⅲ-3-32	H56	3	床面	スクレイパー	頁岩	16	5.90	4.10	0.85	21.80
図Ⅲ-3-33	H57	1	床面	台石	安山岩	9	34.90	22.50	6.50	7880.00
図Ⅲ-3-33	H57	2	床面 HP11	石皿	安山岩	10	(22.90)	(15.60)	6.20	2563.00
図Ⅲ-3-33	H57	3	覆土－85P	石製品	玦状耳飾 滑石	39	(4.92)	(4.00)	(0.47)	(12.20)
図Ⅲ-3-33	H58	1	覆土中位～84Q	石製品	北海道式石冠風 軽石	81	5.60	6.20	4.50	45.30
図Ⅲ-3-33	H58	2	覆土－83Q	つまみ付きナイフ	頁岩	130	4.00	7.32	0.78	20.40
図Ⅲ-3-33	H58	3	覆土－83Q	石斧	両端潰れる 緑色泥岩	133	9.45	4.55	2.95	248.50
図Ⅲ-3-33	H58	4	床面	北海道式石冠	安山岩	1	9.00	12.60	7.40	1062.10
図Ⅲ-3-33	H58	5	HP－1覆土4	北海道式石冠	閃緑岩	274	9.20	11.60	5.75	830.10
図Ⅲ-3-33	H58	6	床面	スクレイパー	頁岩	5②	4.60	3.30	2.00	21.00
図Ⅲ-3-33	H58	7	床面	スクレイパー	頁岩	5①	5.90	5.10	1.80	46.80
図Ⅲ-3-34	H60	1	周溝	石核	頁岩	18	9.80	9.10	6.30	505.20

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-34	H60	2	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	30	(3.95)	(2.30)	0.80	(6.10)
図Ⅲ-3-34	H60	3	覆土	石槍又はナイフ	片岩	31	9.95	4.20	1.35	47.60
図Ⅲ-3-34	H60	4	中央砂部分	扁平打製石器片	流紋岩	59	(8.10)	(10.65)	(2.50)	(279.40)
図Ⅲ-3-34	H60	5	周溝	扁平打製石器	流紋岩	24	11.25	17.10	3.00	689.40
図Ⅲ-3-34	H60	6	周溝	たたき石	砂岩	14	20.70	6.30	4.00	559.10
図Ⅲ-3-34	H60	7	床面	台石	砂岩	4	30.90	28.10	10.50	13000.00
図Ⅲ-3-35	H62	1	覆土ー南北トレンチ	石製品	異形石器 頁岩	60	4.30	5.35	1.10	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	2	覆土	石槍又はナイフ	磨製 片岩	51	7.80	3.00	0.69	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	3	床面	石核	頁岩	26	8.65	8.45	7.20	447.50
図Ⅲ-3-35	H62	4	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	112	(5.15)	(2.55)	(1.20)	(10.60)
図Ⅲ-3-35	H62	5	HP－4覆土	扁平打製石器	安山岩	103	10.90	17.90	3.85	1015.00
図Ⅲ-3-35	H63	1	床面	石皿	安山岩	33	30.00	27.70	8.60	6500.00
図Ⅲ-3-36	H64	1	床面	スクレイパー	頁岩	43	10.20	4.80	1.10	55.70
図Ⅲ-3-36	H64	2	床面	スクレイパー	掻器 頁岩	1②	5.65	3.83	1.45	18.80
図Ⅲ-3-36	H64	3	床面	石核	頁岩	20	2.60	5.70	4.50	68.20
図Ⅲ-3-36	H64	4	HP－5覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	75	10.40	15.10	6.90	1380.00
図Ⅲ-3-36	H65	1	床面	扁平打製石器	砂岩	10	8.70	16.90	2.80	496.80
図Ⅲ-3-36	H66	1	床面	スクレイパー	頁岩	8	10.65	5.10	1.80	116.90
図Ⅲ-3-36	H66	2	床面	スクレイパー	頁岩	15	10.85	5.30	2.75	142.10
図Ⅲ-3-37	H66	3	床面	スクレイパー	頁岩	39	7.50	5.50	2.00	64.50
図Ⅲ-3-37	H66	4	床面	台石	安山岩	45	53.80	27.80	11.60	26500.00
図Ⅲ-3-37	H66	5	床面	台石	砂岩	46	42.30	30.60	12.70	23000.00
図Ⅲ-3-37	H67	1	床面	石槍又はナイフ	頁岩	23	7.45	3.00	1.30	24.10
図Ⅲ-3-37	H67	2	床面	スクレイパー	頁岩	32	5.40	3.70	2.00	32.00
図Ⅲ-3-37	H67	3	床面	スクレイパー	頁岩	57	4.30	5.20	1.70	38.40
図Ⅲ-3-37	H67	4	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	25	7.60	3.95	1.75	37.90
図Ⅲ-3-37	H67	5	床面	石斧片	緑色泥岩	75	(7.10)	(4.00)	(3.00)	(113.80)
図Ⅲ-3-38	H67	6	床面	磨石	安山岩	62	39.90	31.10	8.40	12500.00
図Ⅲ-3-38	H67	7	床面	台石	砂岩	64	40.70	30.30	8.90	16500.00
図Ⅲ-3-38	H67	8	床面	台石	砂岩	58	38.00	24.50	13.00	17000.00
図Ⅲ-3-38	H67	9	HF－1覆土1	石製品	線刻礫 凝灰岩	68	11.10	5.70	1.00	87.20
図Ⅲ-3-38	H67	10	床面	扁平打製石器	安山岩	18	6.60	(9.80)	3.00	(248.30)
図Ⅲ-3-38	H67	11	床面	扁平打製石器	砂岩	28	10.10	16.80	3.25	656.10
図Ⅲ-3-39	P43	1	覆土2層	石鏃	頁岩	15	(2.95)	1.33	0.30	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	2	覆土2層	石鏃	頁岩	25	2.90	(0.95)	0.34	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	3	覆土2層	石鏃	頁岩	28	2.72	1.11	0.28	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	4	覆土2層	石鏃	頁岩	23	3.35	1.18	0.32	1.20
図Ⅲ-3-39	P43	5	覆土2層	石鏃	頁岩	27	2.60	1.23	0.23	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	6	覆土2層	石鏃	頁岩	26	2.91	1.19	0.23	0.70
図Ⅲ-3-39	P43	7	覆土2層	石鏃	頁岩	17	2.98	1.30	0.28	0.90
図Ⅲ-3-39	P43	8	覆土2層	石鏃	頁岩	18	3.20	1.62	0.31	1.10
図Ⅲ-3-39	P43	9	覆土2層	石鏃	頁岩	21	(3.14)	1.40	0.46	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	10	覆土2層	石鏃	頁岩	22	3.42	1.52	0.35	1.50

4　表

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-39	P43	11	覆土2層	石鏃	頁岩	13	3.53	(1.40)	0.31	(1.10)
図Ⅲ-3-39	P43	12	覆土2層	石鏃	頁岩	19	3.90	1.53	0.33	1.50
図Ⅲ-3-39	P43	13	覆土2層	石鏃	頁岩	24	6.38	1.66	0.42	3.50
図Ⅲ-3-39	P43	14	覆土2層	石鏃	頁岩	14	5.10	1.62	0.33	2.20
図Ⅲ-3-39	P43	15	覆土2層	石鏃	頁岩	16	4.85	2.75	0.50	2.70
図Ⅲ-3-39	P43	16	覆土2層	石鏃	頁岩	20	(4.26)	1.40	0.40	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	17	覆土2層	石鏃	頁岩	12	4.43	(1.34)	0.35	(1.50)
図Ⅲ-3-39	P51	1	覆土	ドリル	頁岩	5	6.70	1.60	0.85	8.20
図Ⅲ-3-39	P51	2	覆土	石斧	緑色泥岩	7	(8.05)	4.00	1.45	(91.20)
図Ⅲ-3-39	P51	3	覆土	石製品	異形石器　頁岩	6	5.00	5.10	1.05	20.10
図Ⅲ-3-39	P55	1	底面	石斧	緑色泥岩	1	11.80	4.80	3.10	232.00
図Ⅲ-3-39	P55	2	底面	石槍又はナイフ	頁岩	4	10.35	2.90	0.75	15.70
図Ⅲ-3-39	P55	3	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	2	(8.65)	4.30	0.85	(27.40)
図Ⅲ-3-39	P55	4	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	3	10.10	5.20	1.10	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	1	覆土	石槍又はナイフ	頁岩	34	6.34	4.80	1.13	19.00
図Ⅲ-3-40	P56	2	覆土	石斧未成品	片岩	28	10.10	3.30	1.40	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	3	覆土	石斧	緑色泥岩	30	(7.70)	4.30	2.70	(154.40)
図Ⅲ-3-40	P56	4	覆土	石斧未成品	緑色泥岩	29	(14.90)	(6.70)	(4.30)	(552.90)
図Ⅲ-3-40	P56	5	覆土	石製品	頁岩	42	11.95	4.00	3.15	201.10
図Ⅲ-3-40	P56	6	覆土	扁平打製石器	砂岩	38	7.90	17.90	2.20	436.90
図Ⅲ-3-40	P56	7	覆土	扁平打製石器	砂岩	39	7.90	15.40	2.40	168.20
図Ⅲ-3-41	P56	8	覆土	扁平打製石器	砂岩	20①	9.40	17.90	3.50	679.40
図Ⅲ-3-41	P56	9	覆土	扁平打製石器	砂岩	20②	9.70	16.40	3.10	694.80
図Ⅲ-3-41	P56	10	覆土	扁平打製石器	砂岩	20③	6.90	15.40	2.30	404.60
図Ⅲ-3-41	P56	11	覆土	扁平打製石器未成品	流紋岩	21	(8.60)	(12.70)	2.10	(272.60)
図Ⅲ-3-41	P56	12	覆土	たたき石	砂岩	41	11.30	(8.30)	5.40	(618.10)
図Ⅲ-3-41	P56	13	覆土	砥石	凝灰岩	40	(13.10)	(7.90)	(2.00)	(195.80)
図Ⅲ-3-41	P56	14	覆土	砥石	砂岩	19	(14.50)	(7.20)	(7.20)	(540.80)
図Ⅲ-3-41	P56	15	底面	たたき石	珪岩	3	13.20	10.20	7.50	1190.00
図Ⅲ-3-41	P56	16	底面	扁平打製石器	流紋岩	8	13.70	7.20	1.90	249.30
図Ⅲ-3-42	P56	17	底面	スクレイパー	頁岩	4	5.90	5.20	0.98	34.40
図Ⅲ-3-42	P56	18	底面	コウ打痕のある礫	石製品か　安山岩	1	39.10	16.00	12.30	12500.00
図Ⅲ-3-42	P56	19	底面	コウ打痕のある礫	石製品か　砂岩	2	29.70	14.90	10.50	6500.00
図Ⅲ-3-43	F79	1	(H19内)H19覆土1層	台石片	北海道式石冠未成品か　安山岩	H19-300	12.50	19.70	9.70	2900.00
図Ⅲ-3-43	F79	2	(H19内)H19覆土3層	北海道式石冠	閃緑岩	H19-303	8.90	13.10	6.00	1080.00
図Ⅲ-3-43	F79	3	(H19内)H19覆土3層	たたき石	砂岩	H19-294	14.00	9.40	4.30	925.60
図Ⅲ-3-43	F82	1	沢1層(45S)	扁平打製石器	流紋岩	73	7.40	12.80	1.60	172.10
図Ⅲ-3-43	F82	2	沢1層(44S)	北海道式石冠	安山岩	94	7.00	11.90	4.50	439.00
図Ⅲ-3-43	F82	3	覆土1層	たたき石	凹み石　砂岩	24	7.80	6.05	4.05	232.00
図Ⅲ-3-43	S5	1	覆土1層	台石	砂岩	6	30.90	(18.50)	9.90	(7117.80)

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第327集

北斗市

館野６遺跡（２）補償道路地区

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成28年９月30日

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069－0832　江別市西野幌685番地１
TEL（011）386－3231（代表）　FAX（011）386－3238

印　　刷　柏楊印刷株式会社
〒007－0802　札幌市東区東苗穂２条３丁目４番48号
TEL（011）789－2377　FAX（011）789－2376
E-mail：info@hakuyo-print.jp　http://hakuyo-print.jp/